

特記仕様書

工事名称	中央公民館長寿命化改修工事（その1）（建築主体工事）
工事場所	三原市円一町二丁目
工事内容	中央公民館（昭和56年建築）を長寿命化改修する。 【工事概要】 ・外装改修工事 ・屋上防水改修工事 ・内装改修工事 ・設備基礎等の解体工事 ・設備基礎、デッキ床の新設工事（杭工事含む） ・外構工事
準 則	公共建築工事標準仕様書(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編)、公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編)、建築物解体工事共通仕様書（各 最新版 国土交通省官房官庁営繕部監修）に基づき施工する。
別途発注工事	・中央公民館長寿命化改修工事（その1）電気設備工事 ・中央公民館長寿命化改修工事（その1）機械設備工事 ・中央公民館長寿命化改修工事（その1）E V設備工事
支払条件等	前払金及び中間前金払・部分払等の支払について、令和8年度は契約金額の10分の4以内の額とする。
関係法令等	本工事については、次の関係法令その他の規定等に基づき施工すること。 ・建築基準法、同施行令、同施行規則 ・消防法、同施行令 ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律、同法施行令、同法施行規則 ・労働安全衛生法、同法施行令、同法施行規則 ・建設業法、同施行令、同施行規則 ・建設工事公衆災害防止対策要綱 ・石綿障害予防規則 ・大気汚染防止法、振動規制法及び土壌汚染対策法 ・建設工事に係る再資源化等に関する法律、同法施行令 ・その他関係法令
疑義変更	本設計図書は、設計の概要を示すものであり、詳細部等について技術的必要事項は明記なくとも完全に施工すること。 施工に際して疑義が生じた場合、または軽微な変更を必要とする場合には、速やかに監理者と協議後、監督員の指示により施工すること。ただし、これらにおいて受注金額の増減はなきものとする。 本設計図書と不整合が確認されて設計変更（増額）が必要な場合は、その変更数量が確認できる根拠としての写真などの記録が存在し、かつ監督員に承認されたもの以外は認められない。
提出書類	施工に先立ち、工事工程表、仮設計画図及び監督員の指示する書類を提出し、監督員の承認を受けること。 商品名及び製造者名が記載された材料については、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督員の承諾を受けること。 設計図書に定める品質及び性能を有することについて、証明となる資料を提出して監督員の承諾を受けること。
工 期	本工事は請負契約締結の後、令和9年11月29日をもって工期とする。 このうち検査期間として13日間を見込んでいる。（工事の完成通知予定日は令和9年11月16日） （現場の作業完了予定見込み：令和9年11月1日）

留意事項

- ・図面に明示されていない事項であっても、工地上必要とされる事は工事範囲とする。
- ・入札に先立ち、現地調査を十分に行うこと。質疑がある場合は入札前に確認すること。
- ・作業日は、原則、月曜日から金曜日とし、土曜日及び日曜日は休日とすること。
- ・行政機関の休日に関する法律（昭和63年法律第91号）に定める行政機関の休日に工事の施工を行わない。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、この限りではない。
- ・本工事は「発注者指定型」による週休2日適用工事の対象工事であり、「三原市週休2日適用工事等実施要領（建築工事）」（令和7年6月24日改定）により工事を行うこと。
- ・工事着手前までに「週休2日適用工事」または「週休2日交代制適用工事」に取り組むことを工事打合せ簿にて提出すること。
- ・「週休2日適用工事」または「週休2日交代制適用工事」である旨の表示を工事現場に設置すること。
- ・月単位の週休2日適用工事を達成できなくなった場合は、対象期間中の現場閉所（現場休息）の状況に応じた補正係数により労務費を減額する。
- ・当該施設の営業及び運営等への支障を最小限にするため、工事工程及び作業手順等は最大限の配慮をすること。
- ・当該施設的全館休館期間は、令和9年5月1日から同年9月30日（5ヶ月）を予定している。仮設工事及び外壁劣化改修工事等は、全館休館期間にかかわらず施工可能である。
- ・本工事は一部居ながら工事とし、必要に応じて施設使用者の通行制限を行うこととする。工事の詳細については、事前に施設管理者等への説明を行って承諾を得ること。
- ・デジタル化を積極的に推進すること。
- ・生成AIを積極的に活用して工事を進めること。提出書類については、可能な限り生成AIによるチェックを行った上で提出すること。
- ・定例会議の頻度と方法は協議による。
- ・紙資料の削減を目的として、電子機器の利用を主とすること。
- ・定例会の資料は、電子データを原則とすること。
- ・受注者は各定例会の前日までに必要な資料を所定の場所に提出すること。
- ・受注者は各定例会後の5日以内に議事録を作成して、所定の場所に提出し、出席者に内容を共有すること。
- ・工事着手の10日より前に住民説明会を開催し、工事の概要を説明すること。日時や場所等については発注者との協議により決定する。
- ・著しい騒音・振動等の発生が予想される作業については、施設の使用時間を避けるなど配慮して作業をするように計画すること。また、施設使用者の動線作業についても配慮すること。
- ・騒音・振動等の発生が予想される作業を含めた工事全般について、近接の学校と協議の上でなるべく児童等に配慮した作業計画すること。授業時間等に十分配慮して作業すること。
- ・着手にあたり、工事着手前の周辺道路や近隣敷地の状況を写真等により記録しておくこと。
- ・近隣住民等の安全はもとより、丁寧な説明と施工により、関係者の理解と協力を得ながら実施すること。苦情等が発生した場合には誠意をもってこれに対応すること。
- ・近隣において、その他の工事が行われている場合は、取り合い工事及び工程等の調整を行うこと。
- ・近隣住民等への支障を最小限とするため、騒音・振動・粉塵等の対策については最大限配慮した施工方法を採用すること。
- ・使用する建設機械については、原則、「低騒音型、低振動型建設機械」として国土交通省の指定を受けた機械を選定して使用すること。これが確認できる資料を施工計画書で示すこと。なお、事情により使用が難しい場合は監督員との協議を行うこと。
- ・解体工事・アンカー工事等の騒音・振動・粉じん等の発生が予想される工種については、施工時間及び施工方法を最大限配慮した計画により作業を行うこと。
- ・粉塵の発生が予想される工事は、確実に散水を行う等して、周辺環境への粉塵飛散がないように作業をすること。
- ・騒音については、騒音規制法(特定建設作業)により、工事中の作業音は許容限度である85デシベルを厳守すること。工事により著しい作業音の発生が想定される期間については、騒音計による記録を行うこと。
- ・振動については、振動規制法(特定建設作業)により、工事中の作業振動は許容限度である75デシベルを厳守すること。工事により著しい作業振動の発生が想定される期間については、振動計による記録を行うこと。
- ・施工箇所周囲の備品・機器等については、粉塵対策として養生及び清掃等を確実に行うこと。養生や移動を行う場合は、事前に施設管理者または所有者に連絡すること。
- ・近隣家屋・敷地または周辺道路に対して、工事による汚れ・損傷・粉じん等を与えた場合は、受注者が責任をもって、速やかに清掃及び補修等を行うこと。誠意をもって対応し、現状復旧に努めること。
- ・周辺道路の保全及び清掃については常に注意を払って監視をし、定期的に清掃を行うこと。
- ・基礎解体、新設部分の敷地境界付近には仮囲い（高さ3m以上）を設置すること。
- ・第三者災害防止及び飛散防止対策のために、必要に応じて監督員が指示する範囲にバリケード等を設置すること。

- ・工事期間中は、工事用出入口に交通誘導員を常時配置し、付近の交通の安全を図ること。その他、必要な場所に交通誘導員を配置し、事故及び危険防止に努めること。
- ・交通誘導員は本工事で見込んである。実施数量が設計数量に満たない場合は設計変更（減額）の対象とする。
- ・工事車両の通行については、近隣住民及び通学児童等の安全を最優先すること。
- ・工事車両は、幅員の広い道路の通行を基本とし、住宅地内などの狭い道を抜け道として使用しないこと。工事車両の周辺の通行経路については、工事着手前に発注者の了承を得ること。
- ・敷地への車両動線については、左折入場、左折退場を徹底すること。
- ・特殊車両の搬出入の有無については、工事着手前に発注者に報告すること。
- ・特殊車両の搬出入を夜間や早朝に行う必要がある場合は、発注者との協議の上で、事前に近隣住民等へ案内文のポスティング等を行うこと。
- ・工事車両は、場内を5 km/h 以下で徐行すること。場内に注意喚起表示を行うこと。
- ・場内に喫煙所を設ける場合は、施設使用者と近隣住民へ配慮し、設置位置と使用方法を協議してから設けること。使用方法を作業員に周知徹底すること。
- ・工事区域内に残置する設備配管・配線等については、事前に位置を確認してから作業を行うこと。事前調査記録を作成すること。
- ・監視カメラ・仮設照明・養生用鉄板を適切に設置すること。
- ・敷地の出入口付近には、高圧洗浄機・水中ポンプ・ノッチタンク等を適切に設置すること。工事車両のタイヤ洗浄等により、道路を汚さないように配慮すること。
- ・工事中の雨水・湧水・洗浄水等の排水については、ノッチタンクによる汚泥等の処理を行う等した上で、適切に排水すること。定期的にpHを測定し、必要に応じて適宜中和を行うこと。
- ・受注者事務所、休憩所及び便所等は関係法令に従って設けること。
- ・仮囲い、足場、山留、型枠支保工、構台等の仮設については、施工者が計算等により責任をもって決定し、計画通りに施工すること。仮設置期間は日常点検を行い、記録に残すこと。
- ・図面等に示されている仮設等についても、必ず受注者で安全性や施工性等を検証すること。受注者が責任をもって設置、施工すること。
- ・足場設置期間中は、シート等の飛散が無いように定期的に点検を行うこと。
- ・台風等の強風等異常気象が見込まれる場合は、事前に足場等の養生シートを折りたたむなど対策を施すこと。また、必要に応じて現場巡視と災害防止対策を行うこと。
- ・足場については、交差筋交い及び外部シートとは別に、高さ15センチメートル以上の幅木を外部・内部の両側に設置すること。（※労働安全衛生法の基準以上の足場とし、安全に配慮する。）
- ・足場については、必要に応じて朝顔を設置すること。
- ・足場については「手すり先行工法等に関するガイドライン」における「手すり先行工法等に関する基準」、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する施工方法にて設置、解体をすること。（親綱は手摺とは扱わない。）
- ・外部足場等に過剰な宣伝広告はしないこと。
- ・工事に係る電気、水道及び下水道使用料金等は受注者の負担とする。
- ・工事の要求に必要な仮設は、工事に含むものとする。
- ・重機が転倒しないように事前検討を行い、安全に作業を行うこと。
- ・配筋検査は、受注者による自主検査を行ったうえ、監理者及び監督員による検査を受検すること。なお、これらの検査は、種類・径・数量についての全数検査を行うこと。
- ・配筋検査前に、上記内容はもとより、継手定着長さ・位置、かぶり厚さ、鉄筋のあき寸法など、設計図書通りに施工されていることを確認してから検査に臨むこと。
- ・コンクリートの調合は、標準仕様書に基づき構造体強度補正を見込む。（原則、外構工事を含む。無筋コンクリートは除く。）
- ・コンクリート打設後の所定期間中は、散水等による湿潤養生を適切に行うこと。
- ・木工事で使用する木材の産出地は、原則、広島県産材（可能な範囲で三原市産材）とすること。
- ・工事完了後に、木工事で使用する木材の産出地について、数量を整理して提出すること。
- ・家具については転倒防止対策のため、床及び壁へ固定すること。
- ・雨水の浸入を防止する部分、屋根、外壁又はこれらの開口部に設ける戸、枠その他の建具周り等からの雨水の浸入に関する瑕疵については、引渡しの日から10年間責任を負うこと。このことについて、保証書を作成して提出すること。（改修工事については、本工事の範囲）
- ・図面に水勾配がある箇所については、施工図に勾配のパーセントを記載すると共に、完成図にも勾配のパーセントを計測して記載すること。計測する箇所については監督員と協議すること。
- ・塗装の下塗り、中塗り、上塗りは原則的に色を塗り分けること。

- ・改修した防火設備の作動状況の確認及び連動する煙感知器等の作動状況の確認については、資格者（建築基準法第12条4項）による総合試験とすること。
- ・外壁劣化状況の調査費用は本工事で見込んでいる。
- ・本敷地は、土壤汚染対策法に基づく「形質変更時要届出区域（自然由来特例）」の指定を受けている。
- ・土壤汚染対策法に基づく調査及び措置に関するガイドライン（最新版）に沿って作業をすること。
- ・土地の形質を変更する際、汚染の拡散を防ぐため、広島県へ「土地の形質の変更の届出」が必要となる。
- ・土壤汚染対策法に基づく指定区域外への汚染拡散を防ぐための対策を行い、施工すること。
- ・本工事には、土砂（汚染土）の搬出を見込んでいない（一部汚染廃棄物を除く）。掘削した汚染土については、汚染の拡散を防ぐ対策をした上で場内に保管し、埋戻土として再利用すること。既存砂利地業についても再利用すること。（杭施工に伴う汚泥を除く）
- ・土砂（汚染土）に接している既存コンクリートや既存アスファルト等の処分は、洗浄して処分すること。
- ・土壤汚染対策法に基づく指定区域であることを作業員に十分周知をして適切に作業を行うこと。
- ・地質調査（ボーリング調査）を見込んでいる。調査深さは15mを見込んでいる。
- ・「①建築物を解体する作業を伴う建設工事であって、当該作業の対象となる床面積の合計が80㎡以上であるもの」、「②建築物を改造し、または補修する作業を伴う建設工事であって、当該作業の請負代金の合計額が100万円以上であるもの」、「③工作物を解体し、改造し、または補修する作業を伴う建設工事であって、当該作業の請負代金の合計額が100万円以上であるもの」については、事前調査結果を労働基準監督署及び広島県東部厚生環境事務所環境管理課に石綿等に関する事項を報告すること。
- ・石綿含有建材の調査（書面・目視調査、分析調査調査及び検体採取を含む）について、工事着手前までに一般建築物石綿含有建材調査者、または特定建築物石綿含有建材調査者が行うこと。
- ・その他石綿の飛散防止等については、改正大気汚染防止法及び施行令（令和3年4月1日施行）に基づくこと。
- ・石綿含有分析調査は試料採取と分析調査費を見込んでいる。分析は定性（JIS A 1481-1。含有の場合は、含有する層の判定も行う。）による。（3検体）
- ・外壁の石綿除去作業については、全館休館期間中に施工すること。
- ・作業員に対して、新規入場教育時に石綿含有建材の使用位置を確認させること。
- ・石綿則に基づく事前調査のアスベスト分析マニュアル(最新版)に基づくこと。
- ・石綿含有建材の除去専門業者については、建設技術審査証明協議会による「建設技術審査証明事業」の提出、又は本工事に相応した技術を有することが分かる施工実績証明等が確認できること。
- ・石綿含有建材の除去業者については、一般健康診断・石綿健康診断・じん肺健康診断の3種類を定期的に受診していることが確認できること。
- ・石綿を含有する建築物の解体等を行う際には届出を行うこと。レベル1・2については「工事計画届」「特定粉じん排出等作業届書」「事前届出の実施」「建築物解体等作業届」等遅滞なく提出すること。
- ・仮使用申請、道路使用、道路改築申請等の工事に必要な各種手続きは、受注者の負担により遅滞なく行うこと。
- ・昇降機その他の建築設備について、計画通知等の申請手続き等を行うこと。
- ・その他、工事に伴う官公庁等への手続きは、受注者により遅滞なく行うこと。この時、各種申請手数料等が発生した場合は受注者の負担とする。
- ・本工事は別途契約の工事と施工上密接に関連するため、本工事の受注者が調整を行うこと。
- ・工程計画、取り扱い工事及び工事用車両の出入り等については、当該別途契約の工事関係者と互いに協力し合い、相互の工事を考慮した上で十分調整し、工事の円滑な施工に務めること。
- ・足場、交通誘導員、工事関係者駐車場用地等は、建築主体工事に見込んでいるが、別途発注工事業者も使用できるものとする。（維持管理上必要な費用は、各業者で協議の上分担すること。）
- ・品質証明員（技術士、1級施工管理技士もしくは1級建築士の資格を有するもので、当該工事に従事していない者）を定める場合は、「総合施工計画書」に品質証明計画と品質証明員の氏名・資格を記載し、資格証明書の写しを添付すること。
- ・品質証明員を定める場合は、品質証明員が関係書類、出来形、品質等の確認を工事全般に行うこと。また、社内検査を実施し、報告書等を適宜提出すること。
- ・大雨等の警報が発令した場合、また台風及び強風等による自然災害の発生が予測される場合は、現場代理人等は現場事務所等へ待機のうえ、現場及び周囲の巡回を行うとともに必要に応じて対策を講じ報告すること。
- ・本工事の外注資材、労務等の調達については、極力、三原市内に主たる営業所を有する業者に発注すること。困難な場合は、あらかじめ理由を添えて発注者の承認を受けること。（理由については、三原市内に主たる営業所を有する業者に発注できない具体的な理由を明記すること。）
- ・熱中症対策として、従業員及び作業員が必要に応じて水分を補給できるよう作業所に給水設備を設置すること。
- ・広島県工事中情報共有システムを利用すること。なお、本工事にシステム利用料金を見込む。
- ・各工程の状況（写真、進捗率等を月2回程度）を工事中情報共有システムの連絡事項にて報告すること。

- ・工事書類については、工事中情報共有システムの決裁データ等を整理して、CD-R又はDVD-R(2部)にて提出すること。
- ・書面での提出が必要なもの（建退共の掛金収納書、試験結果、保証書 等）については、PDFを工事中情報共有システムで提出し、別に書面提出ファイルとしてまとめて提出すること。
- ・完成写真（竣工写真）の撮影を外注する場合は、撮影データを三原市が利用することについての承諾書を提出すること。（押印した原本）
- ・製本図面（A3縮小版・二つ折り）として完成図を3部提出すること。
- ・以下の設計図面は、A2判をA3判に縮小している。（縮小率約70.7%）

中央公民館長寿命化改修工事（その１）（建築主体工事）

設計図



中電技術コンサルタント株式会社

CHUDEN ENGINEERING CONSULTANTS INC.

[illegible]

[illegible]

4
1
外壁
改修
工事
（
共通
事項
）

1

ポリマーセメント
モルタル

（品質・性能）

項目品質・性能

だれ下がり量（mm）5以内

表面の状態ひび割れの発生が無いこと。

曲げ強さ（N/mm2）6.0以上

圧縮強さ（N/mm2）20.0以上

接着強さ（N/mm2）標準条件1.0以上

特殊条件

湿潤時0.8以上

低温時0.5以上

透水性裏面のぬれ。水滴の付着が無いこと。

その他1）均質で有害と認められる異物の混入がないこと。
2）高分子エマルションは、常温常湿において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

2

ポリマーセメント
スラリー

（品質・性能）

広がり速度（cm/s）

長さ変化率（収縮）（%）

引張接着性（材齢28日）（N/mm2）

曲げ性能（材齢28日）（N/mm2）

吸水性（72時間）（%）

耐久性（劣化曲げ強さ）（N/mm2）

3以上3以下

0.35～0.55

0.50～1.00

0.5以上5.0以上

15以下5.0以上

3

吸水調整材

改修標準仕様書表4.3.2による

4

既調合モルタル

（品質・性能）

項目品質・性能

項目品質・性能

保水率70.0%以上

長さ変化率0.20%以下

単位容積質量1.80kg/L以上

曲げ強さ4.0N/mm2以上

接着強さ標準時0.60N/mm2以上

湿冷繰り返し後0.40N/mm2以上

（試験方法）

（1）試料の調製

製造業者の定める、正味質量と標準繰り上がり量より換算して、所定量の試料を繰り上げるのに要する材料と繰り混ぜ水を計算して用意する。

繰り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する繰り混ぜ機を使用し、繰りばちを用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間繰り混ぜて試料とする。

（2）保水率の試験方法

JIS R3202「フroot板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5Aろ紙（直径11cm）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、（1）で調製した試料を平滑に詰め込む。

その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がり最大と認められた方向とこれに直交な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。

試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。

保水率＝50／平均値×100（注）50：リング型わくの内径mm

（3）単位容積質量の試験方法

JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。

（4）接着強さ（標準時）の試験方法

イ）適用タイルが「モザイクタイル」の場合

（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（1）で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付け。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「50角ユニットタイル（外のり寸法約300mm×300mm）」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿置養生を行い、これを試験体とする。

（試験方法）JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.10付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、シザー接着剤で調製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さエポキシ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。（全てが0.6N/mm2以上を確保していること）

また、試験後の部材破断位置の表示を下記のの中から遊び明記する。

T：タイルの母材破断

TM：既調合モルタルとタイルの界面破断

M：既調合モルタルの母材破断

MG：既調合モルタルと下地板の界面破断

G：下地板の母材破断

ロ）適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合

（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（1）で調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付け。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「小口タイル108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿置養生を行い、これを試験体とする。

（試験方法）「モザイクタイル」の場合と同様に行う。

（5）接着強さ（湿冷繰り返し）の試験方法

（試験体の作製）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々（4）接着強さ（標準時）の試験方法の「試験体」と同様とする。

（湿冷繰り返し試験）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」に規定する7.11湿冷繰り返し試験に準じて行う。

試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに-20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±3℃の別の恒温器中で3時間加熱し、この24時間を1サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって調べる。

（湿冷繰り返し後の接着強さ試験方法）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々湿冷繰り返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。（全てが0.4N/mm2以上を確保していること）

（6）長さ変化率の試験方法

JIS A6203「セメント混和用ポリマーディスペーション及び再乳化粉体末樹脂」9.9長さ変化率に準ずる。

（7）曲げ強さの試験方法

JIS A6916「建築用下地調整塗材」の7.11曲げ強さ試験に準ずる。

試験室の状態：試験室は温度20±2℃、湿度65±10%とする。

4
2
外壁
改修
工事
（
コン
クリ
ート
打
放
し
仕
上
げ
外
壁
）

1

ひび割れ部改修工法

※樹脂注入工法

工法の種類

ひび割れ幅（mm）

注入間隔（mm）

注入量（mL/m）

※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法

0.2以上0.3未満

200～300

※40

・

0.3以上0.5未満

※40

・

0.5以上1.0未満

※70

・

・手動式エポキシ樹脂注入工法

0.2以上0.3未満

50～100

※40

・

・機械式エポキシ樹脂注入工法

0.3以上0.5未満

100～200

※70

・

0.5以上1.0未満

※130

・

注入状況の確認方法 ※注入量により確認・コアの採取を行う・コア採取の場合の個数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個・コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填・図示・Uカットシール材充填工法・シーリング材

充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系・シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※行う・行わない

※可とう性エポキシ樹脂

・シール工法

※パチ状エポキシ樹脂

・可とう性エポキシ樹脂

2

欠損部改修工法

※充填工法

エポキシ樹脂モルタル

ポリマーセメントモルタル

4
3
外壁
改修
工事
（
モル
タル
塗
り
仕
上
げ
外
壁
）

1

ひび割れ部改修工法

※モルタルを撤去しないで改修

※樹脂注入工法

工法の種類

ひび割れ幅（mm）

注入間隔（mm）

注入量（mL/m）

※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法

0.2以上0.3未満

200～300

※40

・

0.3以上0.5未満

※40

・

0.5以上1.0未満

※70

・

・手動式エポキシ樹脂注入工法

0.2以上0.3未満

50～100

※40

・

・機械式エポキシ樹脂注入工法

0.3以上0.5未満

100～200

※70

・

0.5以上1.0未満

※130

・

注入状況の確認方法 ※注入量により確認・コアの採取を行う・コア採取の場合の個数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個・コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填・図示・Uカットシール材充填工法・シーリング材

充填材料の種類 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系・シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※行う・行わない

※可とう性エポキシ樹脂

・シール工法

※パチ状エポキシ樹脂

・可とう性エポキシ樹脂

・モルタルを撤去して改修

モルタル撤去後のコンクリート部分の改修は、4-2 外壁改修工事（コンクリート打放し仕上り外壁）による

モルタル撤去後のモルタル欠損部の補修は、2 欠損部改修工法による

2

欠損部改修工法

※充填工法（欠損部の面積が0.25m²/箇所程度以下の場合）

充填材の種類 ※ポリマーセメントモルタル・エポキシ樹脂モルタル

・モルタル塗替え工法

モルタルの材料 ※現場調査材料・既調合材料

既製目地材・使用する（形状）

仕上り厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※図示

3

浮き部改修工法

※モルタルを撤去しないで改修

アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法

アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法

アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法

注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法

注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法

注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法

アンカーピンの材質 ※ステンレス鋼（SUS304）呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの

注入口付アンカーピンの材質 ※ステンレス鋼（SUS304）呼び径6mm

・モルタルを撤去して改修

モルタルの材料 ※現場調査材料・既調合材料

・充填工法

・エポキシ樹脂モルタル

・ポリマーセメントモルタル

・モルタル塗替え工法

既製目地材・使用する（形状）

仕上り厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※図示

4

外壁複合改修構工法

平成7年度建設省告示第1860号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする

4
1
外壁
改修
工事
（
仕
上
塗
材
仕
上
げ
外
壁
）

1

既存塗膜等の除去、
下地処理及び下地
調整

※樹脂注入工法

工法の種類

ひび割れ幅（mm）

注入間隔（mm）

注入量（mL/m）

※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法

0.2以上0.3未満

200～300

※40

・

0.3以上0.5未満

※40

・

0.5以上1.0未満

※70

・

・手動式エポキシ樹脂注入工法

0.2以上0.3未満

50～100

※40

・

・機械式エポキシ樹脂注入工法

0.3以上0.5未満

100～200

※70

・

0.5以上1.0未満

※130

・

注入状況の確認方法 ※注入量により確認・コアの採取を行う・コア採取の場合の個数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個・コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填・図示・Uカットシール材充填工法・シーリング材

充填材料の種類 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系・シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※行う・行わない

※可とう性エポキシ樹脂

・シール工法

※パチ状エポキシ樹脂

・可とう性エポキシ樹脂

・モルタルを撤去して改修

モルタルの材料 ※現場調査材料・既調合材料

・充填工法

・エポキシ樹脂モルタル

・ポリマーセメントモルタル

・モルタル塗替え工法

既製目地材・使用する（形状）

仕上り厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※図示

2

外壁複合改修構工法

平成7年度建設省告示第1860号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする

4
2
外壁
改修
工事
（
仕
上
塗
材
仕
上
げ
外
壁
）

1

既存塗膜等の除去、
下地処理及び下地
調整

※樹脂注入工法

工法の種類

ひび割れ幅（mm）

注入間隔（mm）

注入量（mL/m）

※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法

0.2以上0.3未満

200～300

※40

・

0.3以上0.5未満

※40

・

0.5以上1.0未満

※70

・

・手動式エポキシ樹脂注入工法

0.2以上0.3未満

50～100

※40

・

・機械式エポキシ樹脂注入工法

0.3以上0.5未満

100～200

※70

・

0.5以上1.0未満

※130

・

注入状況の確認方法 ※注入量により確認・コアの採取を行う・コア採取の場合の個数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個・コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填・図示・Uカットシール材充填工法・シーリング材

充填材料の種類 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系・シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※行う・行わない

※可とう性エポキシ樹脂

・シール工法

※パチ状エポキシ樹脂

・可とう性エポキシ樹脂

・モルタルを撤去して改修

モルタルの材料 ※現場調査材料・既調合材料

・充填工法

・エポキシ樹脂モルタル

・ポリマーセメントモルタル

・モルタル塗替え工法

既製目地材・使用する（形状）

仕上り厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※図示

2

外壁複合改修構工法

平成7年度建設省告示第1860号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする

4
3
外壁
改修
工事
（
仕
上
塗
材
仕
上
げ
外
壁
）

1

既存塗膜等の除去、
下地処理及び下地
調整

※樹脂注入工法

工法の種類

ひび割れ幅（mm）

注入間隔（mm）

注入量（mL/m）

※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法

0.2以上0.3未満

200～300

※40

・

0.3以上0.5未満

※40

・

0.5以上1.0未満

※70

・

・手動式エポキシ樹脂注入工法

0.2以上0.3未満

50～100

※40

・

・機械式エポキシ樹脂注入工法

0.3以上0.5未満

100～200

※70

・

0.5以上1.0未満

※130

・

注入状況の確認方法 ※注入量により確認・コアの採取を行う・コア採取の場合の個数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個・コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填・図示・Uカットシール材充填工法・シーリング材

充填材料の種類 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系・シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※行う・行わない

※可とう性エポキシ樹脂

・シール工法

※パチ状エポキシ樹脂

・可とう性エポキシ樹脂

・モルタルを撤去して改修

モルタルの材料 ※現場調査材料・既調合材料

・充填工法

・エポキシ樹脂モルタル

・ポリマーセメントモルタル

・モルタル塗替え工法

既製目地材・使用する（形状）

仕上り厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※図示

2

外壁複合改修構工法

平成7年度建設省告示第1860号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする

4
4
外壁
改修
工事
（
仕
上
塗
材
仕
上
げ
外
壁
）

1

既存塗膜等の除去、
下地処理及び下地
調整

※樹脂注入工法

工法の種類

ひび割れ幅（mm）

注入間隔（mm）

注入量（mL/m）

※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法

0.2以上0.3未満

200～300

※40

・

0.3以上0.5未満

※40

・

0.5以上1.0未満

※70

・

・手動式エポキシ樹脂注入工法

0.2以上0.3未満

50～100

※40

・

・機械式エポキシ樹脂注入工法

0.3以上0.5未満

100～200

※70

・

0.5以上1.0未満

※130

・

注入状況の確認方法 ※注入量により確認・コアの採取を行う・コア採取の場合の個数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個・コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填・図示・Uカットシール材充填工法・シーリング材

充填材料の種類 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系・シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※行う・行わない

※可とう性エポキシ樹脂

・シール工法

※パチ状エポキシ樹脂

・可とう性エポキシ樹脂

・モルタルを撤去して改修

モルタルの材料 ※現場調査材料・既調合材料

・充填工法

・エポキシ樹脂モルタル

・ポリマーセメントモルタル

・モルタル塗替え工法

既製目地材・使用する（形状）

仕上り厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※図示

2

外壁複合改修構工法

平成7年度建設省告示第1860号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする

4
5
外壁
改修
工事
（
仕
上
塗
材
仕
上
げ
外
壁
）

1

既存塗膜等の除去、
下地処理及び下地
調整

※樹脂注入工法

工法の種類

ひび割れ幅（mm）

注入間隔（mm）

注入量（mL/m）

※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法

0.2以上0.3未満

200～300

※40

・

0.3以上0.5未満

※40

・

0.5以上1.0未満

※70

・

・手動式エポキシ樹脂注入工法

0.2以上0.3未満

50～100

※40

・

・機械式エポキシ樹脂注入工法

0.3以上0.5未満

100～200

※70

・

0.5以上1.0未満

※130

・

注入状況の確認方法 ※注入量により確認・コアの採取を行う・コア採取の場合の個数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個・コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填・図示・Uカットシール材充填工法・シーリング材

充填材料の種類 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系・シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※行う・行わない

※可とう性エポキシ樹脂

・シール工法

※パチ状エポキシ樹脂

・可とう性エポキシ樹脂

・モルタルを撤去して改修

モルタルの材料 ※現場調査材料・既調合材料

・充填工法

・エポキシ樹脂モルタル

・ポリマーセメントモルタル

・モルタル塗替え工法

既製目地材・使用する（形状）

仕上り厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※図示

2

外壁複合改修構工法

平成7年度建設省告示第1860号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする

4
6
外壁
改修
工事
（
仕
上
塗
材
仕
上
げ
外
壁
）

1

既存塗膜等の除去、
下地処理及び下地
調整

※樹脂注入工法

工法の種類

ひび割れ幅（mm）

注入間隔（mm）

注入量（mL/m）

※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法

0.2以上0.3未満

200～300

※40

・

0.3以上0.5未満

※40

・

0.5以上1.0未満

※70

・

・手動式エポキシ樹脂注入工法

0.2以上0.3未満

50～100

※40

・

・機械式エポキシ樹脂注入工法

0.3以上0.5未満

100～200

※70

・

0.5以上1.0未満

※130

・

注入状況の確認方法 ※注入量により確認・コアの採取を行う・コア採取の場合の個数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個・コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填・図示・Uカットシール材充填工法・シーリング材

充填材料の種類 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系・シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※行う・行わない

※可とう性エポキシ樹脂

・シール工法

※パチ状エポキシ樹脂

・可とう性エポキシ樹脂

・モルタルを撤去して改修

モルタルの材料 ※現場調査材料・既調合材料

・充填工法

・エポキシ樹脂モルタル

・ポリマーセメントモルタル

・モルタル塗替え工法

既製目地材・使用する（形状）

仕上り厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※図示

2

外壁複合改修構工法

平成7年度建設省告示第1860号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする

4
7
外壁
改修
工事
（
仕
上
塗
材
仕
上
げ
外
壁
）

1

既存塗膜等の除去、
下地処理及び下地
調整

※樹脂注入工法

工法の種類

ひび割れ幅（mm）

注入間隔（mm）

注入量（mL/m）

※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法

0.2以上0.3未満

200～300

※40

・

0.3以上0.5未満

※40

・

0.5以上1.0未満

※70

・

・手動式エポキシ樹脂注入工法

0.2以上0.3未満

50～100

※40

・

・機械式エポキシ樹脂注入工法

0.3以上0.5未満

100～200

※70

・

0.5以上1.0未満

※130

・

注入状況の確認方法 ※注入量により確認・コアの採取を行う・コア採取の場合の個数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個・コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填・図示・Uカットシール材充填工法・シーリング材

充填材料の種類 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系・シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※行う・行わない

※可とう性エポキシ樹脂

・シール工法

※パチ状エポキシ樹脂

・可とう性エポキシ樹脂

・モルタルを撤去して改修

モルタルの材料 ※現場調査材料・既調合材料

・充填工法

・エポキシ樹脂モルタル

・ポリマーセメントモルタル

・モルタル塗替え工法

既製目地材・使用する（形状）

仕上り厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※図示

2

外壁複合改修構工法

平成7年度建設省告示第1860号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする

4
8
外壁
改修
工事
（
仕
上
塗
材
仕
上
げ
外
壁
）

1

既存塗膜等の除去、
下地処理及び下地
調整

※樹脂注入工法

工法の種類

ひび割れ幅（mm）

注入間隔（mm）

注入量（mL/m）

※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法

0.2以上0.3未満

200～300

※40

・

0.3以上0.5未満

※40

・

0.5以上1.0未満

※70

・

・手動式エポキシ樹脂注入工法

0.2以上0.3未満

50～100

※40

・

・機械式エポキシ樹脂注入工法

0.3以上0.5未満

100～200

※70

・

0.5以上1.0未満

※130

・

注入状況の確認方法 ※注入量により確認・コアの採取を行う・コア採取の場合の個数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個・コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填・図示・Uカットシール材充填工法・シーリング材

充填材料の種類 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系・シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※行う・行わない

※可とう性エポキシ樹脂

・シール工法

※パチ状エポキシ樹脂

・可とう性エポキシ樹脂

・モルタルを撤去して改修

モルタルの材料 ※現場調査材料・既調合材料

・充填工法

・エポキシ樹脂モルタル

・ポリマーセメントモルタル

・モルタル塗替え工法

既製目地材・使用する（形状）

仕上り厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※図示

2

外壁複合改修構工法

平成7年度建設省告示第1860号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする

4
9
外壁
改修
工事
（
仕
上
塗
材
仕
上
げ
外
壁
）

1

既存塗膜等の除去、
下地処理及び下地
調整

※樹脂注入工法

工法の種類

ひび割れ幅（mm）

注入間隔（mm）

注入量（mL/m）

※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法

0.2以上0.3未満

200～300

※40

・

0.3以上0.5未満

※40

・

0.5以上1.0未満

※70

・

・手動式エポキシ樹脂注入工法

0.2以上0.3未満

50～100

※40

・

・機械式エポキシ樹脂注入工法

0.3以上0.5未満

100～200

※70

・

0.5以上1.0未満

※130

・

注入状況の確認方法 ※注入量により確認・コアの採取を行う・コア採取の場合の個数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個・コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填・図示・Uカットシール材充填工法・シーリング材

充填材料の種類 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系・シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※行う・行わない

※可とう性エポキシ樹脂

・シール工法

※パチ状エポキシ樹脂

・可とう性エポキシ樹脂

・モルタルを撤去して改修

モルタルの材料 ※現場調査材料・既調合材料

・充填工法

・エポキシ樹脂モルタル

・ポリマーセメントモルタル

・モルタル塗替え工法

既製目地材・使用する（形状）

仕上り厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※図示

2

外壁複合改修構工法

平成7年度建設省告示第1860号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする

4
10
外壁
改修
工事
（
仕
上
塗
材
仕
上
げ
外
壁
）

1

既存塗膜等の除去、
下地処理及び下地
調整

※樹脂注入工法

工法の種類

ひび割れ幅（mm）

注入間隔（mm）

注入量（mL/m）

※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法

0.2以上0.3未満

200～300

※40

・

0.3以上0.5未満

※40

・

0.5以上1.0未満

※70

・

・手動式エポキシ樹脂注入工法

0.2以上0.3未満

50～100

※40

・

・機械式エポキシ樹脂注入工法

0.3以上0.5未満

100～200

※70

・

0.5以上1.0未満

※130

・

注入状況の確認方法 ※注入量により確認・コアの採取を行う・コア採取の場合の個数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個・コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填・図示・Uカットシール材充填工法・シーリング材

充填材料の種類 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系・シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※行う・行わない

※可とう性エポキシ樹脂

・シール工法

※パチ状エポキシ樹脂

・可とう性エポキシ樹脂

・モルタルを撤去して改修

モルタルの材料 ※現場調査材料・既調合材料

・充填工法

・エポキシ樹脂モルタル

・ポリマーセメントモルタル

・モルタル塗替え工法

既製目地材・使用する（形状）

仕上り厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※図示

2

外壁複合改修構工法

平成7年度建設省告示第1860号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする

4
11
外壁
改修
工事
（
仕
上
塗
材
仕
上
げ
外
壁
）

1

既存塗膜等の除去、
下地処理及び下地
調整

※樹脂注入工法

工法の種類

ひび割れ幅（mm）

注入間隔（mm）

注入量（mL/m）

※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法

0.2以上0.3未満

200～300

※40

・

0.3以上0.5未満

※40

・

0.5以上1.0未満

※70

・

・手動式エポキシ樹脂注入工法

0.2以上0.3未満

50～100

※40

・

・機械式エポキシ樹脂注入工法

0.3以上0.5未満

100～200

※70

・

0.5以上1.0未満

※130

・

注入状況の確認方法 ※注入量により確認・コアの採取を行う・コア採取の場合の個数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個・コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填・図示・Uカットシール材充填工法・シーリング材

充填材料の種類 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系・シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※行う・行わない

※可とう性エポキシ樹脂

・シール工法

※パチ状エポキシ樹脂

・可とう性エポキシ樹脂

・モルタルを撤去して改修

モルタルの材料 ※現場調査材料・既調合材料

・充填工法

・エポキシ樹脂モルタル

・ポリマーセメントモルタル

・モルタル塗替え工法

既製目地材・使用する（形状）

仕上り厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※図示

2

外壁複合改修構工法

平成7年度建設省告示第1860号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする

4
12
外壁
改修
工事
（
仕
上
塗
材
仕
上
げ
外
壁
）

1

既存塗膜等の除去、
下地処理及び下地
調整

※樹脂注入工法

<

5

1

改修工法

建具改修工事

性能値等

（建具符号：・ 建具表による ・ ）

[5. 1. 3]

建具の種類

かぶせ工法

撤去工法

適用箇所

○ アルミ製建具

・

・

※ 建具表による ・

・ 樹脂製建具

・

・

※ 建具表による ・

○ 鋼製建具

・ 外部

・

※ 建具表による ・

・ 内部

・

・

※ 建具表による ・

・ 鋼製軽量建具

・

・

※ 建具表による ・

・ ステンレス製建具

・

・

※ 建具表による ・

新規に建具を設ける場合

壁部分の開口の開け方

※ 図示 ・

新規建具周囲の補修工法及び範囲

※ 図示 ・

性能値等

（建具符号：・ 建具表による ・ ）

[5. 1. 4]

○ 適用する 指定箇所（※ 建具表による ・ ）

防火戸の自動閉鎖機構及び防火戸とヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動

※ 連動させる 適用箇所 ○ 建具表による ・

・ 連動させない

（建具符号：・ 建具表による ・ ）

3

見本の製作等

建具見本の製作 ・ 行う（建具符号： ） ・ 行わない

特殊な建具の仮組 ・ 行う（建具符号： ） ・ 行わない

4

防犯建物部品

・ 適用する 適用箇所（※ 建具表による ・ ）

5

アルミニウム製建具

性能値等

（耐風圧性の等級（ ）、気密性の等級（ ）、水密性の等級（ ））

[5. 2. 2～5] [表 5. 2. 2]

※ 改修標準仕様書表5. 2. 1による特別

外部に面する建具の種類

・ A種（建具符号：・ 全て ・ 建具表による ・ ）

・ B種（建具符号：・ 全て ・ 建具表による ・ ）

・ C種（建具符号：・ 全て ・ 建具表による ・ ）

防音ドア、防音サッシ

遮音性の等級（ ）

（建具符号：・ 建具表による ・ ）

断熱ドア、断熱サッシ

断熱性の等級（ ）

（建具符号：・ 建具表による ・ ）

耐震性能

建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

ステンレス鋼板の材料 ※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1

形状及び仕上げ

枠の見込み寸法 ※ 建具表による ・

表面処理

外部に面する建具 種類 ・ BB-1種 ・ BB-2種 ・

色合等 ※ 標準色（ ） ・ 特注色（ ）

屋内の建具 種類 ・ BC-1種 ・ BC-2種 ・

色合等 ※ 標準色（ ） ・ 特注色（ ）

結露水の処理方法 ※ 図示 ・

取付工法

水切り板、ぜん板 ※ 図示 ・

木下地の場合の内付け建具 ・ 適用しない ・ 適用する

6

網戸等

種類

材質

線径

網目

・ 防虫網

※ 合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス（SUS316）製

※ 0. 25mm以上 ・

※ 16～18メッシュ ・

・ 防鳥網

ステンレス（SUS304）線材

1. 5mm

網目寸法15mm

7

樹脂製建具

性能値等

（耐風圧性の等級（ ）、気密性の等級（ ）、水密性の等級（ ））

[5. 2. 2] [5. 3. 2～5]

※ 改修標準仕様書表5. 3. 1による特別

外部に面する建具 ・ A種（建具符号：・ 全て ・ 建具表による ・ ）

・ B種（建具符号：・ 全て ・ 建具表による ・ ）

・ C種（建具符号：・ 全て ・ 建具表による ・ ）

防音ドア、防音サッシの遮音性の等級（ ）

（建具符号：・ 建具表による ・ ）

断熱ドア、断熱サッシ

断熱性の等級（ ）

（建具符号：・ 建具表による ・ ）

外部に面する建具の日射熱取得性の等級（ ）

形状及び仕上げ

枠の見込み寸法 ※ 建具表による ・

表面色 ※ 標準色 ・ 特注色

取付工法

水切り板、ぜん板 ※ 図示 ・

木下地の場合の内付け建具 ・ 適用しない ・ 適用する

ガラス ※ 複層ガラス ・

8

鋼製建具

性能値等（建具符号：・ 建具表による ・ ）

（耐風圧性の等級（ ））

[5. 2. 2] [5. 4. 2～4] [表 5. 4. 2]

※ 改修標準仕様書表5. 3. 1による特別

外部に面する面する建具の耐風圧性 ・ S-4 ・ S-5 ・ S-6

防音ドア、防音サッシ

遮音性の等級（ ）

（建具符号：・ 建具表による ・ ）

断熱ドア、断熱サッシ

断熱性の等級（ ）

（建具符号：・ 建具表による ・ ）

耐震性能

建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

ステンレス鋼板の材料 ※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1

くつずりの仕上げ ステンレス鋼板を用いる場合 ※ HL以上

形状及び仕上げ 鋼板類の厚さ ※ 改修標準仕様書表5. 4. 2による ・

使用箇所（ ）

標準型鋼製建具の形状及び寸法 ※ 建具表による

9

鋼製軽量建具

性能値等（建具符号：・ 建具表による ・ ）

（耐風圧性の等級（ ））

[5. 2. 2] [5. 5. 2～4]

簡易気密型ドアセット ・ 適用する

防音ドア、防音サッシ

遮音性の等級（ ）

断熱ドア、断熱サッシ

断熱性の等級（ ）

耐震ドア

面内変形追従性の等級（ ）

耐震性能

建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

鋼板の材料 ※ 亜鉛めっき鋼板 ・ ビニル被覆鋼板 ・ カラー鋼板 ・ ステンレス鋼板

ステンレス鋼板の材料 ※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1

形状及び仕上げ

鋼板類の厚さ ※ 改修標準仕様書表5. 5. 1による

使用箇所（ ）

召合せ、緩小口包み板の材質 ※ 鋼板 ・

標準型鋼製建具の形状及び寸法 ※ 建具表による

性能値等（建具符号：・ 建具表による ・ ）

（耐風圧性の等級（ ））

[5. 2. 2] [5. 4. 2] [5. 6. 2～5]

簡易気密型ドアセット ・ 適用する

外部に面する面する建具の耐風圧性 ・ S-4 ・ S-5 ・ S-6

防音ドア、防音サッシ

遮音性の等級（ ）

断熱ドア、断熱サッシ

断熱性の等級（ ）

耐震ドア

面内変形追従性の等級（ ）

耐震性能

建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

ステンレス鋼板の材料 ※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1

くつずりの仕上げ

ステンレス鋼板を用いる場合 ※ HL以上

形状及び仕上げ

鋼板類の厚さ ※ 改修標準仕様書表5. 5. 1による

使用箇所（ ）

標準型鋼製建具の形状及び寸法 ※ 建具表による

10

ステンレス製建具

性能値等（建具符号：・ 建具表による ・ ）

（耐風圧性の等級（ ））

[5. 2. 2] [5. 4. 2] [5. 6. 2～5]

簡易気密型ドアセット ・ 適用する

外部に面する面する建具の耐風圧性 ・ S-4 ・ S-5 ・ S-6

防音ドア、防音サッシ

遮音性の等級（ ）

断熱ドア、断熱サッシ

断熱性の等級（ ）

耐震ドア

面内変形追従性の等級（ ）

耐震性能

建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

ステンレス鋼板の材料 ※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1

くつずりの仕上げ

ステンレス鋼板を用いる場合 ※ HL以上

形状及び仕上げ

鋼板類の厚さ ※ 改修標準仕様書表5. 5. 1による

使用箇所（ ）

標準型鋼製建具の形状及び寸法 ※ 建具表による

11

建具用金物

金物の種類及び見え掛り部の材質等

※ 改修標準仕様書表5. 8. 1及び適用は建具表による ・

金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※ 改修標準仕様書表5. 8. 2による ・

樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※ 標準仕様書表5. 8. 3による ・

木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※ 標準仕様書表5. 8. 4による

木製建具に使用する戸車及びレール ※ 標準仕様書表5. 8. 5による

握り玉及びレバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置 ※ 建具表による ・

錠前類

【シリンダ箱錠及びシリンダ本締まり錠】

（品質）

デッドボルトの寸法は17mm以上とする。 鍵付きのものはマスターキー、グラッドマスターキー、コンストラクションキーなどのキーステムが構築できるものとする。

（性能）

<使用頻度による性能>

1)（シリンダ箱錠のみ）ラッチボルトの開閉繰り返し試験（40万回）を行った後、ハンドルでの開閉操作力及びラッチング力が試験前の2倍未満であり、動作に支障がない。

2) キーによるデッドボルトの施解錠繰り返し試験（10万回）を行った後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。（シリンダ本締り錠のみ）シリンダ単体の施解錠繰り返し試験は、シリンダだけの回転トルクが10N・cm以下とする。

3) キーによる施錠機構の施解錠繰り返し試験（10万回）を行なった後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。

4) キーの抜き差し繰り返し試験（10万回）を行なった後、キーの抜き差しに要する荷重は10N以下である。また、未使用の合鍵でシリンダが回転でき、かつ、1箇所1段差浅い削みをもつ異なるキーでは、シリンダが回転しないこと。（キーに加えるトルクは、150N・cmとする）

<外力に対する性能>

1) デッドボルトの押込み強度試験（10KN）を行なった後、荷重を除いたときのデッドボルトの寸法は8mm以上であること。

2) デッドボルトの側圧強度試験（10KN）を行なった際、加圧板がデッドボルトを通過しない。

3) デッドボルトの押込み強度（衝撃荷重）試験（58. 8J）の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態（デッドボルトの突出量が9mm未満）にならないこと。

4) デッドボルトの側圧強度（衝撃荷重）試験（58. 5J）の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態（加圧板がデッドボルトを通過した状態）にならないこと。

5)（シリンダ本締り錠はグレード3以上の彫込錠の場合）ストライクプレートは厚さ1. 5mm以上のステンレス鋼製とし、ストロークは厚さ1. 6mm以上の鋼製の一体構造とする。又はストライクの強度と同等以上の強度をもつものとする。

<使用頻度の質量に対する性能（シリンダ箱錠のみ）>

1) ラッチボルトの側圧強度試験（4KN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドル操作及びラッチングに支障がない。

2) レバーハンドルのねじり強度試験（3. 5KN・cm）を行なった後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。

3) 握り玉のねじり強度試験（3KN・cm）を行なった後、トルクを除いたとき、握り玉が正常に作動していること。また、施錠時握り玉が固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。

4) ハンドルの引張強度試験（2KN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。

5) ハンドルの垂直荷重強度試験（2KN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。

<鍵>

1) かぎ（鍵）数は、1. 5万以上とする。ただし、異なるキーウェイ形状であっても、共通のキーセクションが存在する場合は、有効かぎ（鍵）違い数とみなさないものとする。

2) 同一タンブラーの使用数は、60%以下とする。また、6本タンブラーにおいては、キーの同一割合は、最大2連続までとしていること。

試験方法は、JIS A 1541-1（建築金物一般-第1部：試験方法）による。

【レバーハンドル】

（性能）

<ねじり強度>

レバーハンドルのねじり強度試験（3. 5KN・cm）を行なった後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。

<引張り強度>

ハンドルの引張強度試験（2KN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。

<垂直荷重強度>

ハンドルの垂直荷重強度試験（2KN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。

試験方法は、JIS A 1541-1（建築金物一般-第1部：試験方法）による。

12

錠

マスターキー ※ 製作する（ 組） ・ 製作しない ・ 既存に組込む

鍵の製作本数 ※ 各室3本1組（室名札付き） ・

鍵箱 ・ 設ける（ 個用 組） ・ 設けない

引き戸用駆動装置

性能

・

※ 改修標準仕様書表5. 9. 1による

種類 ・ SSLD-1 ・ SSLD-2 ・ DSLD-1 ・ DSLD-2

車椅子使用者用便房出入口引き戸用駆動装置

性能

※ 改修標準仕様書表5. 9. 2による

引き戸用検出装置の種類及び必要性能項目

引き戸用検出装置

性能

※ 改修標準仕様書表5. 9. 3による

種類 ・ 光線（反射）センサー ・ 熱線センサー ・ 音波センサー ・ 光電センサー ・ 電流センサー ・ タッチスイッチ ・ 押しボタンスイッチ

タッチスイッチの種類 ・ 無線式タッチスイッチ ・ 光線式タッチスイッチ

車椅子使用者用便房スイッチの種類

・ 大型（開・閉）押しボタンスイッチ ・ 非接触スイッチ

戸の開閉方式 ※ 建具表による ・

防錆 ・ 適用する ・ 適用しない

凍結防止措置 ・ 適用する ・ 適用しない

性能値等 ※ 標準仕様書表5. 10. 1による

（試験方法）

（1）耐久性（開閉繰り返し）試験

閉については外力によらず、試験体の自閉装置及び制御装置のみにより戸を開端位置から閉端位置までの作動を確認できる試験を行う。開試験に用いる試験体は片引戸とし、開口内法有効高さ2, 000mm、幅は最大寸法とする。適用戸総質量の区分毎に試験を行う。自閉装置、制御装置は10万回以上の時点で1回のみ調整を行えるものとし、また、その他の制御装置についてはメーカーの耐久性試験成績書において2万回以上の耐久性能を確認することで、試験に代えることができるものとする。

（2）耐衝撃性試験

落下高さ17cmにて、ドアの中央部にドアが外れる方向に衝撃を与える。

耐衝撃性試験に用いる試験体は片引戸、開口内法有効寸法は高さ2, 000mm、幅900mmとする。適用戸総質量の区分毎に試験を行う。

（3）気密性能試験

JIS A 1516「建具の気密性試験方法」による。

13

自動ドア開閉装置

引き戸用駆動装置

性能

・

※ 改修標準仕様書表5. 9. 1による

種類 ・ SSLD-1 ・ SSLD-2 ・ DSLD-1 ・ DSLD-2

車椅子使用者用便房出入口引き戸用駆動装置

性能

※ 改修標準仕様書表5. 9. 2による

引き戸用検出装置の種類及び必要性能項目

引き戸用検出装置

性能

※ 改修標準仕様書表5. 9. 3による

種類 ・ 光線（反射）センサー ・ 熱線センサー ・ 音波センサー ・ 光電センサー ・ 電流センサー ・ タッチスイッチ ・ 押しボタンスイッチ

タッチスイッチの種類 ・ 無線式タッチスイッチ ・ 光線式タッチスイッチ

車椅子使用者用便房スイッチの種類

・ 大型（開・閉）押しボタンスイッチ ・ 非接触スイッチ

戸の開閉方式 ※ 建具表による ・

防錆 ・ 適用する ・ 適用しない

凍結防止措置 ・ 適用する ・ 適用しない

性能値等 ※ 標準仕様書表5. 10. 1による

（試験方法）

（1）耐久性（開閉繰り返し）試験

閉については外力によらず、試験体の自閉装置及び制御装置のみにより戸を開端位置から閉端位置までの作動を確認できる試験を行う。開試験に用いる試験体は片引戸とし、開口内法有効高さ2, 000mm、幅は最大寸法とする。適用戸総質量の区分毎に試験を行う。自閉装置、制御装置は10万回以上の時点で1回のみ調整を行えるものとし、また、その他の制御装置についてはメーカーの耐久性試験成績書において2万回以上の耐久性能を確認することで、試験に代えることができるものとする。

（2）耐衝撃性試験

落下高さ17cmにて、ドアの中央部にドアが外れる方向に衝撃を与える。

耐衝撃性試験に用いる試験体は片引戸、開口内法有効寸法は高さ2, 000mm、幅900mmとする。適用戸総質量の区分毎に試験を行う。

（3）気密性能試験

JIS A 1516「建具の気密性試験方法」による。

14

自閉式上吊り引戸装置

性能値等 ※ 標準仕様書表5. 10. 1による

（試験方法）

（1）耐久性（開閉繰り返し）試験

閉については外力によらず、試験体の自閉装置及び制御装置のみにより戸を開端位置から閉端位置までの作動を確認できる試験を行う。開試験に用いる試験体は片引戸とし、開口内法有効高さ2, 000mm、幅は最大寸法とする。適用戸総質量の区分毎に試験を行う。自閉装置、制御装置は10万回以上の時点で1回のみ調整を行えるものとし、また、その他の制御装置についてはメーカーの耐久性試験成績書において2万回以上の耐久性能を確認することで、試験に代えることができるものとする。

（2）耐衝撃性試験

落下高さ17cmにて、ドアの中央部にドアが外れる方向に衝撃を与える。

耐衝撃性試験に用いる試験体は片引戸、開口内法有効寸法は高さ2, 000mm、幅900mmとする。適用戸総質量の区分毎に試験を行う。

（3）気密性能試験

JIS A 1516「建具の気密性試験方法」による。

15

重量シャッター

シャッターの種類 ・ 管理用シャッター ・ 外壁用防火シャッター ・ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター

外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度（ ）Pa

開閉方式の種類 ※ 電動式（手動併用） ・ 手動式

安全装置

急降下制動装置、急降下停止装置を設けた電動シャッターの設置箇所

※ 図示 ・

障害物感知装置を設けた電動シャッターの設置箇所 ※ 図示 ・

屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止機構の設置箇所

※「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」（昭和45年12月28日建設省告示第2563号）に定める基準に適合するもの

・

管理用シャッターのシャッターケース ・ 設ける ・ 設けない

スラット及びシャッターケース用鋼板

鋼板の種類 ※ JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）

・ JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき及び鋼帯）

めっきの付着量 ※ Z12又はF12を満足するもの

ガイドレール、まぐさ、雨掛りに用いる座板及び座板のカバー、雨掛りに用いるスイッチボックス類のふたの材質

ステンレス鋼板の材料 ※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 ・

16

軽量シャッター

開閉方式の種類 ※ 手動式 ・ 電動式（手動併用）

耐風圧強度（ ）N/m²

安全装置

障害物感知装置を設けた電動シャッターの設置箇所

※ 図示 ・

スラットの材質の種類

※ JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼板）

めっきの付着量（※ Z06 又はF06を満足するもの ・ ）

・ JIS G 3312（塗装溶融亜鉛5. 5%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼板）

めっきの付着量（※ A200を満足するもの ・ ）

スラットの形状 ※ インターロック型（ギ） ・ オーバーラッピング型

シャッターケース ※ 設ける ・ 設けない

ガイドレール（中柱共）の材質 ※ ステンレス鋼板（SUS304） 厚さ1. 0mm ・

座板の材質（屋外の場合） ※ ステンレス製既製品 ・

17

オーバーヘッドドア

セクション材料

耐風圧性能

開閉方式

収納方式

ガイドレールの材料

※ スチールタイプ ・ アルミニウムタイプ ・ ファイバーグラストタイプ

・ 125 ・ 100 ・ 75 ・ 50

・ チェーン式 ・ 電動式

・ バランス式 ・ ローヘッド形 ・ ハイリフト形 ・ パーチカル形

※ 溶融亜鉛めっき鋼板 ・ ステンレス鋼板

18

木製建具

電動式タイプで障害物感知装置を設ける箇所 ※ 図示 ・

建具材の加工、組立時の含水率 ※ A種 ・

建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量

※ F☆☆☆☆ ・ フラッシュ戸

表面材のホルムアルデヒド放散量等 ※ 標準仕様書16. 7. 2 (2) (イ) (a) による

表面材の合板の品質等

合板の種類

規格等

備考

・ 普通合板

表面の種類

生地、透明塗料塗り（※ ラワン合板程度 ・ ）

不透明塗料塗り（※ しな合板程度 ・ ）

板面の品質（ ・ 広葉樹1等 ・ ）

接着の程度（ ・ 1種 ・ 2種 ）

・ 天然木化粧合板

樹種名（ ）

接着の程度（ ・ 1種 ・ 2種 ）

・ 特殊加工化粧合板

化粧加工の方法（ ・ オーバーレイ ・ プリント ・ 塗装 ）

表面性能（ ）タイプ

接着の程度（ ・ 1種 ・ 2種 ）

・ ミディアムデンシティファイバーボード（MDF）

表面面の状態による区分（ ）

曲げ強さによる区分（ ）

接着剤による区分（ ）

難燃性による区分（ ）

表面板の厚さ ※ 改修標準仕様書表5. 7. 6による ・

引戸の召合せかまちのいんうけの適用 ・ 適用する ・ 適用しない

・ かまち戸

かまち樹種（ ）

鋼板樹種（ ）

見込み寸法 ※ 建具表による ・

・ ふすま

張りの種類（ ・ I型 ・ II型 ）

上張り（押入等の裏側以外） ・ 鳥の子 ・ 新鳥の子又はビニル紙程度

縁仕上げ ・ 塗り縁 ・ 生地縁（素地） ・ 生地縁（ウレタンクリヤー塗装）

見込み寸法 ※ 建具表による

・ 戸ふすま 見込み寸法 ※ 建具表による ・

・ 紙張り障子 見込み寸法 ※ 建具表による ・

枠の材料 ※ 木製枠（6章内装改修工事による）

鋼製枠（※ 亜鉛めっき鋼板 ・ ビニル被覆鋼板 ・ カラー鋼板 ・ ステンレス鋼板）

くつずりの材料 ・ ステンレス鋼板 ・ 木製

御注文先

三原市殿

御承認

御印

記事

月 日

・ ・ ・

・ ・ ・

・ ・ ・

中電技術コンサルタント株式会社

広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8

1級建築士事務所 登録23(1)第1252号

1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二

1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫

校開

設計

設計年月日

2025. 03

工事名称

中央公民館長寿命化改修工事（その1）建築主体工事

図面番号

A-04

図面名称

建築改修工事特記仕様書（4）

縮尺

—

※ A3：50%縮小

22

合成樹脂塗床

[6. 1 0. 2、3]				
種別	施工箇所	工法	仕上げの種類	
・厚膜型塗床材			※ 平滑仕上げ ・ 防汚仕上げ	
・弾性ウレタン樹脂系塗床			・ つや消し仕上げ	
・厚膜型塗床材		・ 薄膜流しのペ工法	・ 平滑仕上げ	
・エポキシ樹脂系塗床		・ 厚膜流しのペ工法	・ 防汚仕上げ	
		・ 樹脂モルタル工法		
・薄膜型塗床材			※ 平滑仕上げ	
塗料のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆				

23

防じん用塗床

材料 水性アクリル系樹脂塗料とし、製造所の指定する製品とする
工法 製造所の指定する工法とする
なお、上塗りは2回塗りとし、総塗布量は 0. 2 5 kg/m²以上とする
仕上げの種類 (※ 平滑仕上げ ・ 防汚仕上げ) (※ 標準色)
JIS K 5970に基づく塗料のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆

24

フローリング張り

[6. 1 1. 2～6]				
種類	工法	樹種	厚さ (mm)	間伐材等の適用
・フローリング	・釘留め工法 (根太張り)	※ なら	・ 15	・
・ボード1等	・釘留め工法 (直張り)	※ なら	・ 12	・
	・接着工法	※ なら	・ 8	・
・フローリング	・接着工法	※ なら	・ 15	・
・ブロック1等				

複合フローリング

種類	工法	樹種	種別	厚さ (mm)	間伐材等の適用
・天然木化粧複合フローリング	・釘留め工法 (根太張り)	※ なら	・ A種	・ 15	・
	・釘留め工法 (直張り)	・	・ B種	・ 12	
			・ C種	・ 12	
	・接着工法	※ なら	・ A種	・ 12	・
			・ B種	・ 12	
			※ C種	・ 12	

フローリング及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※改修標準仕様書6.11.2 (2) による
各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆
接着工法の場合の裏面緩衝材 ※合成樹脂発泡シート
現場塗装仕上げ ・ 行う
※ ウレタン樹脂ワニス塗り
・ オイルステインの上、ワックス塗り
・ 生地のままワックス塗り
・ 行わない

25

畳敷き

種別	・ A種	・ B種	・ C種	※ D種 (畳表：・ KT-I ・ KT-II ※ KT-III ・ KT-K ・ KT-N)
下地の種類	・ 標準仕様書表12. 6. 1による床組			
	・ ポリスチレンフォーム床下地 (ノンフロン)			

畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。
衝撃緩和型畳 (畳表：・ C1 ・ C2)

26

せつこうボードその他ボード及び合板張り

MD F、パーティクルボード及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆
合板のホルムアルデヒド放散量 ※標準仕様書19. 7. 2 (2) (i) の (a)～(d) のいずれか

種 類	JISの記号	厚さ (mm)、規格等
・硬質木毛セメント板	HW	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・
・中質木毛セメント板	MW	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・
・普通木毛セメント板	NW	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・
・硬質木片セメント板	HF	・ 12 ・ 15 ・ 18 ・ 21 ・
・普通木片セメント板	NF	・ 30 ・
○ けい酸カルシウム板	0. 8FK 1. 0FK	タイプ 2 (無石綿) ・ 6 ・ 8 ○ 4
・化粧けい酸カルシウム板	0. 8FK 1. 0FK	タイプ 2 (無石綿) ・ 6 ・ 8 表面への化粧張り等の加工 ・ アクリル樹脂系焼付け
・ロックウール化粧吸音板	DR	・ フラットタイプ (・ 9 (不燃) ・ 12 (不燃)) ・ 凹凸タイプ (・ 12 (不燃) ・ 15 (不燃))
・ロックウール吸音ボード1号	RW-B	・ 25 ・
・グラスウール吸音ボード32K	GW-B	・ 25 (グラスウール包)
・せつこうボード	GB-R	※ 12. 5 (不燃) ・ 15 (不燃)
・不燃積層せつこうボード	GB-NC	9. 5 (不燃) 化粧無 (下地張り用) 化粧有 (トラバーチン模様)
・シージングせつこうボード	GB-S	12. 5 (※不燃 ・ 準不燃)
・強化せつこうボード	GB-F	・ 12. 5 (不燃) ・ 15 (不燃)
・せつこうラスボード	GB-L	9. 5
○化粧せつこうボード (トラバーチン模様)	GB-D	9. 5 (準不燃) ○ 9. 5 (不燃)

・普通合板

表板の樹種名	生地、透明塗料塗り (※ ラウソク程度)
不透明塗料塗り (※ しな程度)	板面の品質 ()
厚さ (mm) ()	接着の程度 (・ 1類 ・ 2類)
防虫処理 (・ 行う ・ 行わない)	

・天然木化粧合板

樹種名 ()	接着の程度 (・ 1類 ・ 2類)
厚さ (mm) ()	防虫処理 (・ 行う ・ 行わない)

・特殊加工化粧合板

表面性能 () タイプ	接着の程度 (・ 1類 ・ 2類)
厚さ (mm) ()	防虫処理 (・ 行う ・ 行わない)

・メラミン樹脂化粧板

JIS K 6903 による厚さ (※ 1. 2)	
-----------------------------	--

・ポリエステル樹脂化粧板

MD F	・ 3 ・ 7 ・ 9 ・ 12 ・
------	--------------------

・ミディアムデンシティファイバーボード

	・ 無研磨板 V N ・ 研磨板 V S
--	----------------------

・単板張りパーティクルボード

	・ 10 ・ 12 ・ 15 ・ 18 ・
--	-----------------------

27

壁紙張り

ホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 ・ [6. 1 4. 2、3]

施工箇所	壁紙の種類	防火性能	備考
	紙 織 絨 塩化 プラス ニルチック	無 機質 その他	
	・ ・ ・ ・ ・	・ 不燃 ・ 準不燃 ・ 難燃	
	・ ・ ・ ・ ・	・ 不燃 ・ 準不燃 ・ 難燃	

モルタル・せつこうプラスター面の素地ごしえの種類 ※ B種
コンクリート面の素地ごしえの種類 ※ B種
せつこうボード面及びその他ボード面の素地ごしえの種類 ※ B種

28

モルタル塗り

[6. 1 5. 3、5、6]

モルタル ※ 現場調合材料 ・ 既調合材料 (材料)
既製目地材 ・ 設ける 施工箇所 () 形状 (※ 図示)
・ 設けない
床の目地 ・ 設ける (目地割り ※ 2mm程度 (最大目地間隔3mm程度)
(種類 ※ 押し目地)
・ 設けない

外装タイル張り下地等の下地モルタル塗り及び下地調整材塗りの接着力試験
・ 適用する ・ 適用しない
壁面の仕上げ厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の下地処理
・ 図示による

建具回り等の充填モルタルに使用する防水剤 (品質・性能)
(試験方法) JIS A1404「建築用セメント防水剤の試験方法」による

項目	品質・性能
防水剤の種類	建築用のモルタルに用いるセメント防水剤
混合割合	セメント重量の5%以下
凝結及び安定性	(凝結時間) 始発：1時間以上 終結：10時間以内 (安定性) 収縮性、膨張性のひび割れ及びそりの有無について確認する。
曲げ及び圧縮強度比	防水剤を混入したものの、しないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上
吸水比	防水剤を混入したものの、しないものの吸水比 95%以下
透水性	防水剤を混入したものの、しないものの透水性 80%以下
	ただし、透水性における水圧は、3. 0×10 ⁵ Paとし1時間行う

29

タイル張り

[6. 1 6. 2～4]

伸縮調整目地の位置 床タイル (※ 縦、横とも4mm以内ごと ・ 図示)
床タイル以外 (※ 図示)
・セメントモルタルによるタイル (セラミックタイル) 張り

施工箇所	形状/寸法 (mm)	再生材料の適用	吸水率による区分	うわぐすり	役物	色	耐摩耗性	耐滑り性	備考
便所床	25X25	・	・	・	・	・	・	・	・

耐滑り性：JIS A 1509-12 (セラミックタイル試験方法―第12部：耐滑り性試験方法) で規定する C. S. R値は0. 4～1. 0とする。
標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・ 行う ※ 行わない
見本張り ・ 行う ※ 行わない

壁タイル張りの工法
内装タイル ・ 密着張り ・ 改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル ・ マスク張り ・ モザイクタイル張り

既調合モルタル
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、湿和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。

(品質・性能)

項目	品質・性能	項目	品質・性能
保水率	70. 0%以上	長さ変化率	0. 20%以下
単位容積質量	1. 80 kg/L以上	曲げ強さ	4. 0 N/mm ² 以上
接着強さ	標準時 0. 60 N/mm ² 以上 温冷繰り返し後 0. 40 N/mm ² 以上		

(試験方法)
(1) 試料の調製
製造業者の定める、正味質量と標準繰り上がり量より換算して、所定量の試料を繰り上げるのに要する材料と繰り混ぜ水を計算して用意する。
繰り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の10. 2に規定する繰り混ぜ機を使用し、繰りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間繰り混ぜて試料とする。
(2) 保水率の試験方法
JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス (縦150mm、横150mm、厚さ5mm) の上にJIS P3801「ろ紙 (化学分析用)」に規定する5 Aろ紙 (直径11cm) をのせ、その中央部に真ちゅう糊リング型わく (内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm) を設置し、(1) で調製した試料を平滑に詰め込む。
その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。 60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がり最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをもギスを用いて1mm単位まで測定する。
試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率=50/平均値×100 (注) 50：リング型わくの径 mm
(3) 単位容積質量の試験方法
JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。

30

セルフレベリング材塗り

[6. 1 7. 2、3]

塗厚 (mm) ※10mm程度 ・

4

接着強さ (標準時) の試験方法

イ) 適用タイルが「モザイクタイル」の場合
(試験体の作製) JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板 N=300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿を行い直ちに(1) で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付け。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施すの「50角ユニットタイル (外りの寸法約300mm×300mm)」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿気養生を行い、これを試験体とする。
(試験方法) JIS A 6909「建築用仕上塗材」の7. 10付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さエポキ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び取り。(全てが0. 6N/mm²以上を確保していること)
また、試験後の部材破断位置の表示を下記の中から選び明記する。
T：タイルの母材破断 MG：既調合モルタルと下地板の界面破断
TM：既調合モルタルとタイルの界面破断 G：下地板の母材破断
M：既調合モルタルの母材破断
ロ) 適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合
(試験体の作製) JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板 N=300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿を行い直ちに(1) で調製した試料を厚さ7mmになるように塗付け。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施すの「小口タイル 108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿気養生を行い、これを試験体とする。
(試験方法) 「モザイクタイル」の場合と同様に行う。

5

接着強さ (温冷繰返し後) の試験方法
(試験体の作製) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々(4) 接着強さ (標準時) の試験方法の「試験体」と同様とする。
(温冷繰返し試験) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」に規定する7. 11温冷繰返し試験に準じて行う。
試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間静置させた後、直ちに―20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±3℃の別の恒温器中で3時間加熱し、この24時間を1サイクルとする試験を10回繰返し、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び剥れの有無を目視によって調べる。
(温冷繰返し後の接着強さ試験方法) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。(全てが0. 4N/mm²以上を確保していること)
(長さ変化率の試験方法)
JIS A 6203「セメント湿和用ポリマーディスペンション及び再乳化粉体素樹脂」9. 9 長さ変化率に準ずる。
(7) 曲げ強さの試験方法
JIS A 6916「建築用下地調整塗材」の7. 11 曲げ強さ試験に準ずる。
試験室の状態：試験室は温度20±2℃、湿度65±10%とする。

既調合目地材 (品質・性能)

項目	品質・性能	項目	品質・性能
保水率	30. 0%以上	吸水量	50g以下
長さ変化率	0. 2%以下 (収縮)	単位容積質量	1. 80 kg/L以上

(試験方法)
(1) 試験の条件
試験室は、温度20±2℃、湿度65±5% RHの標準状態とする。また、試験に使用する材料、器具などを、予め24時間以上標準状態に置いた後使用する。
(2) 試料の調整
正味質量と標準繰り上がり量より、1. 0～1. 2Lの試料を繰り上げるのに要する材料に相当する量を計算して用意し、さらに標準吸水量より用意した材料に相当する量の繰り混ぜ水を計算して用意する。 繰り混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」11. 2に規定する繰り混ぜ機を使用し、繰りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し3分間繰り混ぜて試料とする。
(3) 保水性 (ろ紙法)
JIS R 3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス (縦200mm、横200mm、厚さ5mm) の上にJIS P 3801「ろ紙 (化学分析用)」に規定する5 Aろ紙 (直径18. 5cm) をのせ、その中央部に真鍮製リング型わく (内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm) を設置し、(2) で繰り混ぜた試料を金べらで平滑に詰め込む。その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。 10分後にろ紙へにじみ出した水分の広がり最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをもギスを用いて1mm単位まで測定する。 試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率 (％) =50/平均値×100 (注) 50：リング型わくの径 (mm)
(4) 単位容積質量
(2) で繰り混ぜた試料を、JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」の6. 4に規定する方法で求める。
(5) 長さ変化率
(2) で調整した試料を用いてJIS A 1171の7. 8長さ変化率試験に従って行う。
(6) 吸水量
(2) で調整した試料を用いてJIS A 1404「建築用セメント防水剤の試験方法」7. 5に規定する方法で24時間の吸水量を求める。試験体数は3個とし、その平均値とする。
有機系接着剤によるタイル (セラミックタイル) 張り

7

塗装改修工事

①

材料

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆
防火材料 ※ 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする
※ 次の箇所を除き防火材料とする ()

②

下地調整、素地ごしえ

塗替え種別がR B種の場合の既存塗膜の除去範囲
※ 劣化部分は除去し、活膜部分は残す
下地調整、素地ごしえ

下地面の種別	塗替え	新規	ひび割れ部の修補
	下地調整の種別	素地ごしえの種別	―
木部	※ R B種 ・	・ A種 ・ B種	―
鉄鋼面	※ R B種 ・	・ C種	―
鉄鋼面 (DP)	※ R B種 ・	・ B種	―
重鉛めつき面	※ R B種 ・	・ A種 ・ B種	―
モルタル面、せつこうプラスター面	※ R B種 ・	・ A種 ・ B種	・ 行う
コンクリート面 (DP以外)	※ R B種 ・	・ B種	○ 行う
ALCパネル			
押出成形セメント板面 (DP)	・ R B種 ・ R C種	・ A種 ・ B種	・ 行う
コンクリート面			
せつこうボード面、その他ボード面	※ R B種 ・	・ A種 ・ B種	―

③

錆止め塗料塗り

錆止め塗料塗りの種別 [7. 4. 2、3]

塗 装 面	塗料の種別	工程の種別
鉄鋼面	S O P	新規見え張り 新規見え隠れ 塗替え
		※ A種 ・ ※ B種 ・ ※ C種 ・
	E P - G	新規見え張り 新規見え隠れ 塗替え
		※ A種 ※ B種 ※ A種 ・ ※ B種 ・ ※ C種 ・
	D P	新規 塗替え
		7. 4. 2 (1) (イ) (a) による 7. 4. 2 (1) (イ) (b) による ・ A種 ・ ・ A種 (下地調整RA種) ・ B種 (下地調整RB種) ・ C種 (下地調整RC種)
重鉛めつき鉄鋼面	S O P	新規鋼製建具等 新規その他 塗替え
		※ A種 ・ B種 ・ A種 ・ ・ B種 ・ ・ C種 ・
	E P - G	新規鋼製建具等 新規その他 塗替え
		・ C種 ・ A種 ・ ・ B種 ・ ・ C種 ・
	D P	新規 塗替え
		・ B種 ― ―

④

仕上げ塗料塗り

仕上げ塗料塗りの [7. 5. 2～7. 1 2. 2]

塗装の種類	塗装面	工程
		塗替え 新規
・合成樹脂調合ベント塗り (S O P)	木部屋外 木部屋内	※ B種 ・ ※ B種 ・
塗料の種類 ※ 1種 ・ 2種	鉄鋼面 重鉛めつき鉄鋼面 (鋼製建具以外) 重鉛めつき鉄鋼面 (鋼製建具)	※ B種 ・ ・ A種 ・ B種 ※ B種 ・ ※ B種 ・
・クリアラッカー塗り (C L)	木部	・ A種 ※ B種 ・ A種 ※ B種
・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り (N A D)		・ A種 ※ B種 ・ A種 ※ B種
○耐候性塗料塗り (D P)	鉄鋼面 上塗り等級 () 級 重鉛メッキ鋼面 上塗り等級 () 級	― ― ― ―
		・ A-1種 ・ A-2種 ・ B-1種 ・ B-2種 ・ C-1種 ・ C-2種
○つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り (E P - G)	コンクリート面 モルタル面 せつこうプラスター面 せつこうボード面 屋内木部 屋内鉄鋼面 屋内重鉛めつき面	※ B種 ・ ※ B種 ・ ※ B種 ・ ※ B種 ・ ※ B種 ・ ※ B種 ・ ※ B種 ・ ※ B種 ・ ・ A種 ・ B種 ・ A種 ・ B種 ・ A種 ・ B種 ・ A種 ・ B種 ・ A種 ・ B種 ・ A種 ・ B種 ・ A種 ・ B種
・合成樹脂エマルジョンペイント塗り (E P)		※ B種 ・ ・ A種 ・ B種
・ウレタン樹脂ワニス塗り (U C)		・ A種 ※ B種 ・ A種 ※ B種
・ステイン塗り ・オイルステイン塗り (O S)		
・木材保護塗料塗り (W P)		・ A種 ※ B種 ・ A種 ※ B種
つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り (コンクリート面、モルタル面、せつこうプラスター面、せつこうボード面、その他ボード面) の塗替えの場合のしき止め ※ B種又はC種の場合は改修標準仕様書表7. 9. 1の工程1の下塗りをしき止めシーラーとする 合成樹脂エマルジョンペイント塗りの塗替えの場合のしき止め ※ B種又はC種の場合は改修標準仕様書表7. 10. 1の工程1の下塗りをしき止めシーラーとする ・高日射反射率塗料塗り		
下地調整 (改修標準仕様書表7. 2. 2)	・ R A種 ※ R B種 ・ R C種	
工程	塗料の種類	塗付け量 (kg/m ²)
	規格番号	規格名称
塗料塗り	JIS K 5675	屋根用高日射反射率塗料
	2種	・ 1級 ・ 2級 ・ 3級
		塗料製造所の仕様による

クリアラッカー塗り A種の工程2の着色
・適用しない
ウレタン樹脂ワニス塗りの工程1の着色
・適用しない
・適用する (着色剤：・油性顔料着色剤 ・ 溶剤顔料着色剤)
オイルステイン塗りの工程等 ・

8

耐震改修工事

特記仕様書 (構造関係) による

御注文先

三原市殿

御承認

記事

月 日
・ ・ ・
・ ・ ・
・ ・ ・

中電技術コンサルタント株式会社
広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) 2550-518

1級建築士事務所 登録23 (1) 第1252号
1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二
1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫

校閲
設計

図面番号
A-06
縮尺
―

工事名称
図面名称
2025. 03
建築改修工事特記仕様書 (6)

※ A3：50%縮小

9環境配慮改修工事

①石綿含有建材の除去工事

〔9. 1. 1、3～5〕

・石綿粉じん濃度測定
測定時期、場所及び測定点
適用測定名称測定時期測定場所測定点（各施工箇所ごと）
○測定1処理作業前処理作業室内・計2点
○測定2調査対象室外部の付近・計2点
○測定3処理作業中処理作業室内・計2点
※測定4セキュリティゾーン入口・計1点
※測定5集じん・排気装置の排出口（処理作業室外の場合）出口吹出し風速1m/s以下
※測定6出口位置・計1点
※測定7処理作業中（シート養生中）処理作業室内（シート撤去前）・計2点
○測定8処理作業後（シート撤去後1週間以降）調査対象室内・計1点
○測定9調査対象室外部の付近・計4点

測定方法
・自動測定器による測定
測定名称測定方法
・測定1～9粉じん相対濃度計（デジタル粉じん計）、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器（リアルタイムファイバーモニター）等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定

・JIS K 3850-1に基づいた測定
測定名称メンブレンフィルタ直径（mm）試料の吸引流量（l/min）試料の吸引時間（min）
・測定1～925530
・測定（）4710120
・測定（）4710240
・測定（）

石綿含有建材の処理
○石綿含有吹付け材の除去
除去対象範囲※図示
除去工法※改修標準仕様書9.1.3(2)(7)による
・
除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置※湿潤化・固形化
除去した石綿含有吹付け材等の処分
・埋立処分（管理型最終処分場）※中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）
なお、工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、上記の指定によりがたい場合は、監督職員と協議すること。

・石綿含有保温材等の除去
除去対象範囲※図示
除去工法※原形のまま、手ばらし・破壊して除去
除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置※湿潤化・固形化
除去した石綿含有保温材等の処分
・埋立処分（管理型最終処分場）※中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）
○石綿含有成形板等（石綿含有けい酸カルシウム板第1種以外）の除去
除去対象範囲※図示
除去した石綿含有成形板の処分
・石綿含有石膏ボード
※埋立処分（管理型最終処分場）
・石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板
・埋立処分（安定型最終処分場）
・中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）

・石綿含有成形板等（石綿含有けい酸カルシウム板第1種）の除去
除去対象範囲※図示
養生方法
除去した石綿含有けい酸カルシウム板第1種の処分
・埋立処分（安定型最終処分場）
・中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）
○石綿含有仕上塗材又は石綿含有成形板（下地調整材）の除去
下記以外は、改修標準仕様書9.1.1及び9.1.2による
除去工法
※石綿障害予防規則（平成十七年二月二十四日厚生労働省令第二十一号）第6条による措置と同等以上の効果を有する措置とされる工法
・集じん装置併用手工具ケレン工法
・集じん装置付き高圧水洗工法（15MPa以下、30～50MPa程度）
・集じん装置付き超高圧水洗工法（100MPa以上）
・超音波ケレン工法（HEPAフィルター付き排塵機併用）
・剥離剤併用手工具ケレン工法
・剥離剤併用高圧水洗工法（30～50MPa程度）
・剥離剤併用超高圧水洗工法（100MPa以上）
・剥離剤併用超音波ケレン工法
・集じん装置付きキスクグラインダーケレン工法
除去対象範囲※図示
作業場の隔離※行わない・行う
試験施工※行わない・行う
養生方法・
除去した石綿含有仕上塗材の処分
・埋立処分（安定型最終処分場）
・中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）
除去した石綿含有仕上塗材の保管、運搬及び処分
※改修標準仕様書9.1.3(3)による
確認及び後片付け※改修標準仕様書9.1.3(4)(7)(9)(f)(g)(h)及び(g)による

石綿含有建材除去後の仕上げ工事※図示・
断熱材断熱材の種類（）、断熱材の厚さ（mm）
施工箇所※図示
ホルムアルデヒド放散量※F☆☆☆☆
外装材種類防火性能備考
・
既存外壁の処置
既存外壁仕上材の撤去・あり・なし
下地面の清掃・行う・行わない
欠損部がある場合の改修工法※4章外装改修工事による

工法
1章適用区分による風圧力（・1・1.15・1.3）倍の風圧力に対応した工法
不陸等の下地調整・図示
通気層の有無・あり（mm）・なし
断熱材、外装材の施工及び外装材の外壁への取付け
※断熱材及び外装材製造所の仕様による

2外断熱改修工事

〔9. 2. 1～4〕

3断熱・防露改修工事

〔9. 3. 2～4〕

4屋上緑化改修工事

〔9. 4. 2～4〕

5透水性アスファルト舗装改修工事

〔9. 5. 2～5、9〕

10その他

1フリーアクセスフロア

〔2.0. 2. 2〕

②表示

3ブラインド

4ロールスクリーン

5カーテン

6カーテンレール

7ブラインドボックス及びカーテンボックス

⑧天井点検口

案内用図記号はJIS Z 8210による。
誘導標識、非常用出入口等の表示※消防法に適合する市販品
室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等※図示

〔2.0. 2. 1. 4〕
形式操作方法種類スラットの材質スラット幅（mm）ボックスレールの材質幅・高さ
・横形※手動※ギア式※アルミニウム合金製※25※鋼製※図示
・電動―
・縦形※手動※2本操作コード式※アルミスラット・クロススラット・80アルミニウム※図示
・1本操作コード式※図示
・電動―
アルミスラットの材質焼付け塗装仕上げ
クロススラットの材質消防法で定める防火性能の表示がある特殊樹脂加工

〔2.0. 2. 1. 5〕
材質操作方式遮光性能寸法（mm）取付箇所備考
・ガラス繊維製・電動式・1級※図示※図示
・合成・天然繊維製・スプリング式・2級・
・木製※チェーン式・3級・
・
巻取りパイプ、ウェイトバー、操作コード又は操作チェーンその他の材料
※製造所の仕様

〔2.0. 2. 1. 6〕
形式開閉操作ひだの種類生地の種類、品質、特殊加工等取付箇所備考
・シングル・片引き・手引き・つまみひだ
・ダブル・引分け・ひも引き・霜ひだ、片ひだ
・電動・ブレーンひだ
※図示
・（暗幕）

暗幕カーテンの両端、上部及び召合せの重なり※300mm以上

〔2.0. 2. 1. 6〕
材料による区分※アルミニウム又はアルミニウム合金の押出し成型材
・ステンレス製
強さによる区分※10-90
仕上り※アルミイト
形状※角形

溝幅×深さ（mm）90×150120×80120×150150×80※図示
材質・集成材（仕上り）
・アルミニウム製押出し型材（市販品）
表面処理・BC-1・BC-2（※標準色（）、特注色（））
・鋼製（仕上り）

〔8〕天井点検口
材質※アルミニウム製※450×450※一般形・屋内外用※額縁タイプ※額縁タイプ
・600×600※屋内用・目地タイプ・目地タイプ
・気密形
（品質・性能）
内外枠の材質アルミニウム製
JIS H 4100 A6063S-5又は同等の性能を有するもの
表面処理陽極酸化皮膜JIS H 8601 (AA6) 又は同等の性能を有するもの
（外部に用いる場合は、JIS H 8602のB種又は同等以上の性能を有するもの）
内枠及び外枠のコーナースペース
鋼板に垂れめっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの
外枠の取付け金物
鋼板に垂れめっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの
内枠の仕上り材留付金物
アルミニウム及びアルミニウム合金押出型材、垂れめっき鋼板又は同等の性能を有するもの
耐久性能（繰り返し開閉試験）
（1）50回、100回、300回の内蓋の垂れ下りが、0.5mm以内。
（2）開閉試験後、使用上支障をきたす異常がないこと。
枠の寸法許容差±0.5mm以内
外枠と内枠のクリアランス片側2.0mm以内
（試験方法）
内蓋（内枠）の繰り返し開閉試験
（1）試験体は、枠見込み40mm程度のものとする。
吊り金物は、外枠を天井下地取付用補強材に直接留付け方式（天井ボードなどの仕上材を挟んで固定しない方式）とする。標準仕様書14章4節により製作した試験体固定天井下地開口補強に試験体の天井点検口450mm×450mmを吊り金具4箇所にて各メーカー仕様に従い取付ける。なお、野縁の種類は、19形と仕上り材は、せっこうボード厚さ9.5mm（JIS A 6901「せっこうボードの種類」のGB-Rの難燃2級又は発熱性2級以上）二重張りとする。
（2）試験は、内蓋を閉じた状態から自由開放状態にする動作を繰り返し行う。
（3）測定は、上記繰り返し試験において、各50回、100回、300回以内蓋の垂れ下り状態を測定する。

御注文先

三原市殿

御承認

記事

月日
・
・
・

中電技術コンサルタント株式会社

広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8

1級建築士事務所 登録23(1)第1252号

1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二

1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫

校閲

設計

工事名称

図面名称

図面番号

中央公民館長寿命化改修工事（その1）建築主体工事

建築改修工事特記仕様書（7）

A-07

縮尺

※A3：50％縮小

9

床点検口

材種	寸法 (mm)	形式	備考
・ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 鋼製	・ 450×450 ※ 600×600 ・	・ 一 般 形 ・ 密 閉 形 ・ 屋内外用 ・ 屋内用	・ 鍵付き
密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとす。 (品質・性能)			
部材名	材質	屋内外用	屋内用
受枠材 蓋枠材	アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材	JIS H 4100のA6063S-T5 (表面処理) JIS H 8602のB種又はJIS H 8601のAA15	
	ステンレス製	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 (表面処理) HL又は2B仕上げ程度	JIS G 4305のSUS430 (表面処理) HL又は2B仕上げ程度
	鋼製	—	標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2のさび止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの
二重蓋の中蓋	鋳鉄 その他	JIS G 5501のFC150、FC200 塩化ビニル樹脂製等	
目地材	黄銅	JIS H 3100 のC2600、C2720、C2801 JIS H 3250 のC3602、C3604	
	ステンレス	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 JIS G 4308のSUS304	
底板材コーナーステンレス鋼板 ビス底板補強材	ステンレス鋼板	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 JIS G 4308のSUS304	JIS G 4305のSUS430
	アルミニウム板	JIS H 4000(A1100P、H24) 表面処理：陽極酸化塗装模合被膜 JIS H 8601(AA15) JIS H 8602(B)	—
	鋼材	—	鋼製又はJIS G 3313にメラミン樹脂焼付塗装若しくは、標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2のさび止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの
パッキン材	塩化ビニル系ゴム、軟質塩化ビニル、クロロプレン、スポンジラバー、エチレンプロピレン等枠の材質、形状に適した弾力性、密着性を有するもの		
アンカー材	鋼製に電気亜鉛めっき又は防錆塗料を行ったもの		
取手	黄銅・鋳鉄製、黄銅製、アルミニウム押出形材・合金・鋳鉄製、ステンレス・鋳鋼品、ステンレス製等・ステンレス鋼材、アルミニウム押出形材などで被覆した、合成樹脂製のものは、衝撃による変形・割れが生じないものとする		
鍵	黄銅製、ステンレス製、亜鉛合金製とする 施設・開設は、鍵又は開閉用ハンドル式とする		
蓋の耐荷重性能	蓋中央部が荷重Pn=1,000Nにおいて残留たわみが点検口の有孔径の0.08%以内であること。 受け枠、蓋その他の使用上支障がないこと。 破壊荷重は、荷重値のPnの2倍以上であること。		
受け枠寸法の許容差 ±0.5mm以下 蓋付寸法の許容差 ±0.5mm以下 受け枠と蓋枠のクリアランス 片側2.0mm以内 (試験方法) 耐荷重試験 試験体は、張物用とし、600mm角程度、枠見込みは、40mm以下とする。 試験は、蓋枠の四隅を支持させ、蓋の中央部にφ50mmの加圧板を設置し、加圧する。 本試験前に200Nを加圧した後、本試験を行う。 本試験は、1,000Nで加圧、荷重除去を3回繰り返し行った後、その後試験体が破壊する(終局荷重)まで加圧する。 測定は、蓋中央部にかかる加圧を200N増す毎にたわみと受け枠の変形その他の異常について1,000Nまで3回繰り返し返す。			

10

手すり

材質	表面仕上げ	直径 (mm)	取付箇所
・ 集成材	・ クリアラッカー	・ 35 ・ 45	
・ ステンレスパイプ	・ H L 程度		
・ 鋼製パイプ	・ S O P ・ E P - G		
・ ビニル製ハンドレール			

11

天井見切り縁等

壁及び下がり壁と天井の取合いの見切縁(天井見切縁、下がり壁見切縁)の材種 ・ アルミニウム既製品 ○ ビニル既製品

12

視覚障害者用床
タイル
(視覚障害者誘導用ブロック)

(11.2.2.19.2.2)			
屋内	種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)
	・ 塩化ビニル製	※ 300×300	・ 7.0
	・ セラミックタイル	※ 300×300	・
	・ レジンコンクリート製	※ 300×300	・
屋外	・ コンクリート製		
	・ セラミックタイル	※ 300×300	・
	・ レジンコンクリート製	※ 300×300	・
	・ コンクリート製		
突起の形状、配列及び寸法は JIS T 9251による			

13

鉄筋

8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.2.1)(表5.2.1)		
種類の記号	呼び名	備考
※ S D 2 9 5 A	※ D 1 6 以下	
※ S D 3 4 5	※ D 1 9 以上	

14

溶接金網

8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.2.2)		
種類	網目寸法、鉄線の径 (mm)	備考
※ 溶接金網		
・ 鉄筋格子		

15

鉄筋の継手及び定着

8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (5.3.4)		
鉄筋の継手の方法等 ※ 重ね継ぎ手 鉄筋の重ね継手の長さ ※ 4 0 d と標準仕様書表 5.3.2の重ね継手の長さのうち大きい値とする 鉄筋の定着長さ ※ 柱に取り付け梁の引っ張り鉄筋の直線定着長さは4 0 d 以上とし、それ以外は標準仕様書表 5.3.4による 機械式定着工法 ・ 適用する 適用箇所 ・ 図示による 種類 ・ 摩擦圧接接合 ・ 鋳合グラウト固定 ・ 嵌合グラウト固定		

16

コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度等

8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (6.2.1~4) ※ 普通コンクリート		
設計基準強度 (F c) [N/mm2]	スランプ (c m)	適用箇所
※ 2 4 ・	※ 標準仕様書表6.2.2による ・	※ コンクリート全て (無筋コンクリートを除く) ・

17

セメント

種類 (6.3.1) ※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は フライアッシュセメントA種 ・ 高炉セメントB種 ・ フライアッシュセメントB種		
---	--	--

18

型枠

8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (6.8.2) せき板の材料 ※ 合板 厚さ (※ 1 2 mm ・) ・ メッシュ型枠 ・ 断熱材を兼用した型枠 厚さ 2 5 mm以下かつ熱抵抗値 1 m h ° C / K C a l 以上		
---	--	--

19

無筋コンクリート

8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による (6.14.1)			
種 類	設計基準強度 (F c) [N/mm2]	スランプ (mm)	施 工 箇 所
※ 普通コンクリート ・	※ 1 8 ・	※ 1 5 ・	※ 標準仕様書6.14.1(4)(7)~(h)による ・
種類 ※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は フライアッシュセメントA種 ・ 高炉セメントB種 ・ フライアッシュセメントB種			

20

床コンクリート
直均し仕上げ

(8.1.4)(表8.1.5)	
仕上げる平たんさは、図示以外は下記による	施工箇所
改修標準仕様書表8.1.5による平たんさの種類別	
a種	合成樹脂塗床、ビニル系床材張り、床コンクリート直均し仕上げ、フリーアクセスフロア(置敷式) ()
b種	カーベット張り、防水下地、セルフレベリング材塗り ()
c種	タイル張り、モルタル塗り、フリーアクセスフロア(支柱調整式) ()

21

あと施工アンカー

(14.1.3) 6章内装改修工事 軽量鉄骨天井下地及び8章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による あと施工アンカー施工後の確認試験 ※ 行う ・ 行わない		
--	--	--

22

トイレブース

(20.2.5)		
表面材の材料	脚部 形状	ドアエッジ 材質
※ メラミン樹脂系化粧板 ・ ポリエステル樹脂系化粧板	※ 幅木タイプ ・	※ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 表面材と同材
(品質・性能) (1) パネル		
項目	品質・性能	
表面材	メラミン樹脂系、ポリエステル樹脂系化粧板又はメラミン樹脂系単一材とする。	
裏打材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、防食処理及び防錆処理を施した材料とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。	
心材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。	
枠材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、亜鉛めっき	
エッジ材	処理を施した材料とする。	
小口	防水処理を施す。	
(2) 構造金物		
項目	品質・性能	
脚部	JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」に規定するSUS304、SUS430J1L、 (脚具、幅木) SUS443J1とし、仕上げはHL程度とする。	
(3) 付属金物		
項目	品質・性能	
ヒンジ	耐熱性のあるものとする。	
ラッチセット	戸当り部のある材料には防錆処理を施してあるものとする。	
戸当り	腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施してあるものとする。 戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。	
(4) 外観は、JIS A 6512「可動間仕切」の5.b)による。		
(5) パネル表面材の耐薬品性・耐汚染性・耐ひっかき性・開閉耐久性		
項目	品質・性能	
	耐薬品性及び耐汚染性	耐引っかき性
メラミン樹脂系化粧板及びメラミン樹脂系単一材	JIS K 6903(2008)「熱硬化性樹脂高圧化粧板」の表8品質による耐汚染性(B法)の規定を満足していること。	—
低圧メラミン樹脂系化粧板	ポリエステル樹脂系加工化粧板、ポリエステル樹脂系化粧MDF、ポリエステル樹脂系化粧パーティクルボードのいずれかの品質に適合していること。	
ポリエステル樹脂系加工化粧板	JAS「合板の日本農林規格」第9条特殊加工化粧板に示された耐汚染性B試験において、試験片の表面に色が残らないこと。	JAS「合板の日本農林規格」第9条特殊加工化粧板に示された耐引っかき性B試験において、きずの深さの平均値が10μm以内であること。
ポリエステル樹脂系化粧MDF	JIS A 5905「繊維板」の表18の規定に適合していること。	
ポリエステル樹脂系化粧パーティクルボード	JIS A 5908「パーティクルボード」の表11の規定に適合していること。	
(試験方法) (1) ヒンジは、JIS A 1510-2「建築用ドア金物の試験方法—第2部：ドア用金物」に規定する試験による。 (2) 戸当りの衝撃試験は、JIS A 1510-2に規定する試験による。 パネル材料のホルムアルデヒド放散量 ※ JIS A 6512によりF☆☆☆☆以上		

御注文先

三原市殿

御承認

記事

月 日
.
.
.

中電技術コンサルタント株式会社

広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5511-518

1級建築士事務所 登録23(1)第1252号

1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二

1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫

校閲

設計

設計年月日
2025. 03

工事名称
中央公民館長寿命化改修工事 (その1) 建築主体工事

図面番号
A-08

縮尺
—

※A3：50%縮小

特記仕様書 (構造関係)

8耐震改修工事
共通事項

1適用範囲

※改修標準仕様書 8章 耐震改修工事
・改修標準仕様書において 8章耐震改修工事以外の改修工事で 8章を引用している部分

工事内容
・現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事
・鉄骨ブレースの設置工事
・柱補強工事 (溶接金網巻き工法又は溶接閉鎖フープ巻き工法)
・柱補強工事 (鋼板巻き工法又は帯板巻き付け工法)
・連続繊維補強工事
・耐震スリット新設工事
・免震改修工事
・制振改修工事
・土工事及び地業工事
・ ()

2既存部分の処理等

既存構造体の撤去 [8. 21. 2] [8. 22. 2] [8. 23. 2] [8. 24. 4] [8. 25. 2]
撤去範囲
※構造図による
はつり出した鉄筋及び鉄骨の処置
※露出部分は、錆止め塗料塗りを行う
既存構造体コンクリート面の目荒らしの程度及び範囲 [8. 21. 3] [8. 22. 3] [8. 23. 3]
既存柱、梁面
※打継ぎ面の15～30%程度に、平均深さ 2～5mm (最大7mm) 程度の凹凸処理を施す。
・構造図による
既存壁
※打継ぎ面の10～15%程度に、平均深さ 2～5mm (最大7mm) 程度の凹凸処理を施す。
・構造図による
既存杭の撤去等 [8. 28. 2]
・撤去範囲及び撤去方法 ※構造図による

8-1鉄筋工事

1鉄筋

鉄筋の種類等 [8. 2. 1]

種類の記号	呼 び 名	備 考
※ S0295	※ D16以下	
※ S0345	※ D19以上	
・		
・		

2溶接金網

鉄線の形状等 [8. 2. 2]

種 類	種類の記号	網目寸法、鉄線の径 (mm)	使 用 部 位
※ 溶接金網			
・ 鉄筋格子			

3鉄筋の継手及び定着

鉄筋の継手の方法等 [8. 3. 4] [8. 4. 2, 3]

部 位	継 手 方 法	呼 び 名
柱、梁の主筋	※ ガス圧接 ・ 機械式継手 ・ 溶接継手	
耐力壁の鉄筋	※ 重ね継手 ・	
その他の鉄筋 ()	○ 重ね継手 ・	

継手位置 [8. 3. 4]
※構造図による
・柱及び梁の主筋の重ね継手の長さ
※構造図による
耐力壁の重ね継手の長さ [8. 3. 4]
※改修標準仕様書 8. 3. 4 (3) (7) による
・改修標準仕様書 表8. 3. 2
鉄筋の定着長さ [8. 3. 4]
※改修標準仕様書 8. 3. 4 (5) 、 (6) による
・構造図による
機械式定着工法
・適用する
適用箇所
・図示による () ・
種類
・摩擦圧接接合 ・蝶合グラウト固定
・嵌合グラウト固定 ・
工法
※第三者機関の評定等を取得している工法とする
必要定着長さ
※評定等の評価内容による
補強筋形状
※評定等の評価内容による
かぶり厚さ
※評定等の評価内容による
品質確認
※評定等の評価内容による
検査
※評定等の評価内容による

4鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (溶接金網を含む)

最小かぶり厚さ [8. 3. 5]
※改修標準仕様書 表8. 3. 6による
・軽量コンクリートを適用する場合
適用箇所 ()
・最小かぶり厚さに加える厚さ () mm
・耐久性上不利な箇所がある場合 (塩害を受けるおそれのある部分等)
適用箇所 ()
・最小かぶり厚さに加える厚さ () mm

5圧接完了後の圧接部の試験

超音波探傷試験 [8. 3. 8]
※行う (全圧接部)

6機械式継手

適用箇所 [8. 4. 2]
※構造図による
H12建告第1463号に適合する性能
※A級 ・ ()
種類 [8. 4. 2]
・ねじ式鉄筋継手
充填方式
・無機グラウト方式 ・有機グラウト方式 ・
・端部ねじ加工継手
・モルタル充填式継手
・
工法
※第三者機関の評定等を取得している工法
鉄筋相互のあき
※評定等の評価内容による
品質の確認
※評定等の評価内容による
検査
※評定等の評価内容による
施工完了後の継手部の試験
・外観試験
試験対象
※全数
試験項目
・評定等の評価内容による ・
試験方法
・評定等の評価内容による ・
・超音波測定試験
試験対象
・抜取り
ロット
・1組の作業班が1日に行った継手箇所で、最大200箇所程度とする。
・
試験の箇所数
1ロットに対して () 箇所
・全数
試験項目
※挿入長さ
試験方法
※JIS Z 3064 (鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定方法及び判定基準) による
不合格となった場合の措置 (5. 5. 5)
・

7溶接継手

適用箇所 [8. 4. 3]
※構造図による
H12建告第1463号に適合する性能
※A級 ・ ()
溶接継手の工法 [8. 4. 3]
・図示による () ・
鉄筋相互のあき
・標準仕様書5. 3. 5 (4) による
・評定等の評価内容による
・図示による ()
施工完了後の溶接部の試験
・外観試験
試験対象
※全数
試験項目
・評定等の評価内容による ・
試験方法
・評定等の評価内容による ・
・超音波探傷試験
試験対象
・抜取り
ロット
・1組の作業班が1日に行った溶接箇所で、最大200箇所程度とする。
・
試験の箇所数
1ロットに対して () 箇所
・全数
試験項目
※内部欠陥の検出
試験方法
※JIS Z 3063 (鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波測定方法及び判定基準) による
不合格となった場合の措置 (5. 6. 5)
・

8割製補強筋

仕 様 [8. 21. 6] [8. 22. 7]
形状
・スパイラル筋 ・ ()
種類の記号
・SR235またはSWM-P ・ ()
呼び径、曲げ直径、ピッチ
・図示による

8-2コンクリート工事

1コンクリートの種類

コンクリートの類別 [8. 1. 3]
※Ⅰ類 (JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート)
・Ⅱ類 (JIS A 5308に適合したコンクリート)
※普通コンクリート [8. 1. 3, 4] [8. 2. 5]

設計基準強度 (N/mm ²)	スランブ (cm)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	適 用 箇 所
・ 24 ・	・ 改修標準仕様書表8. 1. 2による ・	2. 3程度	構造図による

構造体強度補正值 ※改修標準仕様書8. 2. 4による ・構造図による
・軽量コンクリート [8. 1. 3, 4] [8. 2. 5] [8. 9. 2]

設計基準強度 (N/mm ²)	スランブ (cm)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	種類	適 用 箇 所
・ ・	※21 ・	・ ・	・1種 ・2種	構造図による

構造体強度補正值 ※改修標準仕様書8. 2. 4による ・構造図による

2コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度等

種 類 [8. 2. 5]
※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種
普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で 352 J/g 以下、かつ28日目で 402 J/g 以下のものとする
・高炉セメントB種 適用箇所 ()
・フライアッシュセメントB種 適用箇所 ()

3セメント

アルカリシリカ反応性による区分 [8. 2. 5]
※A ・B

4骨 材

・混和剤 [8. 2. 5]
混和剤の種類
※改修標準仕様書 8. 2. 5 (4) (a) による ○構造図による
・混和材 [8. 2. 5]
混和材の種類
※改修標準仕様書 8. 2. 5 (4) (b) による ・構造図による

5混和材料

圧縮強度 () [8. 2. 6]
フロー値 ()

6構造体用モルタル

構造体強度補正值 ※6N/mm² ・構造図による [8. 10. 2]

7暑中コンクリート

適用箇所 (6. 13. 1)
※構造図による
セメントの種類 (6. 13. 2)
・普通ポルトランドセメント
・中熱ポルトランドセメント
・低熱ポルトランドセメント
・高炉セメントB種
・フライアッシュセメントB種
・シリカセメント
・ ()

8マスコンクリート

適用箇所 (6. 13. 2)
※標準仕様書6. 13. 2 (2) (ア) による
・構造図による
・混和材 (6. 13. 2)
混和材の種類
※標準仕様書6. 13. 2 (2) (イ) による
・構造図による
スランブ (6. 13. 2)
※15cm ・ () cm
構造体強度補正值 ※標準仕様書6. 13. 1による ・構造図による

9無筋コンクリート

コンクリートの種類 [8. 11. 1]
※普通コンクリート ・ ()
設計基準強度
※18N/mm² ・ () N/mm²
スランブ [8. 11. 1]
※15cm又は18cm ・ () cm
セメントの種類
※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種
・高炉セメントB種
・フライアッシュセメントB種
適用箇所
※構造図による (6. 15. 1)

10流動化コンクリート

打継ぎの位置 (6. 6. 4) (6. 8. 1) (9. 7. 3) [3. 7. 3]
・図示による () ・
目地寸法
・標準仕様書 9. 7. 3 (1) (7) による ・図示による ()
ひび割れ誘発目地の位置・形状・寸法
・図示による () ・

11打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地

12構造体コンクリートの仕上り

合板せき板を用いるコンクリートの打渡し仕上げ [8. 1. 4]
※意匠図による
コンクリートの仕上りの平坦さ [8. 1. 4]
※意匠図による

13打増し厚さ (打渡し仕上げ部)

・打渡し仕上げの打増し厚さ (外部に面する部分に限る) [8. 7. 8]
○20mm ・ () mm
・打渡し仕上げの打増し厚さ (内部に面する部分に限る)
・10mm ・20mm ・ () mm
・外装タイル後張り面の打増し処理
・20mm
・床型枠用鋼製デッキプレート梁側面部の打増し処理
プレートが支持される梁の側面について下記の打増しを行う
・10mm ・20mm ・ () mm

14型枠

せき板の材料及び厚さ [8. 2. 7]
※合板
厚さ ※12mm ・ () mm
・メッシュ型枠 (使用部位 ※構造図による)
・床型枠用鋼製デッキプレート (施工範囲 ※構造図による)
・断熱材を兼用した型枠材
使用箇所
※構造図による
・M C R工法用シート
適用箇所
※構造図による
打増し厚さ
・20mm ・ () mm
打増し範囲
※構造図による
スリーブの材質・規格等 [8. 2. 7]
※構造図による

15型枠の加工及び組立

シアコネクタをセパレーターとして使用 [8. 7. 8]
使用箇所 ※構造図による

16コンクリートの打込み工法等

コンクリートの打設工法の種類 [8. 21. 8] [8. 23. 5]

補 強 工 法	打 設 工 法	部 位
・現場打ちコンクリート壁の増設工事	・流込み工法 8. 21. 8 (1) (ア)、 (2) ・圧入工法 8. 21. 8 (1) (イ)、 (3)	・全ての増設壁 ・構造図による ・全ての増設壁 ・構造図による
・柱補強工事 (溶接金網巻き及び溶接閉鎖フープ巻き工法)	・流込み工法 8. 21. 8 (1) (ア)、 (2) ・圧入工法 8. 21. 8 (1) (イ)、 (3)	・全ての柱補強部分 ・構造図による ・全ての柱補強部分 ・構造図による
・	・	・
・	・	・
・	・	・
・	・	・
・	・	・
・	・	・
・	・	・

鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法での型枠等 [8. 23. 6]
柱頭及び柱脚の隙間の寸法
※構造図による
柱頭及び柱脚の隙間部間の型枠
・発泡プラスチック保温材等を埋込む
・構造図による
既存柱外周部あと打ちコンクリート又は構造体用モルタルの厚さ
※構造図による
補強後の仕上げ
※構造図による [8. 23. 7]

8-3鉄骨工事

1鉄骨製作工場

鉄骨製作工場の加工能力 [8. 1. 5]
※建築基準法 第68条の25に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している
鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場 (J) グレード以上
・監督職員の承諾する工場

2鉄骨製作工場における施工管理技術者

※ 配置する
・ 配置しない [8. 1. 6]

3鋼 材

種類等 [8. 2. 8]

種類の記号	適用箇所 (主要な部分)	規 格
SS400	鉄骨架台梁、鉄骨階段	※JIS規格による ・
		※JIS規格による ・
		※JIS規格による ・
		※JIS規格による ・
		※JIS規格による ・
		※JIS規格による ・

御注文先

三原市殿

御承認

日 月 日
・ ・ ・
・ ・ ・
・ ・ ・

記 事

中電技術コンサルタント株式会社
広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8

1級建築士事務所 登録23 (1) 第1252号
1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二
1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫

校閲
設計

原 本
坂 本

設計年月日
2025. 03

工事名称
中央公民館長寿命化改修工事 (その 1) 建築主体工事

図面名称
建築改修工事特記仕様書 (10)

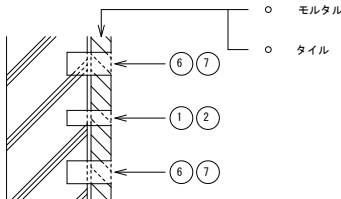
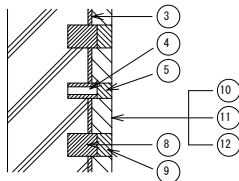
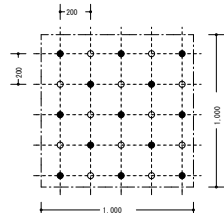
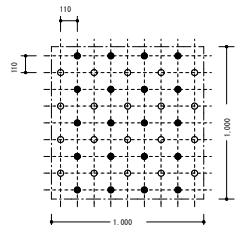
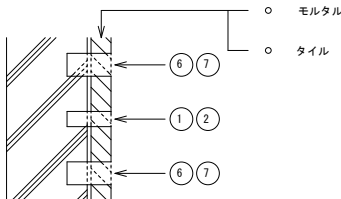
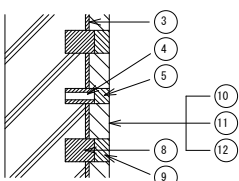
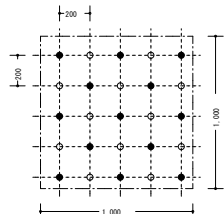
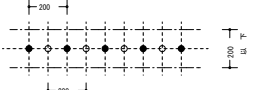
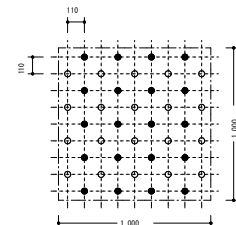
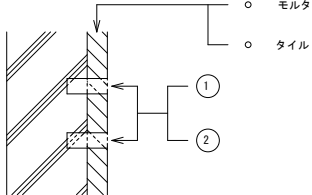
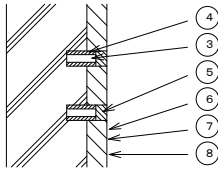
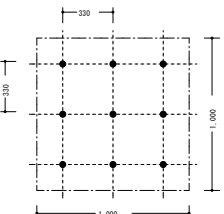
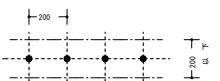
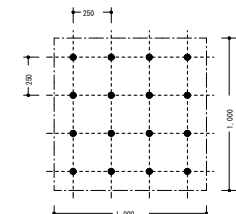
図面番号
A-10

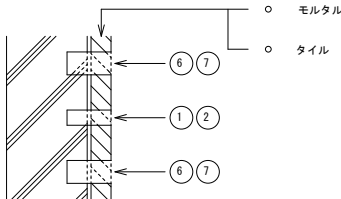
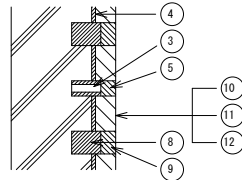
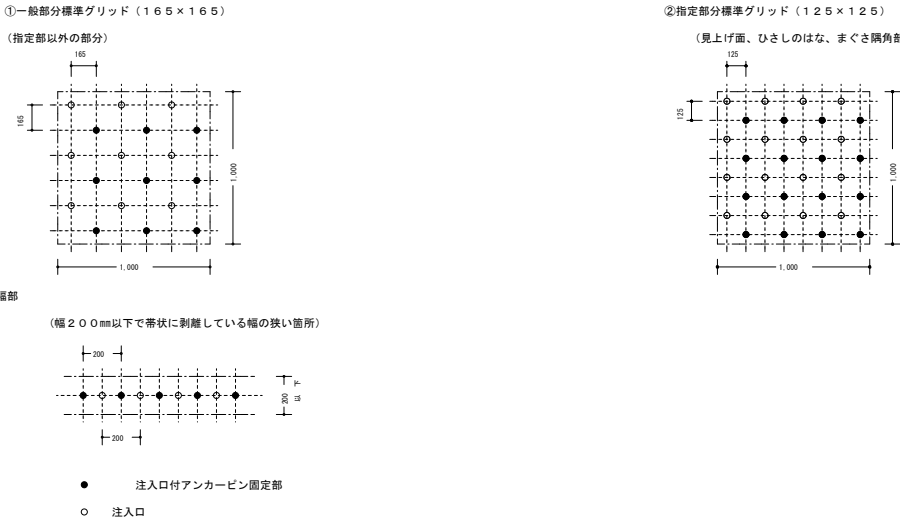
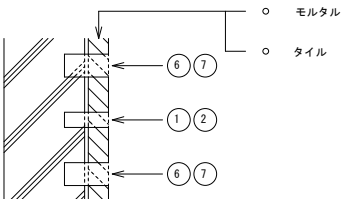
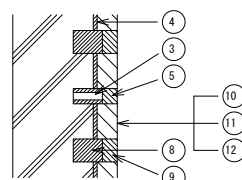
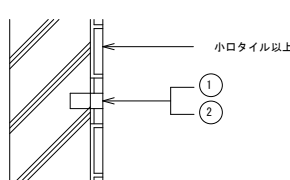
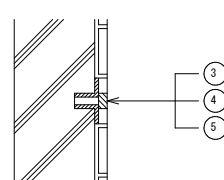
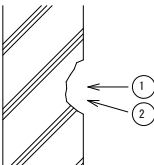
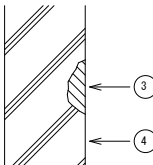
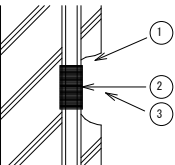
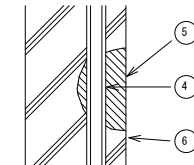
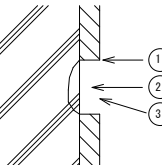
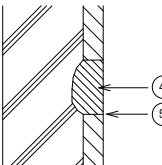
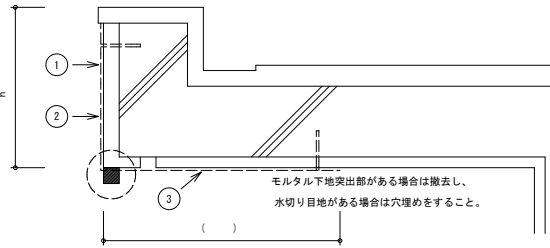
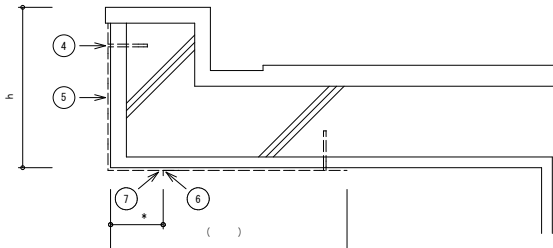
縮尺
—

※A3：50%縮小

[illegible]

名 称		A 表面劣化部処理		A-2 モルタル面表面劣化部処理		B ひび割れ部処理		B-2 打放し面ウカットシール材充てん工法		B-3 打放し面ウカットシール材充てん工法					
記号・仕様		A-1 打放し面表面劣化部処理		[サンダー工法]		[サンダー工法]		[標仕4. 2. 5]		[標仕4. 2. 6]					
改修前		改修後													
工 程		①既存仕上材及び脆弱層サンダーケレン（※全面・部分） ②高圧水洗浄（150～200kg/㎡） ③セメント系下地調整材コテ塗り（1.5mm±0.5mm） 参考数量：		①既存仕上材及び脆弱層サンダーケレン（※全面・部分） ②高圧水洗浄（150～200kg/㎡） ③セメント系下地調整材コテ塗り（1.5mm±0.5mm） 参考数量：		①サンダーケレン ②ひび割れ部シール ③エポキシ樹脂注入 ④セメント系下地調整材コテ塗り（1.5mm±0.5mm） ※A-1工法を行う場合は、①、④の工程はA-1工法に含む。 参考数量： 719m		①ひび割れ部ウカット ②高圧水洗浄（150～200kg/㎡） ③シーリング材打設 ④ウカット部埋戻し（ポリマーセメントモルタル） ⑤セメント系下地調整材コテ塗り（1.5mm±0.5mm） ※A-1工法を行う場合は、②、⑤の工程はA-1工法に含む。 参考数量： 10.8m		①ひび割れ部ウカット ②高圧水洗浄（150～200kg/㎡） ③可とう性エポキシ樹脂充てん後けい砂 ④セメント系下地調整材コテ塗り（1.5mm±0.5mm） ※A-1工法を行う場合は、②、④の工程はA-1工法に含む。 参考数量：					
名 称		B ひび割れ部処理		B-4 モルタル面樹脂注入工法		B-5 モルタル面躯体部樹脂注入工法		B-6 モルタル面ウカットシール材充てん工法		B-7 モルタル面ウカットエポキシ樹脂充てん工法					
記号・仕様		[標仕4. 3. 6]		[標仕4. 3. 6]		[標仕4. 3. 6]		ひび割れ幅 0.2～1.0mm		ひび割れ幅 0.2～1.0mm					
改修前		改修後													
工 程		①サンダーケレン ②ひび割れ部シール ③エポキシ樹脂注入 ④セメント系下地調整材コテ塗り（1.5mm±0.5mm） ※A-2工法を行う場合は、①、④の工程はA-2工法に含む。 参考数量： 5.5m		①ひび割れ周囲モルタルカッター切り ②モルタル除去 ③ひび割れ部シール ④エポキシ樹脂注入 ⑤埋戻し ⑥セメント系下地調整材コテ塗り（1.5mm±0.5mm） ※A-2工法を行う場合は、⑤の工程はA-2工法に含む。 参考数量：		①ひび割れ部ウカット ②高圧水洗浄（150～200kg/㎡） ③シーリング材打設 ④ウカット部埋戻し（ポリマーセメントモルタル） ⑤セメント系下地調整材コテ塗り（1.5mm±0.5mm） ※A-2工法を行う場合は、②、⑤の工程はA-2工法に含む。 参考数量：		①ひび割れ部ウカット ②高圧水洗浄（150～200kg/㎡） ③可とう性エポキシ樹脂充てん後けい砂 ④セメント系下地調整材コテ塗り（1.5mm±0.5mm） ※A-2工法を行う場合は、②、④の工程はA-2工法に含む。 参考数量：		①錆鉄筋周辺のはつり ②錆落とし ③高圧水洗浄（150～200kg/㎡） ④防錆処理 ⑤はつり部埋戻し整形 ⑥セメント系下地調整材コテ塗り（1.5mm±0.5mm） ※A-2工法を行う場合は、③、⑥の工程はA-2工法に含む。 参考数量： 47.3m 365箇所 整形部： 5.8m					
名 称		C 錆鉄筋部処理		D 浮き部処理		D-1 モルタル面はつり		D-2 モルタル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法		D-2' タイル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法					
記号・仕様		C-2 モルタル面錆鉄筋部処理		[標仕4. 3. 11]		[標仕4. 4. 9]		[標仕4. 3. 11]		[標仕4. 4. 9]					
改修前		改修後													
工 程		①カッター縁切り ②浮き部のはつり ③錆落とし ④高圧水洗浄（150～200kg/㎡） ⑤防錆処理 ⑥はつり部埋戻し整形 ⑦セメント系下地調整材コテ塗り（1.5mm±0.5mm） ※A-2工法を行う場合は、④、⑦の工程はA-2工法に含む。 参考数量：		①カッター縁切り ②浮き部のはつり ③高圧水洗浄（150～200kg/㎡） ④はつり部埋戻し整形 ⑤セメント系下地調整材コテ塗り（1.5mm±0.5mm） ※A-2工法を行う場合は、③、⑤の工程はA-2工法に含む。 参考数量：		①穿孔 ②孔内エアークリー ③エポキシ樹脂注入 ④ステンレスピン挿入 一般部 ケ所 指定部 ケ所 一般部 ケ所 指定部 ケ所 一般部 ケ所 指定部 ケ所		⑤穿孔跡埋戻し [バテ状エポキシ樹脂] ⑥サンダーケレン ⑦高圧水洗浄（150～200kg/㎡） ⑧セメント系下地調整材コテ塗り（1.5mm±0.5mm） ※A-2工法を行う場合は、⑥、⑦、⑧の工程はA-2工法に含む。 参考数量： ①一般部分： 1.1㎡ ②指定部分： ③収縮部： 4.0m		①一般部標準グリッド（250×250） （指定部以外の部分） ②指定部標準グリッド（200×200） （見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等） ③収縮部 （幅200mm以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所） ● アンカーピン固定部					
御注文先	三原市殿	御承認		記事	月 日 . . .	中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8		1級建築士事務所 登録23(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二		1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫		校閲 設計	図面名称 外壁改修工事特記仕様書（1）	工事名称 中央公民館長寿寿命化改修工事（その1）建築主体工事	図面番号 縮尺

名 称		D 浮き部処理																	
記号・仕様		D-3 D-3' モルタル面アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 [標仕4. 3. 12] タイル面アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 [標仕4. 4. 10]																	
改修前	改修後									①一般部分標準グリッド（200×200） （指定部以外の部分）  ③収幅部 （幅200mm以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所）  ● アンカーピン固定部 ○ 注入口 ②指定部分標準グリッド（110×110） （見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等） 									
		工 程		①ピン固定部穿孔	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑥注入口穿孔	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所			⑫セメント系下地調整材コテ塗り（1.5mm±0.5mm）							
		②孔内エアークリーニング	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑦孔内エアークリーニング	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所												
		③エポキシ樹脂注入	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑧エポキシ樹脂注入	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	※A-2工法を行う場合は、⑩、⑪、⑫の工程はA-2工法に含む。											
		④ステンレスピン挿入	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑨穿孔跡埋戻し [エポキシパテ]	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	参考数量：①一般部分： ②指定部分： ③収幅部： 24.0m											
		⑤穿孔跡埋戻し [エポキシパテ]	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑩サンダーケレン	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑪高圧水洗浄（150～200kg/cm ² ）											
名 称		D 浮き部処理																	
記号・仕様		D-4 D-4' モルタル面アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 [標仕4. 3. 13] タイル面アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 [標仕4. 4. 11]																	
改修前	改修後									①一般部分標準グリッド（200×200） （指定部以外の部分）  ③収幅部 （幅200mm以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所）  ● アンカーピン固定部 ○ 注入口 ②指定部分標準グリッド（110×110） （見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等） 									
		工 程		①ピン固定部穿孔	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑥注入口穿孔	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所			⑫セメント系下地調整材コテ塗り（1.5mm±0.5mm）							
		②孔内エアークリーニング	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑦孔内エアークリーニング	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所												
		③ポリマーセメントスラリー注入	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑧ポリマーセメントスラリー注入	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	※A-2工法を行う場合は、⑩、⑪、⑫の工程はA-2工法に含む。											
		④ステンレスピン挿入	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑨穿孔跡埋戻し [ポリマーセメントスラリー]	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	参考数量：①一般部分： ②指定部分： ③収幅部：											
		⑤穿孔跡埋戻し [ポリマーセメントスラリー]	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑩サンダーケレン	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑪高圧水洗浄（150～200kg/cm ² ）											
名 称		D 浮き部処理																	
記号・仕様		D-5 D-5' モルタル面注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 [標仕4. 3. 14] タイル面注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 [標仕4. 4. 12]																	
改修前	改修後									①一般部分標準グリッド（330×330） （指定部以外の部分）  ③収幅部 （幅200mm以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所）  ● 注入口付アンカーピン固定部 ②指定部分標準グリッド（250×250） （見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等） 									
		工 程		①穿孔	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑤穿孔跡埋戻し [エポキシパテ]	一般部 指定部	9 16ヶ所										
		②孔内エアークリーニング	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑥サンダーケレン ⑦高圧水洗浄（150～200kg/cm ² ） ⑧セメント系下地調整材コテ塗り（1.5mm±0.5mm）	ヶ所 ヶ所 ヶ所		※A-2工法を行う場合は、⑥、⑦、⑧の工程はA-2工法に含む。											
		③ステンレスピン（注入口付）挿入	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所				参考数量：①一般部分： ②指定部分： ③収幅部：											
		④エポキシ樹脂注入	一般部 指定部	ヶ所 ヶ所															
御注文先	三原市殿	御承認		記 事	月 日		 中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	1級建築士事務所 登録23(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二		1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫		校閲		工事名称	中央公民館長寿命化改修工事（その1）建築主体工事	図面番号	A-13		
														設計		設計年月日	2025. 03	図面名称	外壁改修工事特記仕様書（2）

名 称		D 浮き部処理																															
記号・仕様		D-6 D-6'		モルタル面注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 タイル面注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法		〔標仕4. 3. 15〕 〔標仕4. 4. 13〕																											
改修前	改修後																																
		①ピン固定部穿孔		一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑤穿孔跡埋戻し 〔エポキシパテ〕		一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑨穿孔跡埋戻し 〔エポキシパテ〕 一般部 指定部 ヶ所 ヶ所																							
工 程		②孔内エアーク掃		一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑥注入口穿孔		一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑩サンダーケレン ⑪高圧水洗浄（150～200kg／cm ² ） ⑫セメント系下地調整材コテ塗り（1.5mm±0.5mm）																							
		③ステンレスピン（注入口付）挿入		一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑦孔内エアーク掃		一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	※A-2工法を行う場合、⑩、⑪、⑫の工程はA-2工法に含む																							
		④エポキシ樹脂注入		一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑧エポキシ樹脂注入		一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	参考数量：①一般部分： ②指定部分： ③狭幅部：																							
		名 称		D 浮き部処理																													
記号・仕様		D-7 D-7'		モルタル面注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 タイル面注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法		〔標仕4. 3. 16〕 〔標仕4. 4. 14〕		※標準グリッド等は、D-6、D-6'と同じ		D-8 タイル面注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法（小口タイル以上） 〔標仕4. 4. 15〕																							
改修前	改修後																																
		①ピン固定部穿孔		一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑥注入口穿孔		一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑫セメント系下地調整材コテ塗り（1.5mm±0.5mm）																							
工 程		②孔内エアーク掃		一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑦孔内エアーク掃		一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	※A-2工法を行う場合、⑩、⑪、⑫の工程はA-2工法に含む																							
		③ステンレスピン（注入口付）挿入		一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑧ポリマーセメントスラリー注入		一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	参考数量：①一般部分： ②指定部分： ③狭幅部：																							
		④ポリマーセメントスラリー注入		一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑨穿孔跡埋戻し 〔※'リマセメントパテ〕		一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑪サンダーケレン ⑫高圧水洗浄（150～200kg／cm ² ）																							
		⑤穿孔跡埋戻し 〔※'リマセメントパテ〕		一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	⑩セメント系下地調整材コテ塗り（1.5mm±0.5mm）		一般部 指定部	ヶ所 ヶ所	①穿孔 ②孔内エアーク掃 ③ステンレスピン（注入口付）挿入 ④エポキシ樹脂注入 ⑤穿孔跡埋戻し 〔化粧キャップもしくは同色樹脂パテ〕																							
名 称		E 欠損部処理																															
記号・仕様		E-1 打放し面充填工法		〔標仕4. 2. 8〕		E-2 打放し面欠損部処理		〔標仕4. 2. 3〕		E-3 モルタル面欠損部処理		〔標仕4. 3. 3〕		F 外壁複合改修工法																			
改修前	改修後																																
		①欠損部はつり等での整形 ②高圧水洗浄（150～200kg／cm ² ） ③欠損はつり部埋戻し 〔※'リマセメントパテ・エポキシ樹脂モルタル〕 ④セメント系下地調整材コテ塗り（1.5mm±0.5mm）		※A-1工法を行う場合、②、④の工程はA-1工法に含む 参考数量：6.5㎡		①欠損部・鉄筋周辺はつり等での整形 ②剥落とし ③高圧水洗浄（150～200kg／cm ² ） ④防錆処理 ⑤欠損はつり部埋戻し 〔※'リマセメントパテ・エポキシ樹脂モルタル〕 ⑥セメント系下地調整材コテ塗り（1.5mm±0.5mm）		※A-1工法を行う場合、③、⑤の工程はA-1工法に含む 参考数量：8.9㎡		①カッター縁切り ②欠損部はつり等での整形 ③高圧水洗浄（150～200kg／cm ² ） ④欠損はつり部埋戻し 〔※'リマセメントパテ・エポキシ樹脂モルタル〕 ⑤セメント系下地調整材コテ塗り（1.5mm±0.5mm） （鉄筋の露出部がある場合はE-2による）		※A-2工法を行う場合、③、⑤の工程はA-2工法に含む 参考数量：		下地補修後 ①プライマー下塗り ②ポリマーペースト中塗り ③三軸ネット張り ④ワッシャー付アンカーピン打ち込み ⑤ポリマーペースト中塗り ⑥アルミ水切り取付け（L-30×15×2.0 ステンレスビス止φ450） ⑦シーリング打設（MS-2）																			
工 程		①欠損部はつり等での整形 ②高圧水洗浄（150～200kg／cm ² ） ③欠損はつり部埋戻し 〔※'リマセメントパテ・エポキシ樹脂モルタル〕 ④セメント系下地調整材コテ塗り（1.5mm±0.5mm）		※A-1工法を行う場合、②、④の工程はA-1工法に含む 参考数量：6.5㎡		①欠損部・鉄筋周辺はつり等での整形 ②剥落とし ③高圧水洗浄（150～200kg／cm ² ） ④防錆処理 ⑤欠損はつり部埋戻し 〔※'リマセメントパテ・エポキシ樹脂モルタル〕 ⑥セメント系下地調整材コテ塗り（1.5mm±0.5mm）		※A-1工法を行う場合、③、⑤の工程はA-1工法に含む 参考数量：8.9㎡		①カッター縁切り ②欠損部はつり等での整形 ③高圧水洗浄（150～200kg／cm ² ） ④欠損はつり部埋戻し 〔※'リマセメントパテ・エポキシ樹脂モルタル〕 ⑤セメント系下地調整材コテ塗り（1.5mm±0.5mm） （鉄筋の露出部がある場合はE-2による）		※A-2工法を行う場合、③、⑤の工程はA-2工法に含む 参考数量：		下地補修後 ① プライマー下塗り ② ポリマーペースト中塗り ③ 三軸ネット張り ④ ワッシャー付アンカーピン打ち込み ⑤ ポリマーペースト中塗り ⑥ アルミ水切り取付け（L-30×15×2.0 ステンレスビス止φ450） ⑦ シーリング打設（MS-2）																			
御注文先		三原市殿		御承認		記 事		月 日		中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8		1級建築士事務所 登録23(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二		1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫		校閲 設計		図面番号 縮尺		工事名称 図面名称													
																		中央公民館長寿命化改修工事（その1）建築主体工事 外壁改修工事特記仕様書（3）		A-14 —													

建 物 概 要	工 事 概 要
1. 工事名称 中央公民館長寿命化改修工事（その１）（建築主体工事）	1. 外壁改修工事：外壁吹付タイルを改修
2. 工事場所 三原市門一町二丁目	2. 外部建具廻り：シーリング改修工事
3. 敷地面積 3,537.37㎡	3. E.V.出入口部：扉改修工事
4. 用途地域 商業地域・防火指定なし	4. 玄関アプローチ：スカイライト部改修工事
5. 建蔽率 80%	5. 内装：ヒル石吹付部改修工事
6. 容積率 400%	6. 2・3階男子・女子便所：改修工事
7. 建物用途 公民館	7. 1・2・3階廊下：一部改修工事
8. 構造規模 地上3階 RC・SRC造、一部鉄骨造	8. 1階授乳室：設置改修工事
9. 建築面積 1,850.19㎡	9. 外部建具：改修工事
10. 延床面積 3,319.86㎡	10. 受水槽廻り：改修工事

改修前・後			外部仕上表								
部 位		改修前・仕	後	部 位		改修前・仕	後	部 位		改修前・仕	後
屋根 ー 1	改修前	コンクリートスラブ 遮熱遮湿系シート防水 t=1.5新設機械固定工法 S1-W2、S-F2 【既設のまま】 改修用ドレン 100φ【既設のまま】笠木部：ウレタン防水 W-2工法【既設のまま】ステンレス脱炭素【既設のまま】		外 壁	改修前	コンクリート打放収付タイル 【●L3】（改修） 打組目地：シーリング W=20（撤去） 一部コンクリート化粧目地換付打放収付タイル 【●L3】（改修） （※アスベスト：下地調整材に含有） 劣化部分に限り外壁変形改修 【●L3】【新設】、その上で下地調整の上層屋根材 E（全面）【新設】 打組目地：シーリング W=20 【新設】		開口部	改修前	アルミサッシ（電解 2次着色）【既設のまま】 一部調整オペレーター （撤去） スチールサッシ S0P 【既設のまま】 一部調整オペレーター （撤去） スチールガラリ 【既設のまま】（一部改修）	
	改修後		改修後		アルミサッシ：一部調整オペレーター 【新設】 スチールサッシ：一部調整オペレーター 【新設】 スチールガラリ （一部改修）						
	改修前	（大講堂）A L C 版 t=20 下地 屋根用ステンレス鋼（SUS.304） 互換草草 【既設のまま】 一部コンクリートスラブ 防水モルタル全コテ 【既設のまま】 その他は屋根ー1に同じ 【既設のまま】			改修前	アルミサッシ（電解 2次着色） 網入ガラス t=6.8（改修） 力骨・柱：スチール型鋼 F P 塗（改修） 軒縁：プレート t=1.6 F P 塗（改修） 堅壁：スチールパイプ 40φ F P 塗（改修）					
屋根 ー 2	改修後	水洗い清掃 【新設】		改修後	水洗い清掃 【新設】		スカイライト(A)	改修後	網入ガラス t=6.8水洗い清掃（両面）【新設】 力骨・柱：スチール型鋼 下地調整の上 O P 塗 【新設】 軒縁・堅壁：下地調整の上 O P 塗 【新設】 基板：カラーガルバリウム鋼板 t=0.6 【新設】		
	改修前	アルミサッシ（電解 2次着色） 力骨：スチール型鋼 S0P 網入ガラス t=6.8（改修）		改修前	アルミサッシ（電解 2次着色） 網入ガラス t=6.8（改修） 力骨・柱：スチール型鋼 F P 塗（改修） 軒縁：プレート t=1.6 F P 塗（改修） 堅壁：スチールパイプ 40φ F P 塗（改修）						
	改修後	水洗い清掃 【新設】		改修後	網入ガラス t=6.8水洗い清掃（両面）【新設】 力骨・柱：スチール型鋼 下地調整の上 O P 塗 【新設】 軒縁・堅壁：下地調整の上 O P 塗 【新設】 基板：カラーガルバリウム鋼板 t=0.6 【新設】						
スカイライト	改修前	コンクリートスラブ アスファルト防水の上発泡体 15t 25 軽量コンクリート下地7リカバ4張 （改修） プラントボックス：コンクリート製 1,000x1,000x600 4面（撤去） 笠木部：収付タイル【●L3】（改修）		スカイライト(B)	改修前	アルミサッシ（電解 2次着色） 網入ガラス t=6.8（改修） 力骨・柱：スチール型鋼 F P 塗（改修） 軒縁：プレート t=1.6 F P 塗（改修） 堅壁：スチールパイプ 40φ F P 塗（改修）		スカイライト(C)	改修前	アルミサッシ（電解 2次着色） 網入ガラス t=6.8（改修） 力骨・柱：スチール型鋼 F P 塗（改修） 軒縁：プレート t=1.6 F P 塗（改修） 堅壁：スチールパイプ 40φ F P 塗（改修）	
	改修後	既設防水モルタル下地調整の上の上ウレタン塗膜防水 【新設】 笠木部：下地調整の上の上ウレタン塗膜防水 【新設】			改修後	網入ガラス t=6.8水洗い清掃（両面）【新設】 力骨・柱：スチール型鋼 下地調整の上 O P 塗 【新設】 軒縁・堅壁：下地調整の上 O P 塗 【新設】 基板：カラーガルバリウム鋼板 t=0.6 【新設】					
	改修前	コンクリートスラブ アスファルト防水の上発泡体 15t 25 軽量コンクリート下地7リカバ4張 （改修） 手摺部：コンクリート打放収付タイル【●L3】（改修）手摺：スチールパイプ 48, 6.0 SGP（改修）底石（撤去）			改修前	アルミサッシ（電解 2次着色） 網入ガラス t=6.8（改修） 力骨・柱：スチール型鋼 F P 塗（改修） 軒縁：プレート t=1.6 F P 塗（改修） 堅壁：スチールパイプ 40φ F P 塗（改修）					
庇 ー 1	改修後	既設防水モルタル下地調整の上の上ウレタン塗膜防水 【新設】 笠木部：下地調整の上の上ウレタン塗膜防水 【新設】		スカイライト(C)	改修後	網入ガラス t=6.8水洗い清掃（両面）【新設】 力骨・柱：スチール型鋼 下地調整の上 O P 塗 【新設】 軒縁・堅壁：下地調整の上 O P 塗 【新設】 基板：カラーガルバリウム鋼板 t=0.6 【新設】		スカイライト(C)	改修後	網入ガラス t=6.8水洗い清掃（両面）【新設】 力骨・柱：スチール型鋼 下地調整の上 O P 塗 【新設】 軒縁・堅壁：下地調整の上 O P 塗 【新設】 基板：カラーガルバリウム鋼板 t=0.6 【新設】	
	改修前	コンクリートスラブ アスファルト防水の上発泡体 15t 25 軽量コンクリート下地7リカバ4張 （改修） 手摺部：コンクリート打放収付タイル【●L3】（改修）手摺：スチールパイプ 48, 6.0 SGP（改修）底石（撤去）			改修前	アルミサッシ（電解 2次着色） 網入ガラス t=6.8（改修） 力骨・柱：スチール型鋼 F P 塗（改修） 軒縁：プレート t=1.6 F P 塗（改修） 堅壁：スチールパイプ 40φ F P 塗（改修）					
	改修後	既設クリンカータイル張下地調整の上の上ウレタン塗膜防水 【新設】 笠木部：下地調整の上の上ウレタン塗膜防水 【新設】			改修後	網入ガラス t=6.8水洗い清掃（両面）【新設】 力骨・柱：スチール型鋼 下地調整の上 O P 塗 【新設】 軒縁・堅壁：下地調整の上 O P 塗 【新設】 基板：カラーガルバリウム鋼板 t=0.6 【新設】					
テラスー 1	改修前	コンクリートスラブ アスファルト防水の上発泡体 15t 25 軽量コンクリート下地7リカバ4張 （改修） 手摺部：コンクリート打放収付タイル【●L3】（改修）手摺：スチールパイプ 48, 6.0 SGP（改修）底石（撤去）		スカイライト(C)	改修前	アルミサッシ（電解 2次着色） 網入ガラス t=6.8（改修） 力骨・柱：スチール型鋼 F P 塗（改修） 軒縁：プレート t=1.6 F P 塗（改修） 堅壁：スチールパイプ 40φ F P 塗（改修）		スカイライト(C)	改修前	アルミサッシ（電解 2次着色） 網入ガラス t=6.8（改修） 力骨・柱：スチール型鋼 F P 塗（改修） 軒縁：プレート t=1.6 F P 塗（改修） 堅壁：スチールパイプ 40φ F P 塗（改修）	
	改修後	既設クリンカータイル張下地調整の上の上ウレタン塗膜防水 【新設】 笠木部：下地調整の上の上ウレタン塗膜防水 【新設】			改修後	網入ガラス t=6.8水洗い清掃（両面）【新設】 力骨・柱：スチール型鋼 下地調整の上 O P 塗 【新設】 軒縁・堅壁：下地調整の上 O P 塗 【新設】 基板：カラーガルバリウム鋼板 t=0.6 【新設】					
	改修前	コンクリートスラブ アスファルト防水の上発泡体 15t 25 軽量コンクリート下地7リカバ4張 （改修） 手摺部：コンクリート打放収付タイル【●L3】（改修）手摺：スチールパイプ 48, 6.0 SGP（改修）底石（撤去）			改修前	アルミサッシ（電解 2次着色） 網入ガラス t=6.8（改修） 力骨・柱：スチール型鋼 F P 塗（改修） 軒縁：プレート t=1.6 F P 塗（改修） 堅壁：スチールパイプ 40φ F P 塗（改修）					
テラスー 2	改修後	既設クリンカータイル張下地調整の上の上ウレタン塗膜防水 【新設】 手摺部：下地調整の上層屋根材 E 【新設】 手摺：下地調整の上 O P 塗 【新設】		スカイライト(C)	改修後	網入ガラス t=6.8水洗い清掃（両面）【新設】 力骨・柱：スチール型鋼 下地調整の上 O P 塗 【新設】 軒縁・堅壁：下地調整の上 O P 塗 【新設】 基板：カラーガルバリウム鋼板 t=0.6 【新設】		スカイライト(C)	改修後	網入ガラス t=6.8水洗い清掃（両面）【新設】 力骨・柱：スチール型鋼 下地調整の上 O P 塗 【新設】 軒縁・堅壁：下地調整の上 O P 塗 【新設】 基板：カラーガルバリウム鋼板 t=0.6 【新設】	
	改修前	コンクリートスラブ アスファルト防水の上発泡体 15t 25 軽量コンクリート下地7リカバ4張 （改修） 手摺部：コンクリート打放収付タイル【●L3】（改修） 笠木部：収付タイル【●L3】（改修）			改修前	アルミサッシ（電解 2次着色） 網入ガラス t=6.8（改修） 力骨・柱：スチール型鋼 F P 塗（改修） 軒縁：プレート t=1.6 F P 塗（改修） 堅壁：スチールパイプ 40φ F P 塗（改修）					
	改修後	既設クリンカータイル張下地調整の上の上ウレタン塗膜防水 【新設】 手摺部：下地調整の上層屋根材 E 【新設】 手摺：下地調整の上 O P 塗 【新設】			改修後	網入ガラス t=6.8水洗い清掃（両面）【新設】 力骨・柱：スチール型鋼 下地調整の上 O P 塗 【新設】 軒縁・堅壁：下地調整の上 O P 塗 【新設】 基板：カラーガルバリウム鋼板 t=0.6 【新設】					
バルコニー	改修前	コンクリートスラブ 防水モルタルコテ押え（改修） 手摺部：コンクリート打放収付タイル【●L3】（改修） 笠木部：収付タイル【●L3】（改修）		ポーチ	改修前	床：2 丁掛タイル張 【既設のまま】 一部点字ブロック 【既設のまま】		外構：受水廻り	改修前	受水溝（撤去）（設備工事） 受水槽基礎（撤去） 地下オイルタンク基礎【既設のまま】 コンクリート目隠し柵（撤去） 土間コンクリート（撤去） 縁石一部（撤去） アスファルト舗装（撤去） 樹木（撤去）	
	改修後	既設防水モルタル下地調整の上の上ウレタン塗膜防水 【新設】 手摺部：下地調整の上層屋根材 E 【新設】 笠木部：下地調整の上層屋根材 E 【新設】			改修後	水洗い清掃 【新設】			改修後	受水溝【新設】（設備工事） 受水槽基礎【新設】 キュービクル【新設】（設備工事） キュービクル基礎【新設】 デッキ床【新設】 デッキ階段【新設】 デッキ手摺【新設】 アスファルト舗装【新設】 メッシュフェンス【新設】	
	改修前	コンクリートスラブ 防水モルタルコテ押え（改修） 手摺部：コンクリート打放収付タイル【●L3】（改修） 笠木部：収付タイル【●L3】（改修）			改修前	床：2 丁掛タイル張 【既設のまま】 一部点字ブロック 【既設のまま】			改修前	受水溝（撤去）（設備工事） 受水槽基礎（撤去） 地下オイルタンク基礎【既設のまま】 コンクリート目隠し柵（撤去） 土間コンクリート（撤去） 縁石一部（撤去） アスファルト舗装（撤去） 樹木（撤去）	
バルコニー	改修後	既設防水モルタル下地調整の上の上ウレタン塗膜防水 【新設】 手摺部：下地調整の上層屋根材 E 【新設】 笠木部：下地調整の上層屋根材 E 【新設】		ポーチ	改修後	水洗い清掃 【新設】		外構：受水廻り	改修後	受水溝【新設】（設備工事） 受水槽基礎【新設】 キュービクル【新設】（設備工事） キュービクル基礎【新設】 デッキ床【新設】 デッキ階段【新設】 デッキ手摺【新設】 アスファルト舗装【新設】 メッシュフェンス【新設】	
	改修前	コンクリートスラブ 防水モルタルコテ押え（改修） 手摺部：コンクリート打放収付タイル【●L3】（改修） 笠木部：収付タイル【●L3】（改修）			改修前	床：2 丁掛タイル張 【既設のまま】 一部点字ブロック 【既設のまま】			改修前	受水溝（撤去）（設備工事） 受水槽基礎（撤去） 地下オイルタンク基礎【既設のまま】 コンクリート目隠し柵（撤去） 土間コンクリート（撤去） 縁石一部（撤去） アスファルト舗装（撤去） 樹木（撤去）	
	改修後	既設防水モルタル下地調整の上の上ウレタン塗膜防水 【新設】 手摺部：下地調整の上層屋根材 E 【新設】 笠木部：下地調整の上層屋根材 E 【新設】			改修後	水洗い清掃 【新設】			改修後	受水溝【新設】（設備工事） 受水槽基礎【新設】 キュービクル【新設】（設備工事） キュービクル基礎【新設】 デッキ床【新設】 デッキ階段【新設】 デッキ手摺【新設】 アスファルト舗装【新設】 メッシュフェンス【新設】	

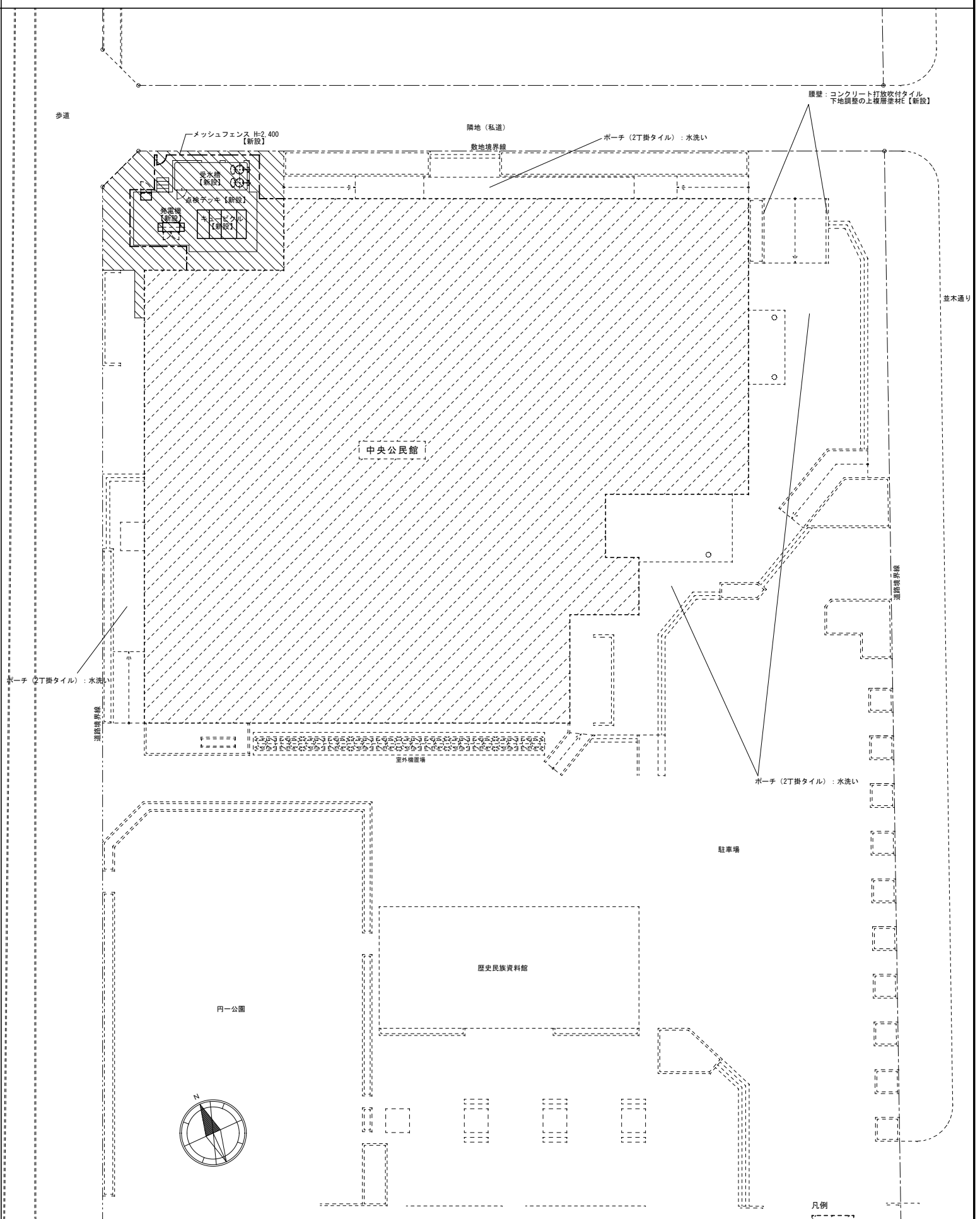
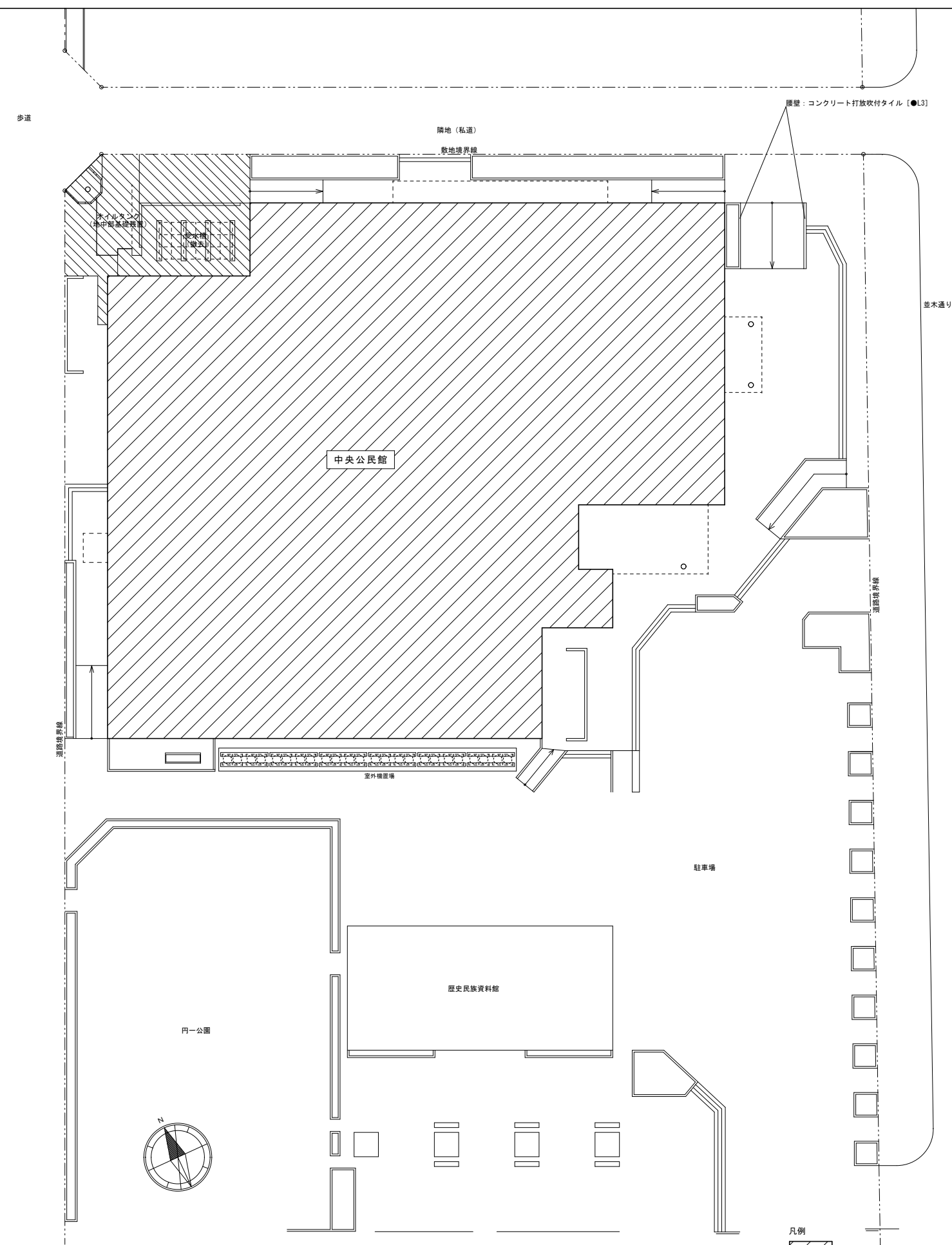
凡 例		耐火・不燃 認定番号	施行令20条の5に係わる使用内装材料表		特 記 事 項		
下地記号		建築略記号	材 料	認定番号	名 称	※A74t72°放散等級認定番号	
C	コンクリート下地	SOP	合成樹脂鋼合ベイト	石膏ボード t=9.5 (準不燃)	QM-9828	長尺シート	○ 延焼の恐れある部分の換気口、給気口はFD（防火ダンパー）付とし、付近に天井点検口を設ける。
ALC	軽重量泡コンクリート下地	VP	塩化ビニル樹脂エナメル	石膏ボード t=12.5 (不燃)	NM-8619	ビニルクロス	○ 延焼の恐れのある部分のクォーサーリブはSUS製とする。
GB	コンクリートブロック下地	EP-G	つや有合成樹脂EPRシ ンペ イ ト	化粧石膏ボード t=9.5 (準不燃)	QM-9824	無機質クロス	○ 複層造梁E・外装準建材Eは基材同等级とする。
S	鉄骨下地	OS	油性ステン	不燃化粧石膏ボード t=9.5 (不燃)	NM-8613	石膏ボード	○ 内装材料表以外の使用建築材料も、F☆☆☆☆
LGS	軽量鉄骨下地	CL	クリアラッカー	耐水ボード t=12.5 (準不燃)	QM-9826	化粧壁紙ケイ酸カルシウム板	若しくは規制対象外の商品とする。（塗料・接着剤等を含む）
M	木下地	FE	フタル酸樹脂エマルジョン塗(数部)	ビニルクロス 準不燃壁紙材料	QM-9413	フローリング L-50	○ 天井等への措置：内装材料表以外の天井工に使用材料も、F☆☆☆☆若しくは規制対象外の商品とする。
W	モルタル下地	EP	合成樹脂エマルジョンベイト面	無機質クロス 不燃壁紙材料	NM-0915	下地の板（普通・横造用）	F☆☆☆☆
PUB	プラスチックボード下地	DP	耐候性塗料塗	不燃化粧板 t=3.0 (不燃)	NM-1699	シタ板	F☆☆☆☆
SUS	ステンレス製 SUS304	UC	ウレタン樹脂ウニス面	ケイ酸板 t=6.0 (不燃)	NM-8578	繊維板	F☆☆☆☆
HL	ヘアライン仕上	OP	油性鋼合ベイト			タイルカーペット	F☆☆☆☆
CF	住宅用クッションフロア		柱：鉄骨柱 梁：鉄骨梁			カーペット	F☆☆☆☆
F	フリーフロア					無石棉ケイ酸カルシウム板	F☆☆☆☆
※ 居室の内装仕上げ及び換気等の措置のない、天井基等の下地材等の使用される特定建材はF☆☆☆☆等級を使用すること。 ※外装タイルの接着剤はタイルボンドとすること。 上記材料の施工の際の接着剤に関しては非ホルムアルデヒド接着剤を使用すること。							
その他の成形板等についてはみなし含有とする。							

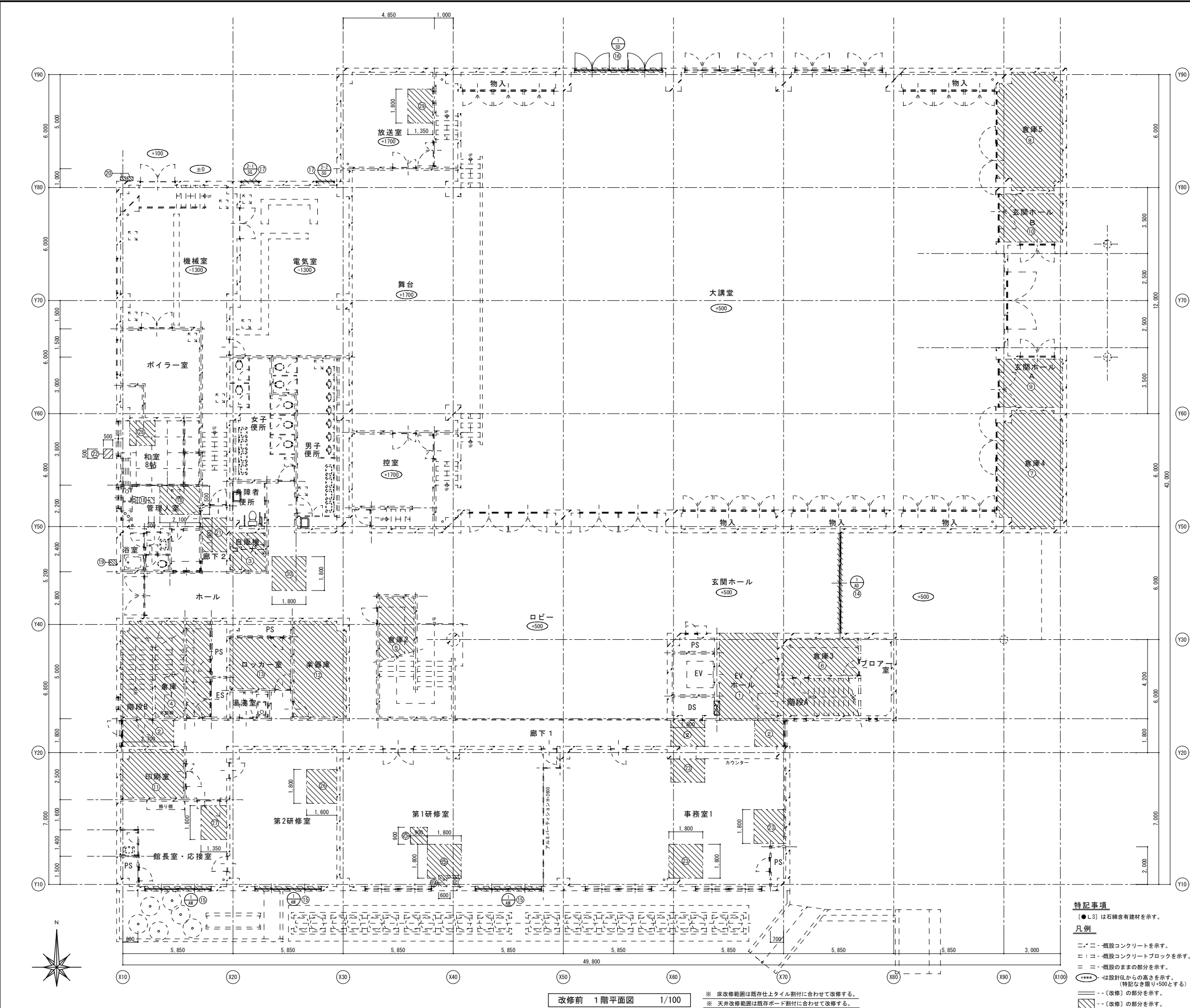
付 近 見 取 図

工事場所

改修前・後		内部仕上表												
階	改修前・後	室名	床		巾 木		壁		天 井		備 考			
			天井高	下地 仕 上	床高	仕 上	H	下地 仕 上	下地 仕 上	天井 仕 上				
1階	改修前	玄関ホール・ロビー	2.700	M 既設のままで	ニ丁掛タイル一部点字ブロック 【既設のまま】	500	打放 EP-G 【既設のまま】	60	C 既設のままで	下地 打放収付タイル【既設のまま】 ロビー：EP-G（一部改修）	LGS 既設のままで	化粧石膏ボード t=9.0 【●L3】 【既設のまま】 ※付付部：トナリ網入りガ 5t=6.8（改修）	塩ビ 既設のままで	備物室内板 【既設のまま】 館舎室内板 【既設のまま】 電話台 【既設のまま】
	改修後		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	改修前	ホール	2.500	M 既設のままで	ニ丁掛タイル一部点字ブロック 【既設のまま】	500	打放 EP-G 【既設のまま】	60	C 既設のままで	下地 コンクリート打放 EP-G 【一部新設】	LGS 既設のままで	化粧石膏ボード t=9.0 【●L3】 （不燃）（一部撤去）	塩ビ 既設のままで	—
	改修後		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	天井点検口：1ヶ所 【新設】
	改修前	玄関ホールA・B	直天	C 既設のままで	塩ビ系長尺シート 【既設のまま】	500	打放 EP-G 【既設のまま】	60	C 既設のままで	下地 コンクリート打放 EP-G 【既設のまま】	C 既設のままで	化粧石膏ボード t=9.5（不燃）【一部新設】	—	天井点検口：1ヶ所 【新設】
	改修後		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	照明器具（撤去）（設備工事） 照明器具 【新設】（設備工事）
	改修前	E V ホール	2.700	M 既設のままで	ニ丁掛タイル（一部撤去）	500	打放 EP-G （一部改修）	60	C 既設のままで	下地 コンクリート打放 EP-G（一部撤去）	LGS 既設のままで	化粧石膏ボード t=9.0 【●L3】 （不燃）（一部撤去）	塩ビ 既設のままで	消火栓ボックス（撤去）（設備工事）
	改修後		—	M ニ丁掛タイル 【一部新設】	500	打放 EP-G 【一部新設】	60	C 既設のままで	下地 コンクリート打放 EP-G 【一部新設】	—	化粧石膏ボード t=9.5（不燃）【一部新設】	—	消火栓ボックス【新設】（設備工事） E V 出入口：特定防火設備【新設】 天井点検口：1ヶ所 【新設】	
	改修前	廊下 1	2.200	C 既設のままで	ニ丁掛タイル 【既設のまま】	500	打放 EP-G 【既設のまま】	60	C 既設のままで	下地 コンクリート打放 EP-G 【既設のまま】	LGS 既設のままで	化粧石膏ボード t=9.0 【●L3】 （不燃）（一部撤去）	塩ビ 既設のままで	天井点検口：1ヶ所（撤去） 照明器具（撤去）（設備工事）
	改修後		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	天井点検口：3ヶ所 【新設】
	改修前	廊下 2	2.300	C 既設のままで	ニ丁掛タイル 【既設のまま】	500	打放 EP-G 【既設のまま】	60	C 既設のままで	下地 コンクリート打放 EP-G 【既設のまま】	LGS 既設のままで	化粧石膏ボード t=9.0 【●L3】 （不燃）（一部撤去）	塩ビ 既設のままで	天井点検口：1ヶ所（撤去） 照明器具（撤去）（設備工事）
	改修後		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	天井点検口：1ヶ所 【新設】 照明器具【新設】（設備工事）
	改修前	事務室 1 第一・第二研修室 館長室・応接室	2.600	C 既設のままで	P 系タイル 【既設のまま】 館長室：カーペット敷【既設のまま】	500	ソフト巾木 【既設のまま】	60	C 既設のままで	下地 コンクリート打放 EP-G 【既設のまま】	LGS 既設のままで	化粧石膏ボード t=9.0 【●L3】 （不燃）（一部撤去）	塩ビ 既設のままで	天井点検口：1ヶ所（撤去） 照明器具（撤去）（設備工事）
	改修後		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	天井点検口：計6ヶ所 【新設】 照明器具【新設】（設備工事）
	改修前	和室 8帖	2.300	M 既設のままで	タタミ敷 【既設のまま】	700	畳寄せ	—	C 既設のままで	下地 砂型状吹付（ジュラク）【既設のまま】	LGS 既設のままで	化粧石膏ボード t=9.5（不燃）【一部新設】	塩ビ 既設のままで	天井点検口：1ヶ所（撤去） 照明器具【新設】（設備工事）
	改修後		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
改修前	放送室	3.000	M 既設のままで	P 系タイル 【既設のまま】	1,700	ソフト巾木 【既設のまま】	60	C 既設のままで	下地 コンクリート打放 EP-G 【既設のまま】	LGS 既設のままで	化粧石膏ボード t=9.0 【●L3】 （不燃）（一部撤去）	塩ビ 既設のままで	天井点検口：1ヶ所 【新設】	
改修後		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
改修前	自販機コーナー	2.300	M 既設のままで	ニ丁掛タイル 【既設のまま】	500	打放 EP-G 【既設のまま】	60	C 既設のままで	下地 コンクリート打放 EP-G 【既設のまま】	LGS 既設のままで	化粧石膏ボード t=9.0 【●L3】 （不燃）（撤去）	塩ビ 既設のままで	天井点検口：2ヶ所（撤去） 照明器具（撤去）（設備工事）	
改修後		授乳室	2.300	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	天井点検口：2ヶ所【新設】照明器具【新設】（設備工事）片引戸【新設】 アルミバーティション【新設】カーテン・カーテンレール 【新設】
改修前	印刷室	直天	C 既設のままで	P 系タイル 【既設のまま】	500	ソフト巾木 【既設のまま】	60	C 既設のままで	下地 コンクリート打放 EP-G 【既設のまま】	C 既設のままで	化粧石膏ボード t=9.5（不燃）【一部新設】	塩ビ 既設のままで	天井点検口：1ヶ所（撤去） 照明器具（撤去）（設備工事）	
改修後		直天	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	天井点検口：1ヶ所 【新設】 照明器具【新設】（設備工事）
改修前	楽器庫・ロッカールーム	2.300	C 既設のままで	P 系タイル 【既設のまま】	500	ソフト巾木 【既設のまま】	60	C 既設のままで	下地 コンクリート打放 EP-G 【既設のまま】	LGS 既設のままで	石膏ボード t=9.0 【●L3】 （不燃）（撤去）	塩ビ 既設のままで	天井点検口：計2ヶ所（撤去） 照明器具（撤去）（設備工事）	
改修後		2.300	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	天井点検口：計2ヶ所 【新設】 照明器具【新設】（設備工事）
改修前	倉庫～1～5	直天	C 既設のままで	P 系タイル 【既設のまま】	500	打放 EP-G 【既設のまま】	60	C 既設のままで	下地 コンクリート打放 【既設のまま】	C 既設のままで	化粧石膏ボード t=9.5（不燃）【一部新設】	塩ビ 既設の		

符号・名称 御注文先	三原市殿	御承認	記事	月 日	 中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (256) 5501-8	1級建築士事務所 登録23(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫	校閲  設計 	設計年月日 2025. 03	工事名称 中央公民館長寿命化改修工事（その1）建築主体工事 図面名称 改修前・後 概要・外部・内部仕上表・付近見取図	図面番号 A-15 縮尺 ー
---------------	------	-----	----	-----------------------------------	--	---	----------------------------	--	-------------------	---	-------------------------





改修項目（撤去）				
記号	室名	部位	仕上	改修内容
①	EVホール	床	二丁掛タイル	一部（撤去）
		巾木	コンクリート打ち放しA-Emp	一部（撤去）
		壁	コンクリート打ち放しA-Emp	一部（撤去）
		天井	下地：軽鉄下地 仕上：化粧石膏ボード t=9.0（不燃）900角 ●L3 CH=2,700	一部（撤去）
		備考	塩ビ張り縁 消火栓ボックス	（既設のまま） （撤去）（設備工事）
②	廊下1	床	二丁掛タイル	（既設のまま）
		巾木	コンクリート打ち放しA-Emp	（既設のまま）
		壁	コンクリート打ち放しA-Emp	（既設のまま）
		天井	下地：軽鉄下地 仕上：化粧石膏ボード t=9.0（不燃）900角 ●L3 CH=2,200	一部（撤去）
		備考	塩ビ張り縁 天井点検口	一部（撤去） （撤去）
			1ヶ所	
③	自動販売機コーナー	床	二丁掛タイル	（既設のまま）
		巾木	コンクリート打ち放しA-Emp	（既設のまま）
		壁	コンクリート打ち放しA-Emp	（既設のまま）
		天井	下地：軽鉄下地 仕上：化粧石膏ボード t=9.0（不燃）900角 ●L3 CH=2,300	（撤去）
		備考	塩ビ張り縁 天井点検口	（撤去） （撤去）
			2ヶ所	
④	倉庫 1、階段B	天井	下地：コンクリート 仕上：ヒル石吹付 ●L1	（既設のまま） （撤去）
⑤	倉庫 2	天井	下地：コンクリート 仕上：ヒル石吹付 ●L1	（既設のまま） （撤去）
⑥	倉庫 3、階段A	天井	下地：コンクリート 仕上：ヒル石吹付 ●L1	（既設のまま） （撤去）
⑦	倉庫 4	天井	下地：コンクリート 仕上：ヒル石吹付 ●L1	（既設のまま） （撤去）
⑧	倉庫 5	天井	下地：コンクリート 仕上：ヒル石吹付 ●L1	（既設のまま） （撤去）
⑨	玄関ホール A	天井	下地：コンクリート 仕上：ヒル石吹付 ●L1	（既設のまま） （撤去）
⑩	玄関ホール B	天井	下地：コンクリート 仕上：ヒル石吹付 ●L1	（既設のまま） （撤去）
⑪	印刷室	天井	下地：コンクリート 仕上：ヒル石吹付 ●L1	（既設のまま） （撤去）
⑫	楽器庫	天井	下地：軽鉄下地石膏ボード t=9.0 ●L3 仕上：ヒル石吹付 ●L1 CH=2,300	下地共（撤去） （撤去）
⑬	ロッカー室	備考	塩ビ張り縁 天井点検口	（撤去） （撤去）
			1ヶ所	
		天井	下地：軽鉄下地石膏ボード t=9.0 ●L3 仕上：ヒル石吹付 ●L1 CH=2,300	下地共（撤去） （撤去）
⑭	玄関ホール	備考	塩ビ張り縁 天井点検口	（撤去） （撤去）
			1ヶ所	
		天井	下地：軽鉄下地石膏ボード t=9.0 ●L3 仕上：ヒル石吹付 ●L1 CH=2,300	下地共（撤去） （撤去）
⑮	第1研修室	天井	下地：軽鉄下地石膏ボード t=9.0 ●L3 仕上：ヒル石吹付 ●L1 CH=2,300	下地共（撤去） （撤去）
⑯	大講堂	天井	下地：軽鉄下地石膏ボード t=9.0 ●L3 仕上：ヒル石吹付 ●L1 CH=2,300	下地共（撤去） （撤去）
⑰	電気室	天井	下地：軽鉄下地石膏ボード t=9.0 ●L3 仕上：ヒル石吹付 ●L1 CH=2,300	下地共（撤去） （撤去）
⑱	管理入室	天井	下地：軽鉄下地石膏ボード t=9.0 ●L3 仕上：ヒル石吹付 ●L1 CH=2,300	下地共（撤去） （撤去）
⑲	管理入室浴室	天井	下地：軽鉄下地石膏ボード t=9.0 ●L3 仕上：ヒル石吹付 ●L1 CH=2,300	下地共（撤去） （撤去）
⑳	機械室外部	天井	下地：軽鉄下地石膏ボード t=9.0 ●L3 仕上：ヒル石吹付 ●L1 CH=2,300	下地共（撤去） （撤去）
㉑	廊下2	天井	下地：軽鉄下地 仕上：化粧石膏ボード t=9.0（不燃）900角 ●L3 CH=2,200	一部（撤去）
㉒	外部室外機置き場	備考	塩ビ張り縁 天井点検口	一部（撤去） （撤去）
			1ヶ所	
		天井	下地：軽鉄下地 仕上：化粧石膏ボード t=9.0（不燃）900角 ●L3 CH=2,200	一部（撤去）
㉓	事務室1	天井	下地：軽鉄下地 仕上：化粧石膏ボード t=9.0（不燃）900角 ●L3 CH=2,600	一部（撤去）
㉔	第一研修室	備考	塩ビ張り縁 天井点検口	一部（撤去） （撤去）
			1ヶ所	
		天井	下地：軽鉄下地 仕上：化粧石膏ボード t=9.0（不燃）900角 ●L3 CH=2,600	一部（撤去）
㉕	第二研修室	備考	塩ビ張り縁 天井点検口	一部（撤去） （撤去）
			1ヶ所	
		天井	下地：軽鉄下地 仕上：化粧石膏ボード t=9.0（不燃）900角 ●L3 CH=2,600	一部（撤去）
㉖	館長室・応接室	備考	塩ビ張り縁 天井点検口	一部（撤去） （撤去）
			1ヶ所	
		天井	下地：軽鉄下地 仕上：化粧石膏ボード t=9.0（不燃）900角 ●L3 CH=2,600	一部（撤去）
㉗	和室8帖	備考	塩ビ張り縁 天井点検口	一部（撤去） （撤去）
			1ヶ所	
		天井	下地：軽鉄下地 仕上：化粧石膏ボード t=9.0（不燃）900角 ●L3 CH=2,600	一部（撤去）
㉘	放送室	備考	塩ビ張り縁 天井点検口	一部（撤去） （撤去）
			1ヶ所	
		天井	下地：軽鉄下地 仕上：化粧石膏ボード t=9.0（不燃）900角 ●L3 CH=2,500	一部（撤去）

特記事項

【●L3】は石綿含有建材を示す。

凡例

ニ：ニ：概設コンクリートを示す。

ニ：ニ：概設コンクリートブロックを示す。

ニ：ニ：概設のままの部分を示す。

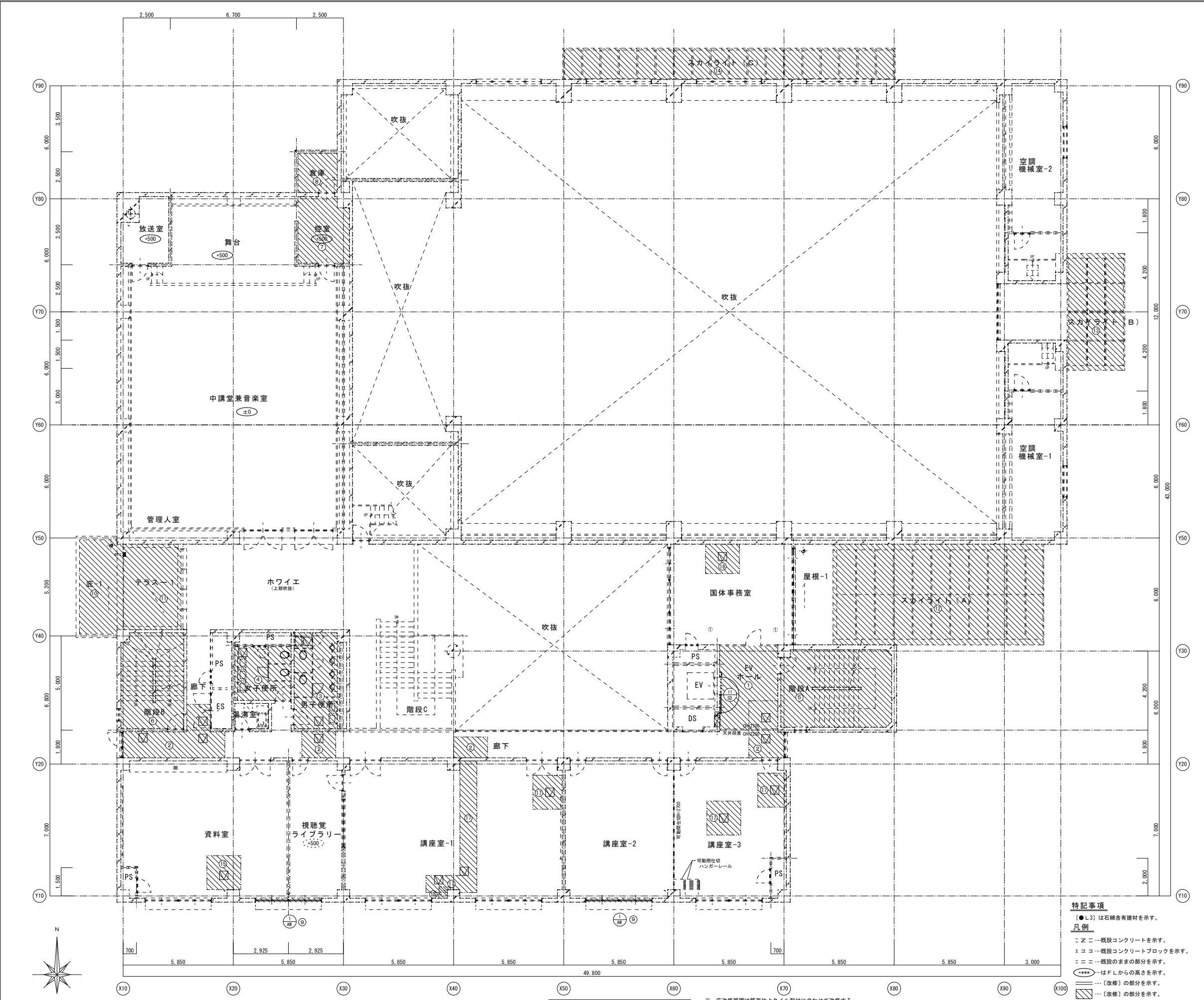
（●●●●）は設計図からの高さを示す。
（特記なき限り+500とする）

---（改修）の部分を示す。

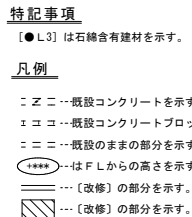
---（改修）の部分を示す。

※72㎡を除去作業（レベリング）については、A-60～A-63図面を参照のこと

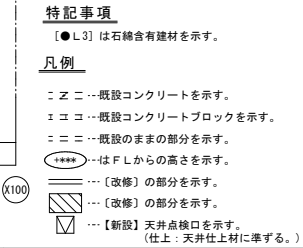
御注文先	三原市殿	御承認	記事	月 日	中電技術コンサルタント株式会社	1級建築士事務所 登録23(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫	校閲	設計	工事名称	中央公民館長寿寿命化改修工事（その1）建築主体工事	図面番号	A-17
					広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8				設計年月日	図面名称	改修前 1階平面図	縮尺	1/100
									2025. 03				※A3：50%縮小



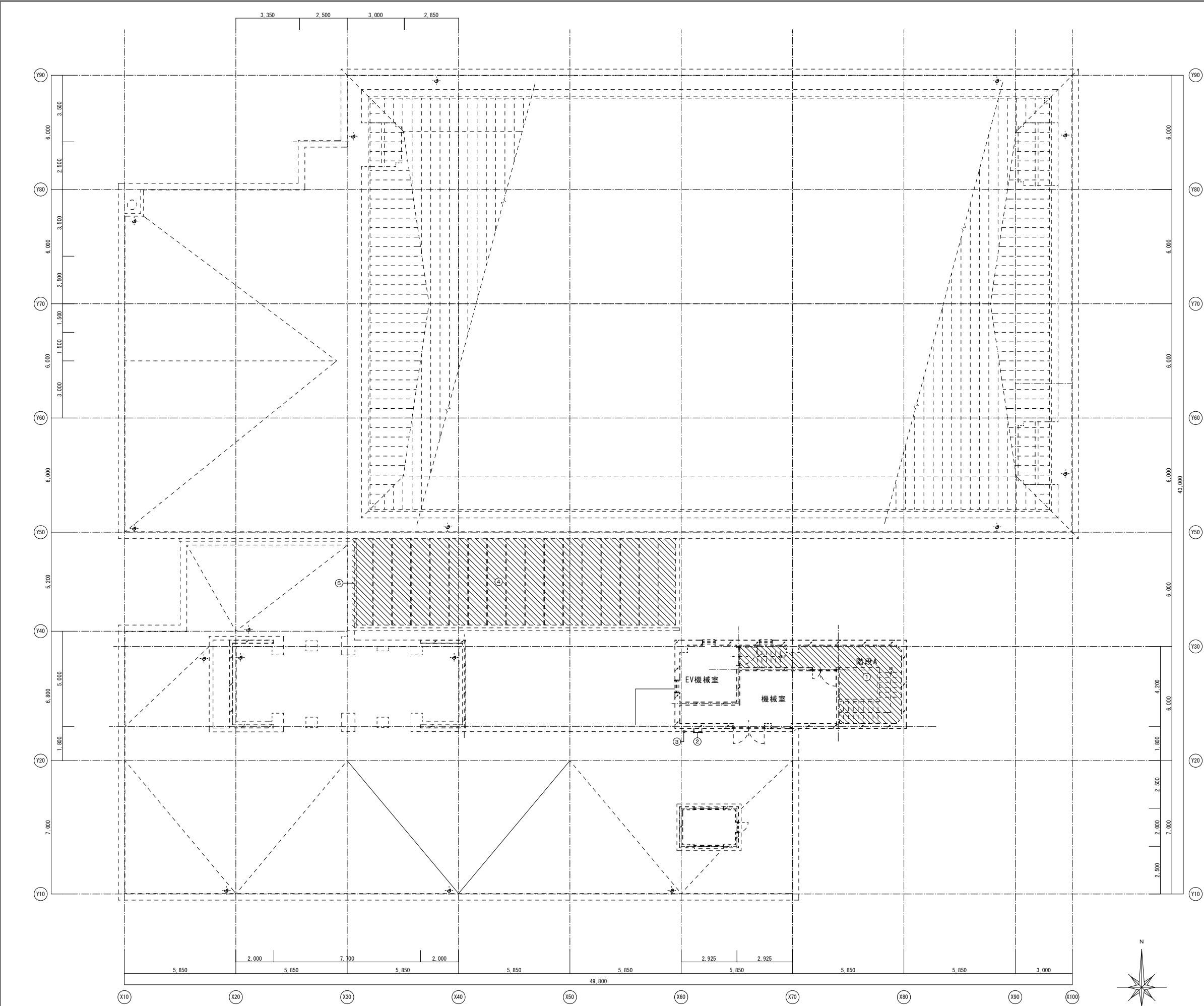
改修項目【新設】				
記号	室名	部位	仕上	改修内容
①	E Vホール	床	P系タイル	一部【新設】
		巾木	ソフト巾木 H= 60	一部【新設】
		壁	コンクリート打ち放しEP-G	一部【新設】
		天井	下地：軽鉄下地 仕上：化粧石膏ボードt=9.5（不燃）900角 GH=2,700	一部【新設】
		備考	消火栓ボックス EV扉前特定防火設備：スチール製片開き戸 戸袋付き	【新設】（設備工事） 【新設】
		天井点検口	1ヶ所	【新設】 アルミ製 450
		塩ビ廻り縁		一部【新設】
		天井	下地：軽鉄下地 仕上：化粧石膏ボードt=9.5（不燃）900角 GH=2,200	一部【新設】
		備考	塩ビ廻り縁	一部【新設】
		天井点検口	5ヶ所	【新設】 アルミ製 450
②	廊下	呼称	硬質ポリ塩化ビニル管 125φ	一部【新設】
		呼称	コンクリートスラブ	一部【新設】（設備工事）
		呼称	2.5角モザイクタイル	一部【新設】
③	男子便所	巾木	2.5角モザイクタイル H= 50	【既設のまま】
		壁	モルタル下地吹付タイル仕上	【既設のまま】
		天井	下地：軽鉄下地 仕上：フレキシブルボード t=4.0 AEP GH=2,300	【新設】
		備考	塩ビ廻り縁	【新設】
		天井点検口	2ヶ所	【新設】 アルミ製 450
		ブース扉		【新設】 1ヶ所
		洋式便器		【新設】（設備工事）
		照明器具・換気扇		【新設】（設備工事）
		床	2.5角モザイクタイル	一部【新設】
		コンクリートスラブ		一部【新設】（設備工事）
④	女子便所	巾木	2.5角モザイクタイル H= 50	【既設のまま】
		壁	モルタル下地吹付タイル仕上	【既設のまま】
		天井	下地：軽鉄下地 仕上：フレキシブルボード t=4.0 AEP GH=2,300	【新設】
		備考	塩ビ廻り縁	【新設】
		天井点検口	1ヶ所	【新設】 アルミ製 450
		ブース扉		【新設】 1ヶ所
		洋式便器		【新設】（設備工事）
		照明器具・換気扇		【新設】（設備工事）
		床	2.5角モザイクタイル	一部【新設】
		コンクリートスラブ		一部【新設】（設備工事）
⑤	階段 A	天井	下地：コンクリート 仕上：下地調整の上外装薄塗材E吹付 直天	【新設】
⑥	階段 B	天井	下地：コンクリート 仕上：下地調整の上外装薄塗材E吹付 直天	【新設】
⑦	控室	天井	下地：コンクリート 仕上：下地調整の上外装薄塗材E吹付 直天	【新設】
⑧	倉庫	天井	下地：コンクリート 仕上：下地調整の上外装薄塗材E吹付 直天	【新設】
⑨	講座室-2 資料室	天井	排煙用オペレーター 一式 計2カ所	【新設】 【既設のまま】
⑩	応-1	床	防水モルタル全コテ	下地調整の上 ウレタン塗膜防水 【新設】
⑪	テラス-1	床	防水モルタル全コテ	下地調整の上 ウレタン塗膜防水 【新設】
⑫	ｽﾎｰﾙ付 (A)	鉄部	F P 塗	下地調整の上 D P 塗 【新設】
⑬	ｽﾎｰﾙ付 (B)	鉄部	F P 塗	下地調整の上 D P 塗 【新設】
⑭	ｽﾎｰﾙ付 (C)	鉄部	F P 塗	下地調整の上 D P 塗 【新設】
⑮	資料室	天井	下地：軽鉄下地 仕上：化粧石膏ボードt=9.5（不燃）900角 GH=2,700	一部【新設】
⑯	講座室-1	床	Pタイルt=2.0	一部【新設】
⑰	講座室-1・3	天井	下地：軽鉄下地 仕上：化粧石膏ボードt=9.5（不燃）900角 GH=2,700	一部【新設】
⑱	団体事務室	天井	下地：軽鉄下地 仕上：化粧石膏ボードt=9.5（不燃）900角 GH=2,700	一部【新設】



※アスベスト除去作業（いゝル）については、A-60～A-63図面を参照のこと



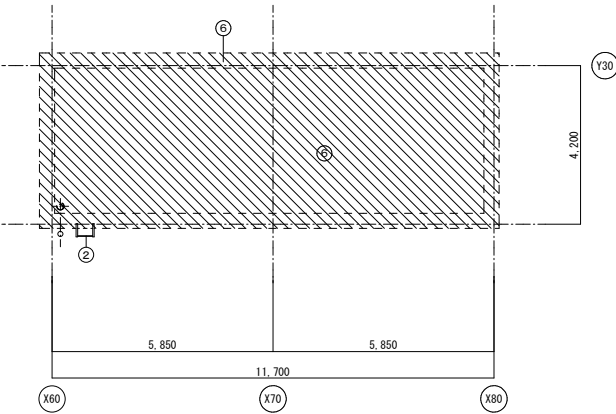
改修項目【新設】				
記号	室 名	部 位	仕 上	改修内容
①	E Vホール	床	P系タイル	一部【新設】
		巾木	ソフト巾木 H= 60	一部【新設】
		壁	コンクリート打ち放しEP-6	一部【新設】
		天井	下地：軽鉄下地	一部【新設】
			仕上：化粧石膏ボードt=9.5（不燃）900角 CH=2,700	一部【新設】
		備考	消火栓ボックス	【新設】（設備工事）
			E V扉前特定防火設備：スチール製片開き戸 戸袋付き	【新設】
			塩ビ廻り縁	一部【新設】
				天井点検口 1ヶ所
②	廊下	床	P系タイル	【既設のまま】
		巾木	ソフト巾木 H= 60	【既設のまま】
		壁	コンクリート打ち放しEP-6	【既設のまま】
		天井	下地：軽鉄下地	一部【新設】
			仕上：化粧石膏ボードt=9.5（不燃）900角 CH=2,150	一部【新設】
		備考	塩ビ廻り縁	一部【新設】
			天井点検口 3ヶ所	【新設】 アルミ製 450角
		③	男子便所	床
	コンクリートスラブ			一部【新設】（設備工事）
巾木	2.5角モザイクタイル H= 50			【既設のまま】
壁	モルタル下地吹付タイル仕上			【既設のまま】
天井	下地：軽鉄下地			【新設】
	仕上：フレキシブルボード t=4.0 AEP CH=2,300			【新設】
備考	塩ビ廻り縁			【新設】
	天井点検口 2ヶ所			【新設】 アルミ製 450角
				ブース扉
		洋式便器	【新設】（設備工事）	
		照明器具・換気扇	【新設】（設備工事）	
④	女子便所	床	2.5角モザイクタイル	一部【新設】
			コンクリートスラブ	一部【新設】（設備工事）
		巾木	2.5角モザイクタイル H= 50	既存のまま
		壁	モルタル下地吹付タイル仕上	既存のまま
		天井	下地：軽鉄下地	【新設】
			仕上：フレキシブルボード t=4.0 AEP CH=2,300	【新設】
		備考	塩ビ廻り縁	【新設】
			天井点検口 1ヶ所	【新設】 アルミ製 450角
				ブース扉
		洋式便器	【新設】（設備工事）	
		照明器具・換気扇	【新設】（設備工事）	
⑤	階段 A	天井	下地：コンクリート	【既設のまま】
		仕上：下地調整の上外装薄塗材 E吹付 直天	【新設】	
⑥	階段 B	天井	下地：コンクリート	【既設のまま】
		仕上：下地調整の上外装薄塗材 E吹付 直天	【新設】	
⑦	中講堂	壁	ルーバー：サンドイッチパネル t=50	
			2本 X 3カ所分=6本	【新設】
⑧	調理室 美術工芸室 廊下	天井	排煙用オペレーター 一式	計4カ所 【新設】
⑨	中講堂		排煙用オペレーター 一式	計3カ所 【新設】
⑩	テラスー2	床	7271防水の上発泡スチレン t=25 軽鋼コンクリート下地220x240x60	下地調整の上ウレタン塗膜防水 【新設】
		立上	防水モルタル	下地調整の上ウレタン塗膜防水 【新設】
		腰壁	コンクリート金コ吹付タイル仕上	水洗い工法 複層塗材E仕上 【新設】
		笠木	コンクリート金コ吹付タイル仕上	下地調整の上ウレタン塗膜防水 【新設】
		手摺	スチールパイプ 48.6φ SOP	下地調整の上D P 塗
		天井	コンクリート金コ吹付タイル仕上	水洗い工法 複層塗材E仕上 【新設】
		床	防水モルタル金コ吹	下地調整の上ウレタン塗膜防水 【新設】
		腰壁	コンクリート金コ吹付タイル仕上	水洗い工法 複層塗材E仕上 【新設】
		笠木	コンクリート金コ吹付タイル仕上	水洗い工法 複層塗材E仕上 【新設】
		備考	避難器具	【新設】
⑫	屋上手摺	手摺	スチールパイプ 48.6φ SOP	下地調整の上D P 塗 【新設】
		支柱	スチールパイプ 42.7φ SOP	下地調整の上D P 塗 【新設】
		控柱	スチールパイプ 43φ SOP	下地調整の上D P 塗 【新設】
		手摺子 丸鋼 16φ #150 SOP	下地調整の上D P 塗 【新設】	
⑬	堅樋	堅樋	スチールパイプ 125φ SOP	下地調整の上D P 塗 【新設】
			掴み金物：スチール製 SOP	下地調整の上D P 塗 【新設】
⑭	縁側		排煙用オペレーター 一式 1ヶ所	【新設】
⑮	倉庫ー1	天井	下地：コンクリート	【既設のまま】
			仕上：下地調整の上外装薄塗材 E吹付 直天	【新設】
		備考		
⑯	美術工芸準備室	天井	下地：軽鉄下地	一部【新設】
			仕上：化粧石膏ボードt=9.5（不燃）900角 CH=2,600	一部【新設】
		備考	塩ビ廻り縁	一部【新設】
			天井点検口 1ヶ所	【新設】 アルミ製 450角
⑰	美術工芸室	天井	下地：軽鉄下地	一部【新設】
			仕上：化粧石膏ボードt=9.5（不燃）900角 CH=2,600	一部【新設】
		備考	塩ビ廻り縁	一部【新設】
			天井点検口 2ヶ所	【新設】 アルミ製 450角
		堅樋	スチールパイプ 125φ 配管内洗浄 クラスワール保護塗 75φ 32x721紙張	【新設】
⑱	調理室兼染色工芸室	天井	下地：軽鉄下地	一部【新設】
			仕上：化粧石膏ボードt=9.5（不燃）900角 CH=2,500	一部【新設】
		備考	塩ビ廻り縁	一部【新設】
			天井点検口 1ヶ所	【新設】 アルミ製 450角



改修前 R階平面図 1/100

改修項目（撤去）				
記号	室名	部位	仕上	改修内容
①	階段 A	天井	下地：コンクリート	〔既設のまま〕
			仕上：ヒル石吹付 〔●L1〕 直天	〔撤去〕
②	タラップ	手摺	鉄骨L-40 X 40 X 5 SOP	〔撤去〕
		踏子	丸鋼 19φ #400 SOP	〔撤去〕
③	壁樋	壁樋	スチールパイプ 125φ SOP	〔改修〕
			掘み金物：スチール製 SOP	〔改修〕
④	スカイライト	天井	スカイライトガラス 網入りガラス t=6.8	〔改修〕
⑤	スカイライト	カバー	スチール鉄板 SOP	〔改修〕
⑥	PH階	床	シート防水	〔改修〕
		立上り	シート防水	〔改修〕
		笠木	下地：コンクリート打放	〔既設のまま〕

※72ベシ除去作業（レベ11）については、A-60～A-63図面を参照のこと



改修前 PH階平面図 1/100

特記事項

〔●L3〕は石綿含有建材を示す。

凡例

- 〃〃〃 既設コンクリートを示す。
- 〃〃〃 既設コンクリートブロックを示す。
- 〃〃〃 既設のままの部分を示す。
- ***** はF Lからの高さを示す。
- 〔改修〕の部分を示す。
- /// 〔改修〕の部分を示す。

※ 床改修範囲は既存仕上タイル割付に合わせて改修する。
※ 天井改修範囲は既存ボード割付に合わせて改修する。

御注文先	三原市殿	御承認	記事	月 日 . . .	CEC 中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	1級建築士事務所 登録23(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫	校閲 藤本 設計 坂本	工事名称 中央公民館長寿命化改修工事（その1）建築主体工事 図面名称 改修前 R階平面図	図面番号 A-23 縮尺 1/100

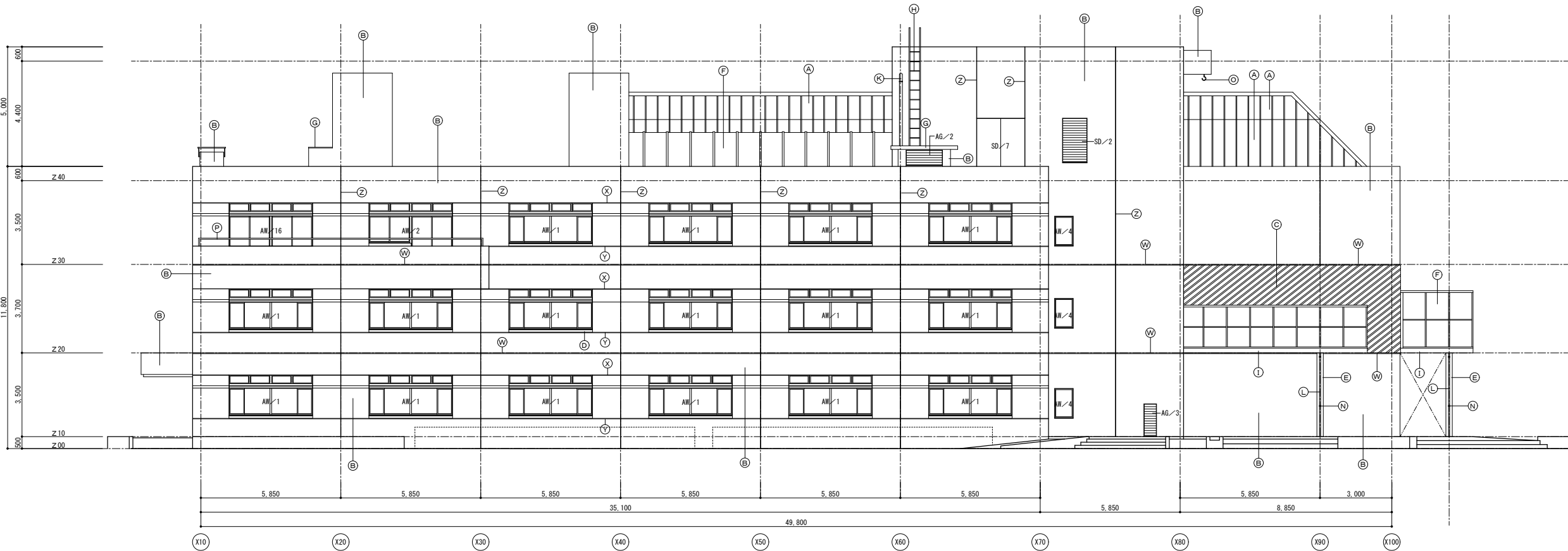
※A3：50%縮小



凡例

----	既設コンクリートを示す。
-----	既設コンクリートブロックを示す。
-----	既設のままでの部分を示す。
*****	はFLからの高さを示す。
=====	--〔改修〕の部分を示す。
	--〔改修〕の部分を示す。

※A3 : 50%縮小



改修前 南立面図 1/100

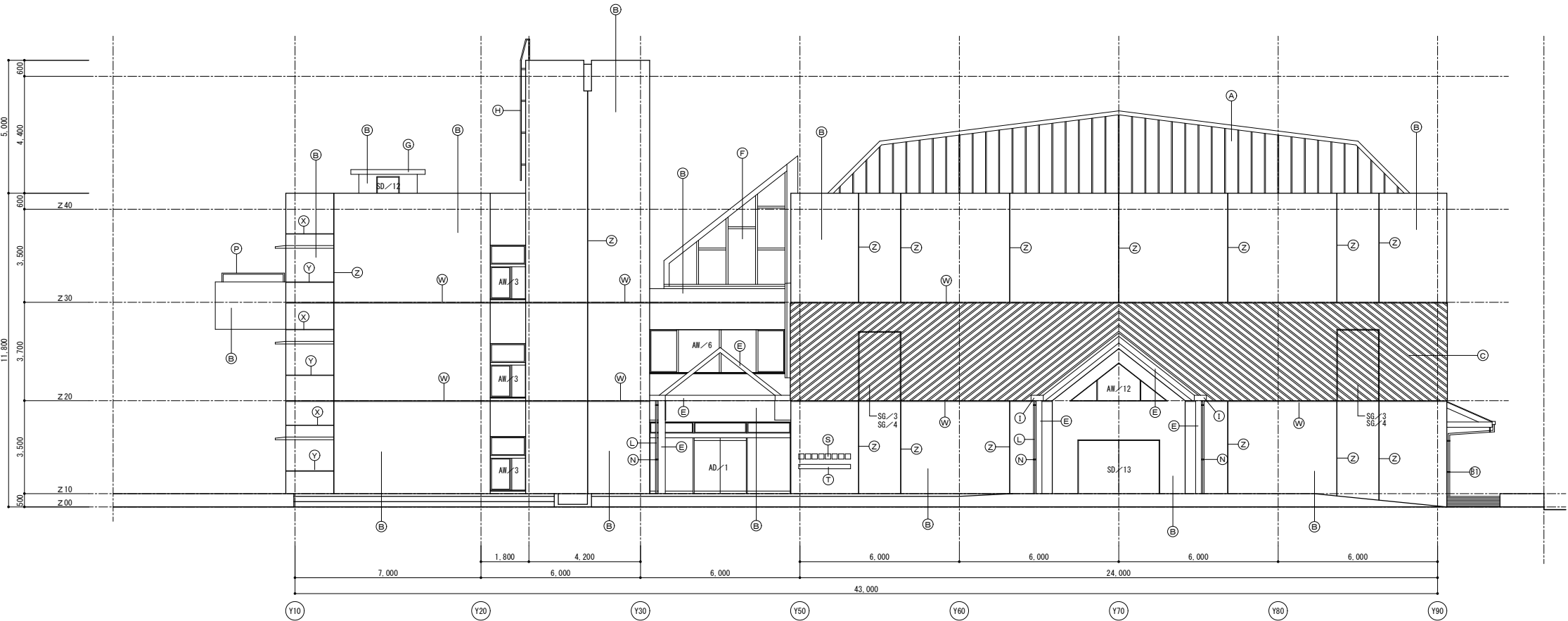
改修項目（撤去）		
記号	仕 上	改修内容
(A)	屋根：ALC版 t=120 地下ステンレス鋼瓦葺き	〔既設のまま〕
(B)	外壁：コンクリート打放吹付タイル 〔●L3〕	〔改修〕
(C)	外壁：コンクリート打放化粧目地模様吹付タイル 〔●L3〕	〔改修〕
(D)	面台：防水モルタルコテ押え	〔改修〕
(E)	スカイライト：鉄部 SOP	〔改修〕
(F)	スカイライトガラス窓：網入りガラス t=6.8	〔改修〕
(G)	天端：モルタル下地塗布防水	〔既設のまま〕
(H)	タラップ：スチール製 SOP塗	〔撤去〕
(I)	軒樋：スチールプレート t=1.6 F P 塗	〔改修〕
(J)	軒樋：スチールプレート t=1.6 曲げ加工 F P 塗	〔改修〕
(K)	壁樋：スチールパイプ 125φ SOP	〔改修〕
(L)	壁樋：スチールパイプ 40φ SOP	〔改修〕
(M)	壁樋：塩ビ製パイプ 50φ	〔改修〕
(N)	壁樋覆み金物：スチール製 SOP	〔改修〕
(O)	フック：ステンレス製	〔既設のまま〕
(P)	手摺：スチールパイプ 48.6φ SOP	〔改修〕
(Q)	支柱・控え柱：スチールパイプ 42.7φ SOP	〔改修〕
(R)	手摺子：丸鋼 16φ #150 SOP	〔改修〕
(S)	館名文字：ステンレス製箱文字 200角 8文字	〔既設のまま〕
(T)	館名文字：ステンレス製 W1.650 X H165	〔既設のまま〕
(U)	バランス釜排気筋	〔撤去〕（設備工事）
(V)	底：コンクリートスラブ吹付タイル仕上 〔●L3〕	〔撤去〕
(W)	打継目地 W30～20 X D20 シーリング 10X10	〔撤去〕
(X)	化粧目地 W25～15 X D20	
(Y)	化粧目地 W20 X D20	
(Z)	化粧目地 W15 X D20	
(A1)	カバー鉄板	〔改修〕
(B1)	壁樋覆み金物：スチール製	〔撤去〕
(C1)	消火器ボックス 計2個	〔撤去〕
(D1)	SG/2-1・2	〔改修〕

特記事項

〔●L3〕は石綿含有建材を示す。

目地詳細図

(W)	(X)	(Y)	(Z)
打継目地	化粧目地	化粧目地	化粧目地

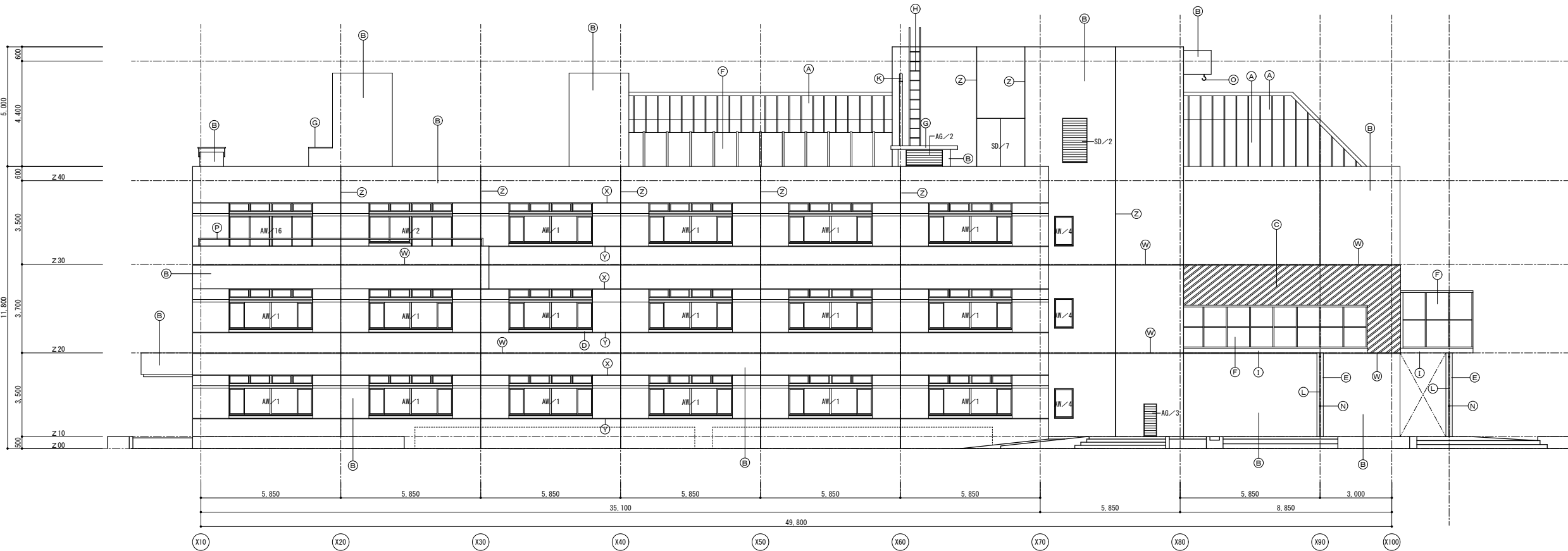


改修前 東立面図 1/100

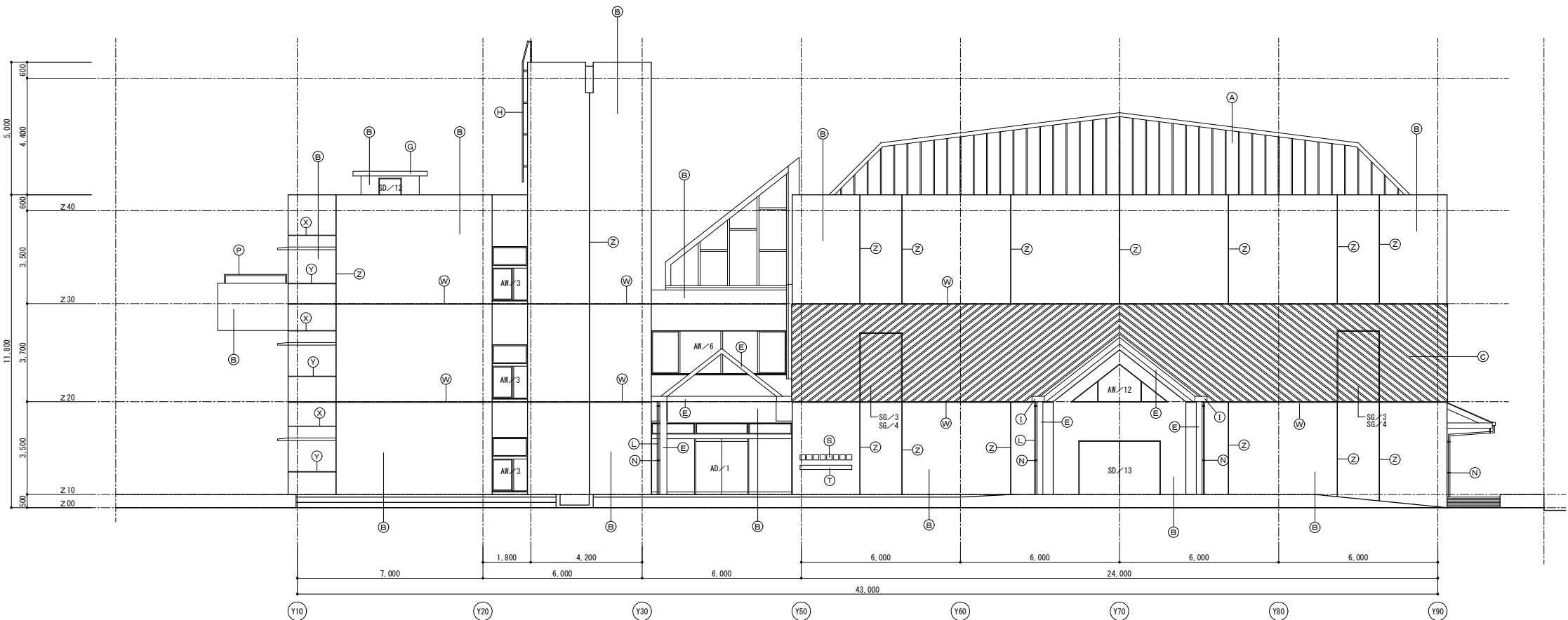
凡例 建具廻りシーリング（撤去）

符号	建 具 内 法 寸 法		数量	面台寸法	
	W	H		奥行	見付
AW/1	3,470	X 1,600	17	165	X 115
AW/2	3,470	X 2,500	1	—	—
AW/3	1,285	X 2,000	6	300	X 20
AW/4	750	X 1,200	7	190	X 20
AW/6	5,060	X 1,600	1	165	X 20
AW/7	2,470	X 1,000	1	165	X 20
AW/8	2,995	X 1,600	1	190	X 20
AW/9	600	X 1,010	2	190	X 20
AW/10	1,800	X 1,800	1	165	X 20
AW/11	1,200	X 1,100	1	165	X 20
AW/12	3,600	X 1,400 (三角)	1	—	—
AW/16	3,470	X 2,350	1	防水アゴ	
AD/1	5,290	X 2,685	1	—	—
AD/2	2,275	X 2,485	1	—	—
AD/3	2,295	X 2,635	2	—	—
AD/4	4,950	X 2,500	2	165	X 50
AD/6	1,800	X 1,800	1	—	—
CW/1	4,330	X 5,080	1	防水アゴ	
AG/2	1,500	X 600	2	防水アゴ	
AG/3	500	X 1,300	1	190	X 20
SD/1	4,920	X 2,500	1	165	X 50
SD/7	2,000	X 2,000	2	防水アゴ IF PH 165 X 50	
SD/12	800	X 600	1		
SD/13	3,000	X 2,000	1	—	—
SG/1	1,800	X 1,800	2	160	X 20
SG/2	1,000	X 1,800	3	160	X 20
SG/2-1・2	1,600	X 2,680	2	—	—
SG/3	1,600	X 2,600	3	—	—
SG/4	3,400	X 800	5	—	—
SW/1	3,000	X 500	3	—	—

御注文先	三原市殿	御承認	記 事	月 日	中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	1級建築士事務所 登録23(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二 1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫	校閲 設計	原 本 坂 本	設計年月日 2025.03	工事名称 中央公民館長寿命化改修工事（その1）建築主体工事	図面番号 A-25
改修前 南・東立面図										縮尺 1/100	※A3：50%縮小



改修後 南立面図 1/100



改修後 東立面図 1/100

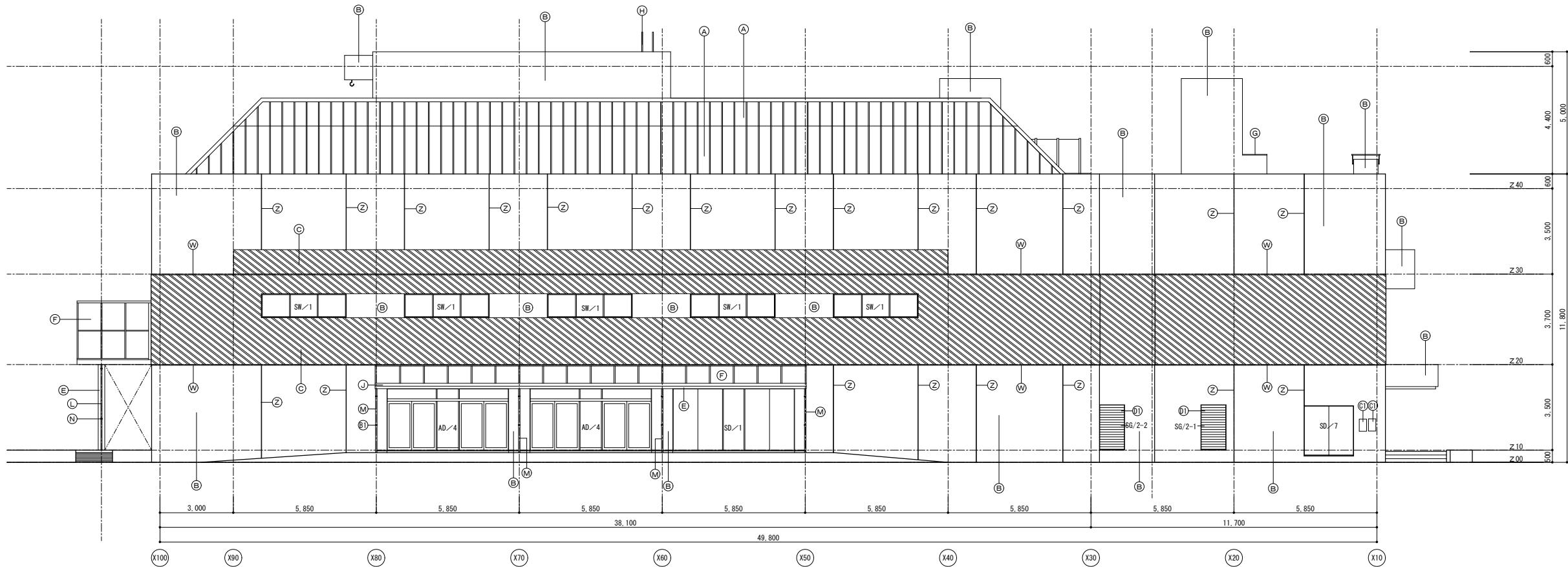
改修項目【新設】		
記号	仕 上	改修内容
(A)	屋根：ALC版 t=120 下地ステンレス鋼瓦葺き	【既設のまま】
(B)	外壁：コンクリート打放吹付タイル	複層塗材E【新設】
(C)	外壁：コンクリート打放化粧目地模様付吹付タイル	水洗い工法 複層塗材E【新設】
(D)	面台：防水モルタルコテ押え	下地調整の上塗り防水
(E)	スカイライト：鉄部 SOP	下地調整の上DP塗
(F)	スカイライトガラス窓：網入りガラス t=6.8	水洗い清掃リリグ SR-1【新設】
(G)	天端：モルタル下地塗布防水	【既設のまま】
(H)	タラップ：スチール製亜鉛メッキ	【新設】
(I)	軒樋：ガルバリウム鋼板曲げ加工 t=0.6 カバー	【新設】
(J)	軒樋：スチールプレート t=1.6 曲げ加工 F P 塗	下地調整の上DP塗
(K)	壁樋：スチールパイプ 125φ SOP	下地調整の上DP塗
(L)	壁樋：スチールパイプ 40φ SOP	下地調整の上DP塗
(M)	壁樋：塩ビ製パイプ 50φ	DP塗【新設】
(N)	壁樋掴み金物：スチール製 SOP	下地調整の上DP塗
(O)	フック：ステンレス製	【既設のまま】
(P)	手摺：スチールパイプ 48.6φ SOP	下地調整の上DP塗
(Q)	支柱・控え柱：スチールパイプ 42.7φ SOP	下地調整の上DP塗
(R)	手摺子：丸鋼 16φ #150 SOP	下地調整の上DP塗
(S)	館名文字：ステンレス製箱文字 200角 B文字	【既設のまま】
(T)	館名文字：ステンレス製 W1,650 X H165	【既設のまま】
(U)	バランス差排気筒撤去後 (開口約 250X400)	ステンレスプレート t=1.6【新設】
(V)	庇撤去後	下地調整の上 複層塗材E【新設】
(W)	打根目地 W30~20 X D20 シーリング 10X10	シーリング PU-2【新設】
(X)	化粧目地 W25~15 X D20	
(Y)	化粧目地 W20 X D20	
(Z)	化粧目地 W15 X D20	
(A1)	カバー鉄板	下地調整の上DP塗

※F 可能な範囲で十分なシーリングの充填を行うこと

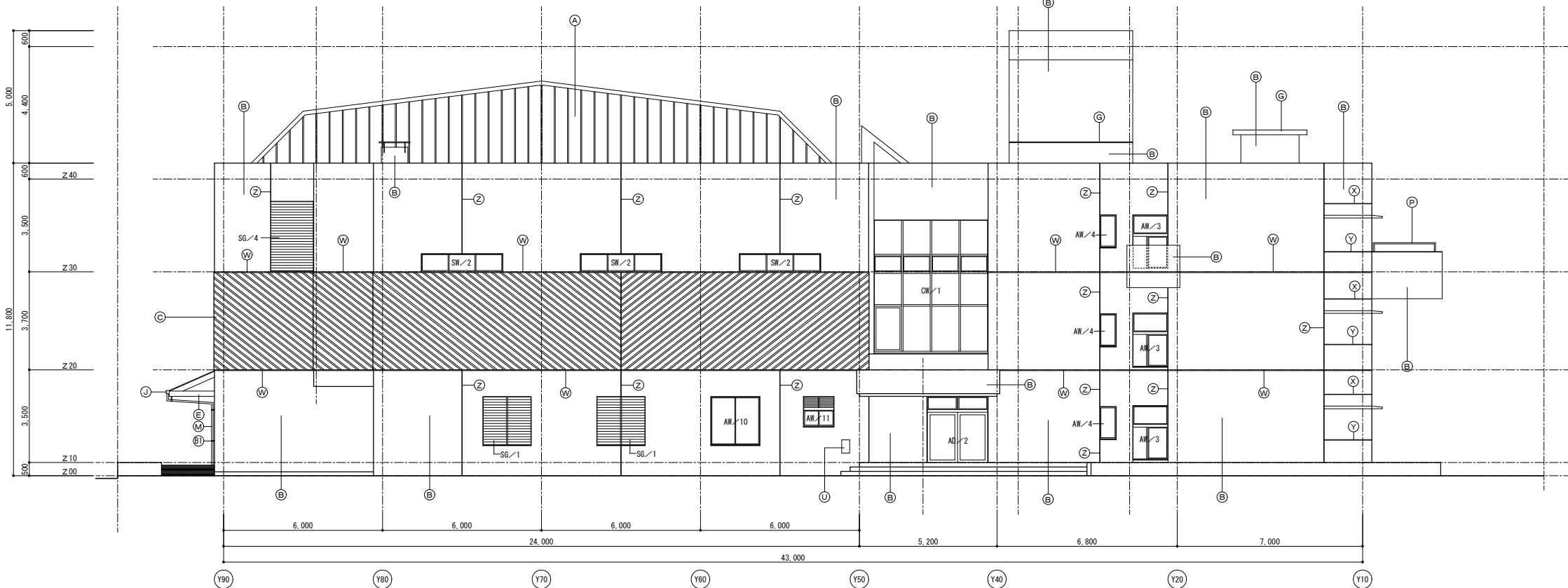
目地詳細図			
(W) 打根目地	(X) 化粧目地	(Y) 化粧目地	(Z) 化粧目地

外壁改修工事補修部	
ひび割れ改修部	エポキシ樹脂注入工法(自動式) (ひび割れ0.2mm以上1.0mm未満)
剥離剥き補修	アクリル樹脂部分エポキシ樹脂充填工法

凡例 建具廻りシーリング MS-2【新設】 面台部分：塗膜防水【新設】			
符号	建 具 内 法 寸 法 W H	数量	面台寸法 奥行 見付
AW/1	3,470 X 1,600	17	165 X 115
AW/2	3,470 X 2,500	1	—
AW/3	1,285 X 2,000	6	300 X 20
AW/4	750 X 1,200	7	190 X 20
AW/6	5,060 X 1,600	1	165 X 20
AW/7	2,470 X 1,000	1	165 X 20
AW/8	2,995 X 1,600	1	190 X 20
AW/9	600 X 1,010	2	190 X 20
AW/10	1,800 X 1,800	1	165 X 20
AW/11	1,200 X 1,100	1	165 X 20
AW/12	3,600 X 1,400 (三角)	1	—
AW/16	3,470 X 2,350	1	防水アゴ
AD/1	5,290 X 2,685	1	—
AD/2	2,275 X 2,485	1	—
AD/3	2,295 X 2,635	2	—
AD/4	4,950 X 2,500	2	165 X 50
AD/6	1,800 X 1,800	1	—
CW/1	4,330 X 5,080	1	防水アゴ
AG/2	1,500 X 600	2	防水アゴ
AG/3	500 X 1,300	1	190 X 20
SD/1	4,920 X 2,500	1	165 X 50
SD/7	2,000 X 2,000	2	防水アゴ IF PH 165 X 50
SD/12	800 X 600	1	防水アゴ
SD/13	3,000 X 2,000	1	—
SG/1	1,800 X 1,800	2	160 X 20
SG/2-1-2	1,000 X 1,800	3	160 X 20
SG/3	1,600 X 2,680	2	—
SG/4	1,600 X 2,600	3	—
SW/1	3,400 X 800	5	—
SW/2	3,000 X 500	3	—



改修前 北立面図 1/100



改修前 西立面図 1/100

改修項目（撤去）		
記号	仕 上	改修内容
(A)	屋根：ALC版 t=120 下地ステンレス銅瓦葺き	〔既設のまま〕
(B)	外壁：コンクリート打放吹付タイル 【●L3】	〔改修〕
(C)	外壁：コンクリート打放化粧目地横様付吹付タイル 【●L3】	〔改修〕
(D)	面台：防水モルタルコテ押え	〔改修〕
(E)	スカイライト：鉄部 SOP	〔改修〕
(F)	スカイライトガラス窓：網入りガラス t=6.8	〔改修〕
(G)	天端：モルタル下地塗布防水	〔既設のまま〕
(H)	タラップ：スチール製 SOP塗	〔撤去〕
(I)	軒樋：スチールプレート t=1.6 F P 塗	〔改修〕
(J)	軒樋：オリエンタルメタル曲げ加工	〔既設のまま〕
(K)	壁樋：スチールパイプ 125φSOP	〔改修〕
(L)	壁樋：スチールパイプ 40φSOP	〔改修〕
(M)	壁樋：塩ビ製パイプ 50φ	〔改修〕
(N)	壁樋振り金物：スチール製 SOP	〔改修〕
(O)	フック：ステンレス製	〔既設のまま〕
(P)	手摺：スチールパイプ 48.6φ SOP	〔改修〕
(Q)	支柱・控え柱：スチールパイプ 42.7φ SOP	〔改修〕
(R)	手摺子：丸鋼 16φ #150 SOP	〔改修〕
(S)	館名文字：ステンレス製箱文字 200角 B文字	〔既設のまま〕
(T)	館名文字：ステンレス製 W1,650 X H165	〔既設のまま〕
(U)	バランス差排気筒	〔撤去〕（設備工事）
(V)	庇：コンクリートスラブ吹付タイル仕上 【●L3】	〔撤去〕
(W)	打継目地 W30~20 X D20 シーリング 10X10	〔撤去〕
(X)	化粧目地 W25~15 X D20	
(Y)	化粧目地 W20 X D20	
(Z)	化粧目地 W15 X D20	
(A1)	カバー鉄板	〔改修〕
(B1)	壁樋振り金物：スチール製	〔撤去〕
(C1)	消火器ボックス 計2個	〔撤去〕
(D1)	SG/2-1・2	〔改修〕

特記事項

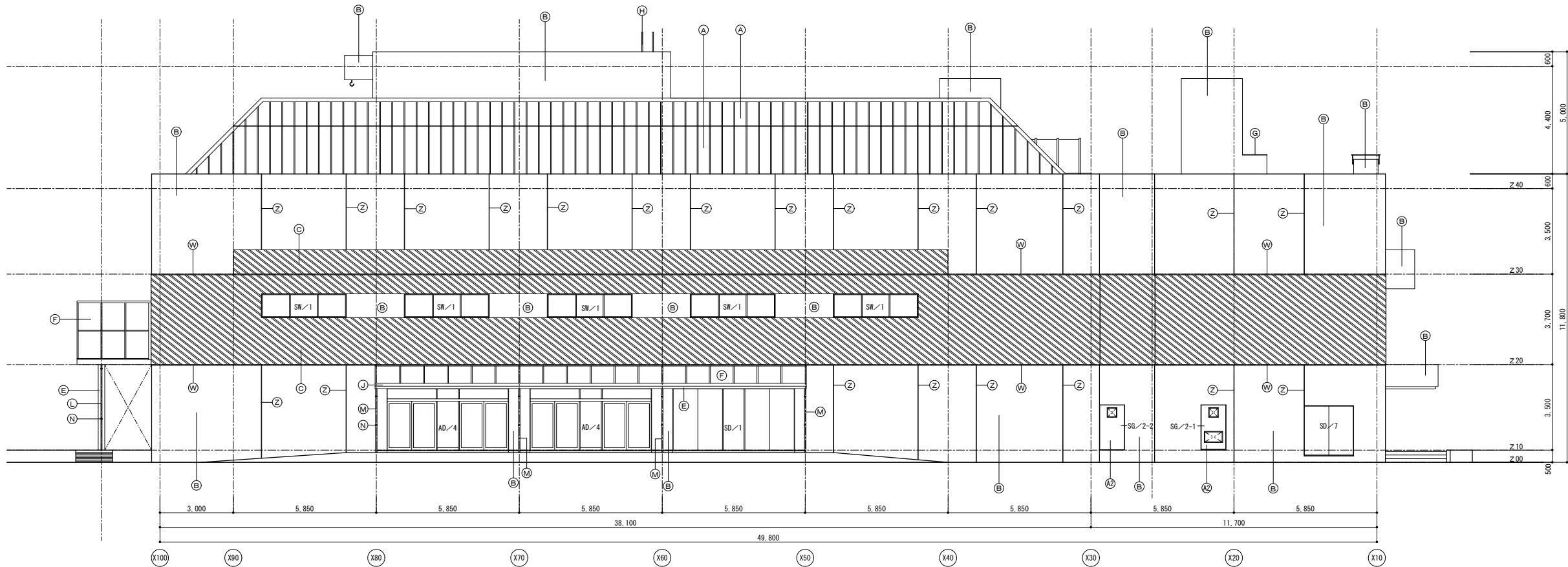
【●L3】は右斜含有建材を示す。

目地詳細図			
(W)	(X)	(Y)	(Z)

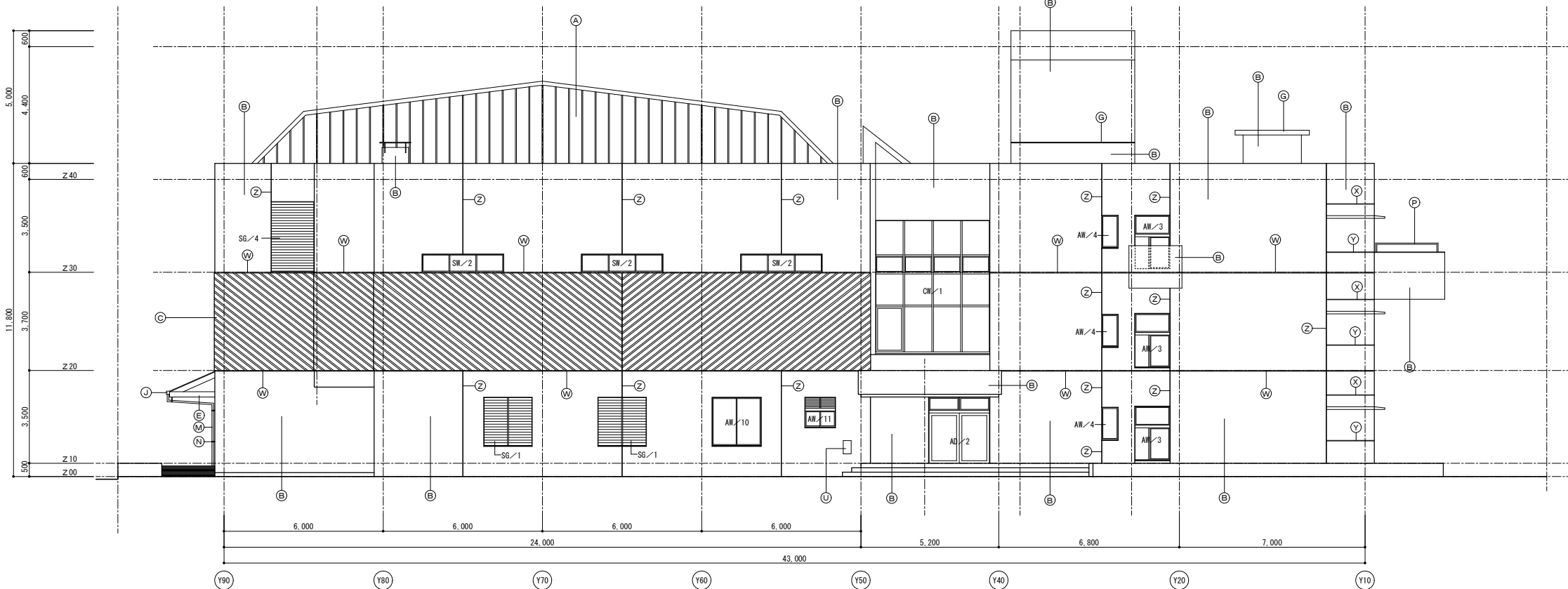
凡例 建具廻りシーリング（撤去）

符号	建 具 内 法 寸 法		数量	面台寸法	
	W	H		奥行	見付
AW/1	3,470	X 1,600	17	165	X 115
AW/2	3,470	X 2,500	1	—	—
AW/3	1,285	X 2,000	6	300	X 20
AW/4	750	X 1,200	7	190	X 20
AW/6	5,060	X 1,600	1	165	X 20
AW/7	2,470	X 1,000	1	165	X 20
AW/8	2,995	X 1,600	1	190	X 20
AW/9	600	X 1,010	2	190	X 20
AW/10	1,800	X 1,800	1	165	X 20
AW/11	1,200	X 1,100	1	165	X 20
AW/12	3,600	X 1,400 (三角)	1	—	—
AW/16	3,470	X 2,350	1	防水アゴ	
AD/1	5,290	X 2,685	1	—	—
AD/2	2,275	X 2,485	1	—	—
AD/3	2,295	X 2,635	2	—	—
AD/4	4,950	X 2,500	2	165	X 50
AD/6	1,800	X 1,800	1	—	—
CW/1	4,330	X 5,080	1	防水アゴ	
AG/2	1,500	X 600	2	防水アゴ	
AG/3	500	X 1,300	1	190	X 20
SD/1	4,920	X 2,500	1	165	X 50
SD/7	2,000	X 2,000	2	防水アゴ IF PH 165 X 50	
SD/12	800	X 600	1		
SD/13	3,000	X 2,000	1	—	—
SG/1	1,800	X 1,800	2	160	X 20
SG/2	1,000	X 1,800	3	160	X 20
SG/2-1・2	1,600	X 2,680	2	—	—
SG/3	1,600	X 2,600	3	—	—
SG/4	1,600	X 2,600	3	—	—
SW/1	3,400	X 800	5	—	—
SW/2	3,000	X 500	3	—	—

御注文先	三原市殿	御承認	記 事	月 日 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	1級建築士事務所 登録23(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二 1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫	校閲 設計	原 本 坂 本	設計年月日 2025.03	工事名称 中央公民館長寿命化改修工事（その1）建築主体工事	図面番号 A-27
										図面名称 改修前 北・西立面図	縮尺 1/100



改修後 北立面図 1/100



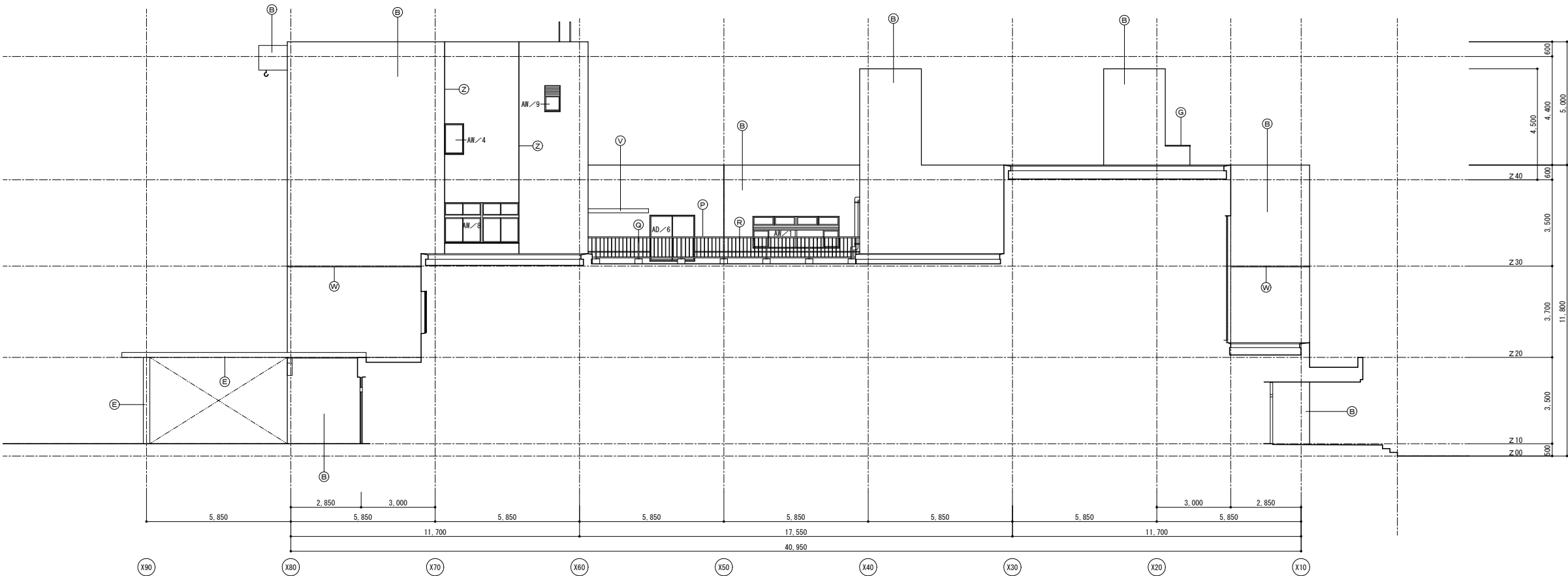
改修後 西立面図 1/100

改修項目【新設】		
記号	仕 上	改修内容
(A)	屋根: ALC版 t=120 下地ステンレス鋼瓦葺き	【既設のまま】
(B)	外壁: コンクリート打放吹付タイル	水洗い工法 複層塗材E【新設】
(C)	外壁: コンクリート打放化粧目地模様付吹付タイル	水洗い工法 複層塗材E【新設】
(D)	面台: 防水モルタルコテ押え	下地調整の上塗り防水
(E)	スカイライト: 鉄部 SOP	下地調整の上DP塗
(F)	スカイライトガラス窓: 網入りガラス t=6.8	水洗い清掃【新設】
(G)	天端: モルタル下地塗布防水	【既設のまま】
(H)	タラップ: スチール製垂れ下りメッキ	【新設】
(I)	軒樋: ガルバリウム鋼板曲げ加工 t=0.6 カバー	【新設】
(J)	軒樋: スチールプレート t=1.6 曲げ加工 F P 塗	下地調整の上DP塗
(K)	壁樋: スチールパイプ 125φ SOP	下地調整の上DP塗
(L)	壁樋: スチールパイプ 40φ SOP	下地調整の上DP塗
(M)	壁樋: 塩ビ製パイプ 50φ	DP塗【新設】
(N)	壁樋振込み金物: スチール製 SOP	下地調整の上DP塗
(O)	フック: ステンレス製	【既設のまま】
(P)	手摺: スチールパイプ 48.6φ SOP	下地調整の上DP塗
(Q)	支柱・控え柱: スチールパイプ 42.7φ SOP	下地調整の上DP塗
(R)	手摺子: 丸鋼 16φ #150 SOP	下地調整の上DP塗
(S)	館名文字: ステンレス製箱文字 200角 B文字	【既設のまま】
(T)	館名文字: ステンレス製 W1,650 X H165	【既設のまま】
(U)	バランス差排気筒撤去後 (開口約 250X400)	ステンレスプレート t=1.2
(V)	庇撤去後	下地調整の上 複層塗材E【新設】
(W)	打粧目地 W30~20 X D20 シーリング 10X10	シーリング PU-2【新設】
(X)	化粧目地 W25~15 X D20	
(Y)	化粧目地 W20 X D20	
(Z)	化粧目地 W15 X D20	
(A1)	カバー鉄板	下地調整の上DP塗
(A2)	SG/2-1・2 プレート 1.6 DP塗	【新設】設備開口【新設】

目地詳細図			
(W) 打粧目地	(X) 化粧目地	(Y) 化粧目地	(Z) 化粧目地

外壁改修工事補修部	
ひび割れ改修部	エポキシ樹脂注入工法(自動式) (ひび割れ0.2mm以上1.0mm未満)
剥離浮き補修	アクリル樹脂部分エポキシ樹脂充填工法

凡例 建具廻りシーリング M-2【新設】 面台部分: 塗布防水【新設】			
符号	建 具 内 法 寸 法 W H	数量	面台寸法 奥行 見付
AW/1	3,470 X 1,600	17	165 X 115
AW/2	3,470 X 2,500	1	—
AW/3	1,285 X 2,000	6	300 X 20
AW/4	750 X 1,200	7	190 X 20
AW/6	5,060 X 1,600	1	165 X 20
AW/7	2,470 X 1,000	1	165 X 20
AW/8	2,995 X 1,600	1	190 X 20
AW/9	600 X 1,010	2	190 X 20
AW/10	1,800 X 1,800	1	165 X 20
AW/11	1,200 X 1,100	1	165 X 20
AW/12	3,600 X 1,400 (三角)	1	—
AW/16	3,470 X 2,350	1	防水アゴ
AD/1	5,290 X 2,685	1	—
AD/2	2,275 X 2,485	1	—
AD/3	2,295 X 2,635	2	—
AD/4	4,950 X 2,500	2	165 X 50
AD/6	1,800 X 1,800	1	—
CW/1	4,330 X 5,080	1	防水アゴ
AG/2	1,500 X 600	2	防水アゴ
AG/3	500 X 1,300	1	190 X 20
SD/1	4,920 X 2,500	1	165 X 50
SD/7	2,000 X 2,000	2	防水アゴ IF PH 165 X 50
SD/12	800 X 600	1	防水アゴ
SD/13	3,000 X 2,000	1	—
SG/1	1,800 X 1,800	2	160 X 20
SG/2	1,000 X 1,800	3	160 X 20
SG/2-1・2	1,600 X 2,680	2	—
SG/3	1,600 X 2,680	2	—
SG/4	1,600 X 2,600	3	—
SW/1	3,400 X 800	5	—
SW/2	3,000 X 500	3	—



改修前 Y30通 北立面図 1/100

改修項目（撤去）		
記号	仕 上	改修内容
(A)	屋根：ALC版 t=120 下地ステンレス鋼瓦葺き	〔既設のまま〕
(B)	外壁：コンクリート打放吹付タイル 〔●L3〕	〔改修〕
(C)	外壁：コンクリート打放化粧目地模様付吹付タイル 〔●L3〕	〔改修〕
(D)	面台：防水モルタルコテ押え	〔改修〕
(E)	スカイライト：鉄部 SOP	〔改修〕
(F)	スカイライトガラス窓：網入りガラス t=6.8	〔改修〕
(G)	天端：モルタル下地塗布防水	〔既設のまま〕
(H)	タラップ：スチール製 SOP塗	〔撤去〕
(I)	軒樋：スチールプレート t=1.6 F P 塗	〔改修〕
(J)	軒樋：スチールプレート t=1.6 曲げ加工 F P 塗	〔改修〕
(K)	壁樋：スチールパイプ 125φSOP	〔改修〕
(L)	壁樋：スチールパイプ 40φSOP	〔改修〕
(M)	壁樋：塩ビ製パイプ 50φ	〔改修〕
(N)	壁樋振込み金物：スチール製 SOP	〔改修〕
(O)	フック：ステンレス製	〔既設のまま〕
(P)	手摺：スチールパイプ 48.6φ SOP	〔改修〕
(Q)	支柱・控え柱：スチールパイプ 42.7φ SOP	〔改修〕
(R)	手摺子：丸鋼 16φ #150 SOP	〔改修〕
(S)	館名文字：ステンレス製箱文字 200角 B文字	〔既設のまま〕
(T)	館名文字：ステンレス製 W1,650 X H165	〔既設のまま〕
(U)	バランス差排気筒	〔撤去〕（設備工事）
(V)	庇：コンクリートスラブ吹付タイル仕上 〔●L3〕	〔撤去〕
(W)	打継目地 W30～20 X D20 シーリング 10X10	〔撤去〕
(X)	化粧目地 W25～15 X D20	
(Y)	化粧目地 W20 X D20	
(Z)	化粧目地 W15 X D20	
(A1)	カバー鉄板	〔改修〕

特記事項

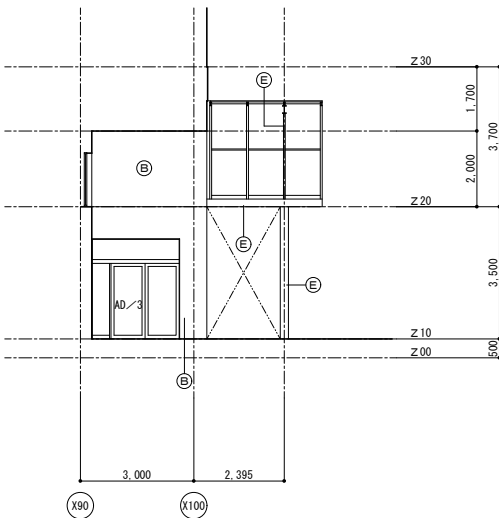
●L31 は石綿含有建材を示す。

目地詳細図

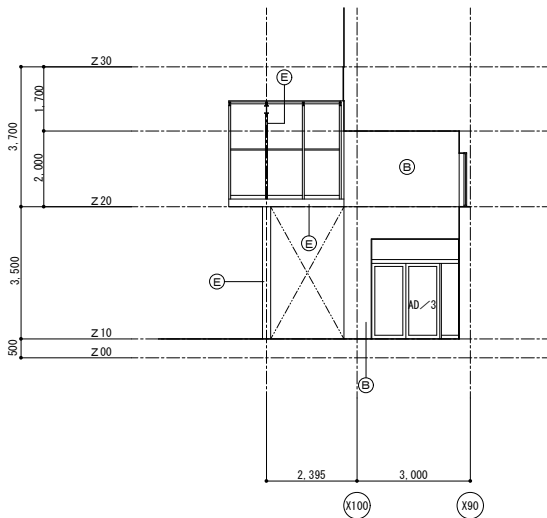
(W) 打継目地	(X) 化粧目地	(Y) 化粧目地	(Z) 化粧目地

凡例 建具廻りシーリング（撤去）

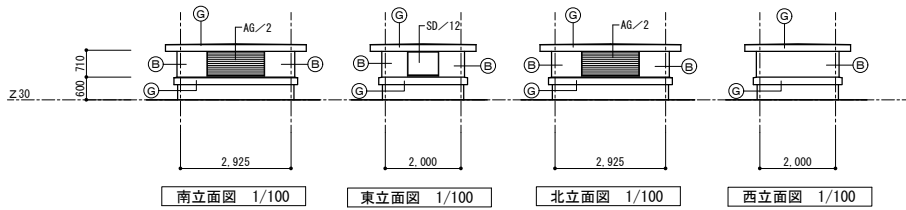
符号	建 具 内 法 寸 法 W H	数量	面台寸法 奥行 見付
AW/1	3,470 X 1,600	17	165 X 115
AW/2	3,470 X 2,500	1	—
AW/3	1,285 X 2,000	6	300 X 20
AW/4	750 X 1,200	7	190 X 20
AW/6	5,060 X 1,600	1	165 X 20
AW/7	2,470 X 1,000	1	165 X 20
AW/8	2,995 X 1,600	1	190 X 20
AW/9	600 X 1,010	2	190 X 20
AW/10	1,800 X 1,800	1	165 X 20
AW/11	1,200 X 1,100	1	165 X 20
AW/12	3,600 X 1,400 (三角)	1	—
AW/16	3,470 X 2,350	1	防水アゴ
AD/1	5,290 X 2,685	1	—
AD/2	2,275 X 2,485	1	—
AD/3	2,295 X 2,635	2	—
AD/4	4,950 X 2,500	2	165 X 50
AD/6	1,800 X 1,800	1	—
CW/1	4,330 X 5,080	1	防水アゴ
AG/2	1,500 X 600	2	防水アゴ
AG/3	500 X 1,300	1	190 X 20
SD/1	4,920 X 2,500	1	165 X 50
SD/7	2,000 X 2,000	2	防水アゴ IF 165 X 50
SD/12	800 X 600	1	防水アゴ
SD/13	3,000 X 2,000	1	—
SG/1	1,800 X 1,800	2	160 X 20
SG/2	1,000 X 1,800	3	160 X 20
SG/2-1	1,600 X 2,680	2	—
SG/3	1,600 X 2,600	3	—
SG/4	1,600 X 2,600	3	—
SW/1	3,400 X 800	5	—
SW/2	3,000 X 500	3	—



改修前 Y70通 南立面図 1/100

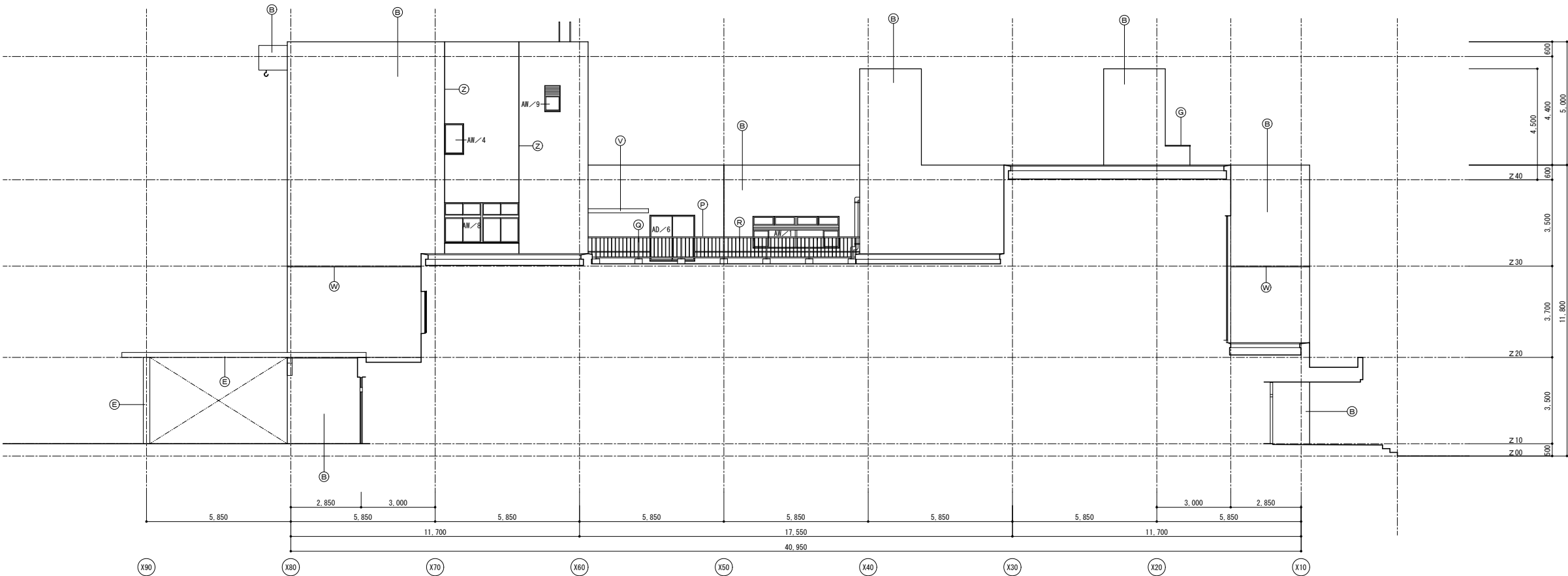


改修前 Y70通 北立面図 1/100



改修前 ハト小屋立面図 1/100

御注文先	三原市殿	御承認		記事	月 日	 中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	1級建築士事務所 登録23(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二 1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫		校閲		工事名称 中央公民館長寿命化改修工事（その1）建築主体工事	図面番号 A-29	
					・ ・ ・								
					・ ・ ・								
					・ ・ ・								
									設計		設計年月日 2025. 03	図面名称 改修前 Y30通 北立面図・Y70通 立面図	縮尺 1/100



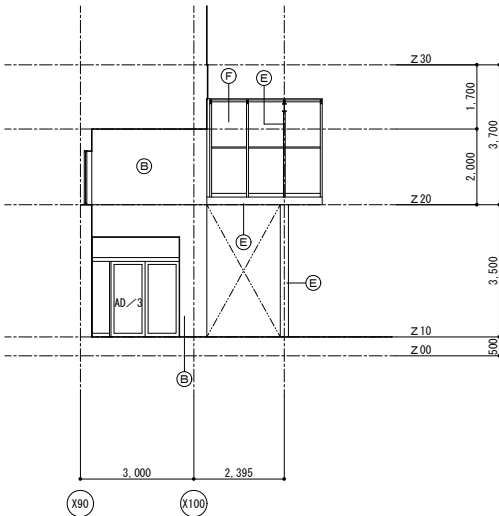
改修後 Y30通 北立面図 1/100

改修項目【新設】		
記号	仕 上	改修内容
(A)	屋根：ALC版 t=120 下地ステンレス鋼瓦葺き	【既設のまま】
(B)	外壁：コンクリート打放吹付タイル	覆層素材E【新設】
(C)	外壁：コンクリート打放化粧目地模様付吹付タイル	水洗い工法 覆層素材E【新設】
(D)	面台：防水モルタルコテ押え	下地調整の上塗り防水
(E)	スカイライト：鉄部 SOP	下地調整の上DP塗【新設】
(F)	スカイライトガラス窓：網入りガラス t=6.8	水洗い清掃【新設】
(G)	天端：モルタル下地塗布防水	【既設のまま】
(H)	タラップ：スチール製垂れメッキ	【新設】
(I)	軒樋：ガルバリウム鋼板曲げ加工 t=0.6 カバー	【新設】
(J)	軒樋：スチールプレート t=1.6 曲げ加工 F P 塗	下地調整の上DP塗【新設】
(K)	壁樋：スチールパイプ 125φSOP	下地調整の上DP塗【新設】
(L)	壁樋：スチールパイプ 40φSOP	下地調整の上DP塗【新設】
(M)	壁樋：塩ビ製パイプ 50φ	DP塗【新設】
(N)	壁樋締め金物：スチール製 SOP	下地調整の上DP塗【新設】
(O)	フック：ステンレス製	【既設のまま】
(P)	手摺：スチールパイプ 48.6φ SOP	下地調整の上DP塗【新設】
(Q)	支柱・控え柱：スチールパイプ 42.7φ SOP	下地調整の上DP塗【新設】
(R)	手摺子：丸鋼 16φ #150 SOP	下地調整の上DP塗【新設】
(S)	館名文字：ステンレス製箱文字 200角 B文字	【既設のまま】
(T)	館名文字：ステンレス製 W1,650 X H165	【既設のまま】
(U)	バランス差排気筒撤去後 (開口約 250X400)	ステンレスプレート t=1.2【新設】
(V)	庇撤去後	下地調整の上 覆層素材E【新設】
(W)	打継目地 W30~20 X D20 シーリング 10X10	シーリング PU-2【新設】
(X)	化粧目地 W25~15 X D20	
(Y)	化粧目地 W20 X D20	
(Z)	化粧目地 W15 X D20	
(A1)	カバー鉄板	下地調整の上DP塗【新設】

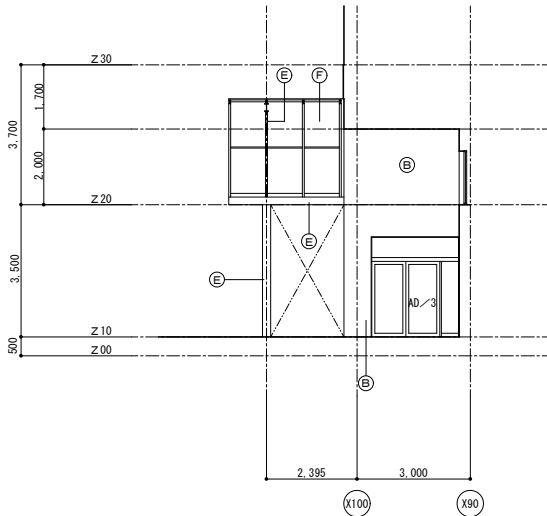
目地詳細図			
(W) 打継目地	(X) 化粧目地	(Y) 化粧目地	(Z) 化粧目地

外壁改修工事補修部	
ひび割れ改修部	エポキシ樹脂注入工法(自動式) (ひび割れ0.2mm以上1.0mm未満)
剥離浮き補修	アクリル樹脂部分エポキシ樹脂充填工法

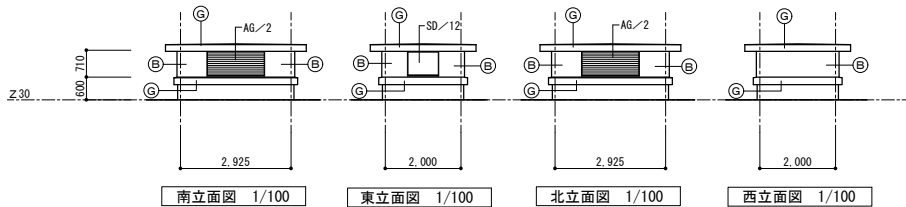
凡例 建具廻りシーリング M-2 【新設】 面台部分：塗布防水【新設】			
符号	建 具 内 法 寸 法 W H	数量	面台寸法 奥行 見付
AW/1	3,470 X 1,600	17	165 X 115
AW/2	3,470 X 2,500	1	—
AW/3	1,285 X 2,000	6	300 X 20
AW/4	750 X 1,200	7	190 X 20
AW/6	5,060 X 1,600	1	165 X 20
AW/7	2,470 X 1,000	1	165 X 20
AW/8	2,995 X 1,600	1	190 X 20
AW/9	600 X 1,010	2	190 X 20
AW/10	1,800 X 1,800	1	165 X 20
AW/11	1,200 X 1,100	1	165 X 20
AW/12	3,600 X 1,400 (三角)	1	—
AW/16	3,470 X 2,350	1	防水アゴ
AD/1	5,290 X 2,685	1	—
AD/2	2,275 X 2,485	1	—
AD/3	2,295 X 2,635	2	—
AD/4	4,950 X 2,500	2	165 X 50
AD/6	1,800 X 1,800	1	—
CW/1	4,330 X 5,080	1	防水アゴ
AG/2	1,500 X 600	2	防水アゴ
AG/3	500 X 1,300	1	190 X 20
SD/1	4,920 X 2,500	1	165 X 50
SD/7	2,000 X 2,000	2	防水アゴ IF PH 165 X 50
SD/12	800 X 600	1	防水アゴ
SD/13	3,000 X 2,000	1	—
SG/1	1,800 X 1,800	2	160 X 20
SG/2	1,000 X 1,800	3	160 X 20
SG/2-1・2	1,600 X 2,680	2	—
SG/3	1,600 X 2,600	3	—
SG/4	3,400 X 800	5	—
SW/1	3,000 X 500	3	—
SW/2	3,000 X 500	3	—



改修後 Y70通 南立面図 1/100

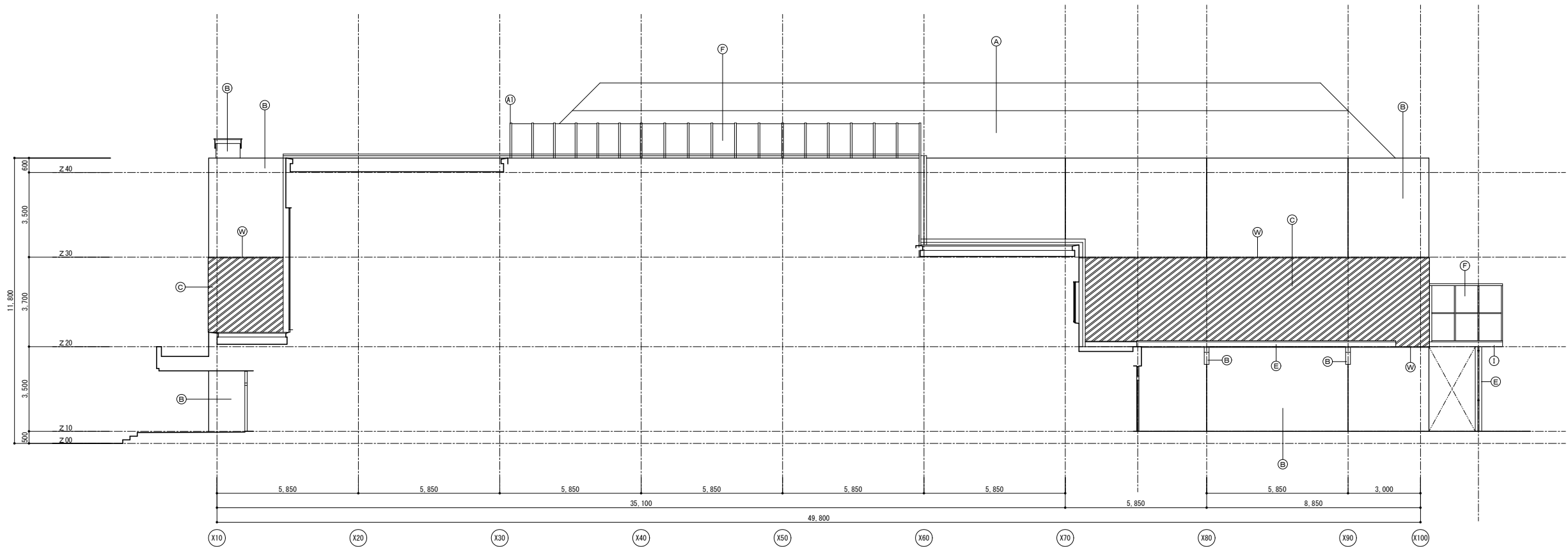


改修後 Y70通 北立面図 1/100



改修後 ハット小屋立面図 1/100

御注文先	三原市殿	御承認		記事	月 日	 中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	1級建築士事務所 登録23(1) 第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫	校閲 		工事名称 中央公民館長寿命化改修工事（その１）建築主体工事	図面番号 A-30	
									設計 	設計年月日 2025. 03	図面名称 改修後 Y30通 北立面図・Y70通 立面図	縮尺 1/100	



改修前 Y50通 南立面図 1/100

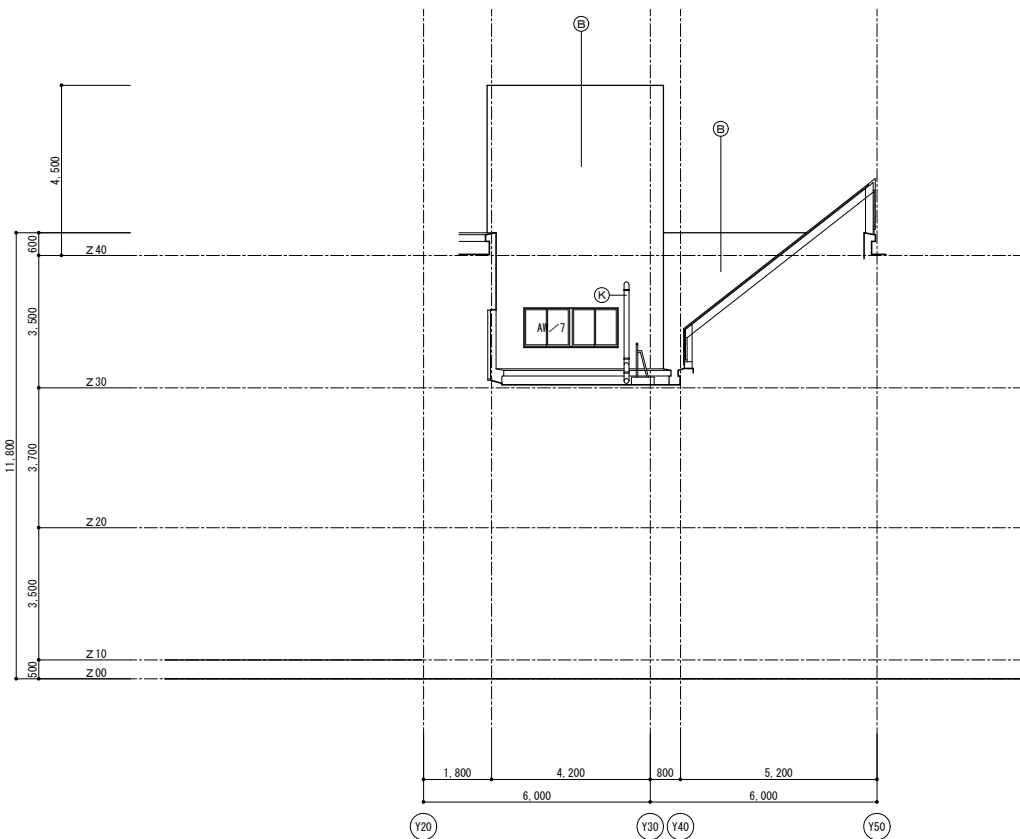
改修項目（撤去）		
記号	仕 上	改修内容
(A)	屋根：ALC版 t=120 下地ステンレス銅瓦棒葺き	〔既設のまま〕
(B)	外壁：コンクリート打放吹付タイル 〔●L3〕	〔改修〕
(C)	外壁：コンクリート打放化粧目地模様の吹付タイル 〔●L3〕	〔改修〕
(D)	面台：防水モルタルコテ押え	〔改修〕
(E)	スカイライト：鉄部 SOP	〔改修〕
(F)	スカイライトガラス窓：網入りガラス t=6.8	〔改修〕
(G)	天端：モルタル下地塗布防水	〔既設のまま〕
(H)	タラップ：スチール製 SOP塗	〔撤去〕
(I)	軒樋：スチールプレート t=1.6 F P 塗	〔改修〕
(J)	軒樋：スチールプレート t=1.6 曲げ加工 F P 塗	〔改修〕
(K)	壁樋：スチールパイプ 125φSOP	〔改修〕
(L)	壁樋：スチールパイプ 40φSOP	〔改修〕
(M)	壁樋：塩ビ製パイプ 50φ	〔改修〕
(N)	壁樋掴み金物：スチール製 SOP	〔改修〕
(O)	フック：ステンレス製	〔既設のまま〕
(P)	手摺：スチールパイプ 48.6φ SOP	〔改修〕
(Q)	支柱・控え柱：スチールパイプ 42.7φ SOP	〔改修〕
(R)	手摺子：丸鋼 16φ #150 SOP	〔改修〕
(S)	館名文字：ステンレス製箱文字 200角 B文字	〔既設のまま〕
(T)	館名文字：ステンレス製 W1,650 X H165	〔既設のまま〕
(U)	バランス差排気筒	〔撤去〕（設備工事）
(V)	庇：コンクリートスラブ吹付タイル仕上 〔●L3〕	〔撤去〕
(W)	打継目地 W30～20 X D20 シーリング 10X10	〔撤去〕
(X)	化粧目地 W25～15 X D20	
(Y)	化粧目地 W20 X D20	
(Z)	化粧目地 W15 X D20	
(A1)	カバー鉄板	〔改修〕

特記事項

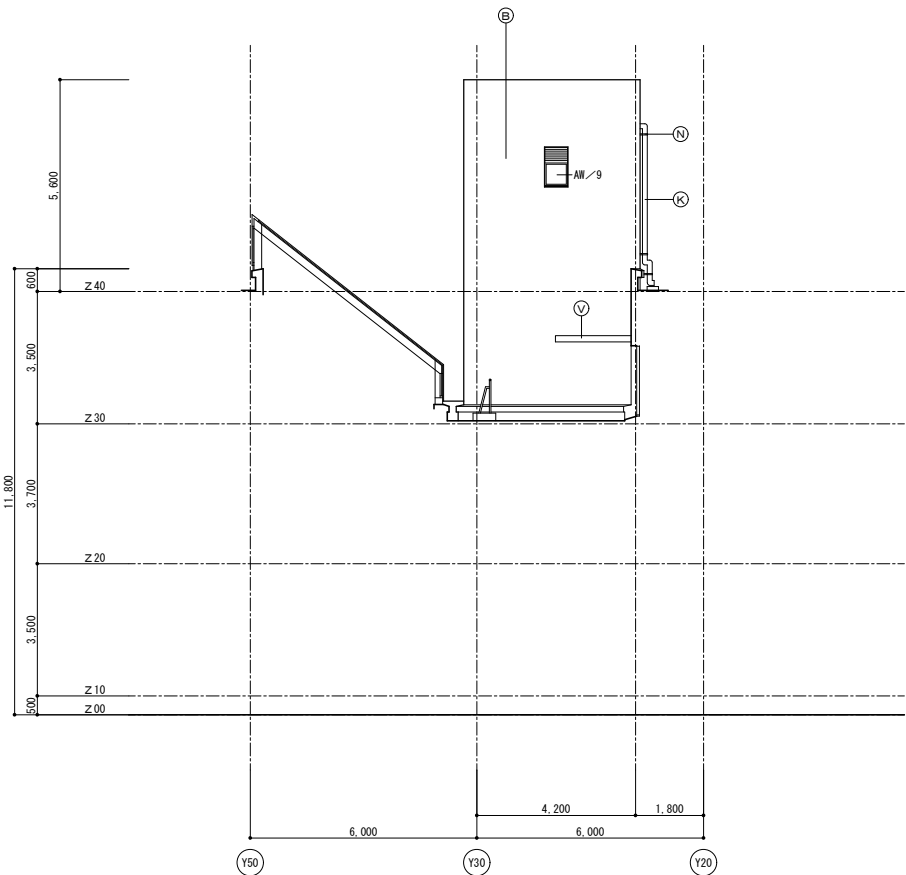
〔●L3〕は石綿含有建材を示す。

目地詳細図

(W)	(X)	(Y)	(Z)
打継目地	化粧目地	化粧目地	化粧目地



改修前 X40通 東立面図 1/100



改修前 X60通 西立面図 1/100

凡例 建具廻りシリング（撤去）

符号	建 具 内 法 寸 法 W H	数量	面台寸法 奥行 見付
AW/1	3,470 X 1,600	17	165 X 115
AW/2	3,470 X 2,500	1	—
AW/3	1,285 X 2,000	6	300 X 20
AW/4	750 X 1,200	7	190 X 20
AW/6	5,060 X 1,600	1	165 X 20
AW/7	2,470 X 1,000	1	165 X 20
AW/8	2,995 X 1,600	1	190 X 20
AW/9	600 X 1,010	2	190 X 20
AW/10	1,800 X 1,800	1	165 X 20
AW/11	1,200 X 1,100	1	165 X 20
AW/12	3,600 X 1,400 (三角)	1	—
AW/16	3,470 X 2,350	1	防水アゴ
AD/1	5,290 X 2,685	1	—
AD/2	2,275 X 2,485	1	—
AD/3	2,295 X 2,635	2	—
AD/4	4,950 X 2,500	2	165 X 50
AD/6	1,800 X 1,800	1	—
CW/1	4,330 X 5,080	1	防水アゴ
AG/2	1,500 X 600	2	防水アゴ
AG/3	500 X 1,300	1	190 X 20
SD/1	4,920 X 2,500	1	165 X 50
SD/7	2,000 X 2,000	2	PH 防水アゴ IF 165 X 50
SD/12	800 X 600	1	防水アゴ
SD/13	3,000 X 2,000	1	—
SG/1	1,800 X 1,800	2	160 X 20
SG/2-1-2	1,000 X 1,800	3	160 X 20
SG/3	1,600 X 2,680	2	—
SG/4	1,600 X 2,600	3	—
SW/1	3,400 X 800	5	—
SW/2	3,000 X 500	3	—

改修前

E V扉設置改修詳細図 (撤去)

1/50・1/100

3階

平面詳細図 S=1/50

E Vホール天井伏図 1/100

改修項目 (撤去)

記号	撤去処分		改修内容
	下地材	仕上材	
①	消火栓ボックス		(設備工事)
②	コンクリート打放	A-EP 塗	
③	モルタル下地	P タイル貼	
④	インジケータボタン		E V 工事
⑤	既設のまま	ソフト巾木 H=60	
⑥	軽鉄下地	化粧石膏ボード t=9.0 900角	一部 (撤去)
⑦	天井廻縁 一部		(撤去)

改修後

E V扉設置改修詳細図【新設】

1/50・1/100

3階

平面詳細図 S=1/50

E Vホール天井伏図 1/100

改修項目【新設】

記号	新設部分		改修内容
	下地材	仕上材	
A	消火栓ボックス		(設備工事)
B	コンクリート打放	EP-6 塗	
C	モルタル下地	P タイル	
D	防火扉		特定防火設備 (戸袋付き)
E	三方枠		プレート t=1.6 焼付塗装
F	インジケータボタン		E V 工事
G	既設のまま	EP-6 塗	下地調整の上塗装
H	既設のまま	ソフト巾木 H=60	
I	軽鉄下地	化粧石膏ボード t=9.5 900角	一部【新設】廻縁一部【新設】
Q	天井点検口	1ヶ所	アルミ製 450角

2階

平面詳細図 S=1/50

E Vホール天井伏図 1/100

改修項目 (撤去)

記号	撤去処分		改修内容
	下地材	仕上材	
①	消火栓ボックス		(設備工事)
②	コンクリート打放	A-EP 塗	
③	モルタル下地	P タイル貼	
④	インジケータボタン		E V 工事
⑤	既設のまま	ソフト巾木 H=60	
⑥	軽鉄下地	化粧石膏ボード t=9.0 900角	一部 (撤去)
⑦	天井廻縁 一部		(撤去)

改修後

E V扉設置改修詳細図【新設】

1/50・1/100

2階

平面詳細図 S=1/50

E Vホール天井伏図 1/100

改修項目【新設】

記号	新設部分		改修内容
	下地材	仕上材	
A	消火栓ボックス		(設備工事)
B	コンクリート打放	EP-6 塗	
C	モルタル下地	P タイル	
D	防火扉		特定防火設備 (戸袋付き)
E	三方枠		プレート t=1.6 焼付塗装
F	インジケータボタン		E V 工事
G	既設のまま	EP-6 塗	下地調整の上塗装
H	既設のまま	ソフト巾木 H=60	
I	軽鉄下地	化粧石膏ボード t=9.5 900角	一部【新設】廻縁一部【新設】
Q	天井点検口	1ヶ所	アルミ製 450角

1階

平面詳細図 S=1/50

E Vホール天井伏図 1/100

改修項目 (撤去)

記号	撤去処分		改修内容
	下地材	仕上材	
①	消火栓ボックス		(設備工事)
②	コンクリート打放	A-EP 塗	
③	モルタル下地	ニ丁掛タイル	
④	インジケータボタン		E V 工事
⑤	軽鉄下地	化粧石膏ボード t=9.0 900角	一部 (撤去)
⑥	天井廻縁 一部		(撤去)

改修後

E V扉設置改修詳細図【新設】

1/50・1/100

1階

平面詳細図 S=1/50

E Vホール天井伏図 1/100

改修項目【新設】

記号	新設部分		改修内容
	下地材	仕上材	
A	消火栓ボックス		(設備工事)
B	コンクリート打放	EP-6 塗	
C	モルタル下地	ニ丁掛タイル	
D	防火扉		特定防火設備 (戸袋付き)
E	三方枠		プレート t=1.6 焼付塗装
F	インジケータボタン		E V 工事
G	既設のまま	EP-6 塗	下地調整の上塗装
H	軽鉄下地	化粧石膏ボード t=9.5 900角	一部【新設】廻縁一部【新設】
I	天井点検口	1ヶ所	アルミ製 450角

御注文先

三原市殿

御承認

記 事

月 日

中電技術コンサルタント株式会社
広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8

1級建築士事務所 登録23(1)第1252号
1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二
1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫

校 閱
設 計

原 本
坂 本

設計年月日
2025.03

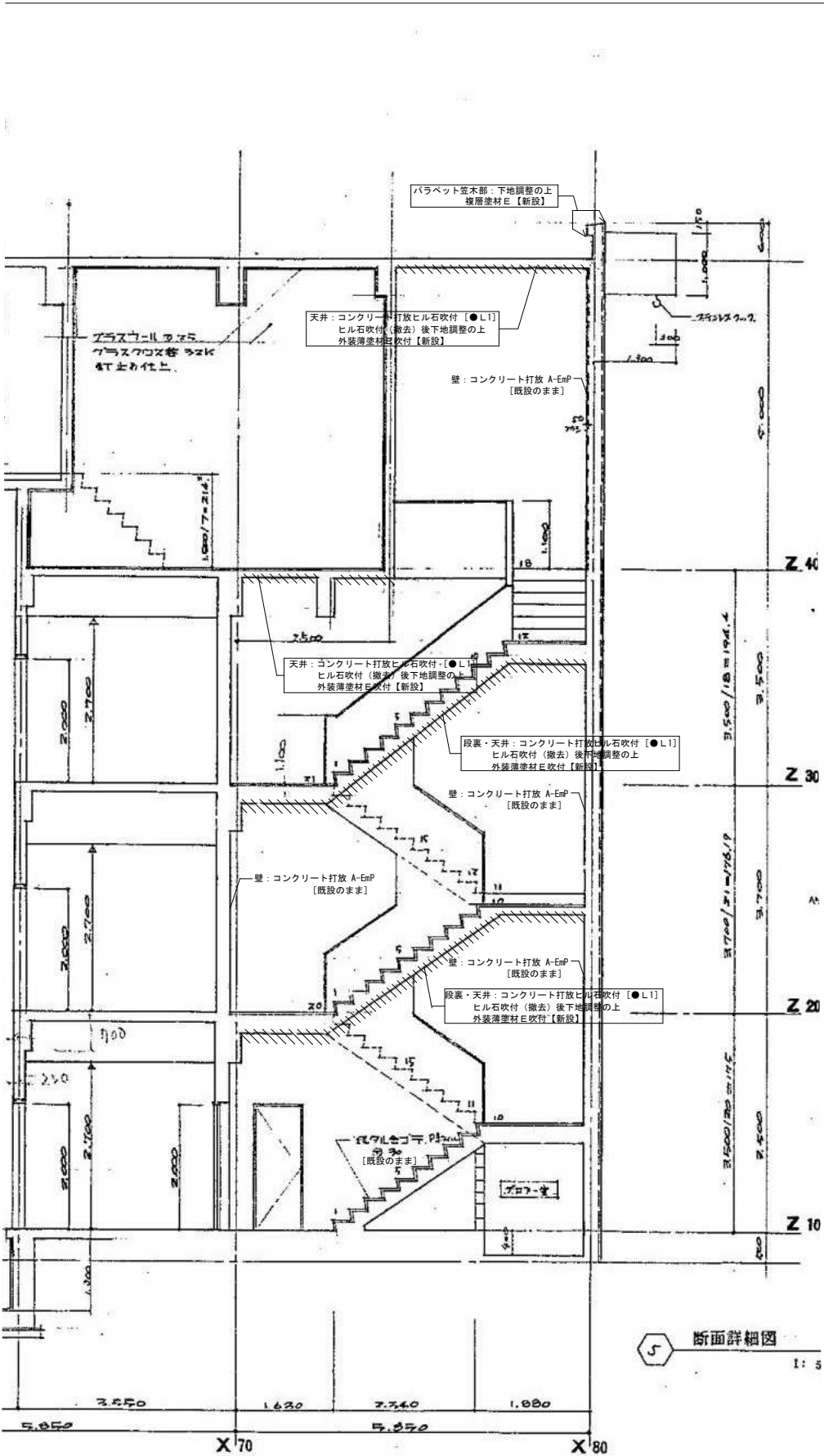
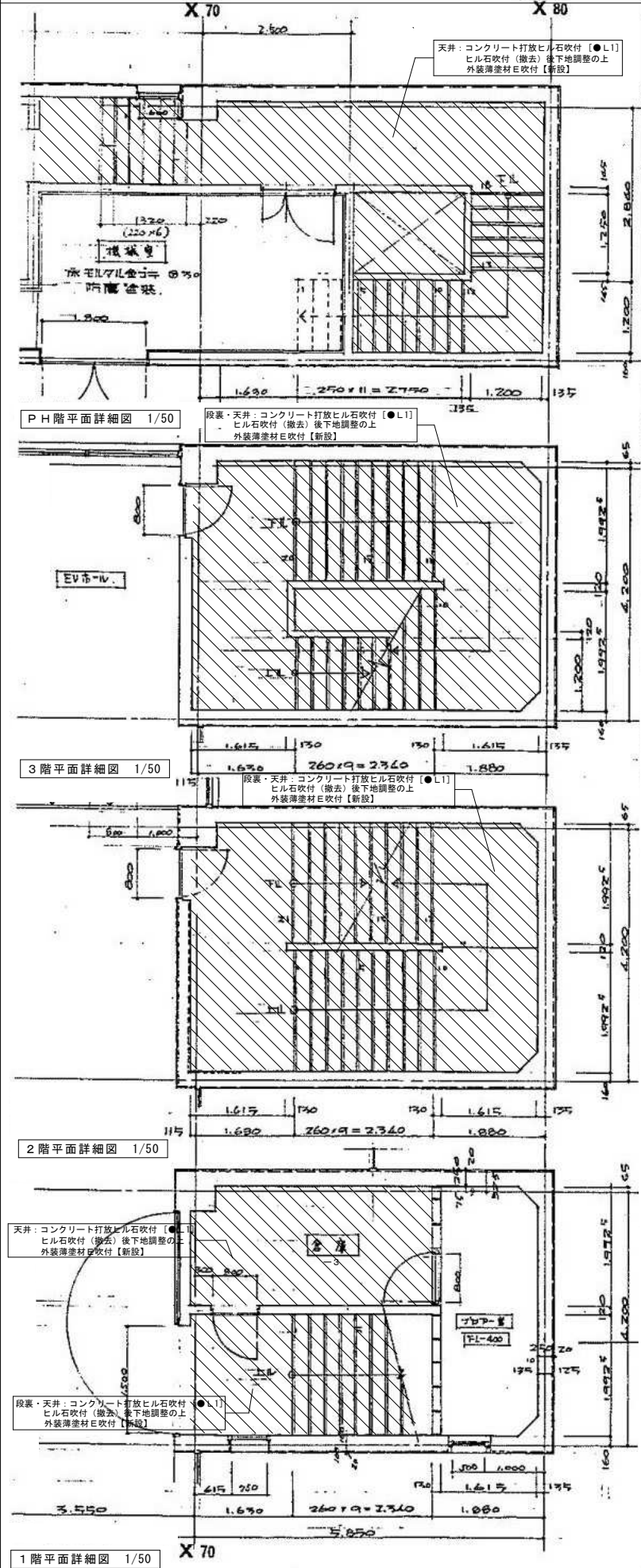
工事名称
中央公民館長寿寿命化改修工事 (その1) 建築主体工事

図面名称
改修前・後 E V扉設置改修詳細図

図面番号
A-33

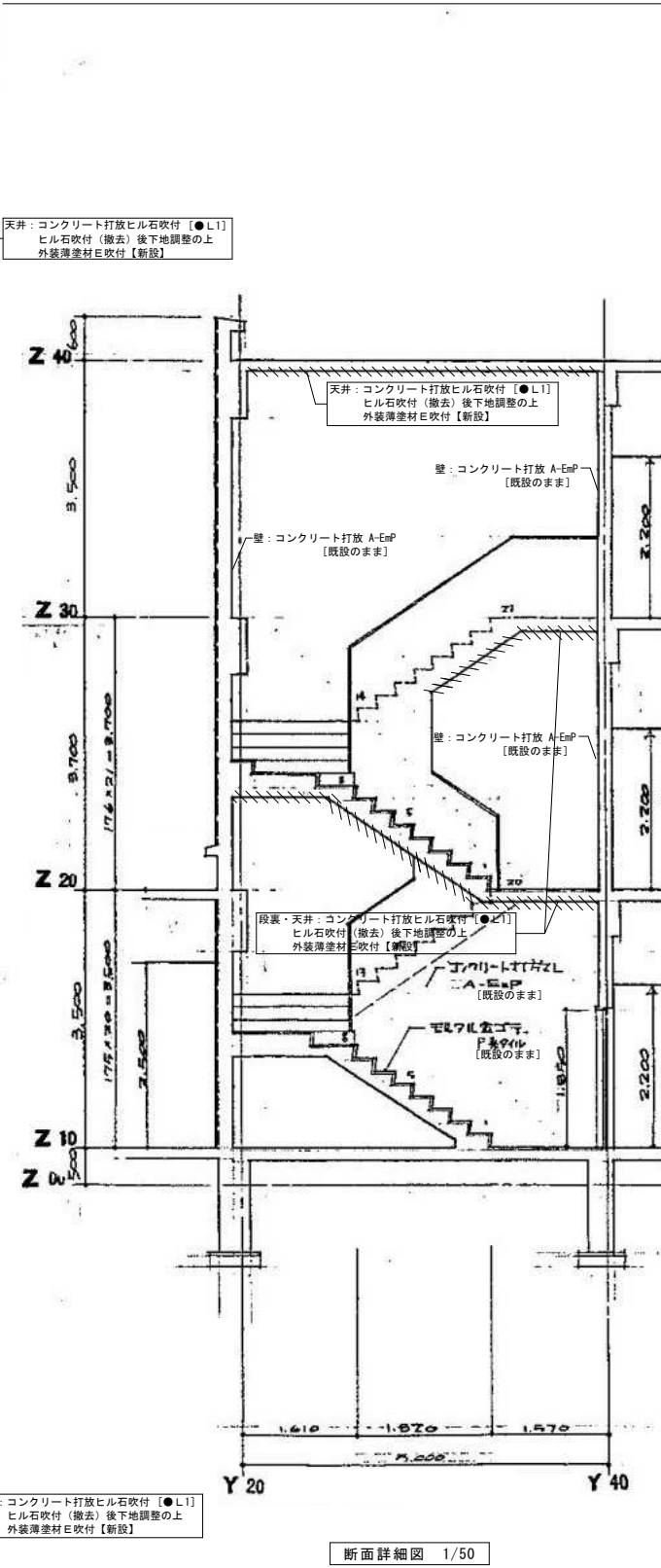
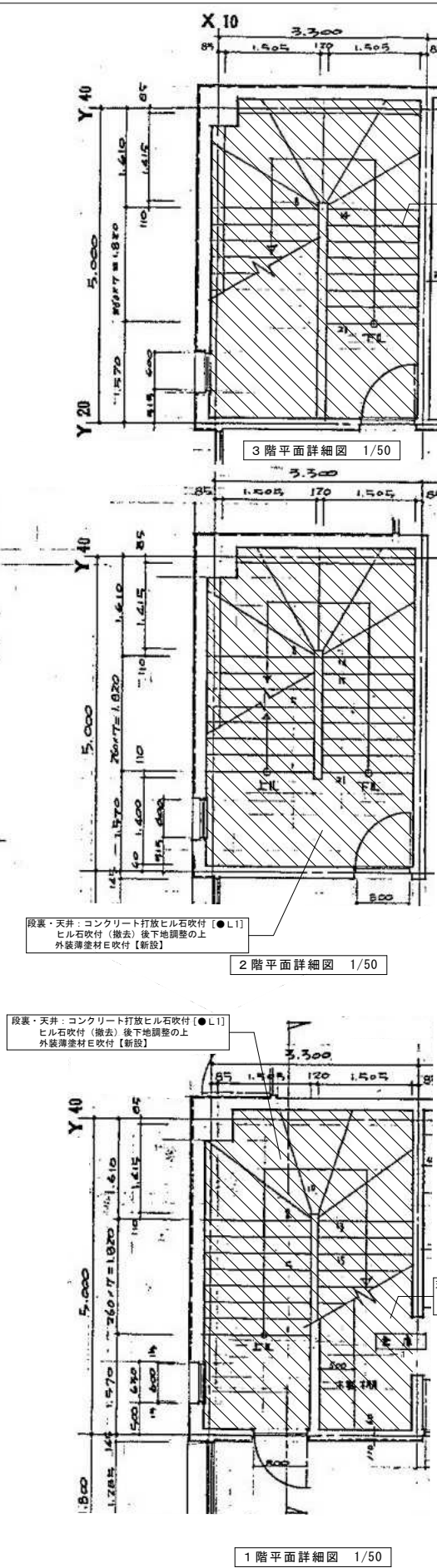
縮尺
1/50
1/100

※A3：50%縮小



特記事項
●L1 は石綿含有建材を示す。

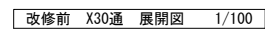
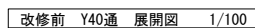
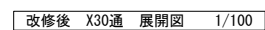
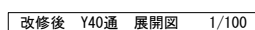
凡例
---天井〔改修〕範囲を示す。
改修内容〔改修〕部分仕上を示す。



特記事項
●L1 は石綿含有建材を示す。

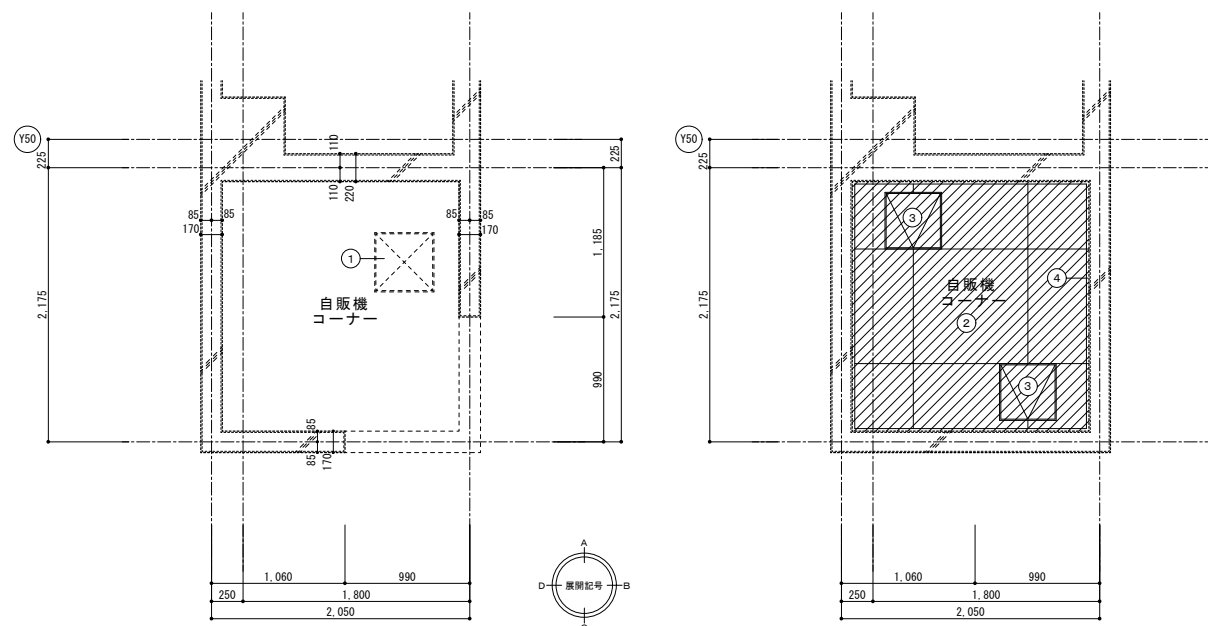
凡例
---天井〔改修〕範囲を示す。
改修内容〔改修〕部分仕上を示す。

御注文先	三原市役	御承認	記事	月 日	中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	1級建築士事務所 登録23(1)第1252号 1級建築士登録 第293685号 藤本 誠二	校閲 藤本	工事名称 中央公民館長寿命化改修工事 (その1) 建築主体工事	図面番号 A-34
						1級建築士登録 第262345号 坂本 薫	設計 坂本	図面名称 改修前・後 階段室A・階段室B 改修詳細図	縮尺 1/50
							設計年月日 2025.03		

[illegible][illegible]

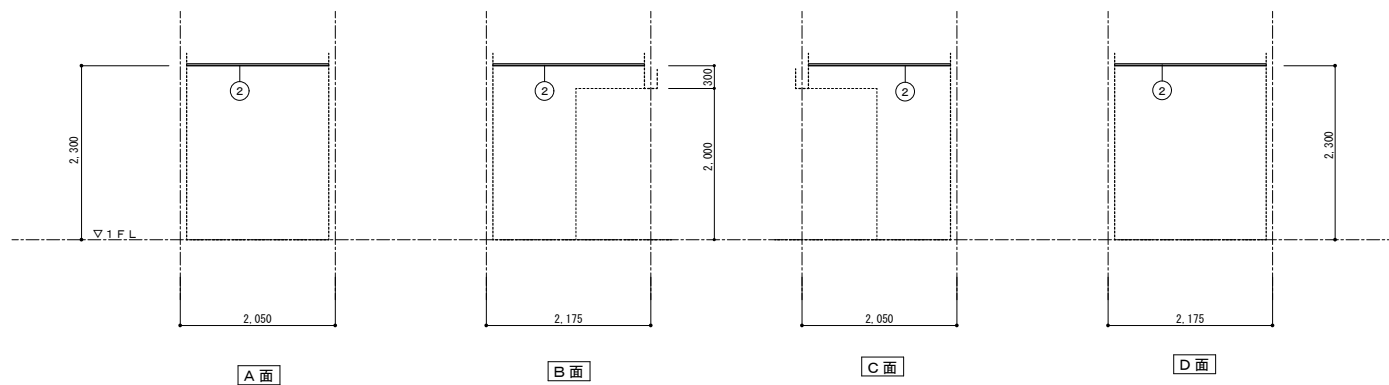
凡例

 -改修部分を示す。



改修前 平面詳細図 1/30

改修前 天井伏図 1/30

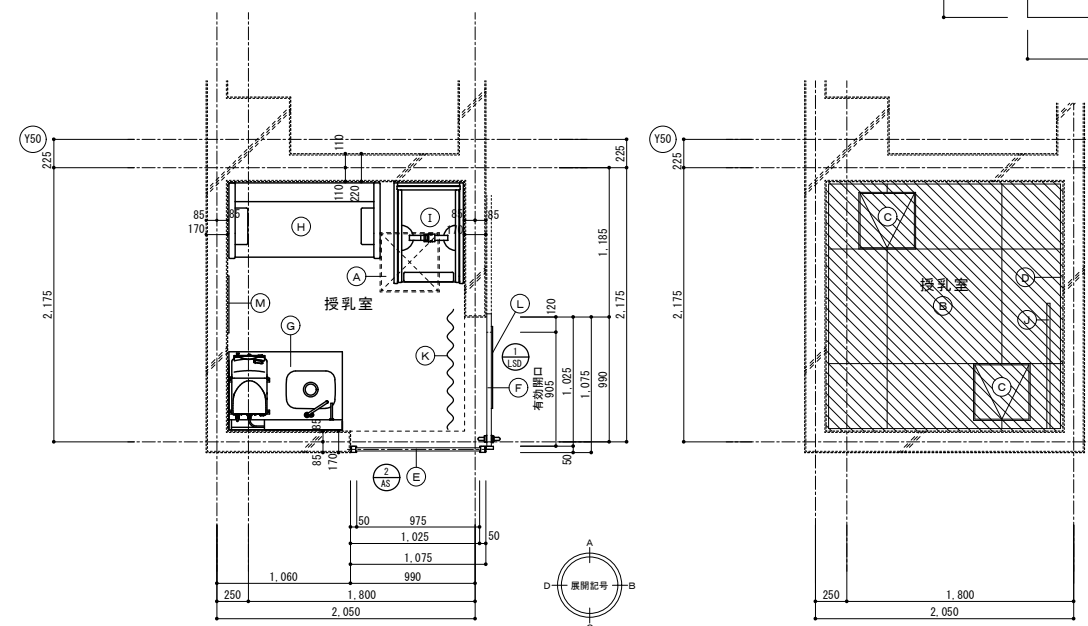


改修前 展開図 1/50

[illegible]

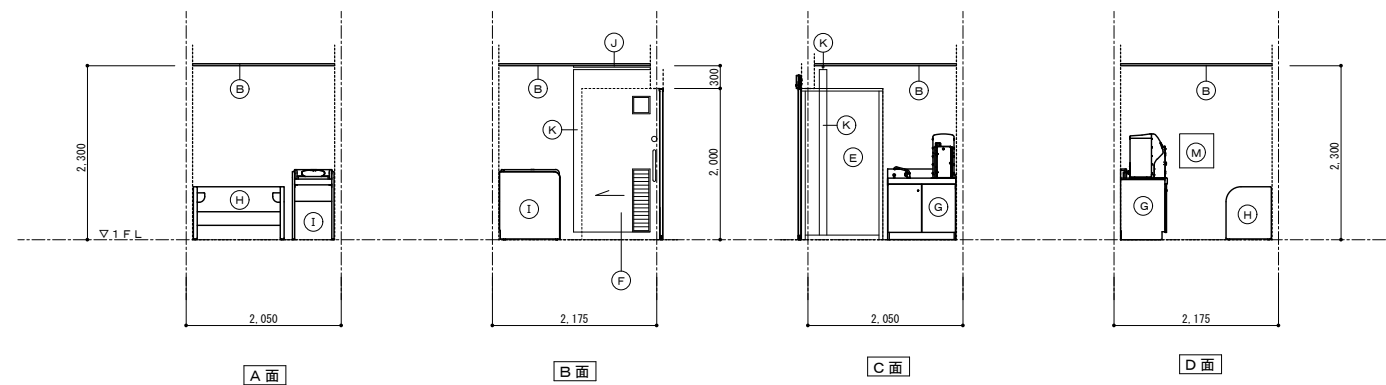
凡例

	既設コンクリート壁
	既設コンクリートブロック壁
	〔既設のまま〕の部分を示す。
	（撤去）の部分を示す。
	（撤去）範囲を示す。
	（撤去）天井点検口を示す。



改修後 平面詳細図 1/30

改修後 天井伏図 1/30



改修後 展開図 1/50

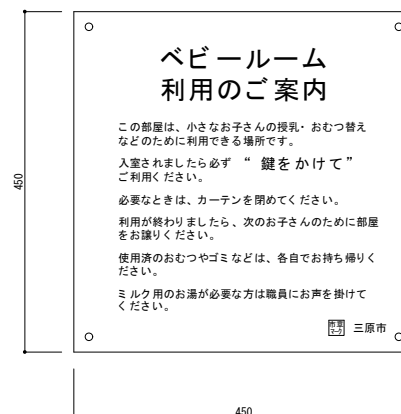
■ 改修項目		新 設		備 考
番号	下地材	仕上材		
(A)	床下換気口			【既設のまま】
(B)	軽鉄下地	化粧石膏ボード t=9.5 (不燃材) 900角		【新設】
(C)	天井点検口			アルミ製 450角 計 2ヶ所 【新設】
(D)	天井廻縁			塩ビ製 【新設】
(E)	アルミパーテーション (パネル)			AS/2 【新設】
(F)	軽量スチール製引ハンガー戸			LSO/1 【新設】
(G)	流し台 W900xD619xH1,398 1ヶ所			Combi調乳用温水器CH22-3 シンクウ体型 又は同等品
(H)	授乳ソファ 1,200 X 600 1ヶ所			CombiエンジェルK授乳ソファダブルJS410又は同等品
(I)	おむつ交換台 550 X 800 1ヶ所			Combiエンジェルおむつ交換台単体又は同等品
(J)	天井カーテンレール：アルミ製D型			
(K)	カーテン：防煙タイプ			
(L)	室名案内図 (カッティングシート張)			扉に直貼り 650 X 350
(M)	利用案内板 (ステンレス t=3.0 の上カッティングシート張)			450 X 450 X t=3.0

凡例

	既設コンクリート壁
	既設コンクリートブロック壁
	〔既設のまま〕の部分を示す。
	〔新設〕の部分を示す。
	〔新設〕範囲を示す。
	〔新設〕天井点検口を示す。

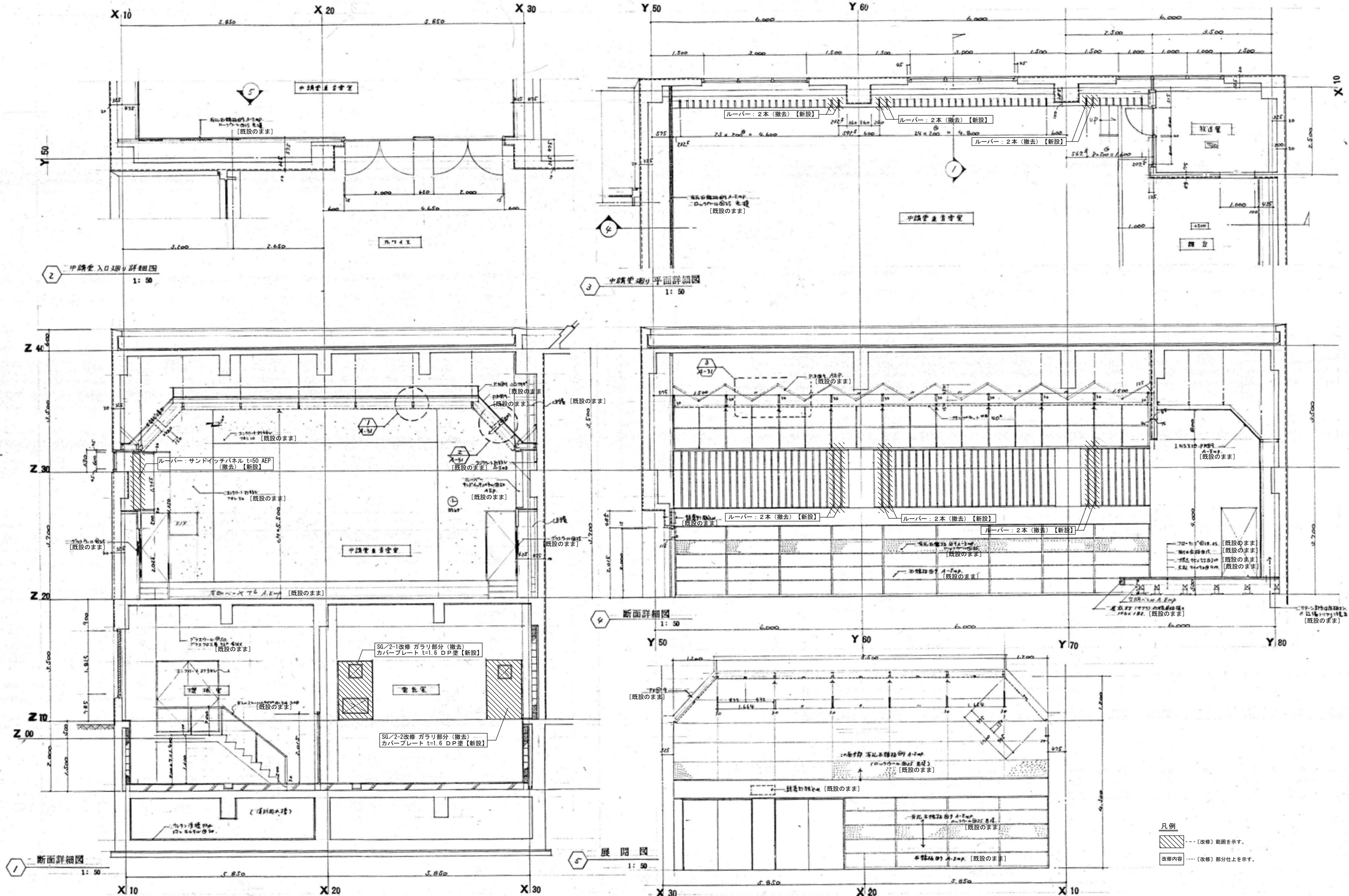


④ 室名案内図 1/5



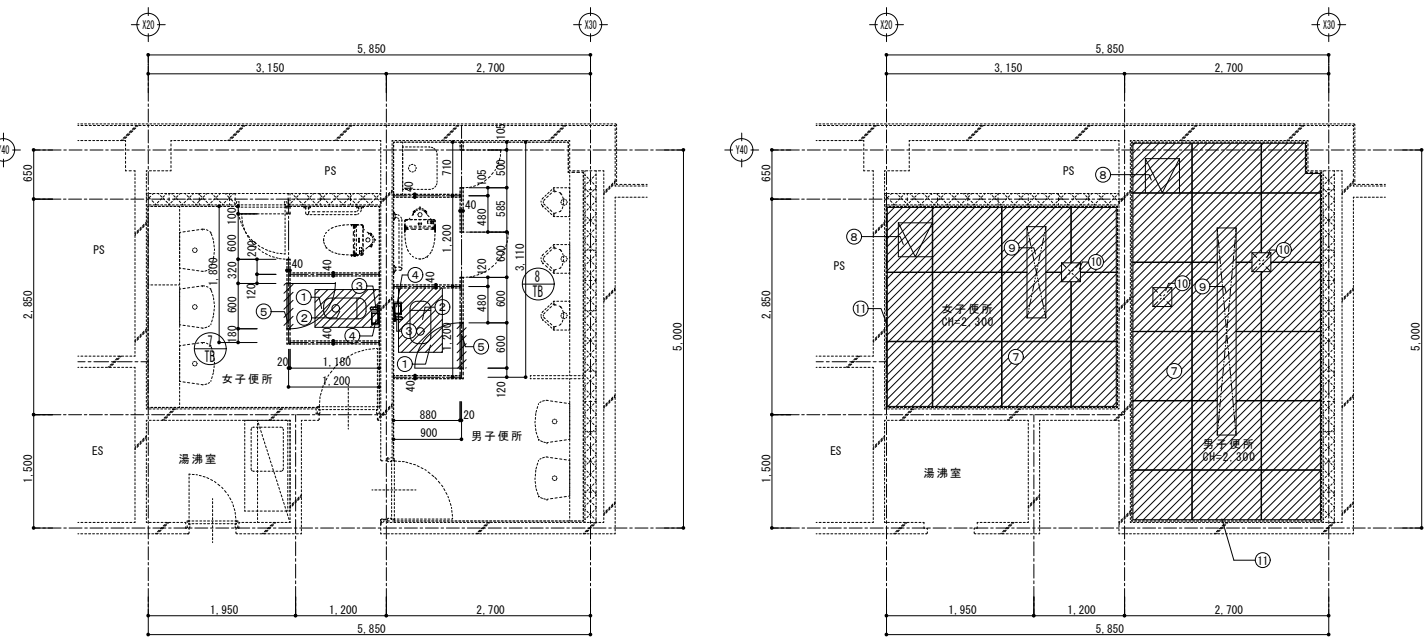
④ 利用案内板 1/5

下地材：カッティングシート（黒色）
文字：カッティングシート（白色）



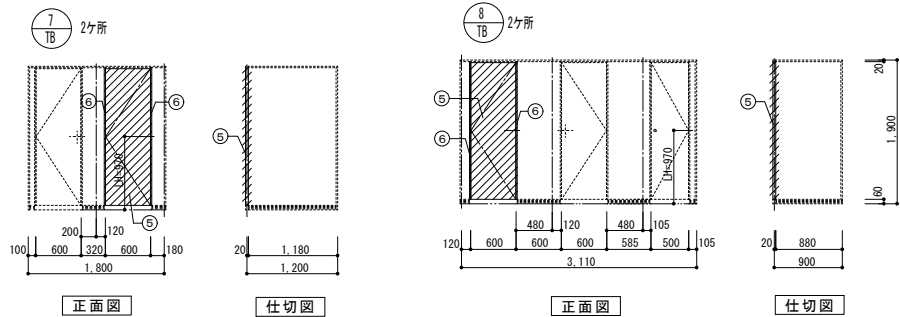
凡例
 --- (改修) 範囲を示す。
 改修内容 --- (改修) 部分仕上を示す。

御注文先	三原市殿	御承認	記事	月日	中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	1級建築士事務所 登録23(1)第1252号 1級建築士登録 第 29385 号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 282345 号 坂本 薫	校閲 設計	図面名称 2025.03	工事名称 中央公民館長寿命化改修工事(その1)建築主体工事	図面番号 A-37
									改修前・後 中講堂改修詳細図		縮尺 1/50



改修前 平面詳細図 1/50

改修前 天井伏図 1/50



正面図

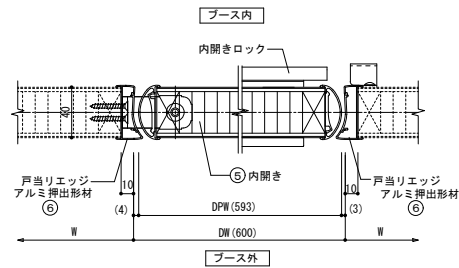
仕切図

正面図

仕切図

改修前 女子便所ブース姿図 1/50

改修前 男子便所ブース姿図 1/50

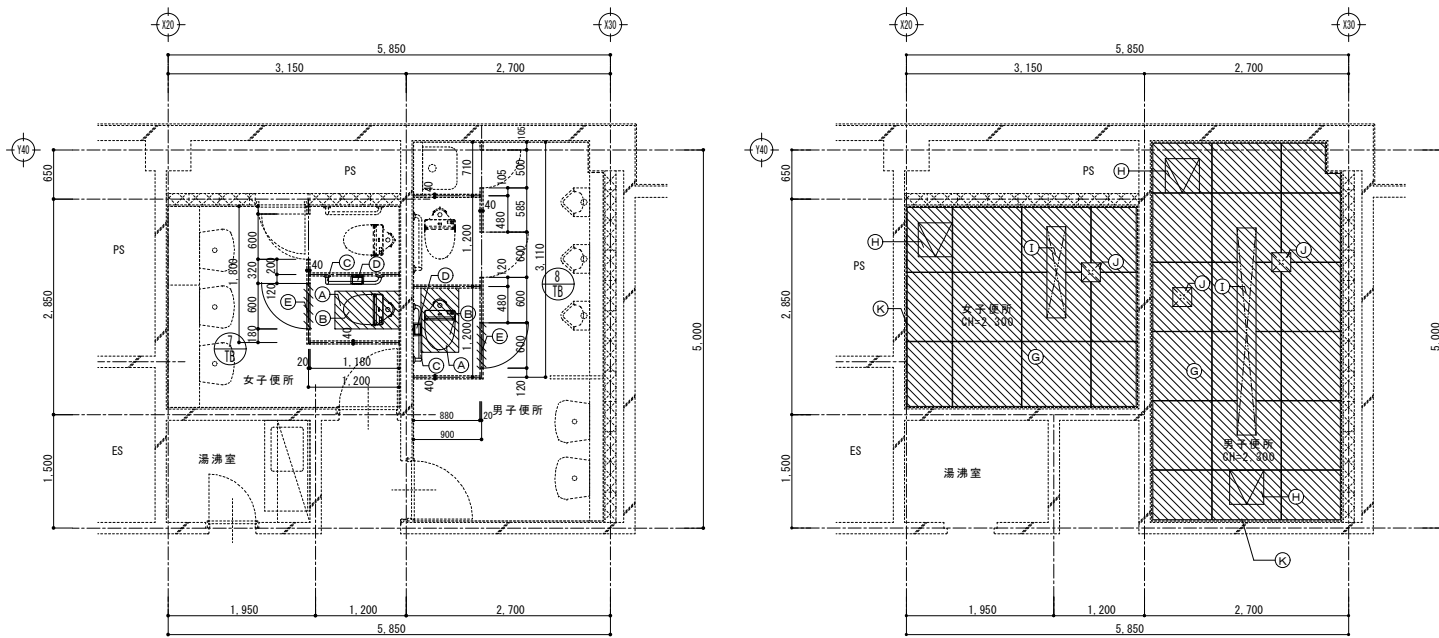


改修前 便所ブース扉詳細図 1/3

■ 撤去項目

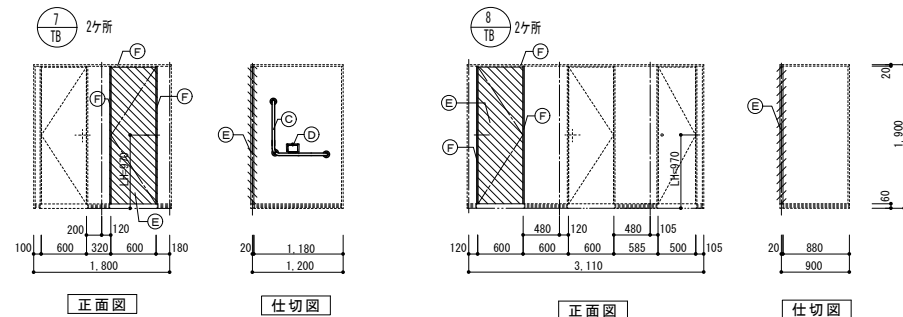
撤去処分		備 考	
番号			
	下地材	仕上材	
①	鉄筋コンクリートスラブ	25角モザイクタイル	撤去範囲 850 X 500 仕上下地共 (設備工事)
②	和式便器		(機械設備工事)
③	手摺		計 4ヶ所
④	ペーパーホルダー		計 4ヶ所 (機械設備工事)
⑤	ブース扉		計 4ヶ所 TB/7-2ヶ所 TB/8-2ヶ所
⑥	戸当り・エッジ		計 4ヶ所
⑦	軽鉄下地	フレキシブルボード t=4.0 AEP 【●L3】	既設天井下地：LGS下地
⑧	天井点検口		アルミ製 450角 計 4ヶ所
⑨	照明器具		(設備工事)
⑩	換気口		(設備工事)
⑪	天井廻縁・塩ビ		

凡例
..... 既設コンクリート壁
..... 既設コンクリートブロック壁
..... [既設のまま] の部分を示す。
..... (撤去) の部分を示す。
..... (撤去) 範囲を示す。
..... (撤去) 天井点検口を示す。



改修後 平面詳細図 1/50

改修後 天井伏図 1/50



正面図

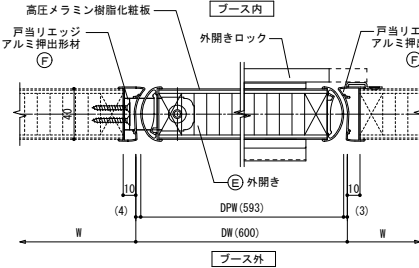
仕切図

正面図

仕切図

改修後 女子便所ブース姿図 1/50

改修後 男子便所ブース姿図 1/50

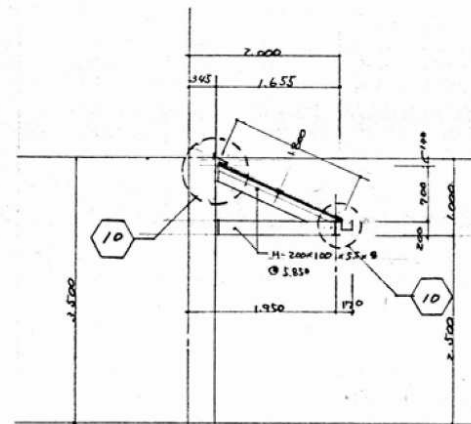
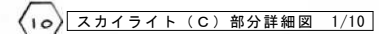
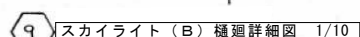
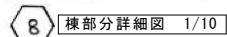
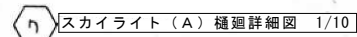


改修後 便所ブース扉詳細図 1/3

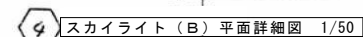
■ 改修項目

新 設		備 考
番号	下地材	仕上材
(A)	鉄筋コンクリートスラブ	モルタル塗25角モザイクタイル
(B)	洋式便器	
(C)	L型手摺	
(D)	ペーパーホルダー	
(E)	ブース扉 (高圧メラミン樹脂化粧板)	
(F)	戸当り・エッジ	
(G)	軽鉄下地	ケイ酸カルシウム板 t=4.0 AEP
(H)	天井点検口	
(I)	照明器具	
(J)	換気口	
(K)	天井廻縁・塩ビ	

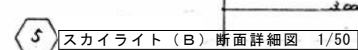
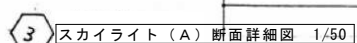
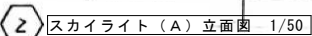
凡例
..... 既設コンクリート壁
..... 既設コンクリートブロック壁
..... [既設のまま] の部分を示す。
..... 【新設】の部分を示す。
..... 【新設】範囲を示す。
..... 【新設】天井点検口を示す。



6 スカイライト (C) 断面詳細図 1/50



スカイライト (A)
平面詳細図 1/50

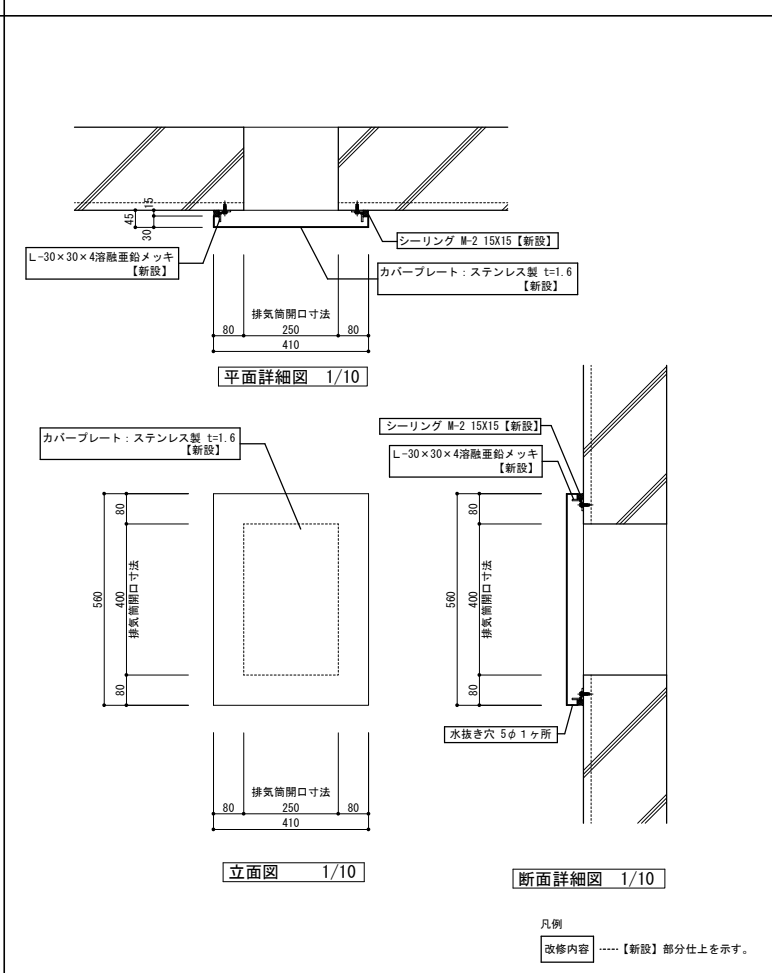
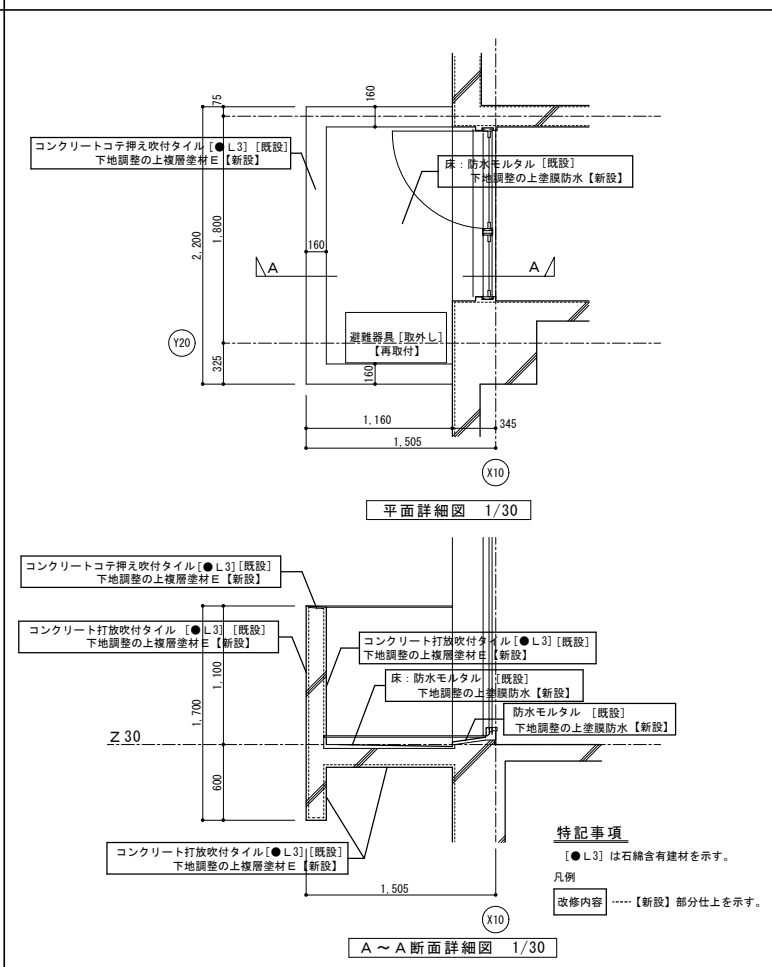
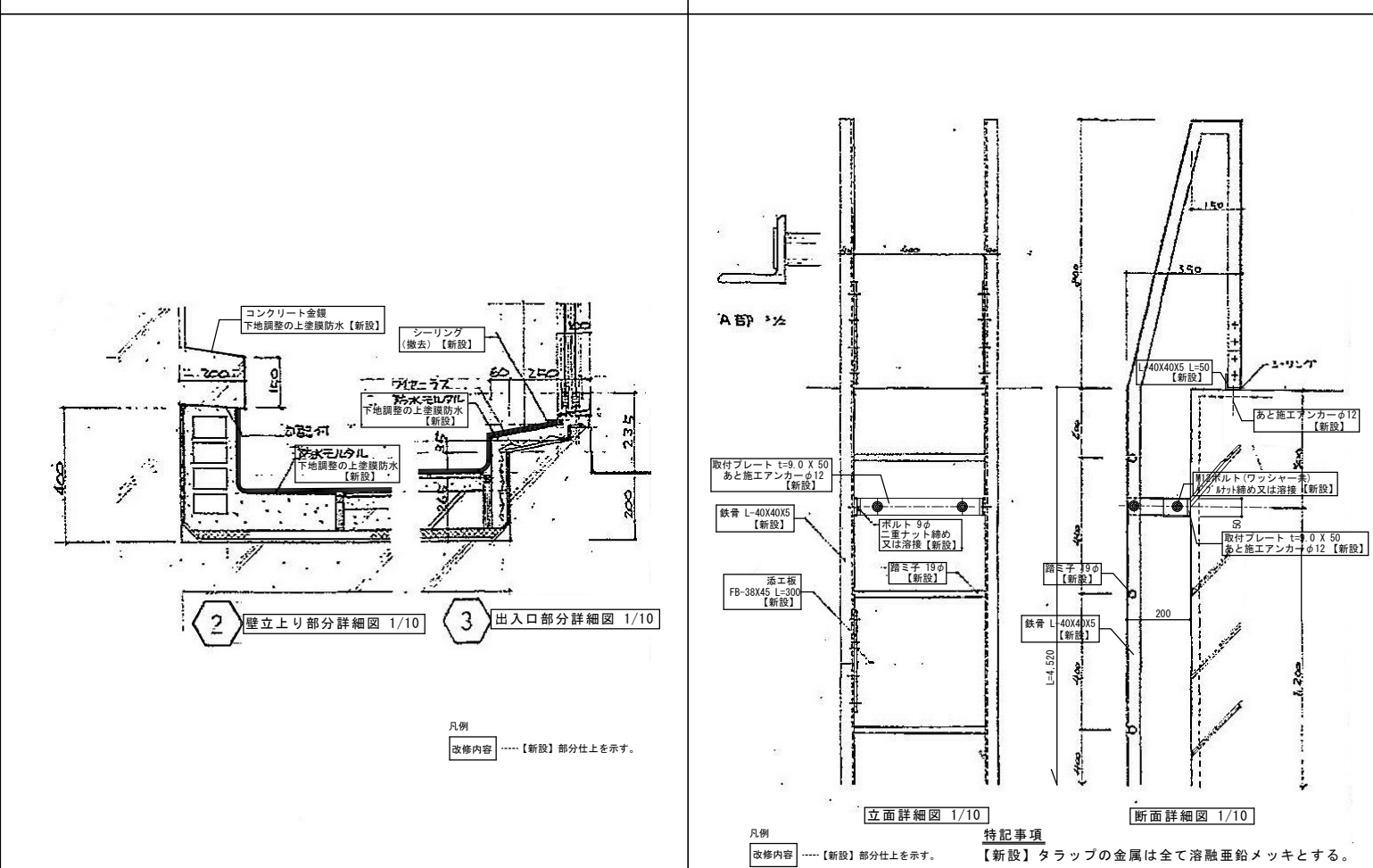
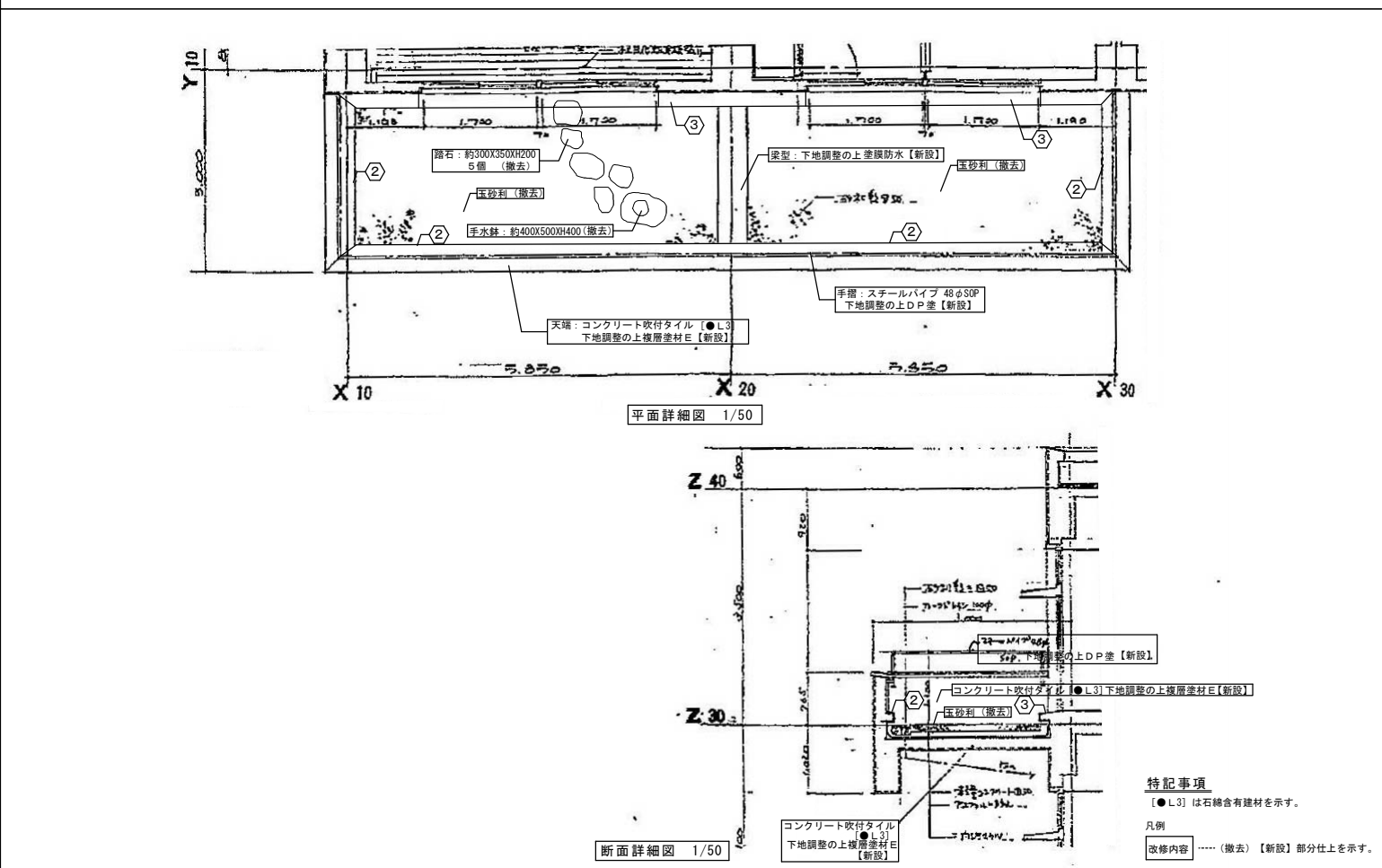
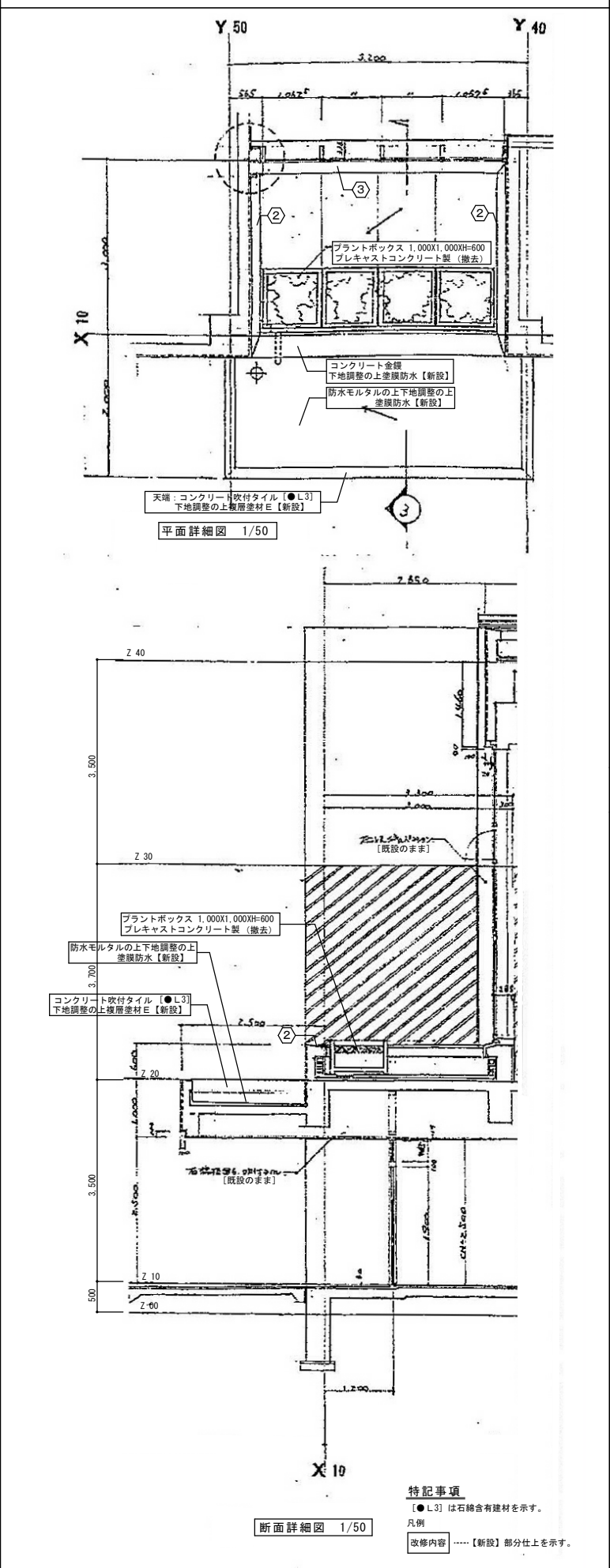


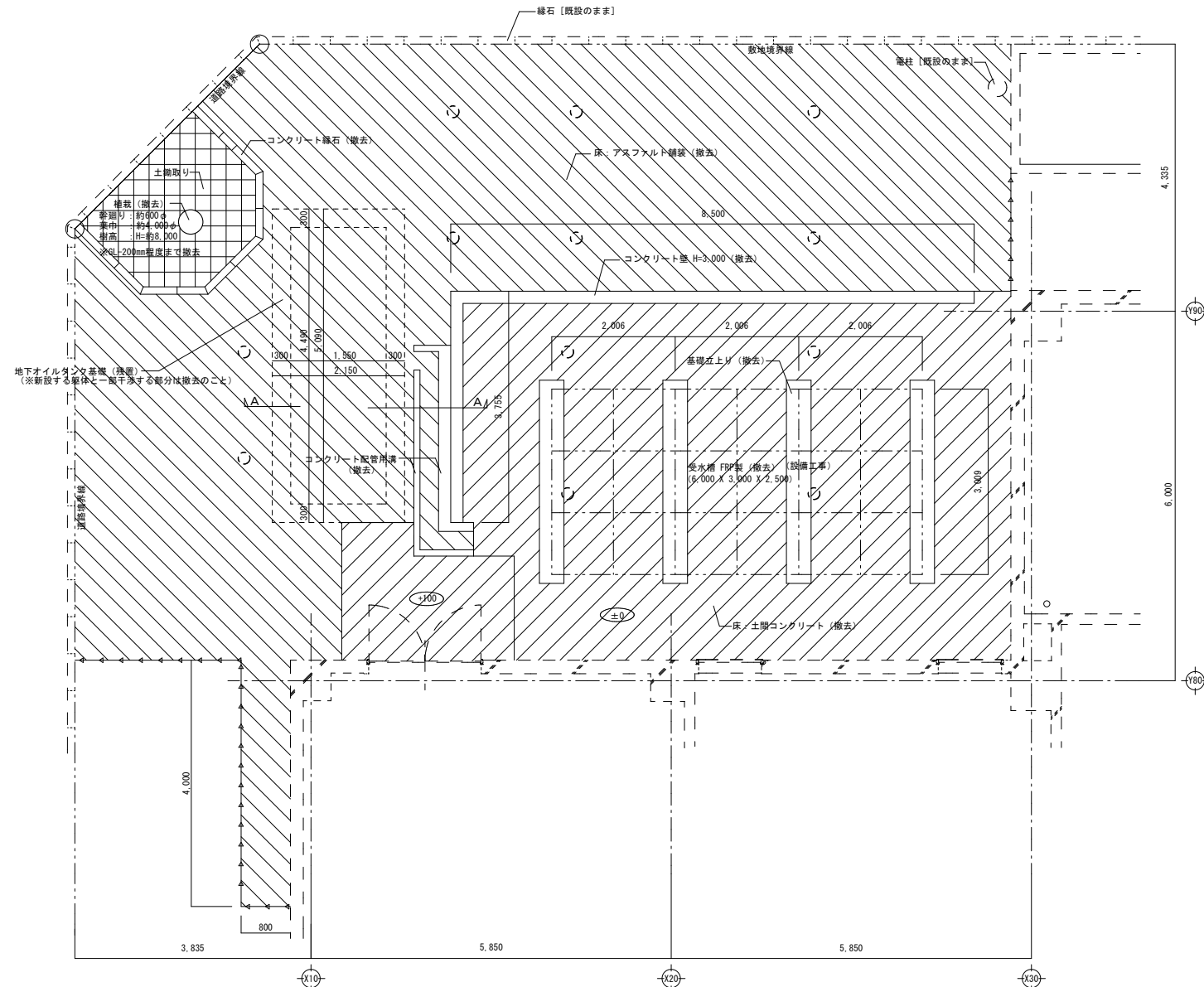
凡例

改修内容 ……〔改修〕部分仕上を示す。

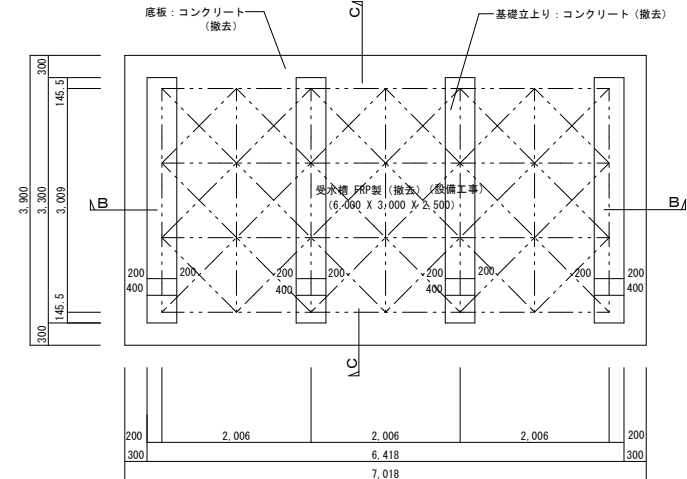
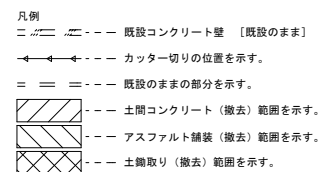
御注文先	三原市殿	御承認	記事	月 日	 中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	1級建築士事務所 登録23(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫	校閲		工事名称	中央公民館長寿命化改修工事（その1）建築主体工事	図面番号	A-39
				設計					設計年月日 2025. 03	図面名称	改修前・後 スカイライト（Ａ）（Ｂ）（Ｃ）改修詳細図	縮尺	1/50 1/10

A3 : 50% 縮小

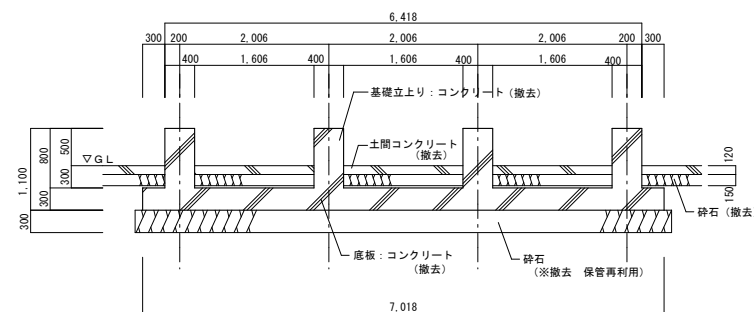




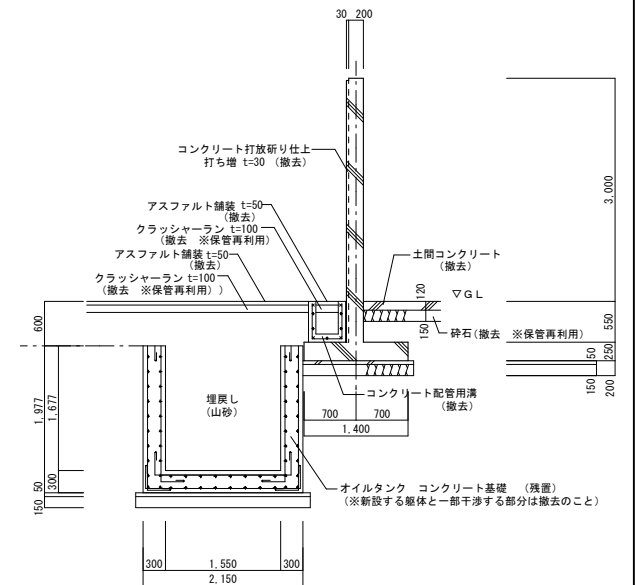
改修前 平面図 1/50



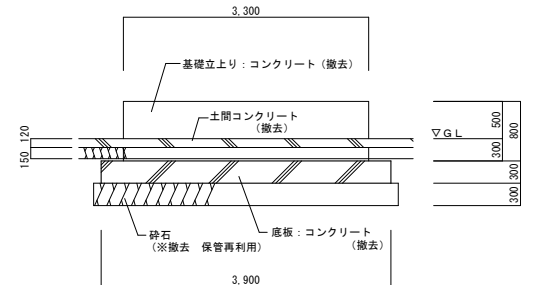
改修前 受水槽基礎平面詳細図 1/50



改修前 受水槽基礎 B ~ B 断面詳細図 1/50



改修前 A～Aコンクリート壁断面詳細図 1/50



改修前 受水槽基礎 C ~ C 断面詳細図 1/50

- ※ 計画敷地は土壌汚染対策法における「形質変更時要届出区域」（自然由来特例区域）に指定されている。汚染の拡散を防ぐための必要な措置を行うこと。（※広島県環境管理課と協議、届出を行うこと）
- ※ 発生土（汚染土）については、ガイドラインに沿って場内で保管して指定場所に運送を行うこと。場外処分はしない。
- ※ 土砂（汚染土）に接している既存コンクリートや既存アスファルト等の処分は、汚染し、汚染し処分すること。

御注文先	三原市殿	御承認	記事	月 日	 中電技術コンサルタント株式会社 1級建築士事務所 登録23(1)第1252号 1級建築士登録 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) 2501(55)501-8 第 293685 号 藤本 誠二	1級建築士事務所 登録23(1)第1252号 1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫	校閲	 藤本	工事名称	中央公民館長寿命化改修工事（その１）建築主体工事	図面番号	A-42
				設計				 坂本				

改修後 デッキ面平面図 1/50

改修後 D 部詳細図 1/10

改修後 フェンス基礎詳細図 1/2

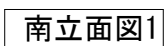
改修後 手摺取付部詳細図 1/10

改修後 メッシュフェンス外側立面図 1/50

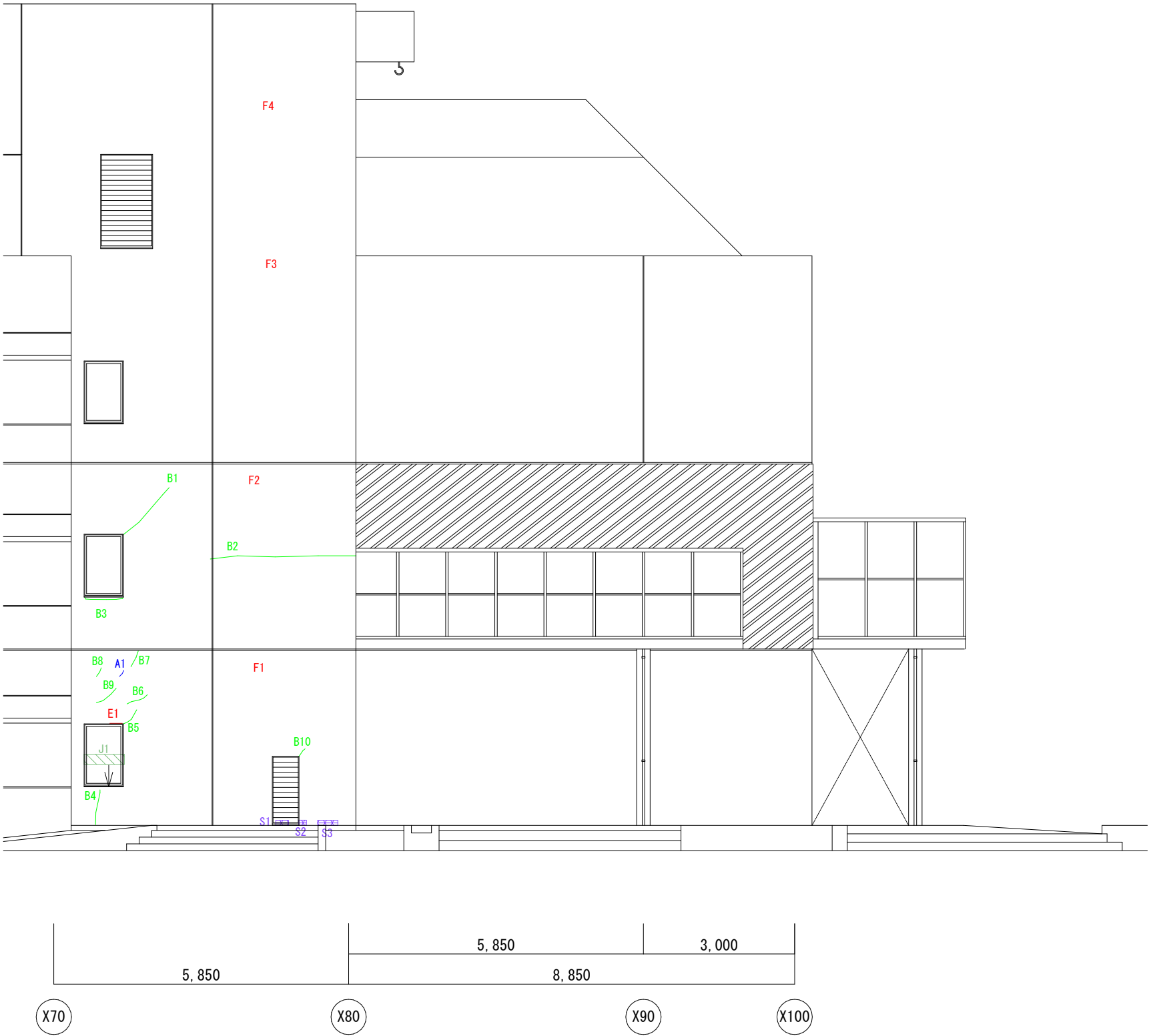
※劣化部の設計数量は調査数量×5倍を見込む
ただし、ひび割れ部の設計数量は調査数量×2倍を見込む

※外壁の地下調整材にはアスベストを含有している。
外壁改修には劣化部のアスベスト除去を見込む。

※外壁の下地調整材にはアスベストを含有している。
外壁改修には劣化部のアスベスト除去を見込む。



※A3 : 50% 縮小



凡 例		外壁改修工事 特記仕様書 (記号)
記 号	名 称	
A1	ひび割れ(幅0.2mm未満)	B-1、B-4
B1	ひび割れ(幅0.2mm以上～1.0mm未満)	
D1	ひび割れ(幅1.0mm以上)	
E1	鉄筋	
F1	鉄筋(箇所)	C-1
H1	鉄筋浮き(0.25mm未満)一般部	D-2
J1	鉄筋浮き(0.25mm未満)換幅部	D-2
M1	鉄筋浮き(0.25mm以上)換幅部	D-3
S1	欠損	E-1
V1	新りを伴う欠損	E-2

※劣化部の設計数量は調査数量×5倍を見込む。
ただし、ひび割れ部の設計数量は調査数量×2倍を見込む。

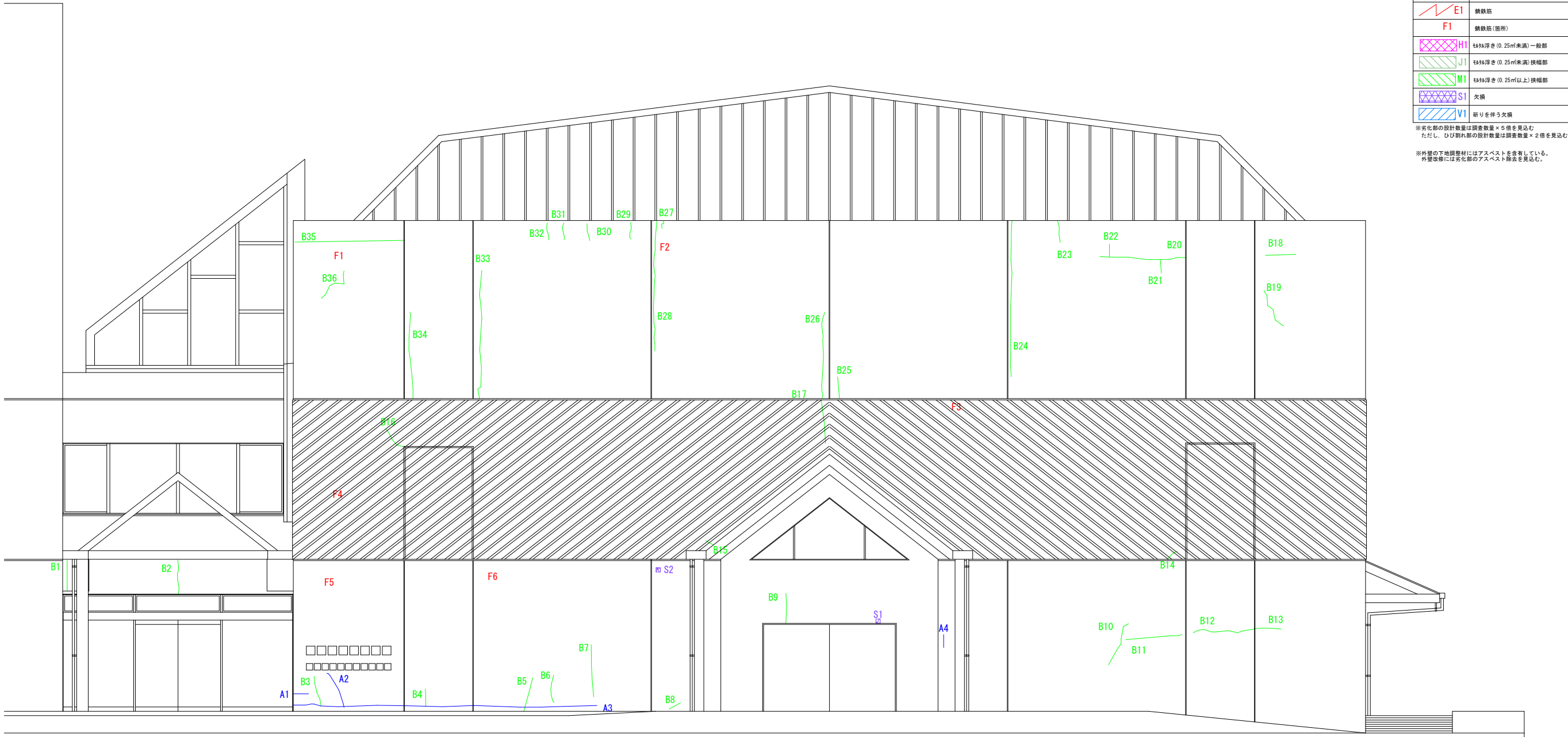
※外壁の下地調整材にはアスベストを含有している。
外壁改修には劣化部のアスベスト除去を見込む。

南立面図2

凡 例		外壁改修工事 特記仕様書 (記 号)
記 号	名 称	
A1	ひび割れ (幅0.2mm未満)	B-1、B-4
B1	ひび割れ (幅0.2mm以上～1.0mm未満)	
D1	ひび割れ (幅1.0mm以上)	
E1	錆鉄筋	C-1
F1	錆鉄筋 (箇所)	C-1
H1	砂かけ (0.25㎡未満) 一般部	D-2
J1	砂かけ (0.25㎡未満) 狭幅部	D-2
M1	砂かけ (0.25㎡以上) 狭幅部	D-3
S1	欠損	E-1
V1	断りを伴う欠損	E-2

※劣化部の設計数量は調査数量×5倍を見込む
ただし、ひび割れ部の設計数量は調査数量×2倍を見込む

※外壁の下地固着材にはアスベストを含有している。
外壁改修には劣化部のアスベスト除去を見込む。



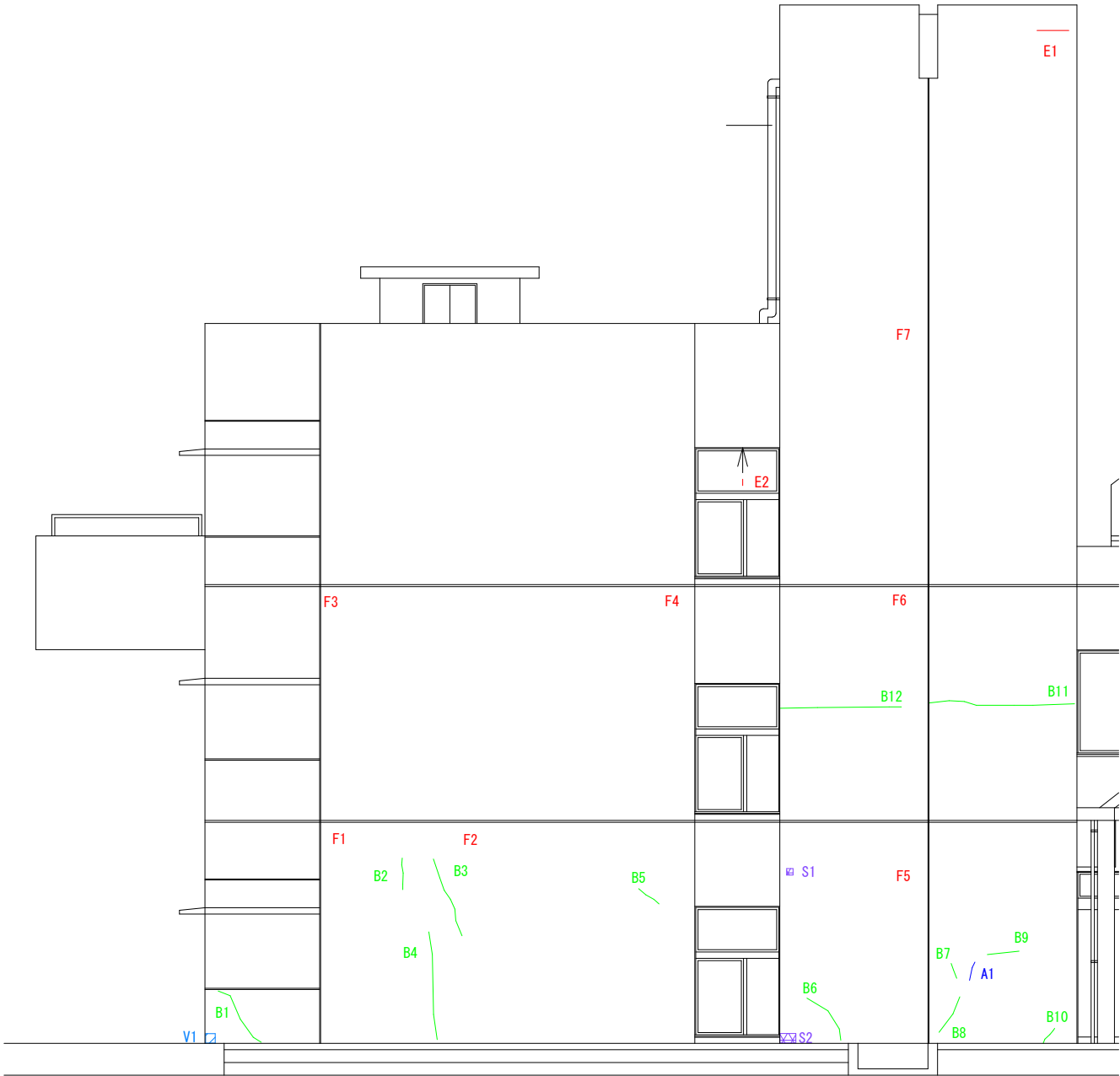
東立面図1

※A3 : 50%縮小

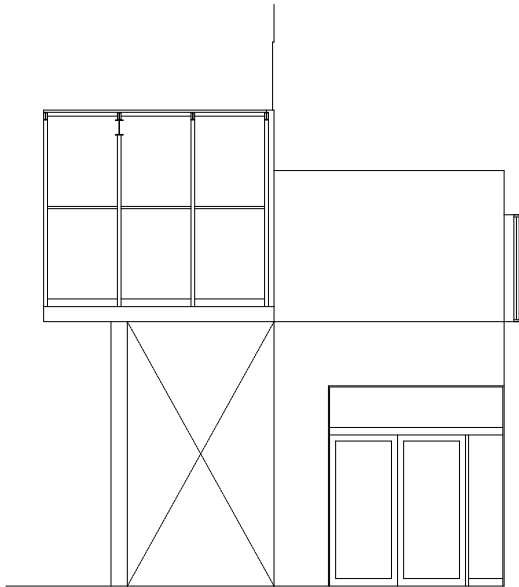
凡 例		外壁改修工事 特記仕様書 (記 号)
記 号	名 称	
 A1	ひび割れ (幅0.2mm未満)	B-1、B-4
 B1	ひび割れ (幅0.2mm以上～1.0mm未満)	
 D1	ひび割れ (幅1.0mm以上)	
 E1	鉄鉄筋	
 F1	鉄鉄筋 (箇所)	C-1
 H1	鉄鉄浮き (0.25㎡未満) 一般部	D-2
 J1	鉄鉄浮き (0.25㎡未満) 接幅部	D-2
 M1	鉄鉄浮き (0.25㎡以上) 接幅部	D-3
 S1	欠損	E-1
 V1	断りを伴う欠損	E-2

※劣化部の設計数量は調査数量×5倍を見込む。
ただし、ひび割れ部の設計数量は調査数量×2倍を見込む。

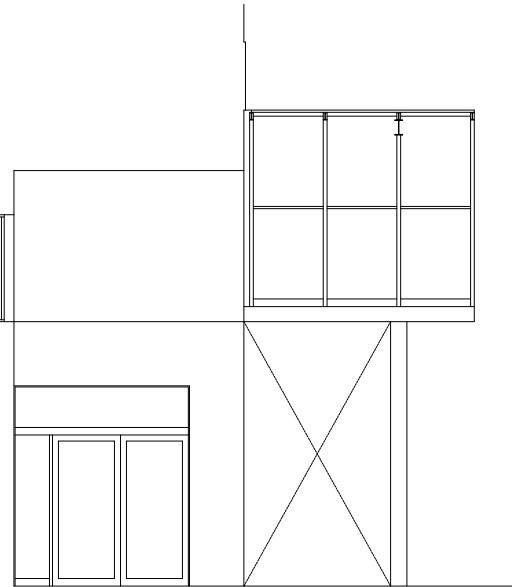
※外壁の下地調整材にはアスベストを含有している。
外壁改修には劣化部のアスベスト除去を見込む。



東立面図2



【Y70通】



【Y70通】

東展開図1

御注文先	三原市殿	御承認		記事	月 日	 中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	1級建築士事務所 登録23(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫	校閲 		工事名称 中央公民館長寿命化改修工事（その1）建築主体工事	図面番号 A-47
					設計 				設計年月日 2025. 03	図面名称 東立面図2・東展開図1（外壁劣化部 参考図）		
					．．．							

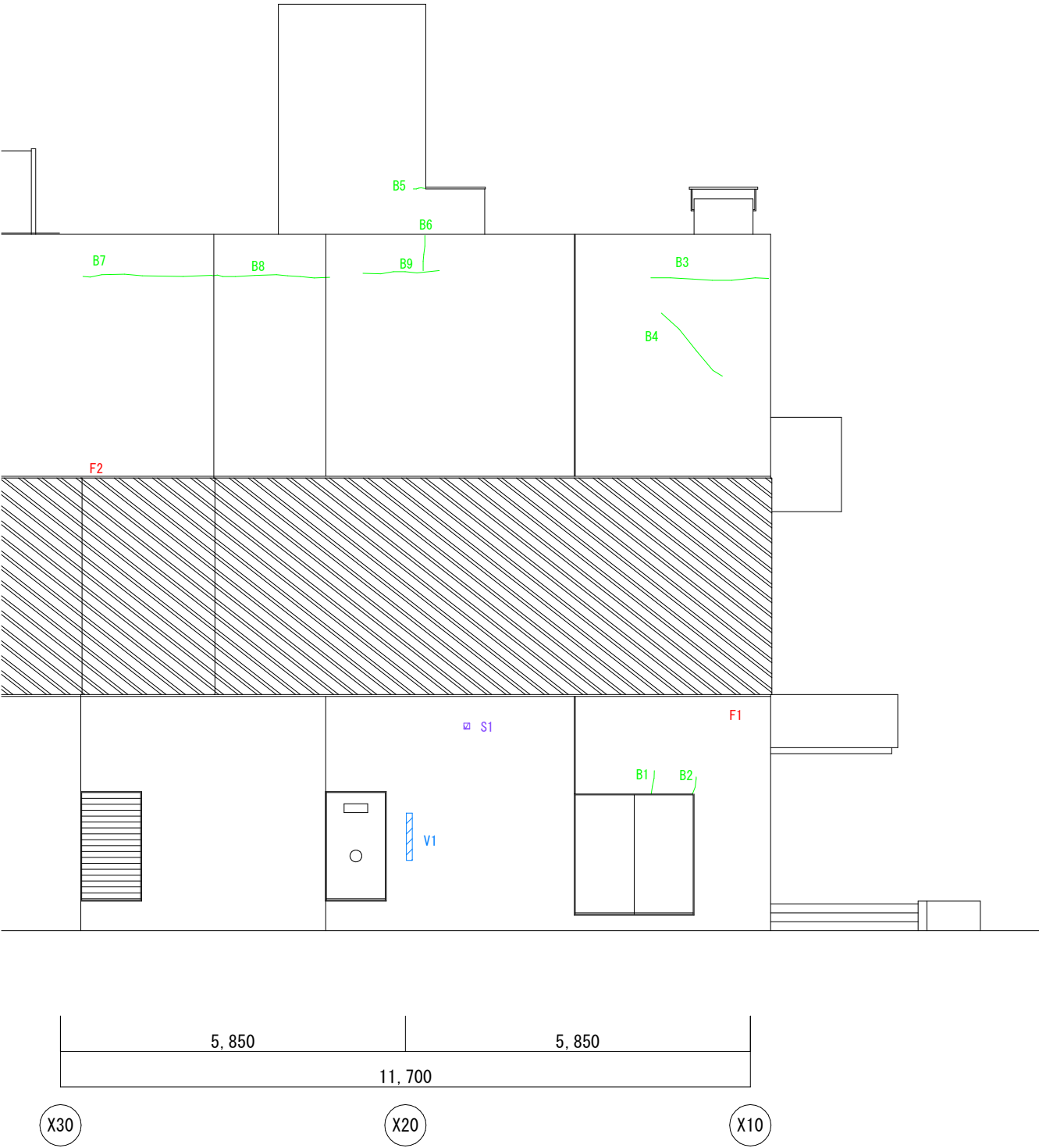
※A3：50%縮小

※外壁の下地調整材にはアスベストを含有している。
外壁改修には劣化部のアスベスト除去を見込む。



北立面图1

※A3 : 50% 縮小

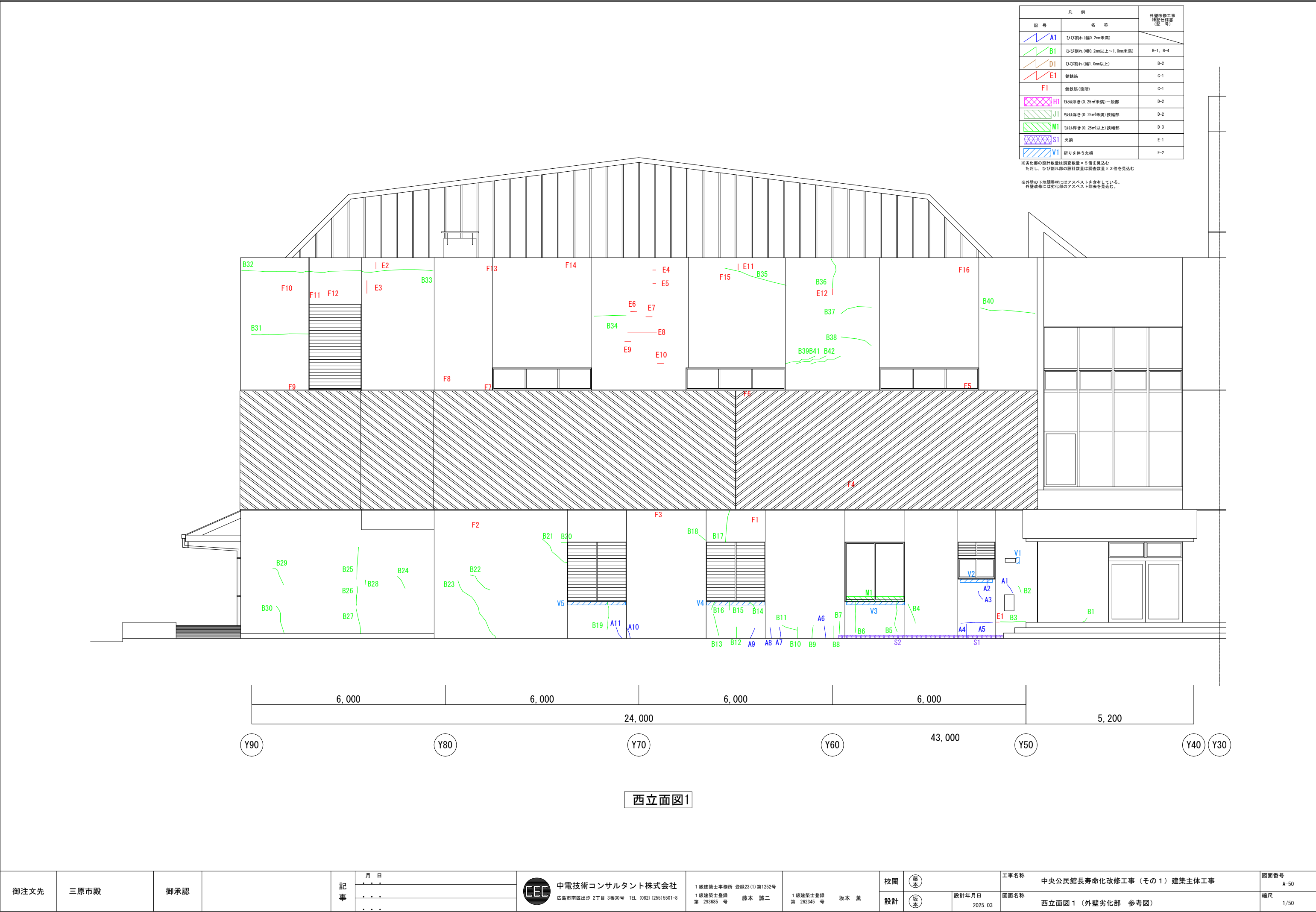


北立面図2

凡 例		外壁改修工事 対応仕数量 (記 号)
記 号	名 称	
A1	ひび割れ(幅0.2mm未満)	B-1、B-4
B1	ひび割れ(幅0.2mm以上～1.0mm未満)	
D1	ひび割れ(幅1.0mm以上)	
E1	錆鉄筋	
F1	錆鉄筋(箇所)	C-1
H1	珪砂浮き(0.25㎡未満)一般部	D-2
J1	珪砂浮き(0.25㎡未満)換幅部	D-2
M1	珪砂浮き(0.25㎡以上)換幅部	D-3
S1	欠損	E-1
V1	研りを伴う欠損	E-2

※劣化部の設計数量は調査数量×5倍を見込む
ただし、ひび割れ部の設計数量は調査数量×2倍を見込む

※外壁の下地隠蔽材にはアスベストを含有している。
外壁改修には劣化部のアスベスト除去を見込む。



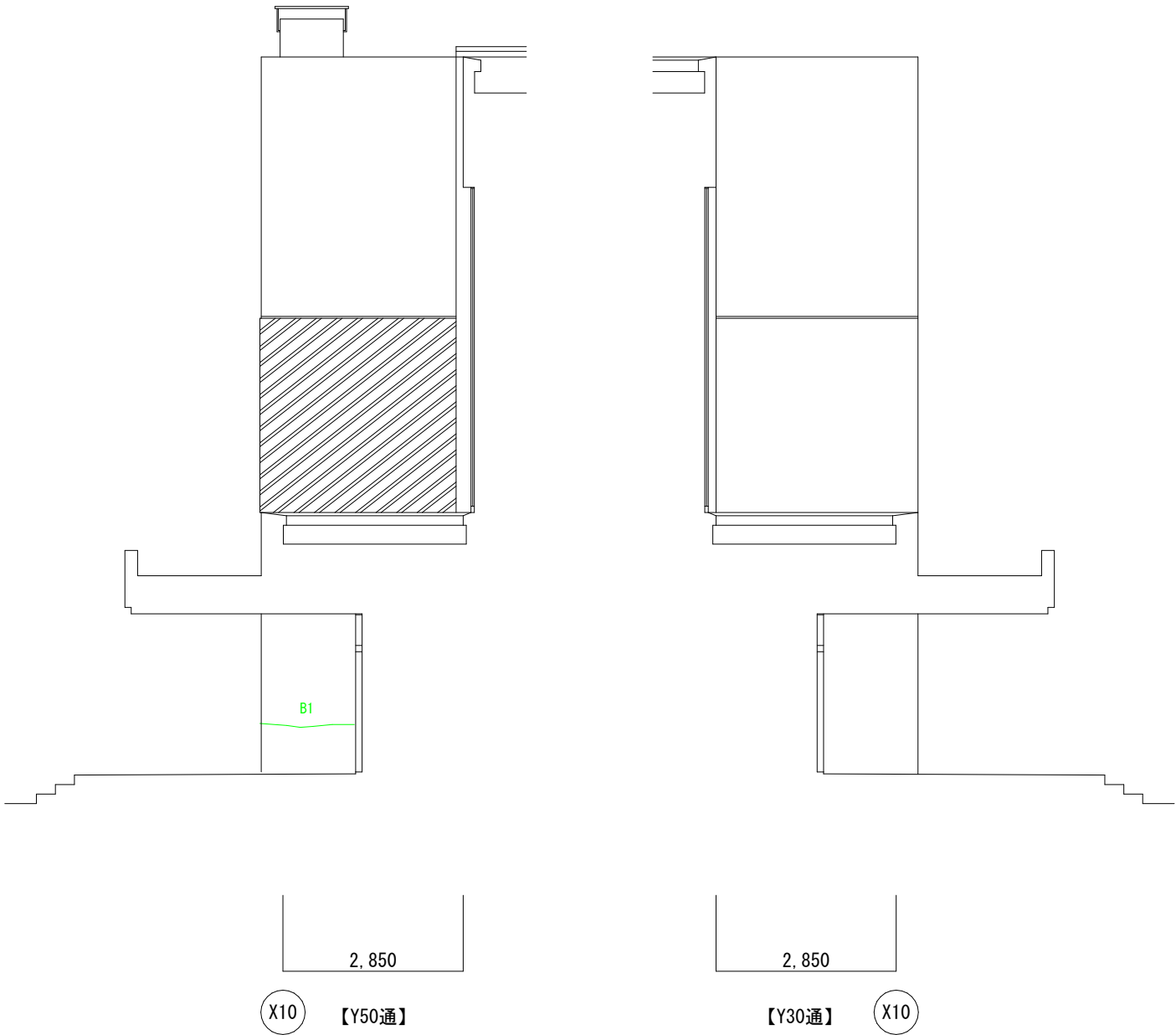
凡 例		外壁改修工事 特記仕様書 (記 号)
記 号	名 称	
 A1	ひび割れ (幅0.2mm未満)	B-1、B-4
 B1	ひび割れ (幅0.2mm以上～1.0mm未満)	
 D1	ひび割れ (幅1.0mm以上)	B-2
 E1	錆鉄筋	C-1
 F1	錆鉄筋 (箇所)	C-1
 H1	砂かけ (0.25㎡未満) 一般部	D-2
 J1	砂かけ (0.25㎡未満) 狭幅部	D-2
 M1	砂かけ (0.25㎡以上) 狭幅部	D-3
 S1	欠損	E-1
 V1	雨りを伴う欠損	E-2

※劣化部の設計数量は調査数量×5倍を見込む。
ただし、ひび割れ部の設計数量は調査数量×2倍を見込む。

※外壁の下地調整材にはアスベストを含有している。
外壁改修には劣化部のアスベスト除去を見込む。



西立面図2



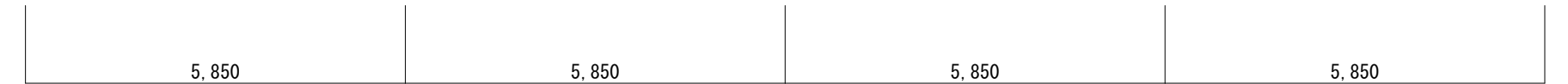
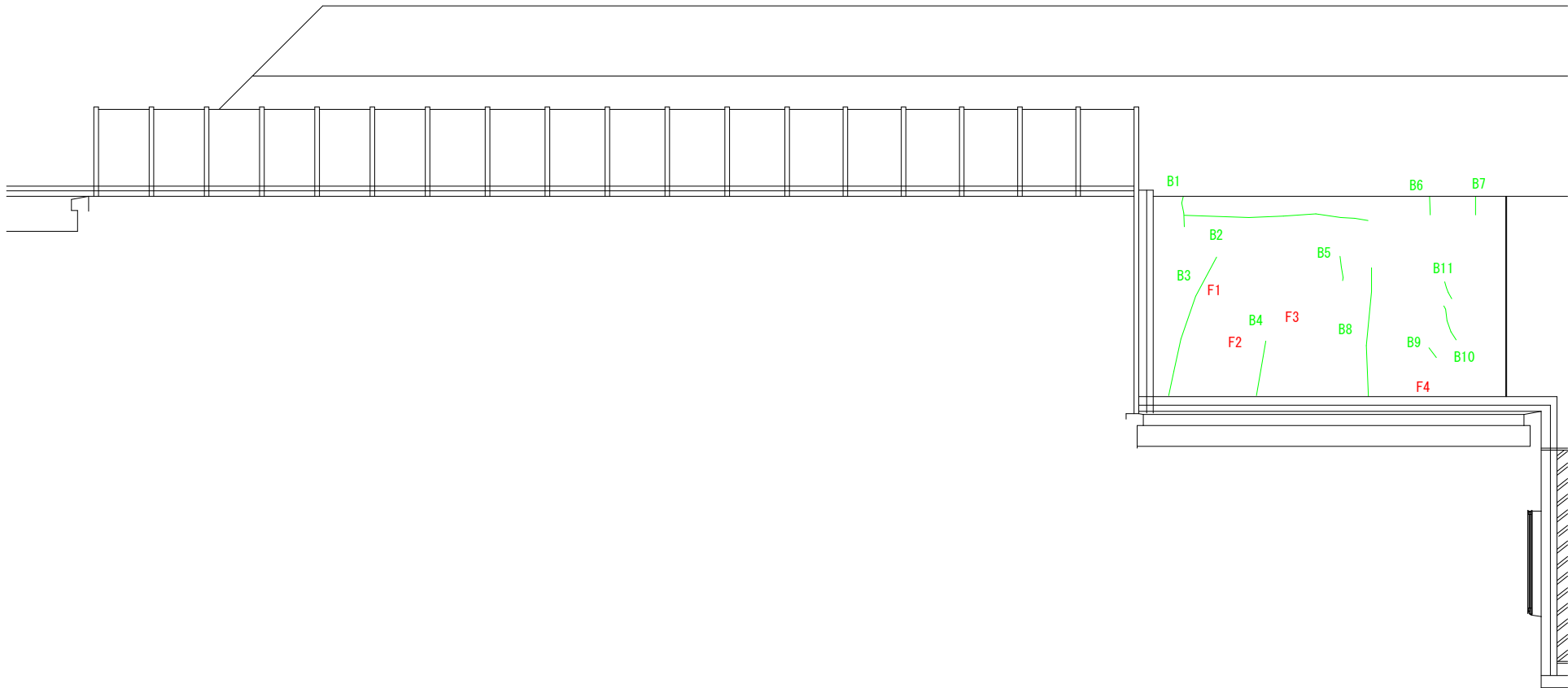
西展開図1

御注文先	三原市殿	御承認	記事	月 日	 中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	1級建築士事務所 登録23(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫	校閲 	工事名称 中央公民館長寿命化改修工事（その1）建築主体工事	図面番号 A-51
				・ ・ ・		設計 	設計年月日 2025. 03	図面名称 西立面図2・西展開図1（外壁劣化部 参考図）	縮尺 1/50	

凡 例		外壁改修工事 特記仕様書 (記 号)
記 号	名 称	
 A1	ひび割れ(幅0.2mm未満)	B-1、B-4
 B1	ひび割れ(幅0.2mm以上～1.0mm未満)	
 D1	ひび割れ(幅1.0mm以上)	
 E1	鉄筋筋	C-1
 F1	鉄筋筋(箇所)	C-1
 H1	モルタル浮き(0.25㎡未満)一般部	D-2
 J1	モルタル浮き(0.25㎡未満)換幅部	D-2
 M1	モルタル浮き(0.25㎡以上)換幅部	D-3
 S1	欠損	E-1
 V1	新りを伴う欠損	E-2

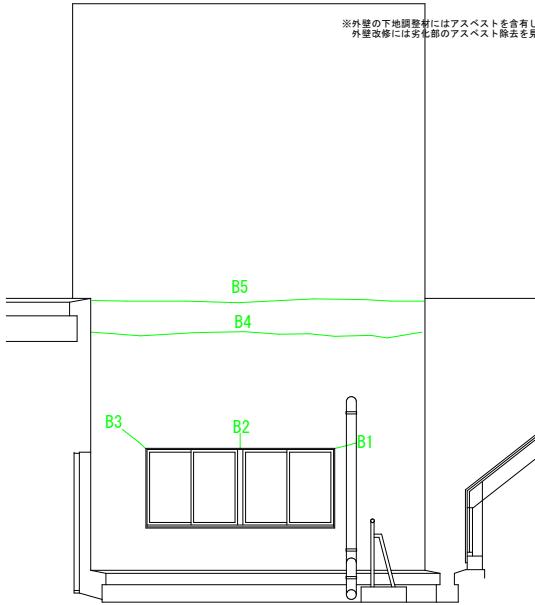
※劣化部の設計数量は調査数量×5倍を見込む
ただし、ひび割れ部の設計数量は調査数量×2倍を見込む

※外壁の下地調整時にはアスベストを含有している。
外壁改修には劣化部のアスベスト除去を見込む。



【Y50通】

南展開図1

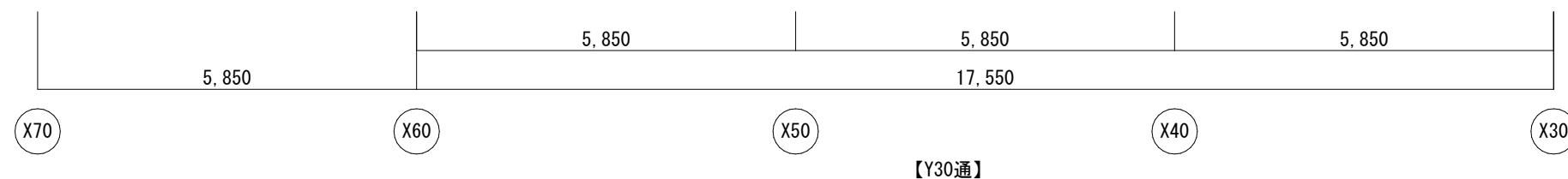


【X40通】

東展開図2

御注文先	三原市殿	御承認		記事	月 日	 中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	1級建築士事務所 登録23(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫	校閲 		工事名称 中央公民館長寿命化改修工事（その1）建築主体工事	図面番号 A-52		
					月 日				設計 	設計年月日 2025. 03			図面名称 南展開図 1・東展開図 2（外壁劣化部 参考図）	縮尺 1/50
					月 日									

※A3：50%縮小



800 4,200

Y40 Y30

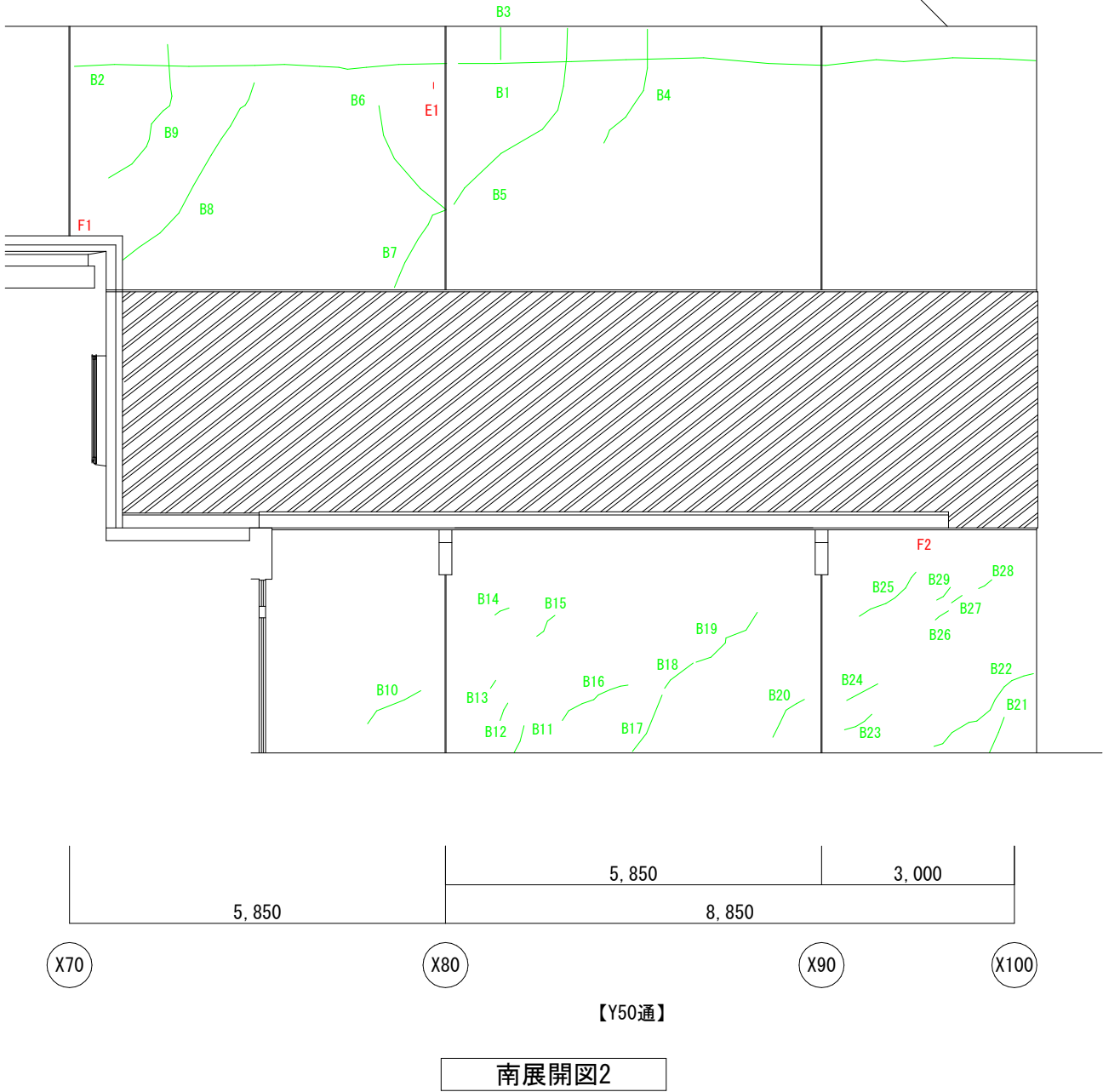
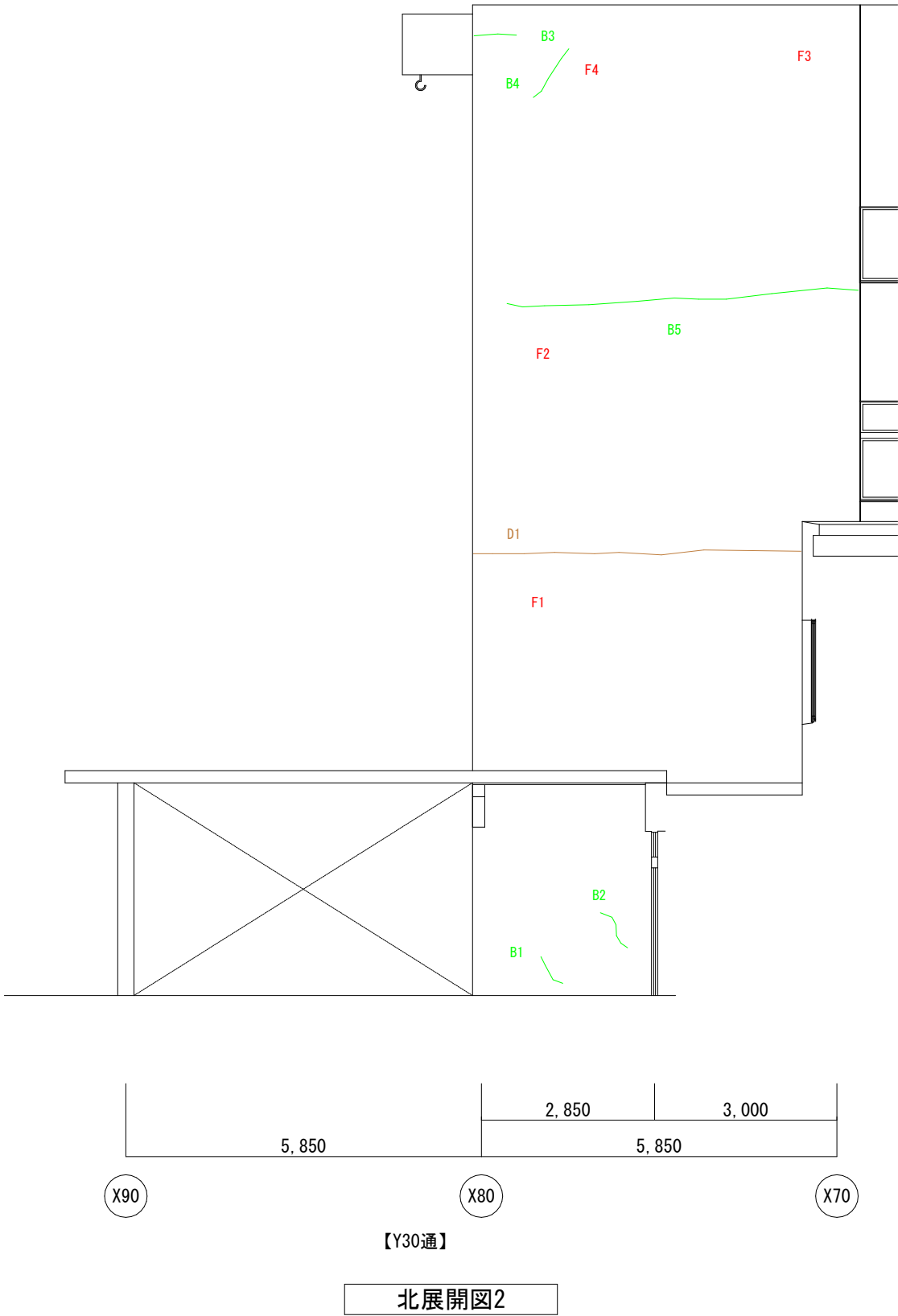
【X60通】

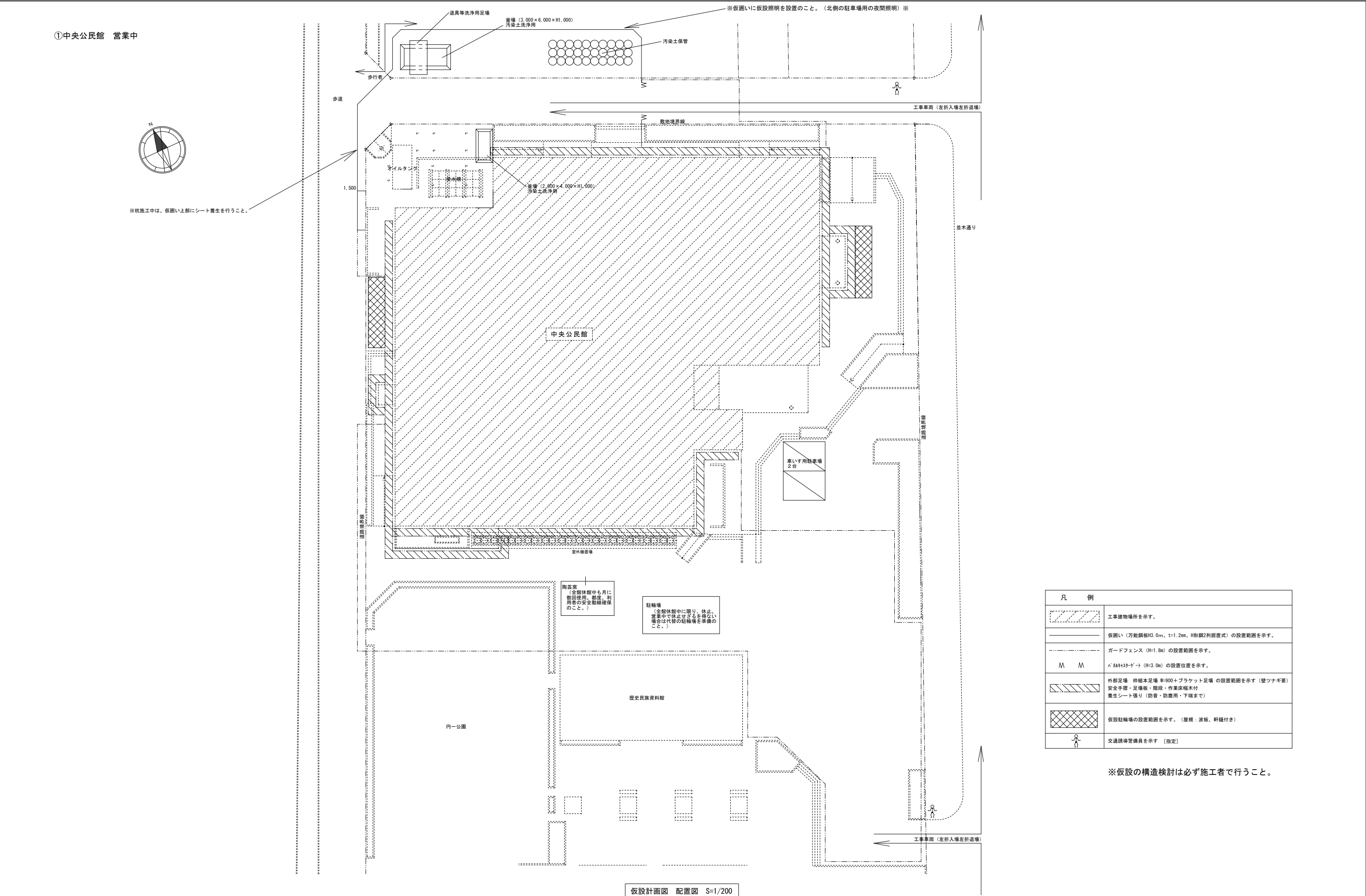
西展開図2

凡 例		外壁改修工事 特記仕様書 (記 号)
記 号	名 称	
 A1	ひび割れ (幅0.2mm未満)	B-1、B-4
 B1	ひび割れ (幅0.2mm以上～1.0mm未満)	
 D1	ひび割れ (幅1.0mm以上)	B-2
 E1	錆鉄筋	C-1
 F1	錆鉄筋 (箇所)	C-1
 H1	外壁浮き (0.25㎡未満) 一般部	D-2
 J1	外壁浮き (0.25㎡未満) 狭幅部	D-2
 M1	外壁浮き (0.25㎡以上) 狭幅部	D-3
 S1	欠損	E-1
 V1	新りを伴う欠損	E-2

※劣化部の設計数量は調査数量×5倍を見込む。
ただし、ひび割れ部の設計数量は調査数量×2倍を見込む。

※外壁の下部調書材にはアスベストを含有している。
外壁改修には劣化部のアスベスト除去を見込む。





凡 例	
	工事建物場所を示す。
	仮囲い（万能鋼板H3.0m、t=1.2mm、H形鋼2列据置式）の設置範囲を示す。
	ガードフェンス（H=1.8m）の設置範囲を示す。
	ハッシュガード（H=3.0m）の設置位置を示す。
	外部足場 枠組本足場 W=900+ブラケット足場 の設置範囲を示す（壁ツナギ要） 安全手摺・足場板・階段・作業床幅木付 養生シート張り（防音・防塵用・下端まで）
	仮設駐輪場の設置範囲を示す。（屋根：波板、軒樋付き）
	交通誘導警備員を示す [指定]

※仮設の構造検討は必ず施工者で行うこと。

御注文先	三原市殿	御承認	記事	月 日	 中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	1級建築士事務所 登録23 (1) 第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫	校閲 		工事名称	中央公民館長寿命化改修工事（その1）建築主体工事	図面番号	A-55-1		
									設計 	設計年月日	2025. 03	図面名称	仮設計画図ー 1ー 1 配置図	縮尺	1/200

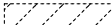
Site plan of the National Museum of Ethnology, showing the main building, parking lots, and surrounding areas. The plan includes labels for various facilities and their dimensions.

Facilities and Dimensions:

- 中央公民館 (Central Community Hall)
- 釜場 (3,000 × 6,000 × H1,000) 汚染土洗浄用 (Pottery field for soil cleaning)
- 釜場 (2,600 × 4,000 × H1,000) 汚染土洗浄用 (Pottery field for soil cleaning)
- 陶器窯 (Pottery kiln) (全館休館中も月に数回使用。都度、利用者の安全動線確保のこと。)
- 駐輪場 (Bicycle parking area) (全館休館中に限り、休止。営業中で休止せざるを得ない場合は代替の駐輪場を準備のこと。)
- 歴史民族資料館 (History and Ethnology Museum)
- 円一公園 (Enichi Park)

Other Labels:

- 歩道 (Sidewalk)
- 歩行者 (Pedestrian)
- 汚染土保管 (Contaminated soil storage)
- 敷地境界線 (Site boundary line)
- 並木通り (Tree-lined street)
- 工事車両 (左折入場左折退場) (Construction vehicle (left turn entry, left turn exit))
- 工事車両出入不可 (No construction vehicle entry/exit)

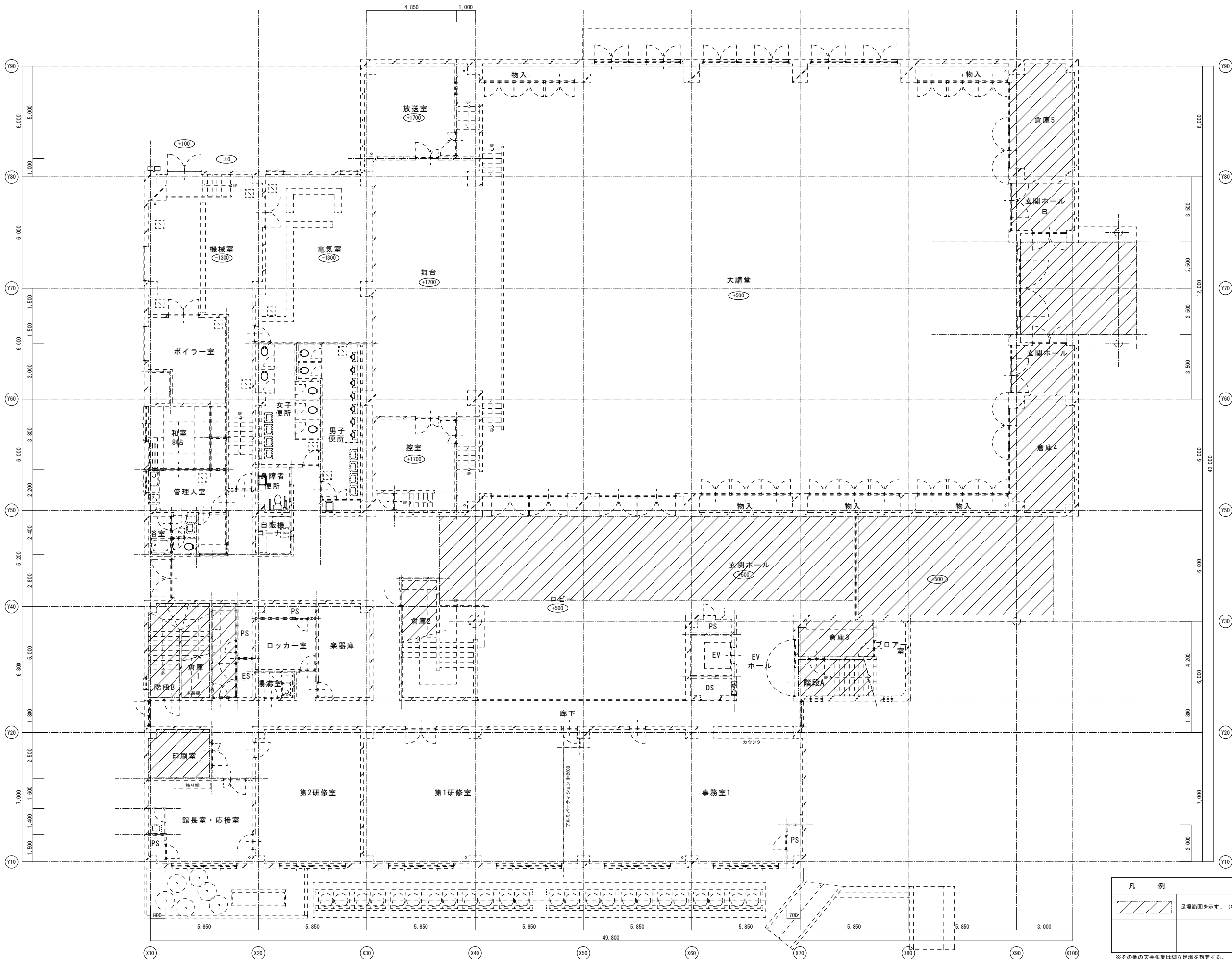
凡 例	
	工事建物場所を示す。
	仮囲い（万能鋼板H3.0m、t=1.2mm、H形鋼2列設置式）の設置範囲を示す。
	ガードフェンス（H=1.8m）の設置範囲を示す。
M M	ハザードゾーン（H=3.0m）の設置位置を示す。
	外部足場 枠組足場 W=900×プラケット足場 の設置範囲を示す（壁ツナギ要） 安全手摺・足場板・階段・作業床幅木付 養生シート張り（防音・防塵用・下塗りまで）
	
	交通誘導警備員を示す【指定】

※仮設の構造検討は必ず施工者で行うこと。

仮設計画図 配置図 S=1/200

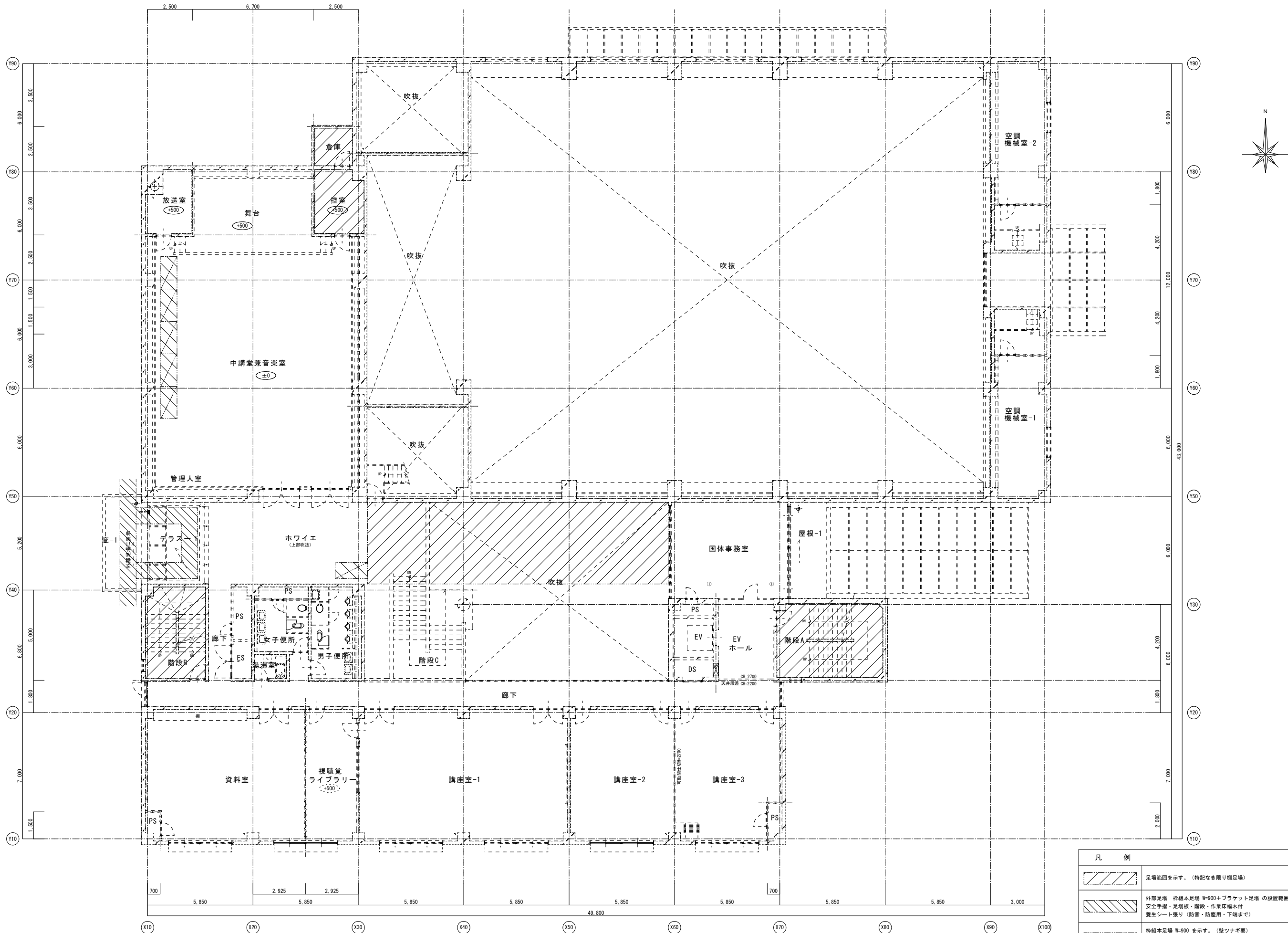
御注文先	三原市殿	御承認	記事	月 日	 中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL. (082) (255) 5501-8	1級建築士事務所 登録23(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二 1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫	校閲		工事名称 中央公民館長寿命化改修工事（その1）建築主体工事	図面番号 A-55-2	
				・ ・ ・							
				・ ・ ・							
				・ ・ ・			設計		設計年月日 2025. 03	図面名称 仮設計画図ー1-2 配置図	縮尺 1/200

※A3 : 50% 縮小



凡 例	
	足場範囲を示す。(特記なき限り棚足場)
※その他の天井作業は脚立足場を想定する。	

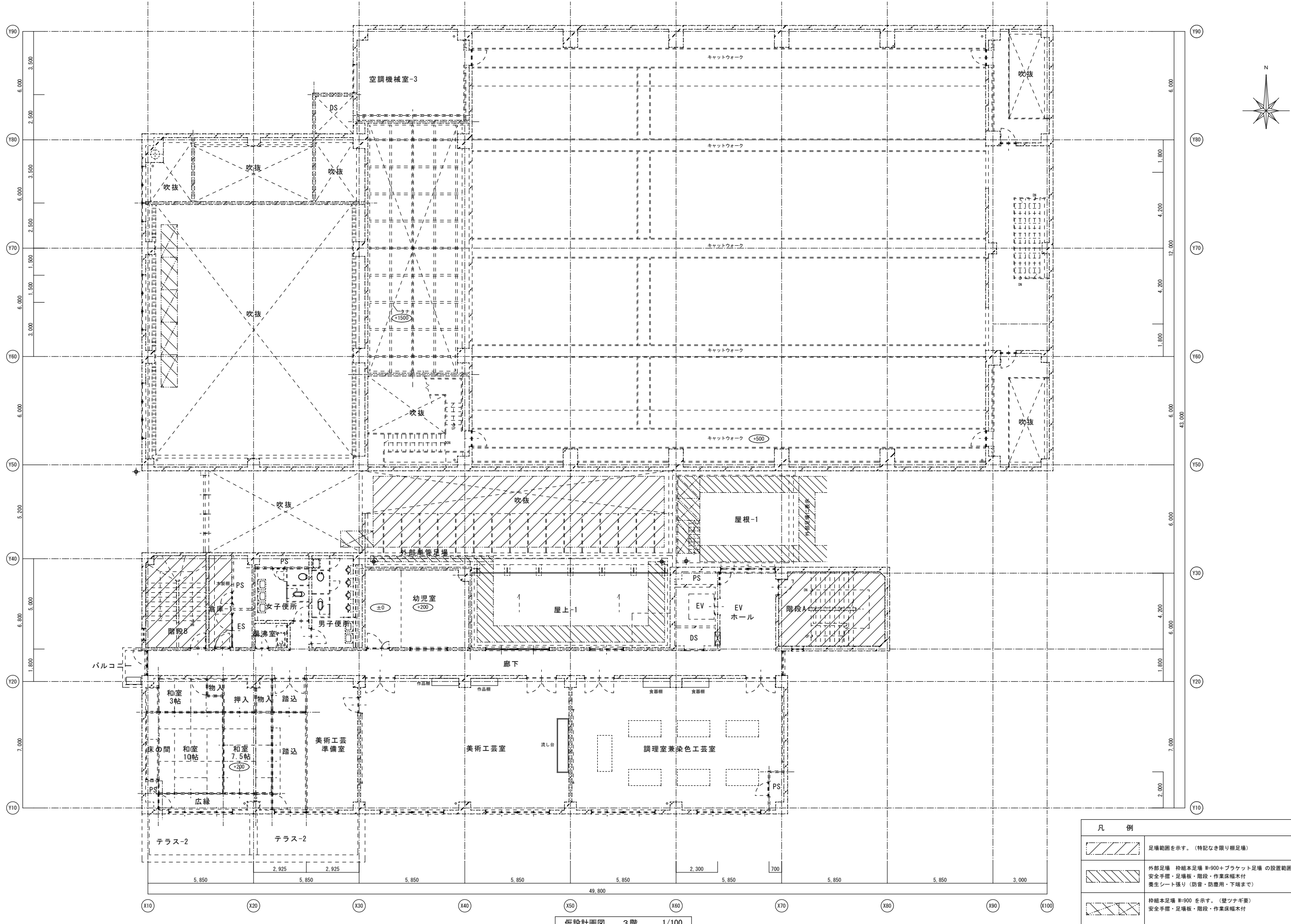
御注文先	三原市殿	御承認	記事	月 日 . . .	中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	1級建築士事務所 登録23(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫	校閲 藤本 設計 坂本	設計年月日 2025. 03	工事名称 中央公民館長寿命化改修工事（その1）建築主体工事 図面名称 仮設計画図ー2 1階平面図	図面番号 A-56 縮尺 1/100



凡 例	
	足場範囲を示す。(特記なき限り棚足場)
	外部足場 枠組本足場 W=900+ブラケット足場 の設置範囲を示す(壁ツナギ要) 安全手摺・足場板・階段・作業床幅木付 養生シート張り(防音・防塵用・下端まで)
	枠組本足場 W=900 を示す。(壁ツナギ要) 安全手摺・足場板・階段・作業床幅木付

※その他の天井作業は脚立足場を想定する。

御注文先	三原市殿	御承認		記事	月 日	 中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	1級建築士事務所 登録23(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫	校閲		工事名称	中央公民館長寿命化改修工事（その１）建築主体工事	図面番号	A-57
					設計						設計年月日		2025.03	

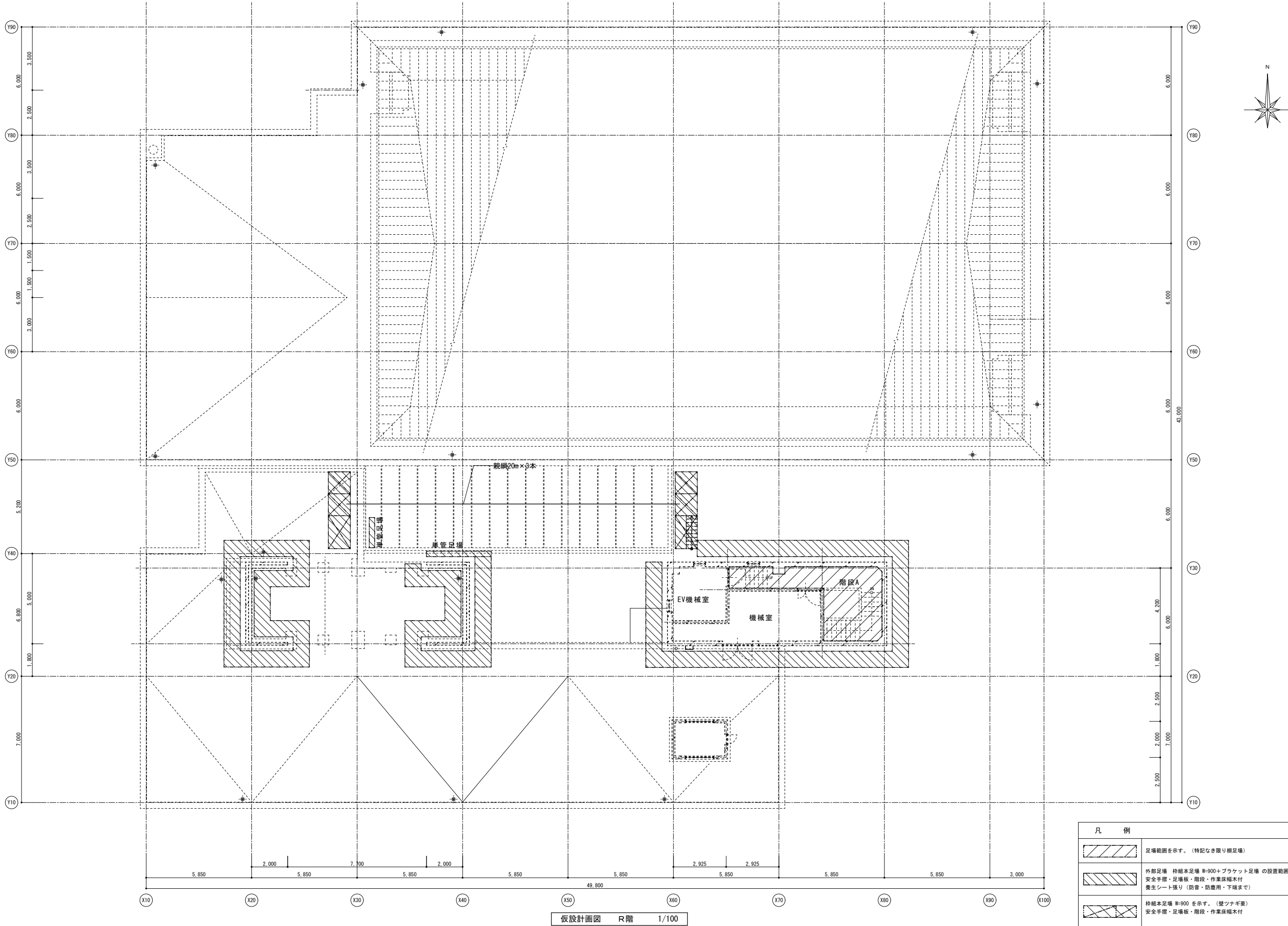


仮設計画図 3階 1/100

凡 例	
	足場範囲を示す。(特記なき限り欄足場)
	外部足場 枠組本足場 W=900+ブラケット足場 の設置範囲を示す(壁ツナギ要) 安全手摺・足場板・階段・作業床幅木付 養生シート張り(防音・防塵用・下端まで)
	枠組本足場 W=900 を示す。(壁ツナギ要) 安全手摺・足場板・階段・作業床幅木付
	縦網用足場 枠組本足場 W=1,200 を示す。(壁ツナギ要) 安全手摺・足場板・階段・作業床幅木付

※その他の天井作業は脚立足場を想定する。

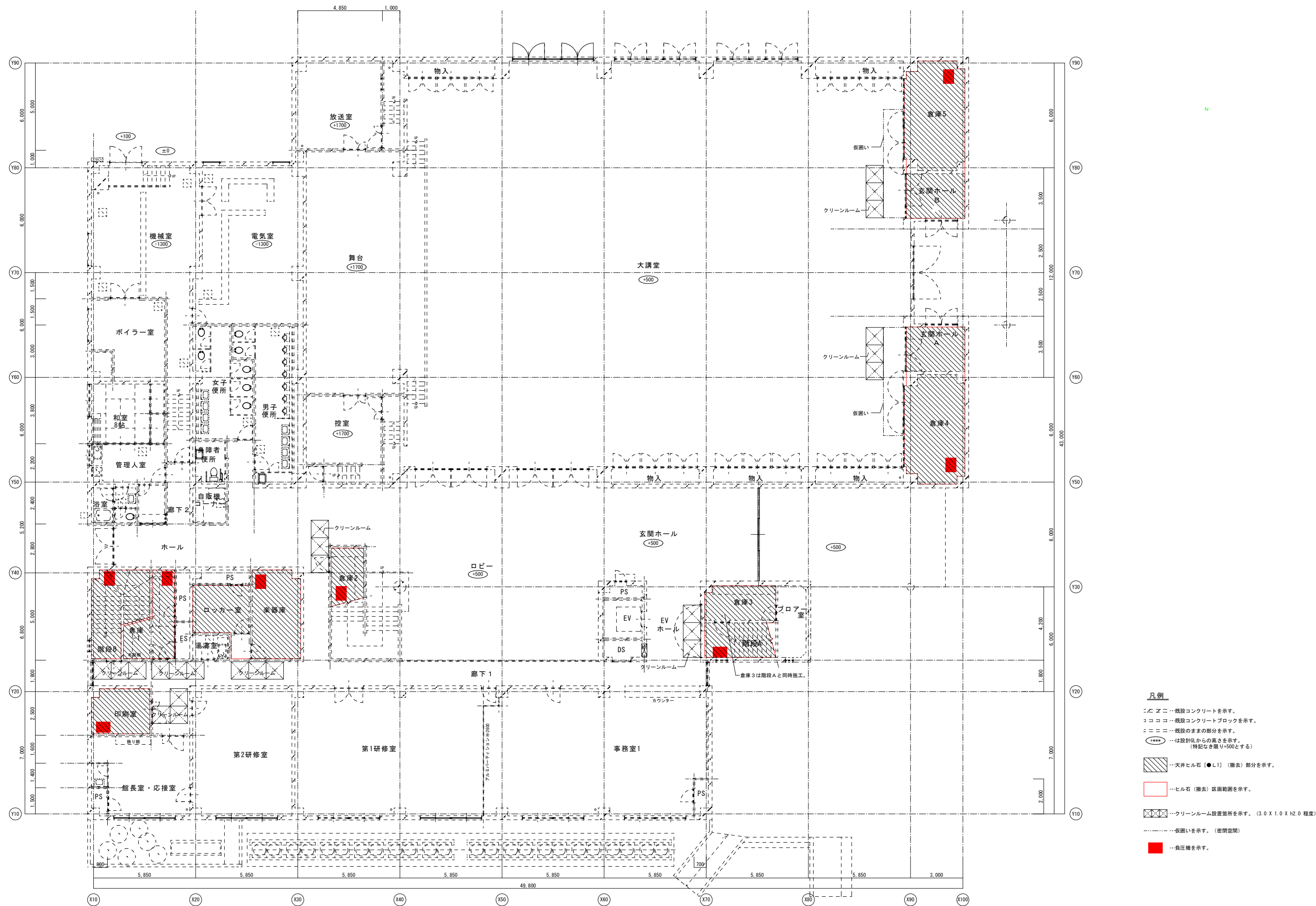
御注文先	三原市殿	御承認	記事	月 日	 中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	1級建築士事務所 登録23(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫	校閲		工事名称 中央公民館長寿命化改修工事（その1）建築主体工事	図面番号 A-58			
				設計										
								設計年月日 2025. 03				図面名称 仮設計画図ー4 3階平面図		
														縮尺 1/100



仮設計画図 R階 1/100

凡 例	
	足場範囲を示す。(特記なき限り棚足場)
	外部足場 枠組本足場 W=900+ブラケット足場 の設置範囲を示す (壁ツナギ要) 安全手摺・足場板・階段・作業床幅木付 養生シート張り (防音・防塵用・下端まで)
	枠組本足場 W=900 を示す。(壁ツナギ要) 安全手摺・足場板・階段・作業床幅木付
	観網用足場 枠組本足場 W=1,200 を示す。(壁ツナギ要) 安全手摺・足場板・階段・作業床幅木付

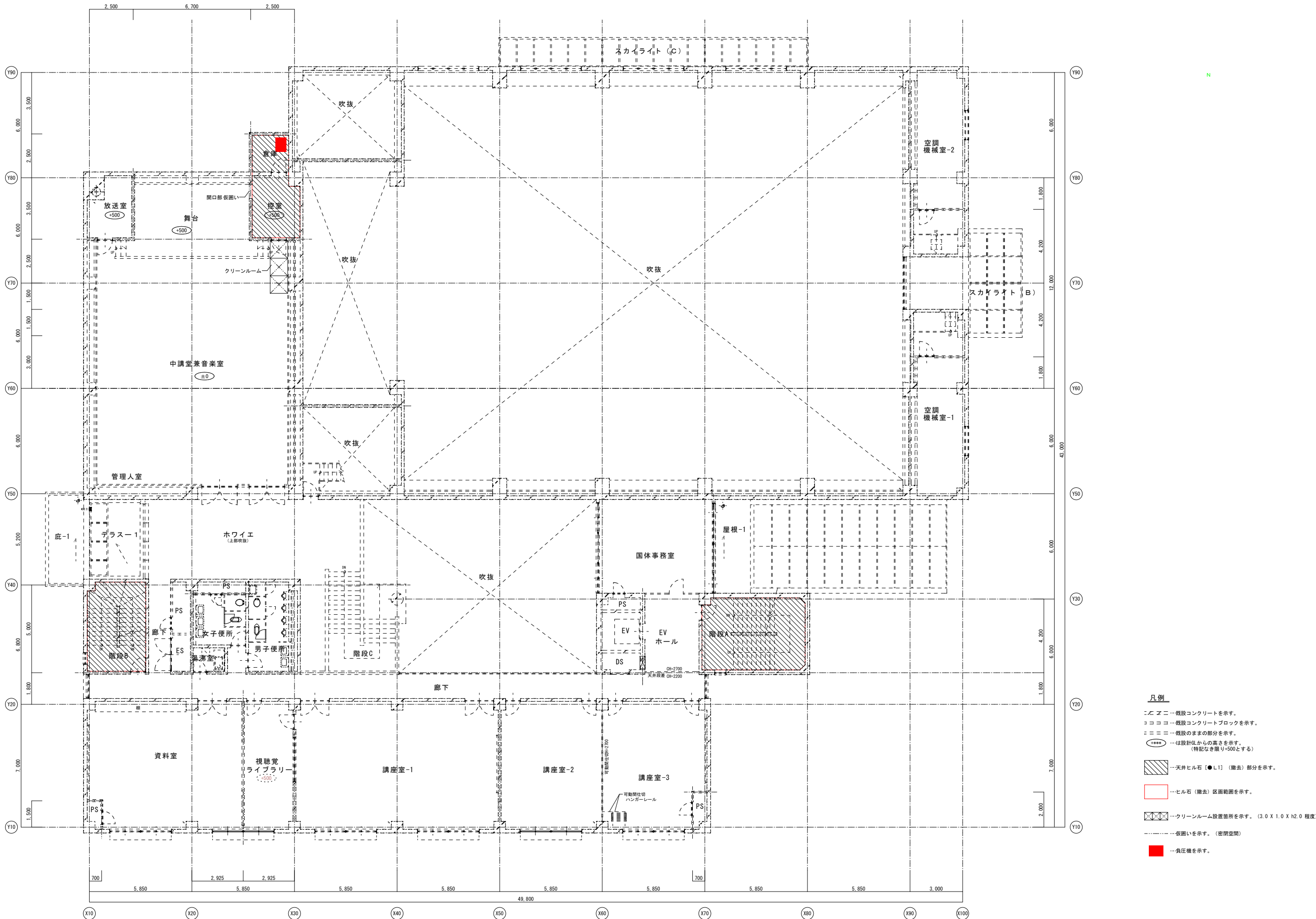
御注文先	三原市殿	御承認	記 事	月 日 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	1級建築士事務所 登録23(1) 第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫	校 関	設計	校 関	設計	工事名称	図面名称	図面番号
								校 関	設計	校 関	設計	中央公民館長寿命化改修工事 (その1) 建築主体工事	仮設計画図ー5 R階平面図	A-59



凡例

- 既設コンクリートを示す。
- 既設コンクリートブロックを示す。
- 既設のままの部分を示す。
- は設計GLからの高さを示す。
(特記なき限り+500とする)
- 天井ヒル石【●L1】(撤去)部分を示す。
- ヒル石(撤去)区画範囲を示す。
- クリーンルーム設置箇所を示す。(3.0 X 1.0 X h2.0 程度)
- 仮囲いを示す。(密閉空間)
- 負圧機を示す。

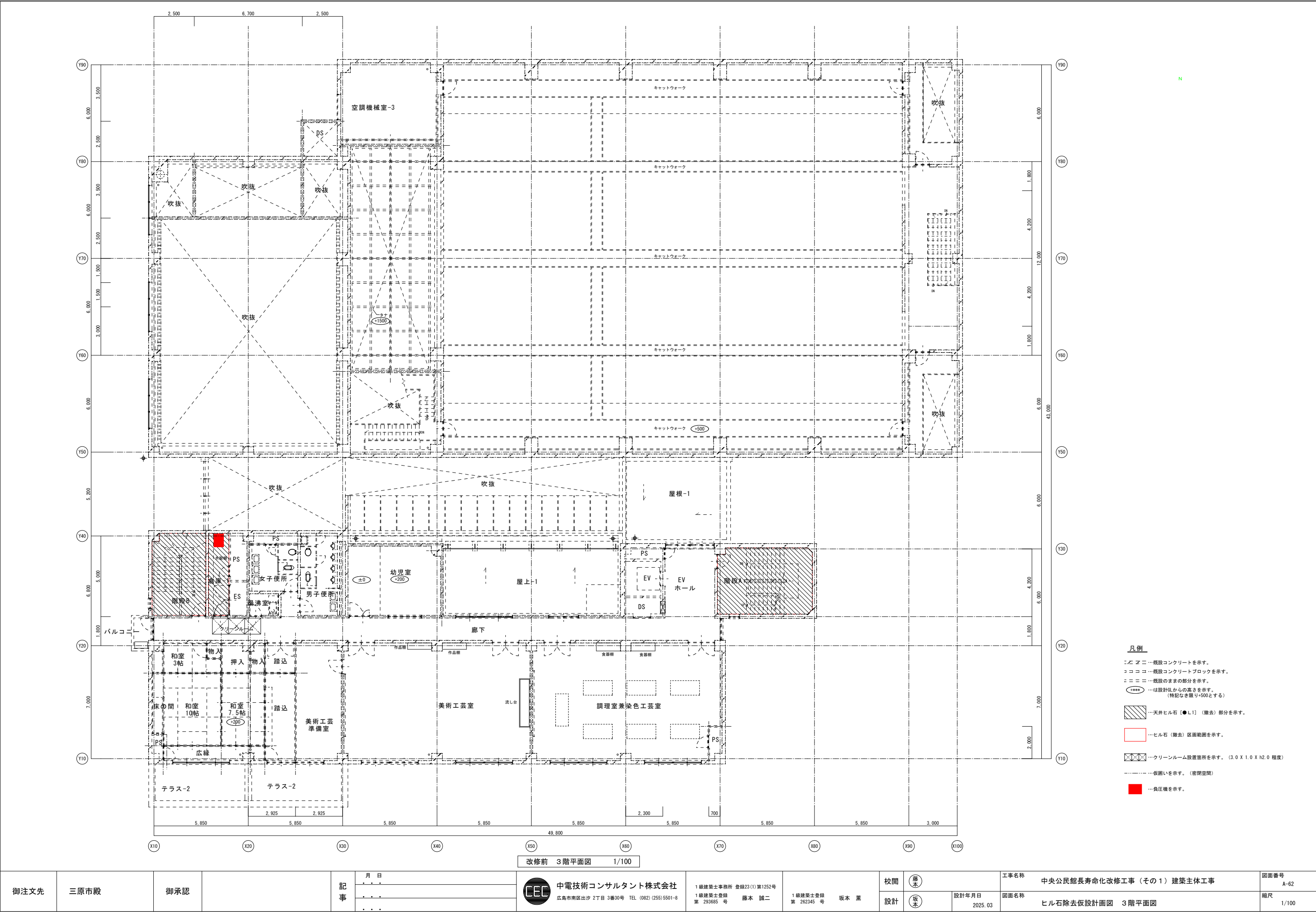
御注文先	三原市殿	御承認	記事	月 日	 中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	1級建築士事務所 登録23(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫	校閲		工事名称 中央公民館長寿命化改修工事 (その1) 建築主体工事	図面番号 A-60	
				設計				設計年月日 2025. 03	図面名称 ヒル石除去仮設計図面 1階平面図			縮尺 1/100



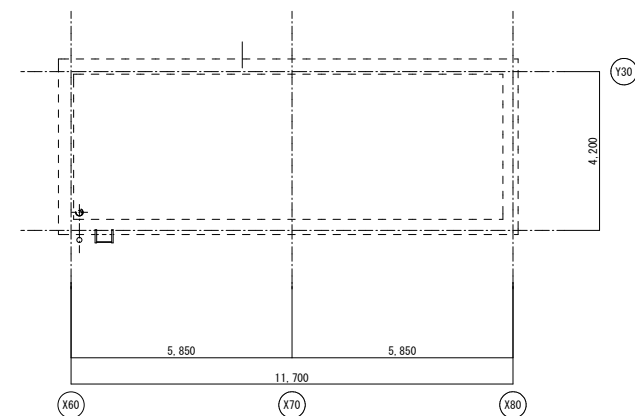
- 凡例**
- 既設コンクリートを示す。
 - コ コ コ --- 既設コンクリートブロックを示す。
 - ニ ニ ニ --- 既設のままの部分を示す。
 - ***** --- は設計GLからの高さを示す。(特記なき限り+500とする)
 - 天井ヒル石【●L1】(撤去)部分を示す。
 - ヒル石(撤去)区画範囲を示す。
 - クリーンルーム設置箇所を示す。(3.0 X 1.0 X h2.0 程度)
 - 仮囲いを示す。(密閉空間)
 - 負圧機を示す。

改修前 2階平面図 1/100

御注文先	三原市殿	御承認	記事	月 日	 中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	1級建築士事務所 登録23(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫	校閲		工事名称 中央公民館長寿命化改修工事 (その1) 建築主体工事	図面番号 A-61		
				藤本									
				設計				坂本	設計年月日 2025. 03			図面名称 ヒル石除去仮設計画図 2階平面図	縮尺 1/100



御注文先	三原市殿	御承認	記事	月 日 . . .	中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	1級建築士事務所 登録23(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫	校閲 藤本	設計 坂本	設計年月日 2025. 03	工事名称 中央公民館長寿命化改修工事 (その1) 建築主体工事	図面番号 A-62
											図面名称 ヒル石除去仮設計画図 3階平面図	縮尺 1/100

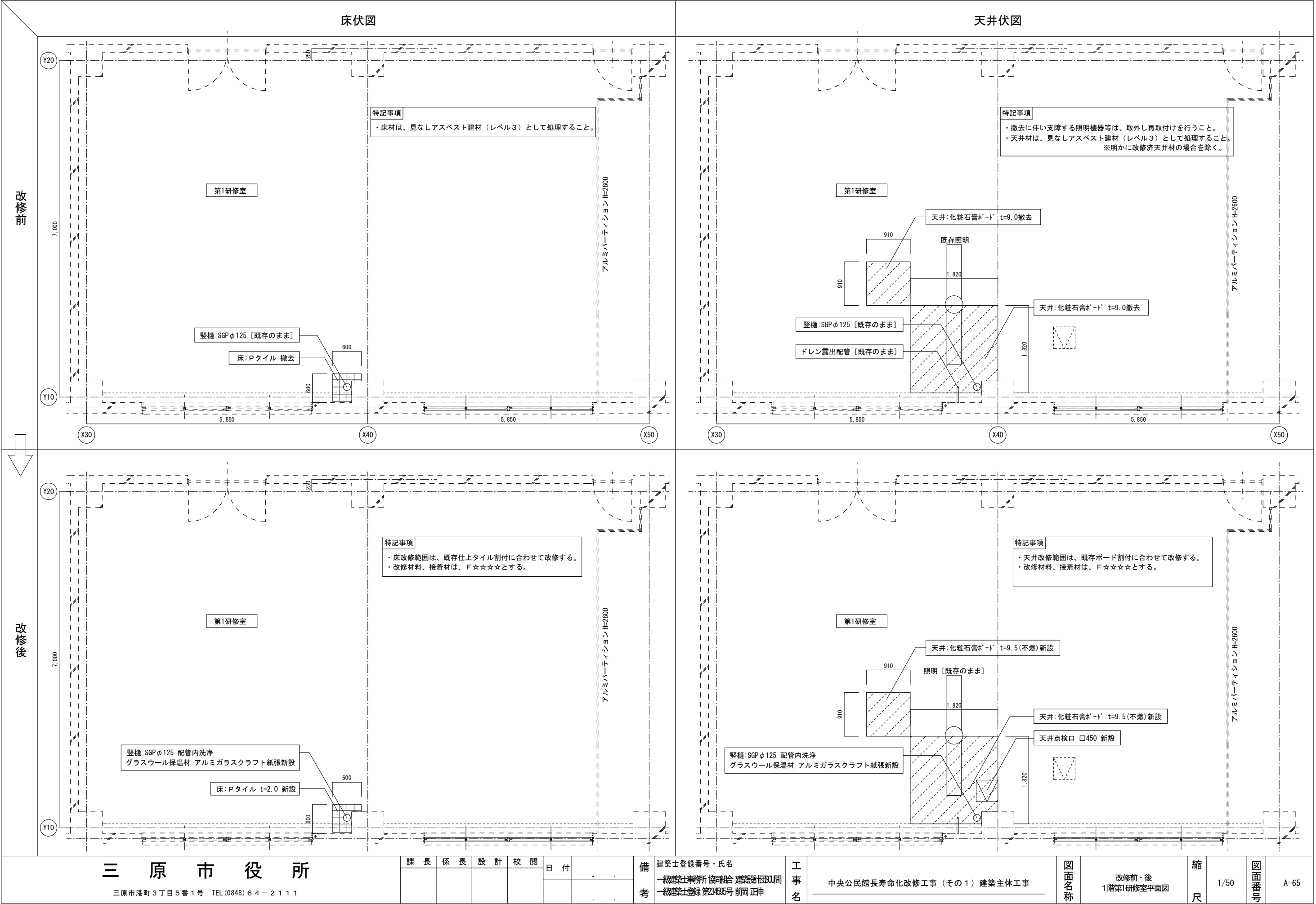


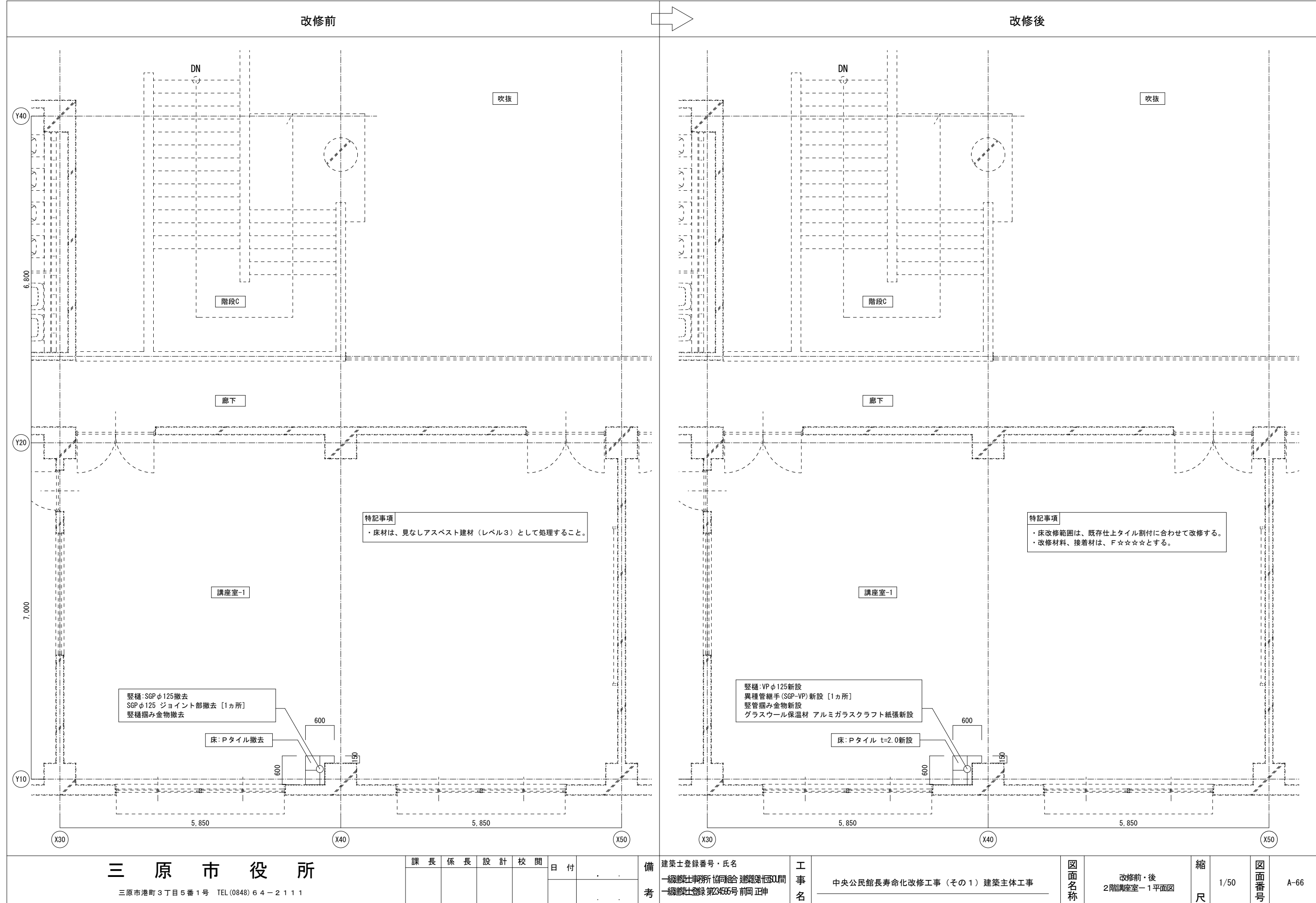
凡例

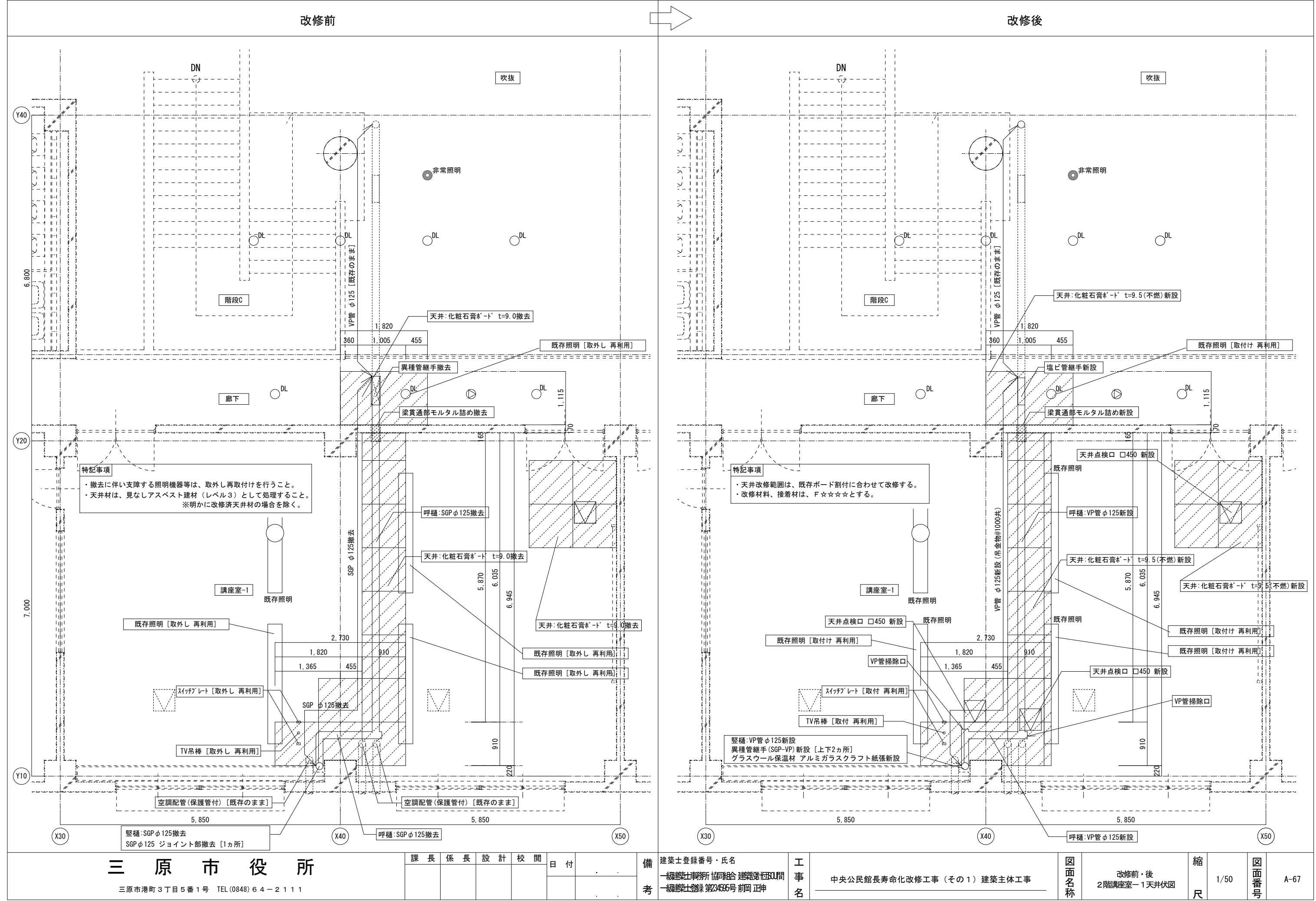
-  -- 既設コンクリートを示す。
 -- 既設コンクリートブロックを示す。
 -- 既設のままの部分を示す。
 -- は設計仕からの高さを示す。
 (特記なき限り+500とする)
 -- 天井ヒル石 (●L1) (撤去) 部分を示す。
 -- ヒル石 (撤去) 区画範囲を示す。
 -- クリーンルーム設置箇所を示す。(3.0 X 1.0 X h2.0 程度)
 -- 仮囲いを示す。(密閉空間)
 -- 昇降機を示す。

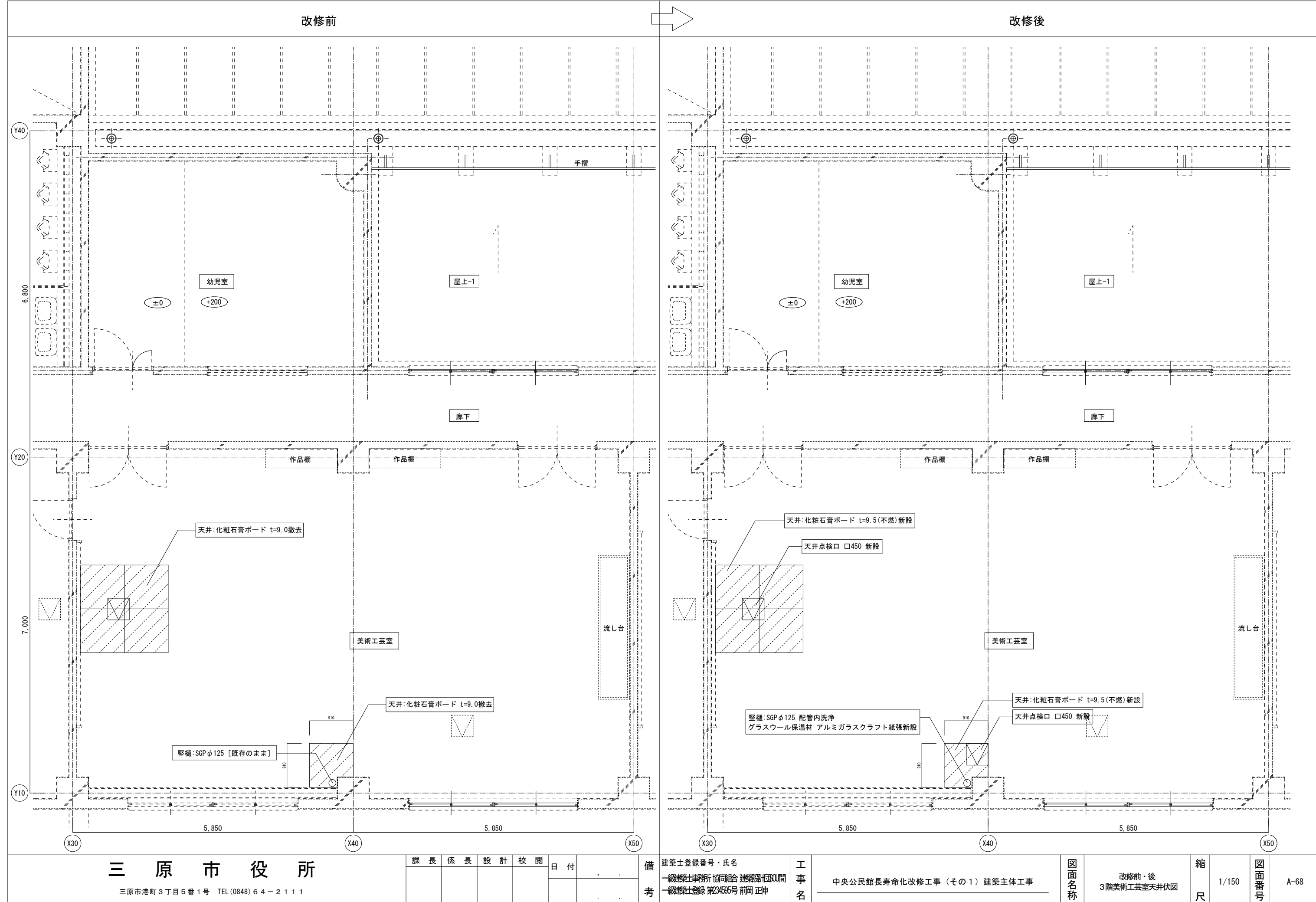
御注文先	三原市殿	御承認	記事	月 日	 中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	1 級建築士事務所 登録23 (1) 第1252号 1 級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二 第 262345 号 坂本 薫	校閲		工事名称	中央公民館長寿命化改修工事（その1）建築主体工事	図面番号	A-63			
				設計						設計年月日	2025. 03	図面名称	ヒル石除去仮設計画図 R階平面図	縮尺	1/100

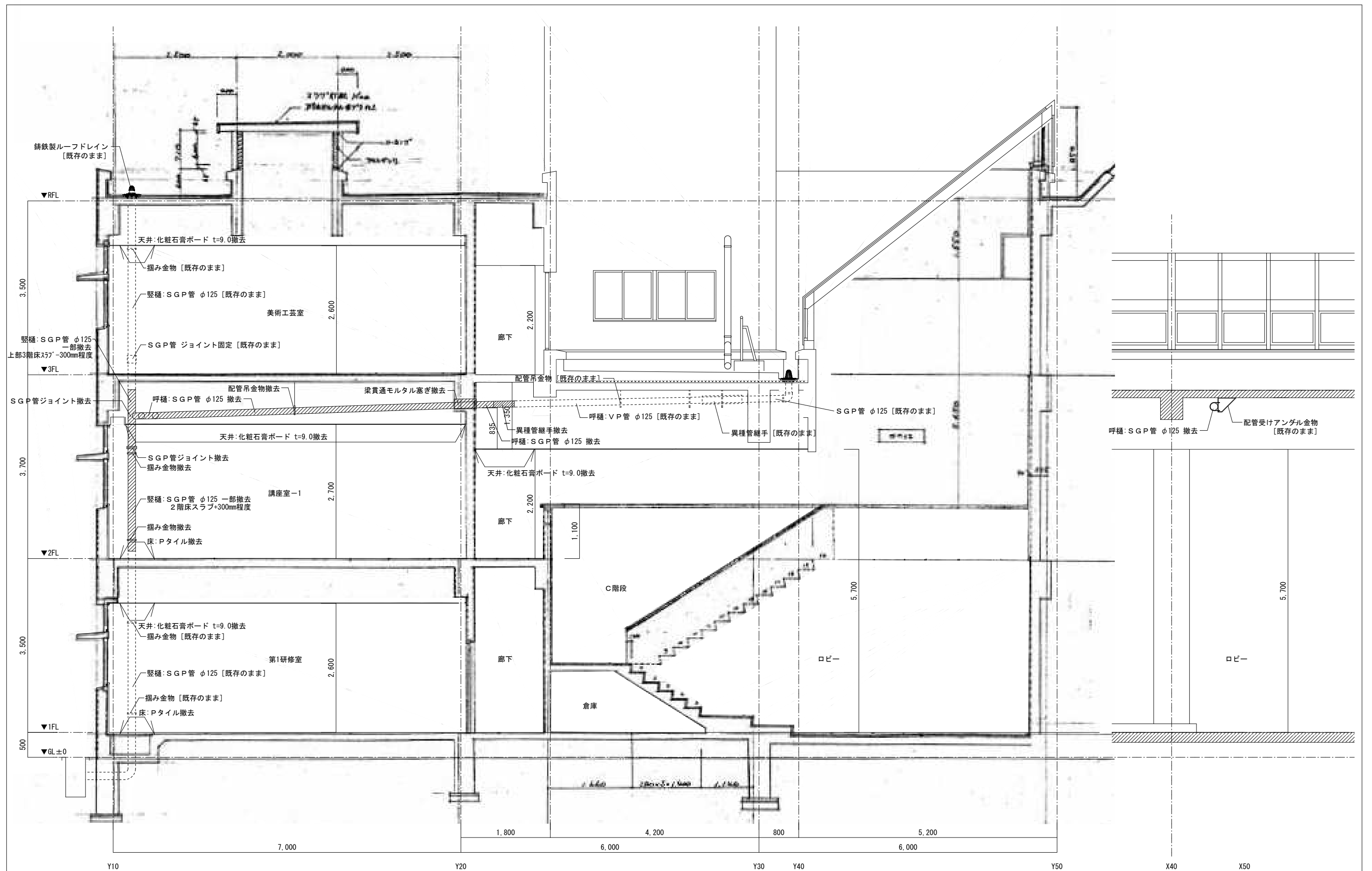
改修前										改修後										
特記事項 ・床材は、見なしアスベスト建材（レベル3）として処理すること。										特記事項 ・床改修範囲は、既存仕上タイル割付に合わせて改修する。 ・改修材料、接着材は、F☆☆☆☆とする。										
三原市役所 三原市港町3丁目5番1号 TEL(0848) 64-2111										課長	係長	設計	校閲	日付	備考	建築士登録番号・氏名	工事名	図面名称	縮尺	図面番号
																建築士事務所協同組合建築士会 三原市役所 建築士登録第3455号 前岡正伸	中央公民館長寿命化改修工事（その1）建築主体工事	改修前・後 1階管理入室平面図	1/50	A-64







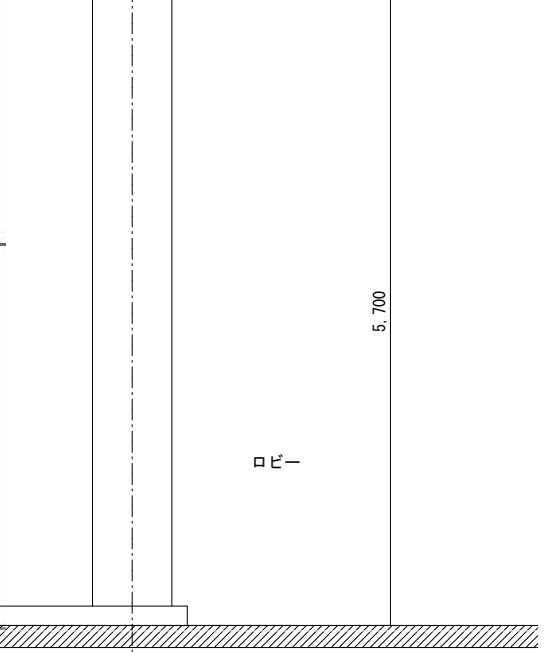
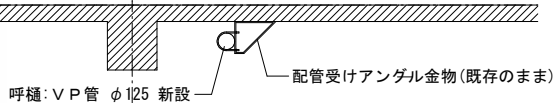
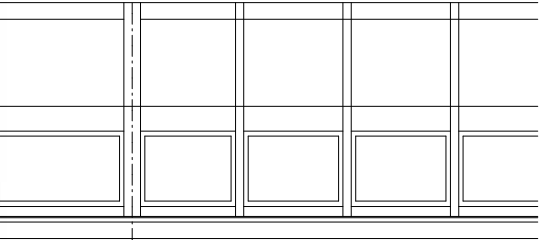
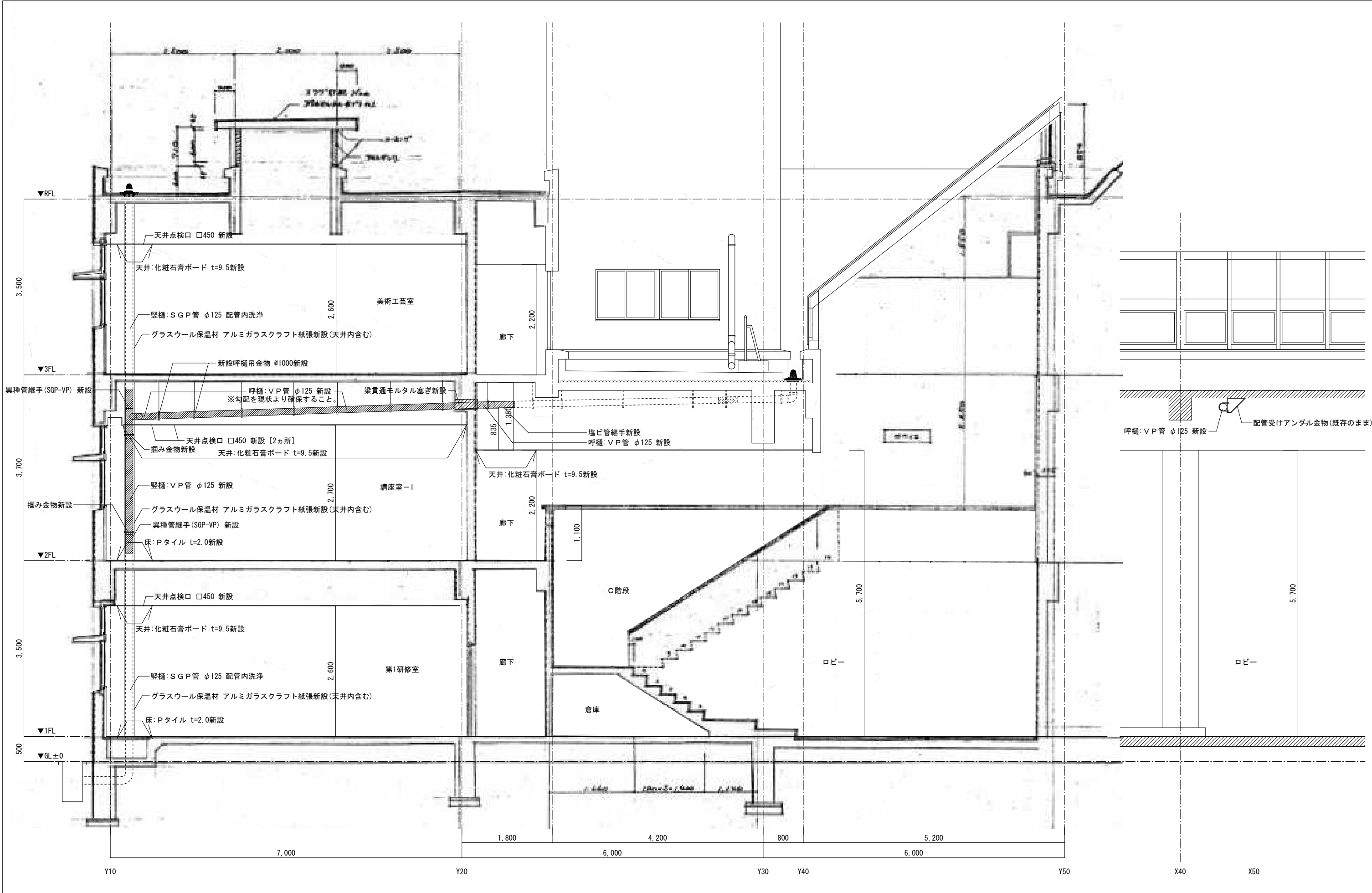




三 原 市 役 所

三原市港町3丁目5番1号 TEL(0848) 64-2111

課 長	係 長	設 計	校 閲	日 付	備 考	工 事 名	図 面 名 称	縮 尺	図 面 番 号
						中央公民館長寿命化改修工事（その１）建築主体工事	断面詳細図 （改修前）	1/50	A-69



三原市役所

三原市港町3丁目5番1号 TEL(0848) 6 4 - 2 1 1 1

課長 係長 設計 校閲

日付

備考

工事名

中央公民館長寿命化改修工事（その1）建築主体工事

図面名称

断面詳細図
(改修後)

縮尺

1/50

図面番号

A-70

鉄筋コンクリート構造標準配筋図（１）

１．一般事項									
鉄筋表示記号 鉄筋の断面表示は下記の記号による									
異型鉄筋	D 1 0	D 1 3	D 1 6	D 1 9	D 2 2	D 2 5	D 2 9	D 3 2	
記 号	○	×	∅	●	○	⊙	⊗	●	

２．鉄筋加工、かぶり

鉄筋の折曲げ（末端部）		折曲げ内法直径（D）			備 考
折曲げ角 度	折 曲 げ 図	SD295A, SD295B, SD345 D16以下	D19～D38	SD390 D19～D38	
180°		3d以上	4d以上	5d以上	
135°					
90°					
135° 及び 90°					
90°未満		4d以上	6d以上	8d以上	幅止め筋

（注）片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フック又は135° フックを用いる場合には、余長は 4d 以上とする。

鉄筋の重ね継手及び定着の長さ

鉄筋の種 類	コンクリートの設計基準強度 (F _c) (N/cm ²)	フックなし			フックあり			
		L1	L2	L3	L1h	L2h	L3h	
SD295A SD295B	18	45d	40d	20d かつ 150mm 以上	10d	35d	30d	—
	21	40d	35d					
	24, 27	35d	30d					
SD345	30, 33, 36	35d	30d					
	18	50d	40d					
	21	45d	35d					
	24, 27	40d	35d					
	30, 33, 36	35d	30d					
SD390	21	50d	40d					
	24, 27	45d	40d					
	30, 33, 36	40d	35d					

- （注） 1. L1, L1h： 2. 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
2. L2, L2h： 割裂破壊の恐れのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
3. L3： 小梁及び床の下端筋の直線定着の長さ。但し、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
4. L3h： 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ。
5. 軽量コンクリートの場合は、表の値に 5d を加えたものとする。
6. 次の部分に使用する異形鉄筋の末端部には、フックを付ける。
・柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場所及び最上階の柱頭にある場合。
・梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合。（基礎梁を除く）
・煙突の鉄筋。（壁の一部となる場合を除く）
・杭基礎のベース筋
・帯筋、あばら筋及び幅止め筋。

隣合う継手の位置

重ね継手	フックあり		
	フックなし		
圧接継手	—		
機械式継手	—		

定着の方法

- （1）直線定着
-
- （2）折曲げ定着
-
- ※ 40d（軽量コンクリートの場合 50d）と L1 のうち大きい値とする。

鉄筋の投影定着長さ

鉄筋の種 類	コンクリートの設計基準強度 (F _c) (N/cm ²)	La	Lb
SD295A SD295B	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
SD345	30, 33, 36	15d	15d
	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	15d
SD390	30, 33, 36	15d	15d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	20d

- （注） 1. La： 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ。
（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む）
2. Lb： 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ。
（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く）
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に 5d を加えたものとする。

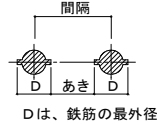
その他の鉄筋の継手及び定着の方法

- ・ 溶接金網の継手及び定着
-
- 重ね継手
- 定着（スラブ）
- 定着（壁）
- ・ スパイラル筋の継手及び定着
-
- 1.5巻き以上の添巻
- 末端部（柱頭又は柱脚部）
- 中間部（重ね継手）

鉄筋の最小かぶり厚さ

鉄筋の最小かぶり厚さ（JASS5）			最小かぶり厚さ（mm）	
土に接しない部分	構 造 部 分 の 種 別			
	床版、耐力壁 以外の壁	仕上げあり	20	
		仕上げなし	30	
	柱 梁 耐力壁	屋 内	仕上げあり	30
			仕上げなし	30
		屋 外	仕上げあり	30
土に接する部分	煙突等高热を受ける部分		60	
	基礎、擁壁、耐圧床版		*60	
	擁壁、耐圧床版		40	

- （a）鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、上表による。
ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを、径の1.5倍以上として最小かぶり厚さを定める。
1. *印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は、特記による。
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、吹付け又は塗装等）のものを除く。
3. 床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、均しコンクリートの厚さを含まない。
4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭天端からとする。
5. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。
- （b）柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。
（c）鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
（d）鉄筋相互のあきは、次の値のうち最大のもの以上とする。ただし、特殊な鉄筋継手の場合は、特記による。
- （1） 粗骨材の最大寸法の1.25倍
（2） 25mm
（3） 隣り合う鉄筋の平均径（呼び名に用いた数値 d）の1.5倍。



Dは、鉄筋の最外径

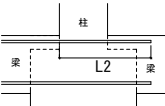
３．基礎

- （a）基礎の配筋
- （1） 直接基礎
-
- （2） 杭基礎
- （基礎筋端部にフックを設ける場合）
- （基礎筋端部にフックを設けない場合）
- （b）基礎接合部の補強筋
-
- （注） L2hを確保できない場合は、全長を L2 とし、かつ、余長を 8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さ Lb とする。

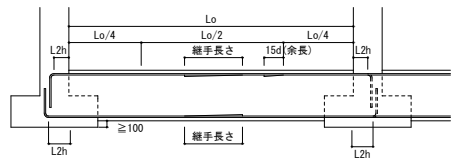
4. 基礎梁

(a) 基礎主梁筋の継手及び定着

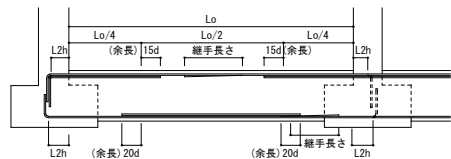
- (1) 一般事項
- 1) 梁筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、下図による。
- 2) 梁筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。
- 上端筋：曲げ降ろす。
- 下端筋：原則として曲げ上げる。



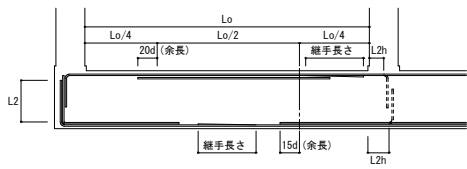
(2) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合



(3) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合

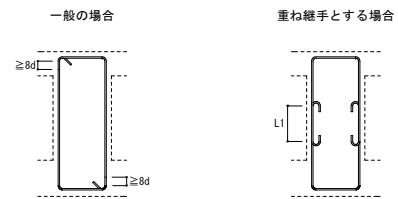


(4) 連続基礎及びべた基礎の場合



- (注) 1. 図示のない事項は、大梁にならう。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. L2hを確保できない場合は、全長を 40d とし、かつ、余長を 8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さ La かつ柱せいの3/4倍以上とする。

(b) 基礎梁のあばら筋

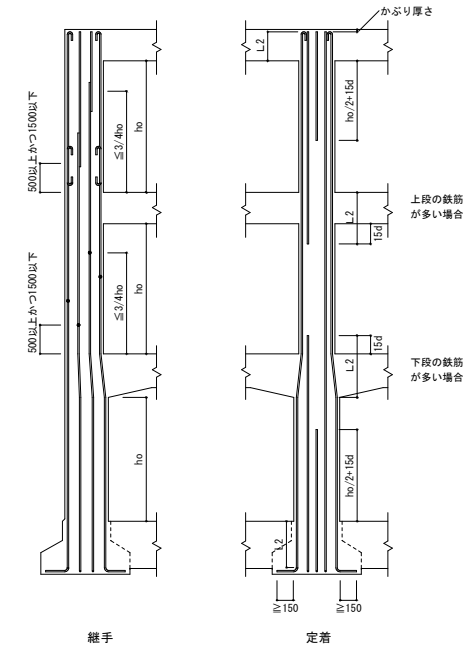


5. 柱

(a) 柱主筋の継手及び定着

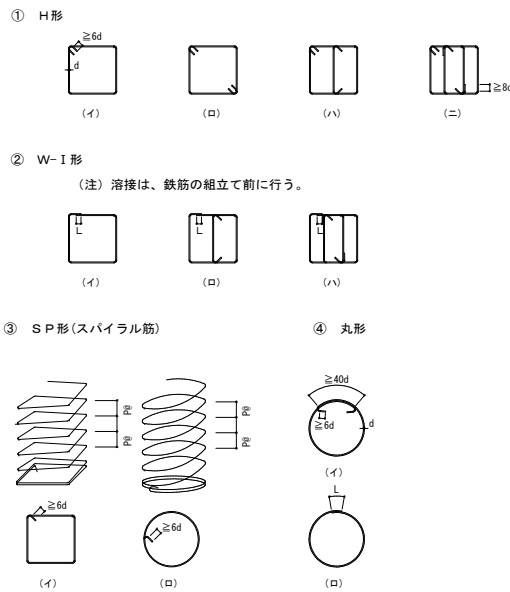
- (1) 一般事項
- 1) 継手及び圧接中心位置は、梁上端から500mm以上1500mm以下かつ、3/4ho (hoは柱の内法高さ) 以下とする。
- 2) 重ね継手長さはL1とし、定着及び余長は下図による。ただし、柱頭定着長さL2が確保できない場合は、特記による。（構造計算等により必要長さの確認を行う）
- 3) 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックをつける。

(2) 柱の主筋



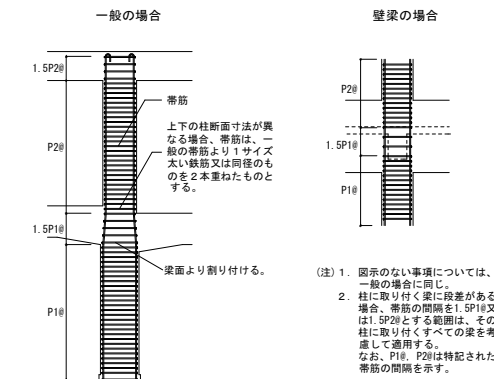
(b) 帯筋

- (1) 帯筋の種類及び間隔は、特記による。
- (2) 帯筋組立ての形は、下図とし種別は特記による。特記がなければ次による。
- 1) H形とする。
- 2) H形の135°曲げフックが困難な場合は、W-I形とする。
- 3) 溶接する場合の溶接長さは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。
- 4) S P形において、柱頭及主筋の端部は1.5巻き以上の添巻きを行う。
- 5) フック及び継手の位置は、交互とする。



(3) 帯筋の割付け

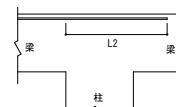
帯筋の割付けは、特記が無ければ下図による。



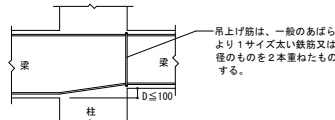
6. 大梁

(a) 大梁筋の継手及び定着

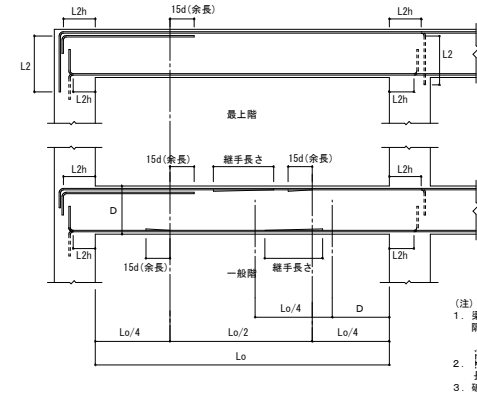
- (1) 一般事項
- 1) 梁主筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、2)により柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は下図による。



- 2) 梁主筋を柱内に折り曲げた定着する場合は次による。
- 上端筋：曲げ降ろす。
- 下端筋：原則として曲げ上げる。
- 3) 継手中心位置は、次による。
- 上端筋 — 中央 L_o/2以内
- 下端筋 — 両端 柱面より梁せい(D)以上離し、L_o/4を加えた範囲以内
- 4) 梁にハンチをつける場合、その傾斜は特記による。特記がなければ1：4とする。
- 5) 段違い梁は、下図によることができる。

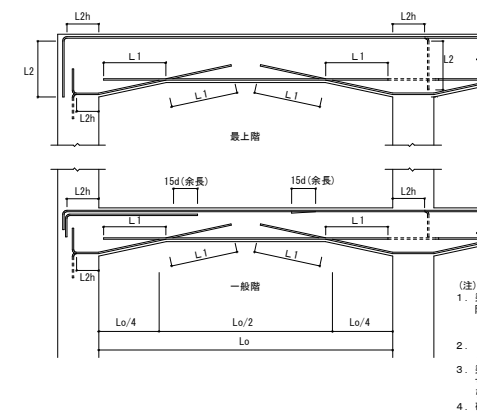


(2) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長



- (注) L2hを確保できない場合は、全長を 40d とし、かつ、余長を 8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さ La かつ柱せいの3/4倍以上とする。

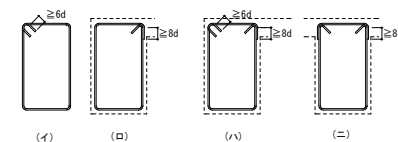
(3) ハンチのある場合の重ね継手、定着及び余長



- (注) L2hを確保できない場合は、全長を 40d とし、かつ、余長を 8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さ La かつ柱せいの3/4倍以上とする。

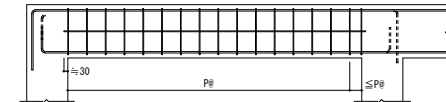
(b) あばら筋、腹筋及び幅止め筋

- (1) 一般事項
- 1) あばら筋の種類、径及び間隔は、特記による。
- 2) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
- 3) 壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、特記による特記がなければL2とする。
- 4) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1000程度とする。
- (2) あばら筋組立ての形及びフックの位置
- 1) (イ)を標準とする。ただし、L形梁の場合は、(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合は、(ロ)～(ニ)とすることができる。
- 2) フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、L形では床版の付く側、T形では交互とする。
- なお、(ハ)の場合は、床版の付く側を90°折曲げとする。

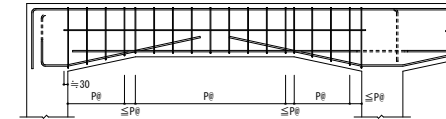


(3) あばら筋の割付け

(i) ハンチのない場合

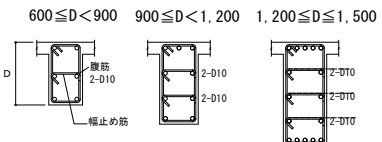


(ii) ハンチがある場合

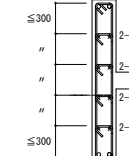


(4) 腹筋及び幅止め筋

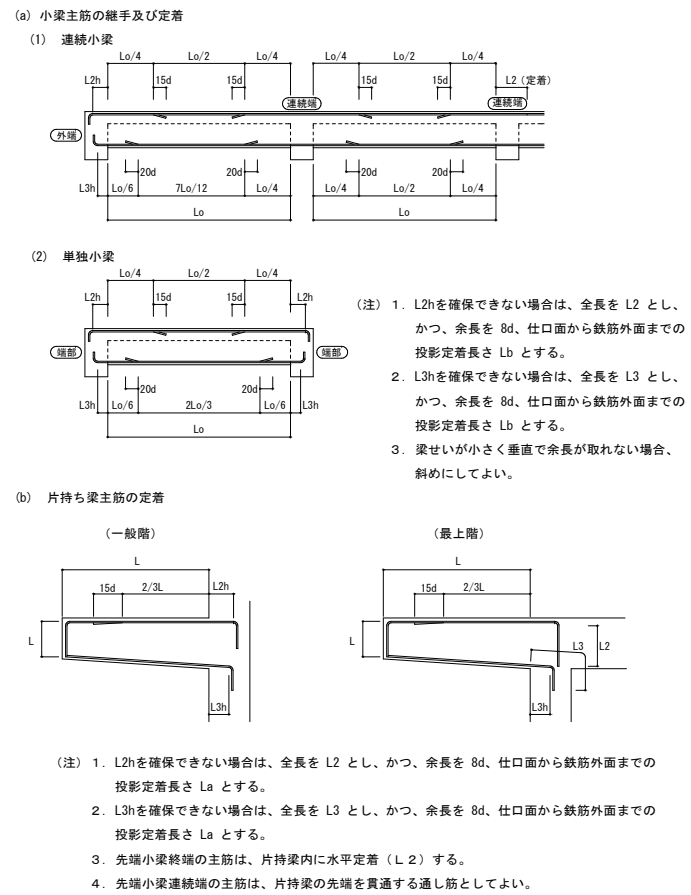
(i) 一般の梁



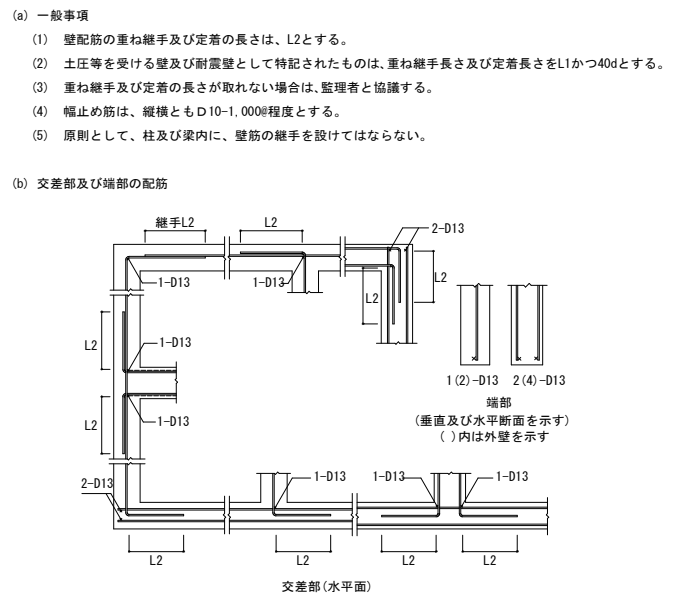
(ii) 壁梁



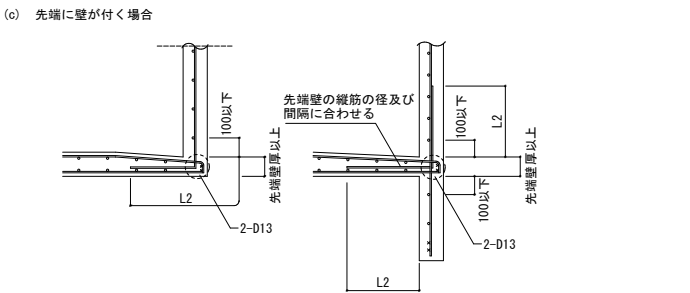
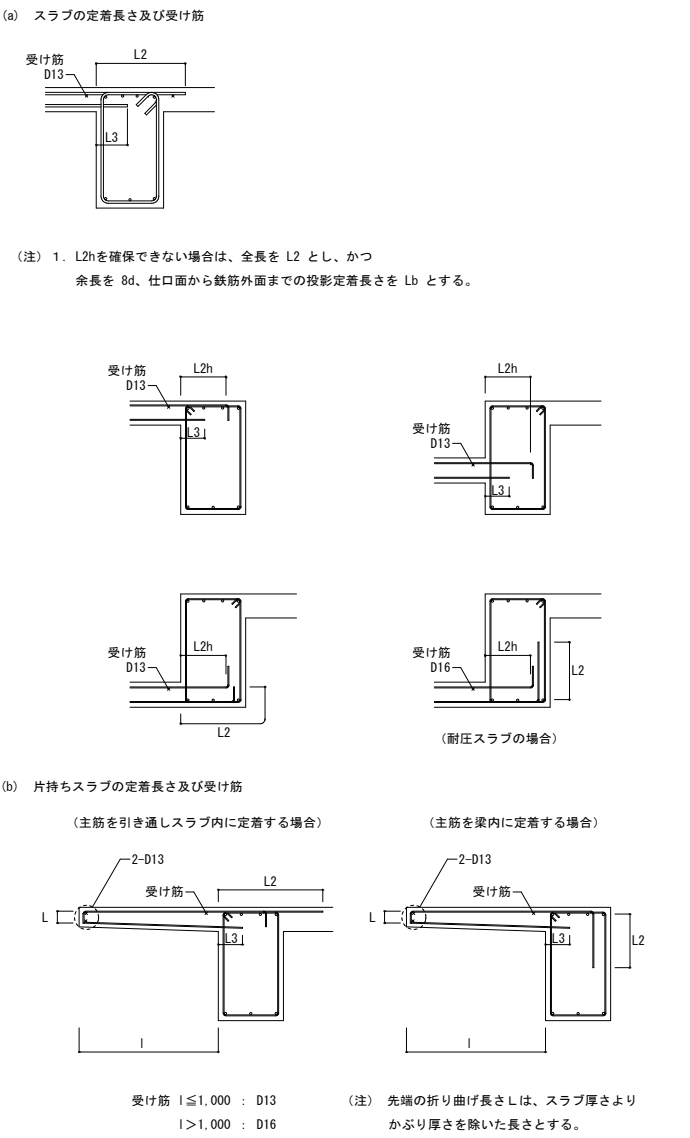
7. 小梁及び片持ち梁



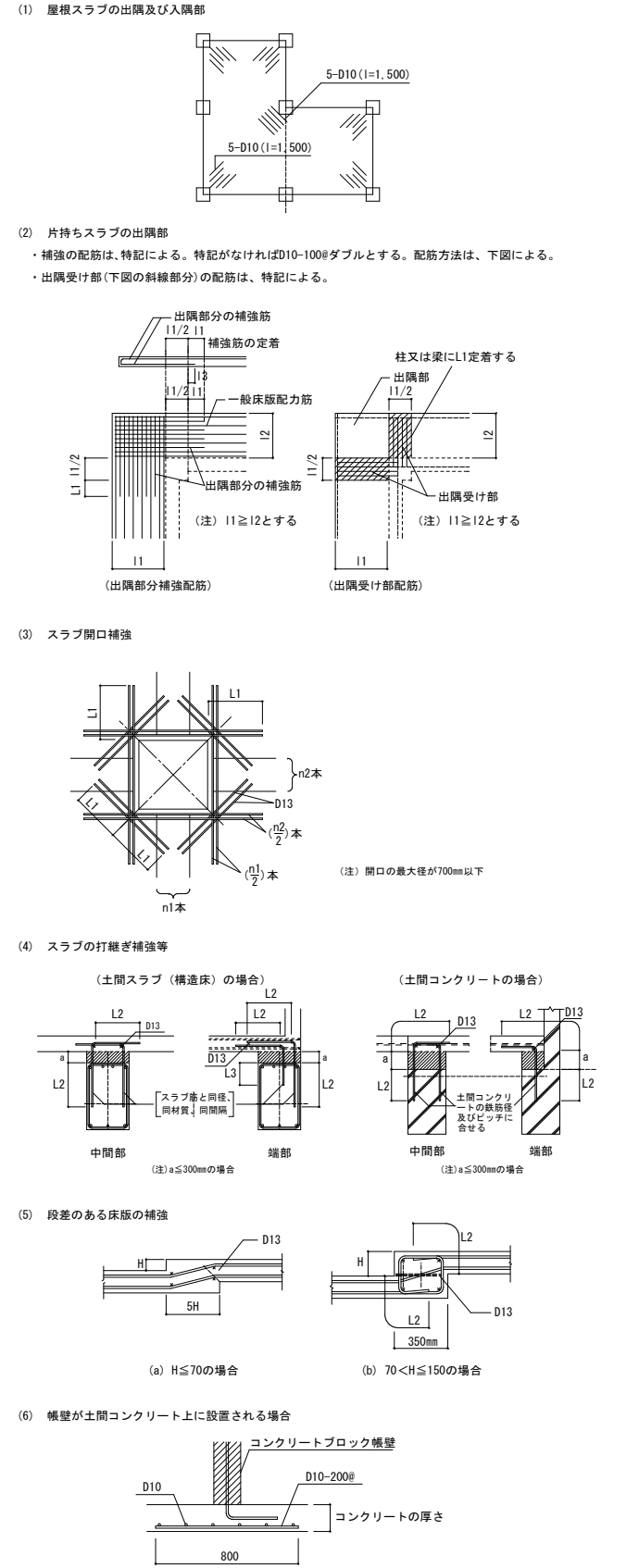
8. 壁



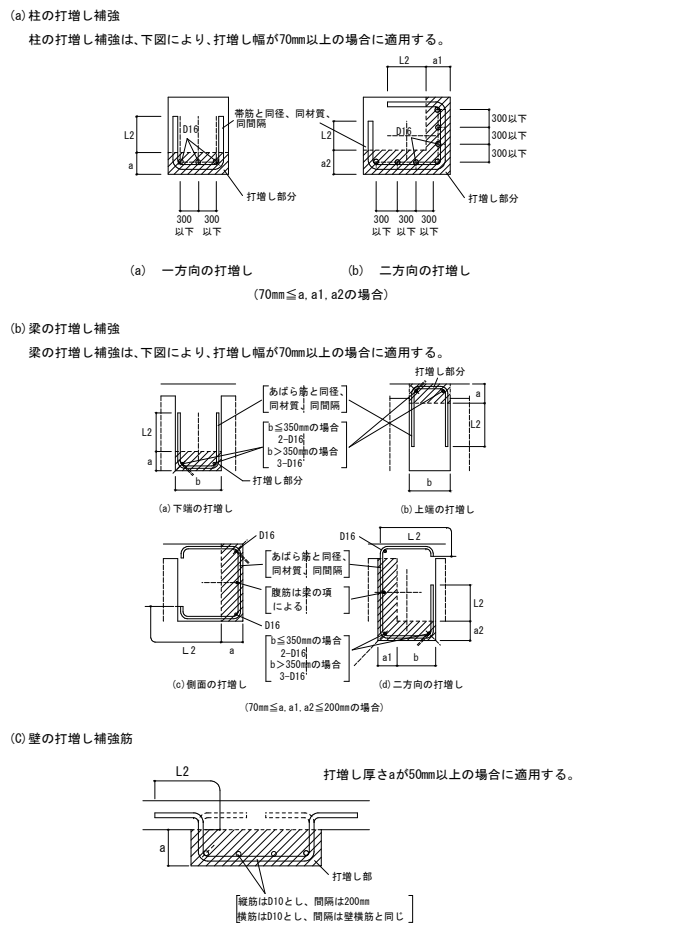
9. 床版



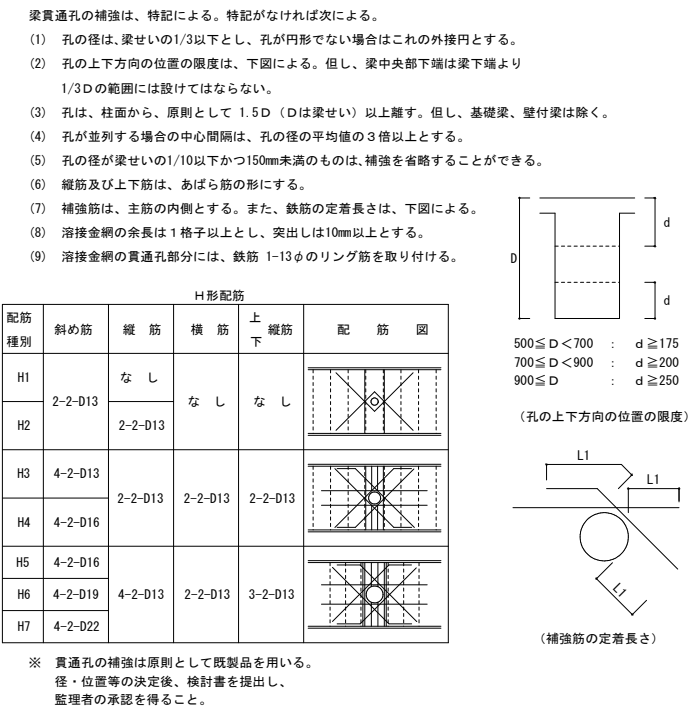
(d) その他の補強



10. 打増し補強



11. 梁貫通孔の補強



1. 溶接接合

1. 溶接継手の種類別開先形状

(1) 突合わせ溶接

ア 突合わせ継手(B)の開先標準は、図2. 3による。

H（アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフガスシールドアーク半自動溶接）		A（サブマージアーク自動溶接）	
1（片面溶接）	2（両面溶接）	1（片面溶接）	2（両面溶接）
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$G = t$			
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 22$	
$19 < t \leq 32$		$22 < t \leq 32$	
$D1 = 2(t-2)/3$ $D2 = (t-2)/3$		$D1 = (t-6)/2$ $D2 = (t-6)/2$	

図2. 3 突合わせ継手の開先標準

イ T形継手(T)の開先標準は、図2. 4による。

H（アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフガスシールドアーク半自動溶接）		A（サブマージアーク自動溶接）	
1（片面溶接）	2（両面溶接）	1（片面溶接）	2（両面溶接）
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$1/4t \leq S \leq 10$		$1/4t \leq S \leq 10$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 22$	
$19 < t \leq 40$		$22 < t \leq 40$	
$1/4t \leq S \leq 10$		$1/4t \leq S \leq 10$	

図2. 4 T形継手の開先標準

(注) 1. 裏はつり

突合わせ溶接における両面溶接は、原則として裏はつりを行う。裏はつりは、健全な溶着部分が現われるまではつり取った後、裏溶接を行う。ただし、自動溶接において完全溶込みが得られたことが超音波探傷試験等で確認できる場合は、裏はつりを省略することができる。

2. 裏当て金

(1) 突合わせ溶接の片面溶接に用いる裏当て金は、原則としてフランジ内側に設置し、取付方法は、図2. 6による断続隅肉溶接とし、溶接間隔は溶接部に支障を与えない程度とする。

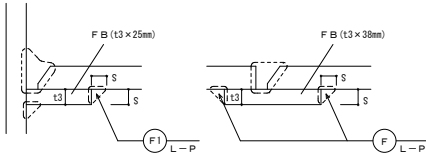


図2. 6 裏当て金の溶接

(2) 裏当て金の厚さ、断続隅肉溶接のサイズ及び長さは表2. 3、表2. 4及び表2. 5によるほか、裏当て金の材質は、原則として母材と同等以上のものとする。

表2. 3 裏当て金の厚さ (単位：mm)		
溶 接 工 法	t3	
手 溶 接	6以上	
半 自 動 溶 接	9以上	
自 動 溶 接	12以上	

表2. 4 溶接のサイズ (単位：mm)	
裏当て金の厚さ	S
t3 ≤ 9	5
t3 > 9	9

表2. 5 断続隅肉溶接の長さ (単位：mm)		
t3	溶 接 の 長 さ (L)	
	手溶接、半自動溶接	自動溶接
3.2 以下	30 程 度	40 程 度
3.2を越え25未満	40 程 度	50 程 度
25 以上	50 程 度	70 程 度

(2) 隅肉溶接

隅肉溶接（F）の開先標準は、図2. 7により隅肉溶接のサイズ（S）は表2. 6による。

H（アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフガスシールドアーク半自動溶接）		
1（片面溶接）	2（両面溶接）	16 < t ≤ 40
$t \leq 16$		

図2. 7 隅肉溶接の開先標準

表2.6 隅肉溶接のサイズ																													
t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	28	30	32	36	40	
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	10	11	11	12	13	13	14	14	15	16	17	18	19	21	24	

(注) 1. 隅肉溶接のサイズ（S）は、有効のど厚の和が板厚（t）と等しくなるように次式により求めたものである。

$t \leq 16\text{mm}$ の場合
 $S = t / \sqrt{2}$

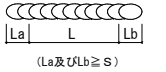
$16\text{mm} < t \leq 40\text{mm}$ の場合
 $S = t / \sqrt{3}$

$\theta = 60^\circ$

有効のど厚 $\frac{\sqrt{2}}{2} S$

2. 設計図書（図面及び仕様書をいう。）に示す断続隅肉

溶接の長さは、次図の有効長さ（L）とし、隅肉のサイズ（S）の10倍以上とする。ただし、有効長さは、ビードの始点（La）及びクレーター（Lb）を除いた部分の長さとする。



(3) 部分溶込み溶接

部分溶込み溶接（P）の開先標準は、図2. 8による。

H（アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフガスシールドアーク半自動溶接）	
1（片面溶接）	2（両面溶接）
$12 < t \leq 32$	
$16 < t \leq 32$	
$D1 = (t-2)/2$ $D2 = (t-2)/2$ $1/4t \leq S \leq 10$	

図2. 8 部分溶込み溶接の開先標準

(注) 部分込み溶接のうち片面溶接においては、原則として開先をとらない側にも補強隅肉溶接を行う。

2. 溶接施工

(1) エンドタブ

エンドタブの材質は、母材と同等以上のものとし、形状は同厚・同開先のものを用い、長さは、図2. 10及び表2. 7のとおりとする。ただし、あらかじめ溶接付加試験によって溶接端部に欠陥が生じないことが確認された材質及び形状のものを用いる場合は、この限りでない。

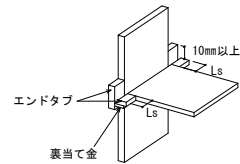


図2. 10 エンドタブ

表2. 7 エンドタブの長さ

溶 接 工 法	LS
手 溶 接	35以上
半 自 動 溶 接	38以上
自 動 溶 接	70以上

(解説)溶接付加試験とは、「エンドタブ工法(代替エンドタブ工法及びエンドタブ省略工法)に関する標準化方策」(日本鋼構造協会)にもとづいて実施するものをいう。

(2) スクラップ

・開先加工はノンスクラップ工法を原則とする。
・スクラップを設ける場合、スクラップの円弧の曲線はフランジに滑らかに接するように加工する。r1は35mm程度、r2は10mm程度とする。
なお、複合円は滑らかに仕上げること。

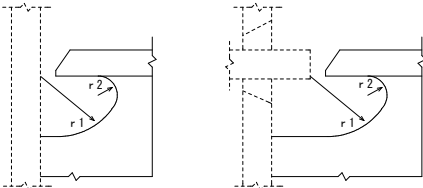


図4. 2 スクラップの開先加工

(3) 補強隅肉溶接

T形溶接、かど継手及び部分溶込み溶接の場合は、図2. 12に示す補強隅肉を付加し、そのサイズ（S）は、突合わせる板厚の1/4以上かつ10mm以下とする。

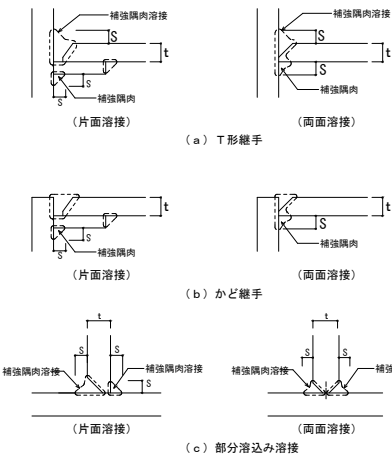


図2. 12 補強隅肉溶接

(4) 余盛り

突合わせ継手、かど継手、隅肉溶接及びフレア溶接の溶接部は、余盛りを行う。その高さの上限は、表2. 9による。

表2. 9 余盛りの限度 (単位：mm)		
溶 接 継 手	溶 接 工 法	余盛りの限度
突合わせ溶接	手 溶 接	3
	半 自 動 溶 接	4
かど溶接	手 溶 接	4
	半 自 動 溶 接	4
隅 肉 溶 接	手 溶 接	3
フ レ ア 溶 接	半 自 動 溶 接	3

(5) 溶接板の段差

突合わせ継手において、突合わせる部材の板厚に差があり、段差が手溶接及び半自動溶接で4mmを越え、自動溶接で3mmを越える場合は、図2. 13のように原則として厚い方の板に1/5以下の勾配をとる。ただし、半自動溶接でI形開先の場合は、3mmを限度とする。

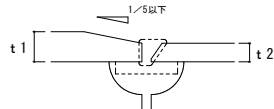


図2. 13 溶接板の段差

(6) ハンチ部等の溶接

ハンチ部等のT形継手において溶接板が直交しない場合の開先標準は、図2. 14による。

H（アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフガスシールドアーク半自動溶接）		
1（片面溶接）	2（両面溶接）	19 < t ≤ 32
$6 < t \leq 32$		
$1/4t \leq S \leq 10$		

図2. 14 ハンチ部の開先標準

2. ボルト接合

1. ボルトの種類

(1) 高力ボルト

高力ボルトの種類は、J I S B1186「摩擦接合用高力六角ボルト、六角ナット、平座金のセット」（2種F10T、S10T）の規格品並びに建築基準法に基づき認定された特殊高力ボルト（2種S10T）及び溶融亜鉛メッキ高力ボルト（1種F8T相当）とする。

(2) 普通ボルト

普通ボルトは、以下の組合わせによる中3級の規格品とし、ねじは、J I S B0205「メートル並目ねじ」とする。

ア 六角ボルト：J I S B1180

イ 六角ナット：J I S B1181

ウ 座 金：J I S B1256「平座金」の磨き丸

2. ボルトの表示記号

ボルトの表示記号は、表3.1による。

表3.1 ボルトの表示記号

ボルトの種類	ねじの呼び	M12	M16	M20	M22	M24
高力ボルト（F10T、S10T）		●	●	●	●	●
溶融亜鉛メッキ高力ボルト（F8T）		⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
普通ボルト		○	○	○	○	○

3. ボルト孔の径

ボルト用孔の径は、表3.2による。

表3.2 ボルト孔の径

ボルトの種類	ねじの呼び	M12	M16	M20	M22	M24
高力ボルト（F10T、S10T）		14	18	22	24	26
溶融亜鉛メッキ高力ボルト（F8T）		⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
普通ボルト		12.5	16.5	20.5	22.5	24.5

4. ボルトの締付け長さに加える長さ

ボルトの締付け長さに加える長さは、表3.3による。

表3.3 ボルトの締付け長さに加える長さ

ね じ の 呼 び	M12	M16	M20	M22	M24
締 付 け 長 さ に 加 え る 長 さ	25	30	35	40	45

5. 縁端距離及びボルト間隔

縁端距離及びボルト間隔は、表3.4の値を標準とする。ただし、引張材の接合部分において、せん断を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合の縁端距離は、ボルト軸径の2.5倍以上とする。

表3.4 縁端距離及びボルト間隔

ねじの呼び	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M16	40	60
M20		
M22		
M24	45	70

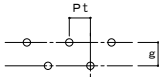
○ ○ ○
○ ○ ○
p p e

6. 千鳥打ちのゲージ及び間隔

千鳥打ちのゲージ及び間隔は表3.5の値を標準とする。

表3.5 千鳥打ちのゲージ及び間隔

ゲージ g	千鳥打ちの間隔 (pt)	
	ねじの呼び	
	M16、M20、M22	M24
35	50	65
40	45	60
45	40	55
50	35	50
55	25	45
60	—	40



3. 鉄骨標準詳細図

1. 仕口部詳細

(1) 仕口パネル

仕口パネルの範囲は、図4.1を標準とし、材質は、取付く梁及び柱のウェブ材のうち、強度及び溶接性の最も優れたものと同一のものを用い、板厚は、いずれか厚いもの以上かつ9mm以上とする。（解説：ただし、仕口パネルは、せん断抵抗力の検討を行なって安全性を確認することが必要である。）

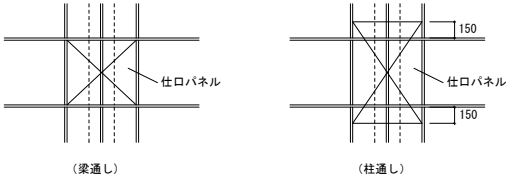


図4.1 仕口パネル（単位：mm）

(2) 水平スチフナ

ア 十字形柱及びH形柱の仕口部に設ける水平スチフナの形状及び大きさは、図4.2を標準とし、材質は、S N 4 9 0 B材を用い、板厚は、はりフランジ厚+3mm以上かつ9mm以上とする。なお、はり幅が300mm以上の場合は、スニップカットの代わりにスカラップとすることができる。

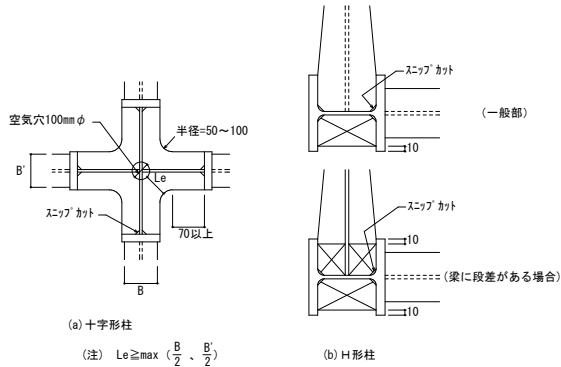


図4.2 水平スチフナ（単位：mm）

イ 鋼管柱の仕口部に設けるダイヤフラムの形状及び大きさは図4.3を標準とし、通しダイヤフラムの場合の材質は、S N 4 9 0 C材を用い、板厚は、同一レベルに集まる梁フランジのうち最厚の板厚+6mm以上かつ柱の板厚以上とする。

また、内ダイヤフラムの場合の材質は、S N 4 9 0 B材を用い、板厚は、同一レベルに集まるはりフランジのうち最厚の板厚+3mm以上かつ9mm以上とする。ダイヤフラム中心部には、最上部を除いて空気穴（約30mm程度）を設ける。ただし、スニップカットの代わりにスカラップを設ける場合には、空気穴を省略することができる。

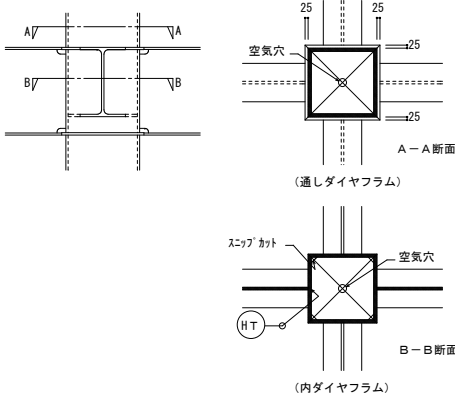
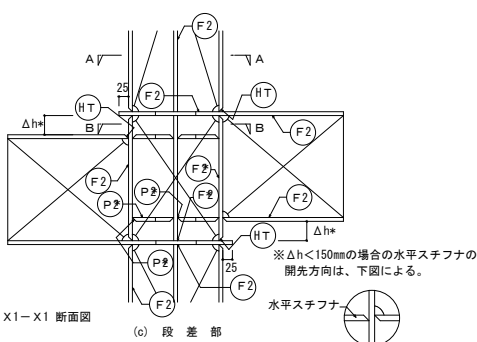
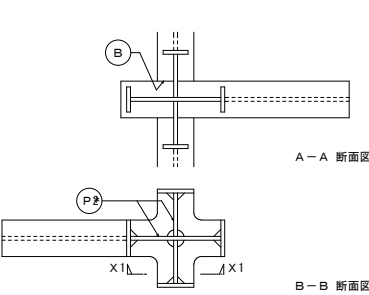
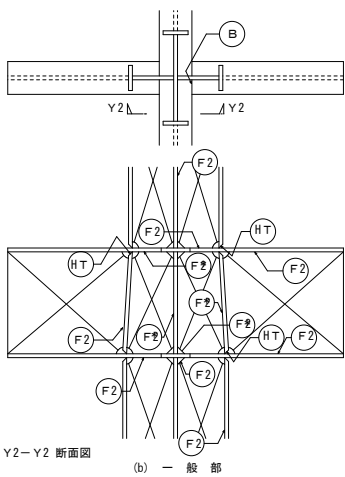
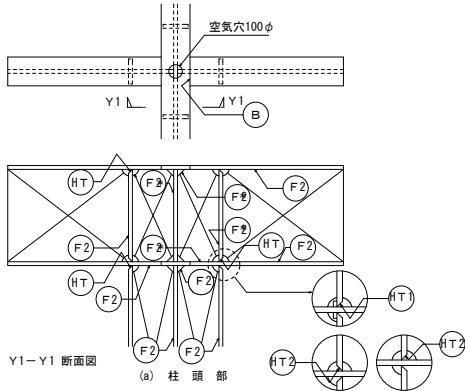
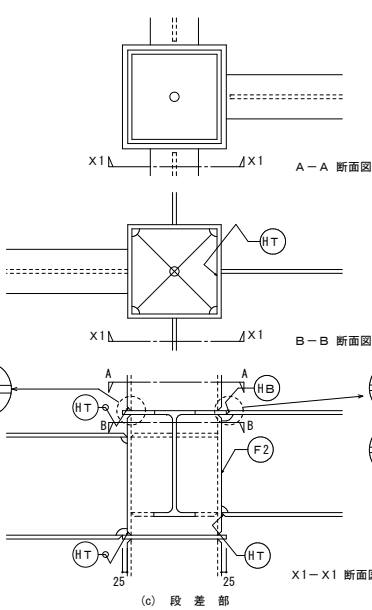
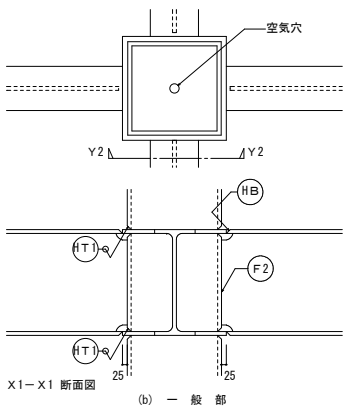
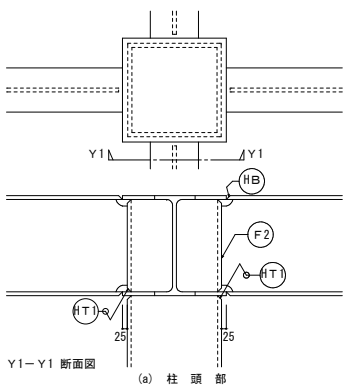


図4.3 ダイヤフラム（単位：mm）



- (注) 1 溶接工法又は溶接面の指定のない場合は、いずれによってもよいものとする。
2 (F2)：仕口パネル厚が16mm以上のものについては(P2)とする。
3 (P2)：水平スチフナ厚が12mm以下の場合は(F2)とする。

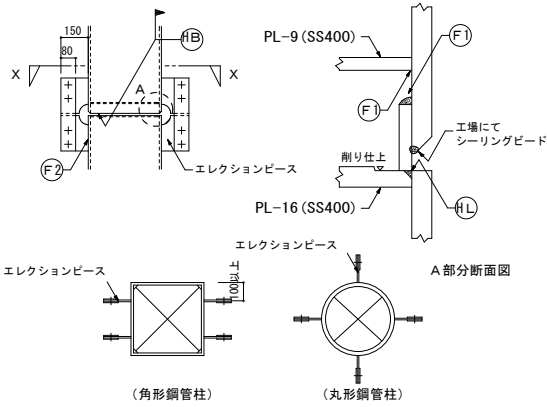
付図1.3 仕口部の溶接（十字形柱はり通し）（単位：mm）



(注) 溶接工法又は溶接面の指定のない場合は、いずれによってもよいものとする。

付図1.12 仕口部の溶接（角形鋼管柱）（単位：mm）

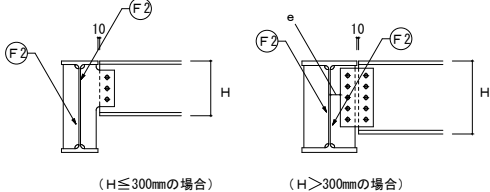
ウ 鋼管柱



（注）現場溶接完了後エクシジョンピースを切除し、グラインダー仕上げとする。

3. その他の接合詳細

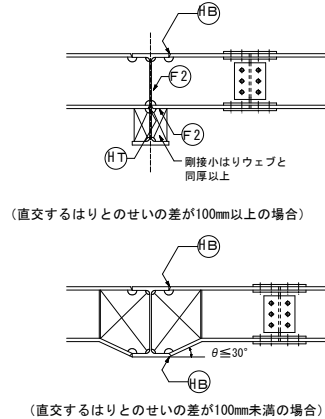
(1) 小はり接合
ア ピン接合



（注） 1 高力ボルトの施工性を考慮してφ≥20とする。
2 大梁の仕口部においてピン接合の場合は、この図を準用する。

付図 1.32 小はりピン接合

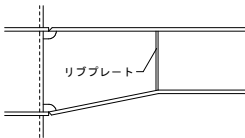
イ 剛接合



付図 1.33 剛接小はり

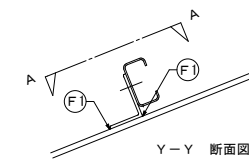
(2) ハンチ要領

梁にハンチを設ける場合は、下図に示すようなリブプレート設ける。
材質は梁ウェブに同じ、また、板厚は梁ウェブの板厚以上とする。

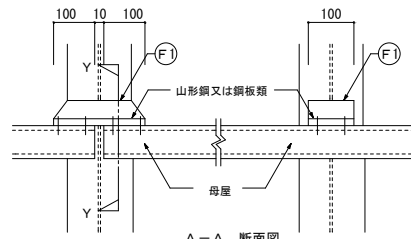
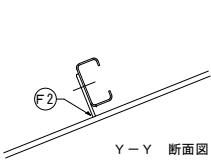


(3) 母屋の接合

ア 山形の鋼材を使用する場合



イ 鋼板類を使用する場合

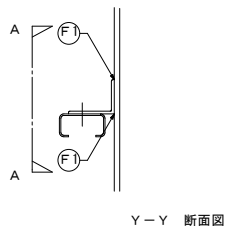


（母屋を継ぐ場合） （母屋を引通す場合）

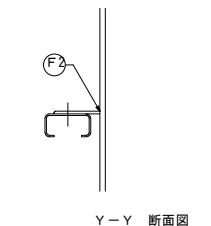
付図 1.36 母屋の接合

(4) 胴縁の接合

ア 山形の鋼材を使用する場合

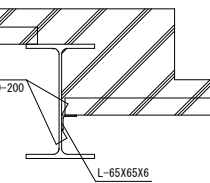
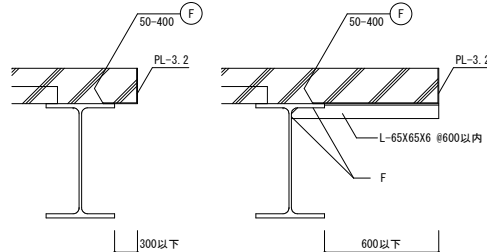


イ 鋼板類を使用する場合

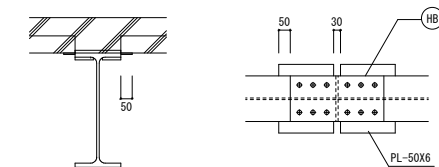


(5) デッキプレート

ア スラブ端部の補足材

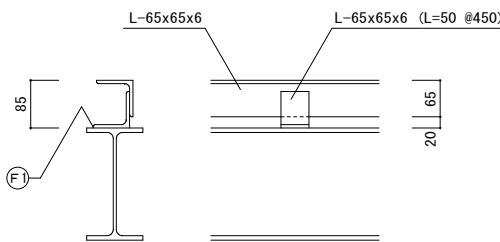


イ 梁継手部分の補足材

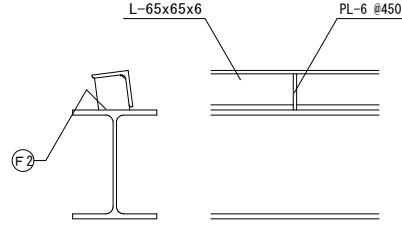


(6) 屋根折版 鉄骨梁上 受け材

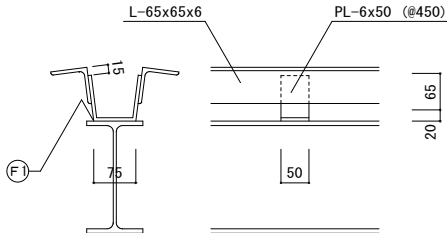
（一般部）



（軒部）

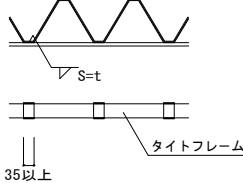


（棟部）



（折板緊結方法）

※折板の緊結方法は、溶接止めされたタイトフレームにボルトレス工法を採用する。

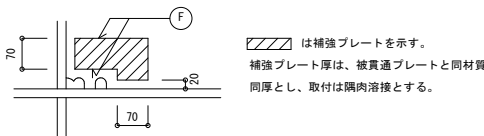


(7) 鉄筋貫通孔補強要領

鉄筋貫通孔位置は、工作図作成の上、監督員の承認を得ること。

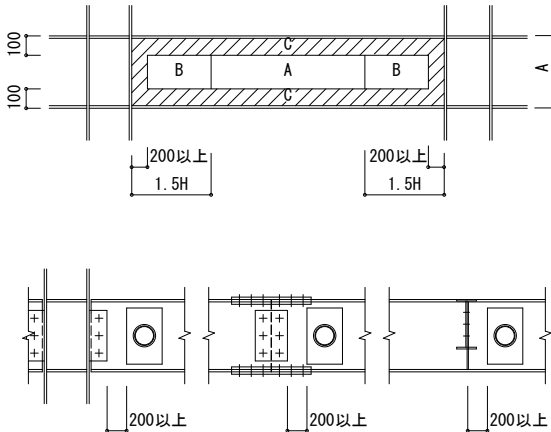
鉄筋径	D13以下	D16	D19	D22	D25	D29
貫通孔内径	20.0φ	24.0φ	27.0φ	31.0φ	34.0φ	39.0φ

鉄筋貫通孔とスカラップ等が寄合う場合、下図に準じた補強をする。



(8) 鉄骨梁貫通補強

7) 貫通孔範囲および貫通孔径



貫通孔の径

$$P \geq \frac{\phi 1 + \phi 2}{2} \times 3$$

位置	貫通孔の径
A	H/2以下
B	H/3以下
C	不可

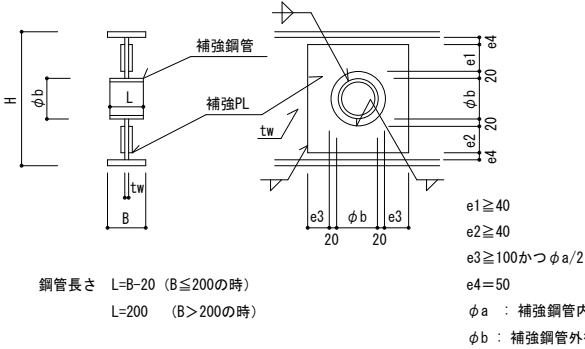
4) 鉄骨部分貫通孔補強要領

※この補強要領は、細幅系のロールH形鋼に適用する。

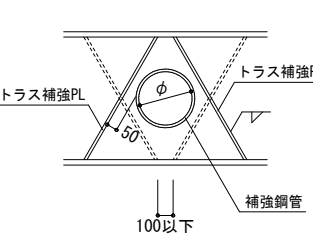
鉄骨せい (H)	600	500	450	400	350	300
貫通径	補強鋼管					
75φ	89.1x4.2	P	P	P	P	P
100φ	114.3x4.5	P	P	PL-6	PL-6	P
125φ	139.8x4.5	PL-6	PL-9	PL-9	PL-12	
150φ	165.2x4.5	PL-6	PL-9	PL-9	2PL-9	
175φ	190.7x5.3	PL-9	PL-12	PL-12	2PL-9	
200φ	216.3x4.5	PL-12	2PL-9	2PL-12		
250φ	267.4x6.0	2PL-9	TPL-9			
300φ	318.5x6.0	TPL-12				

P : 補強鋼管のみで補強
PL-9 : 補強P Lのみで補強
TPL-9 : トラス補強P L+補強鋼管で補強
X : 貫通不可

（補強鋼管または補強P Lで補強する場合）



（トラス補強P L+補強鋼管で補強する場合）



共 通 事 項

(1) 材質 補強鋼管：母材 SN490B → 補強鋼管 STK490

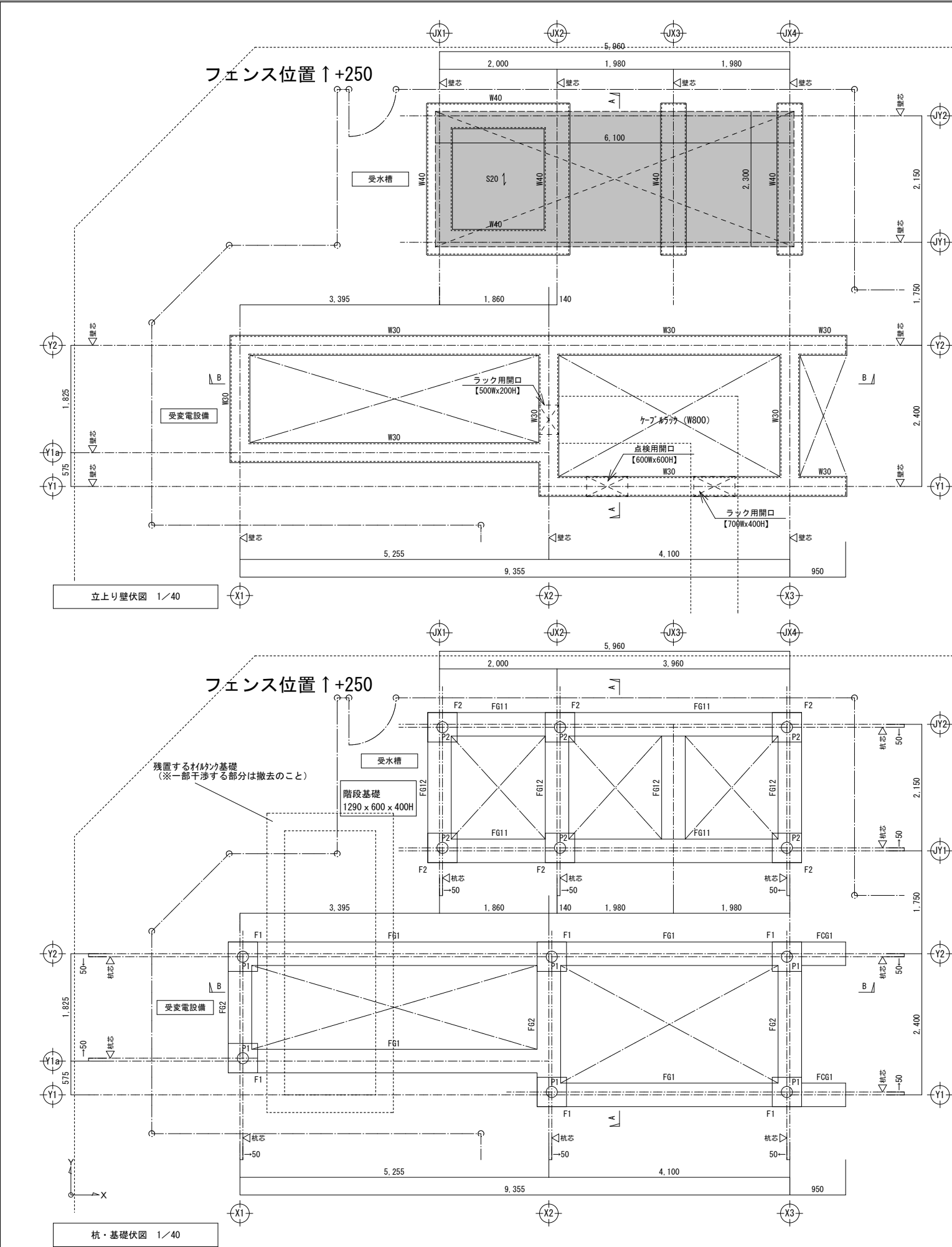
母材 SN400B, SN400A → 補強鋼管 STK400

補強 PL : 母材 SN490B → 補強PL SN490B又はSM490A

母材 SN400B, SN400A → 補強PL SN400B又はSS400

（トラス補強P Lも同様とする）

(3) 上記補強要領は、「建築構造設計基準及び同解説 平成16年版」（（社）公共建築協会）に準拠した補強要領であり、別の方法を使用する場合は、施工前に梁貫通補強要領書を提出し監督者の承認を受けること。



壁断面サスト 1/30

符 号	W30	W40
配筋図 【立面図】		
	※タテ筋は外側へ配置すること。	※タテ筋は外側へ配置すること。
壁 厚	(20)+300+(20)	(20)+400+(20)
タテ筋	D13-#200ﾀﾞﾌﾞﾙ	D13-#200ﾀﾞﾌﾞﾙ
ヨコ筋	D13-#200ﾀﾞﾌﾞﾙ	D13-#200ﾀﾞﾌﾞﾙ
開口補強	タテ筋 4-D13 ヨコ筋 4-D13 斜 筋	4-D13 4-D13
巾止筋	D10-#1,000ﾌﾟﾘ	D10-#1,000ﾌﾟﾘ
備 考		

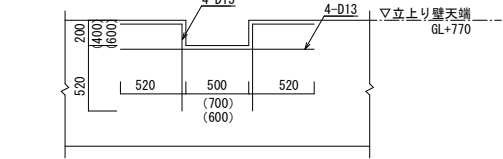
基礎梁断面リスト 1/30

符 号	FG1・FCG1	FG2	FG11	FG12
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面	400x600	400x600	400x600	400x600
断面				
上 端 筋	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22
下 端 筋	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22
あばら筋	□-D13-#200	□-D13-#200	□-D13-#200	□-D13-#200
腹 筋	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13

基礎断面・配筋リスト 1/30

符 号	断 面 【D x x D y】	配 筋		ハカマ筋	
		X方向	Y方向	有・無	配 筋
F1	500 x 500	3-D16	3-D16	有	3-D13
F2	500 x 500	3-D16	3-D16	有	3-D13

ラック開口部補強筋要領図1/30



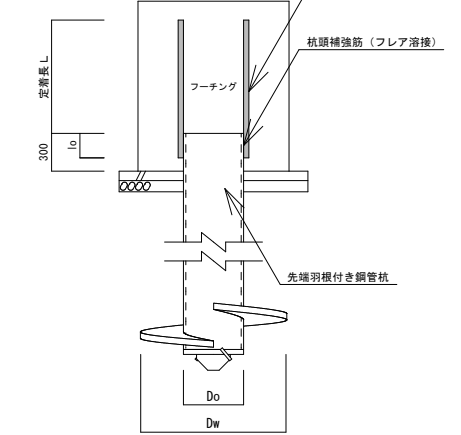
- ＜特記事項＞
- 【S○】は、スラブ符号、→ は、主筋方向を示す。
 - 土に接する基礎下地業は、砕石厚60mm、捨てコン厚50mm とする。
 - 鋼材は、全て溶融亜鉛メッキ とする。
但し、高力ボルト接合を行う摩擦面は、マスキング処理を施すこと。
【不メッキ処理とする】
 - 立上り壁【W30】は、誘発目地<#3,000以内>を設けること。
目地位置、目地幅・深さは、意匠図による。
 - は、鉄骨架台へ上載する設備機器の位置を示す。
受水槽の最大重量は、17,000[kg] 見込んでいる。
受水槽[ポンプ室]の最大重量は、1,200[kg] 見込んでいる。
キューブルの最大重量は、6,000[kg] 見込んでいる。
発電装置の最大重量は、2,000[kg] 見込んでいる。
給油ポンプの最大重量は、500[kg] 見込んでいる。

スラブ配筋リスト

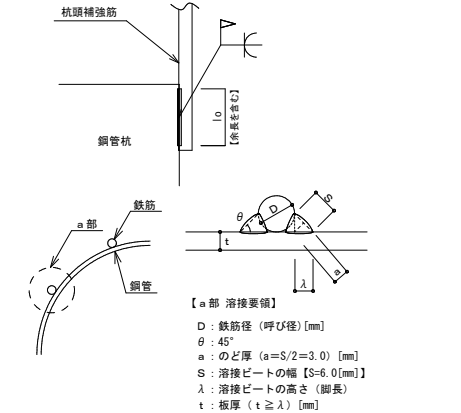
符 号	版 厚	位 置	主筋方向 全 域	配筋方向 全 域	受け筋	備 考
S20	200	上端筋 下端筋	D13-#200 D13-#200	D13-#200 D13-#200	D16 —	スラブ天端 = GL+1,000

- ＜使用材料＞
- 使用材料は、下記とする。
- コンクリート (設計基準強度 F_c)
 $F_c=24$ $S_L=18$ (躯体全般)
 $F_c=18$ $S_L=15$ (捨てコン)
※セメントの種類：普通ポルトランドセメント
- ※単位水量の最大値：185kg/m³
※混和剤：A E減水剤
- 鉄 筋 $S D 2 9 5$ (D 1 6 以下)
 $S D 3 4 5$ (D 1 9 以上)
- 鉄 骨 $S S 4 0 0$
- 高力ボルト $F 8 T$

杭頭補強要領図



杭頭補強筋定着詳細図



- 【工法】：先端羽根付き鋼管杭 (大臣認定工法) ガイドライン工法 (土壤汚染対策法ガイドラインAppendix12に準拠)
スクリーパイルE A Z E T 工法 (認定番号 TACP-0635) 先端地盤：砂質地盤 (砂礫含む)
ケーシング (φ700)：GL-12mまで
【継手】：機械式継手 (NCCジョイント継手 BCJ評定-FD0045-09)

杭リスト 1/30

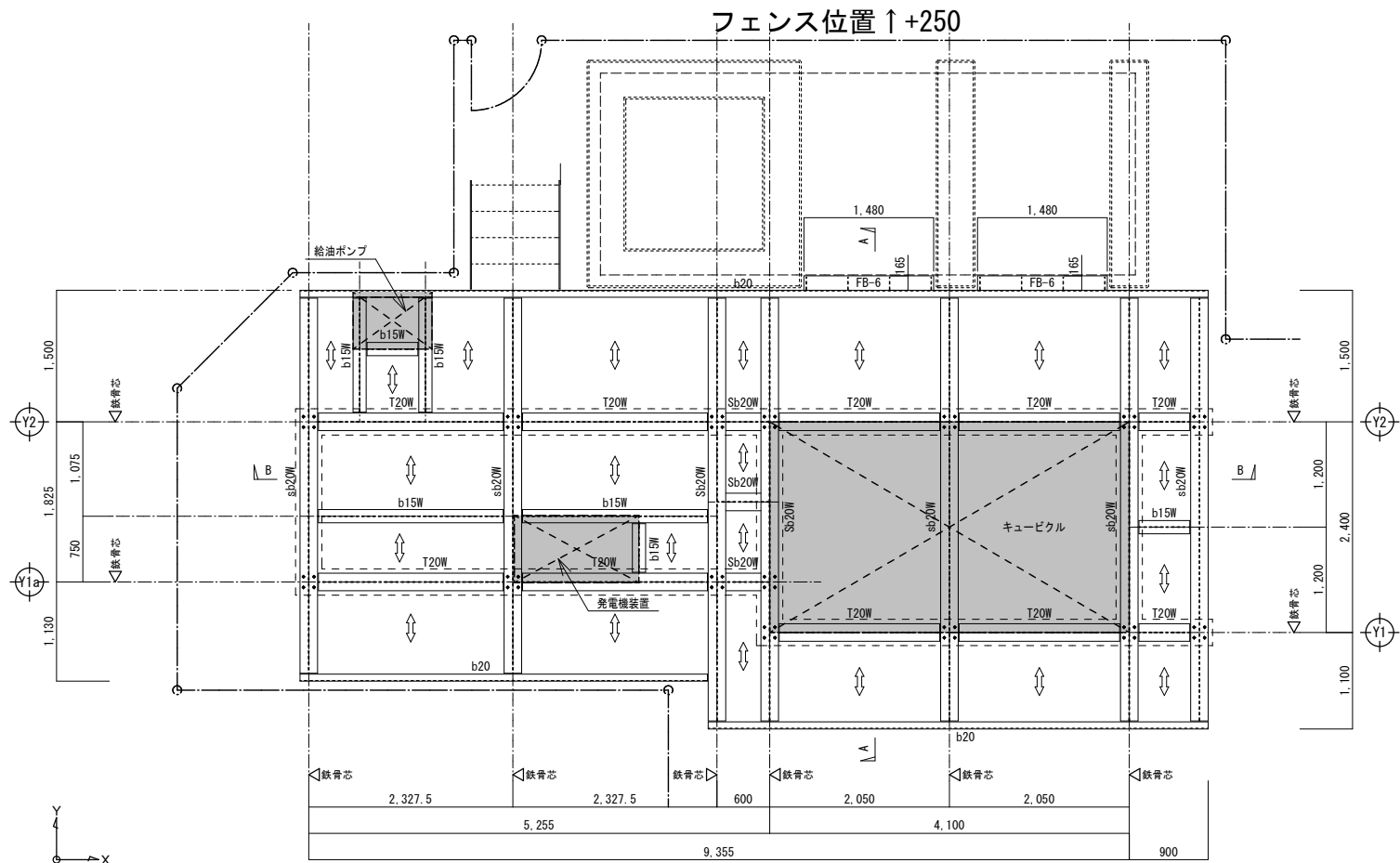
名称	符号	杭天端 設計GL	杭本体部			杭先端羽根部			杭長 [m]	継手箇所数 【箇所】	杭セット数 【本】	長期支持力 【kN/本】	杭頭補強筋		
			杭径Do [mm]	厚さt [mm]	材質	杭径Dw [mm]	厚さts [mm]	材質					1セット当たりの 鉄筋本数	定着長さ [mm]	溶接長さ [mm]
受変電 設備	P1	-0.85m	190.7	7.0	STK490	400.0	19.0	SM490A	21.00	10	6	150	6-D13 (SD295)	520	60
受水槽	P2	-0.85m	190.7	7.0	STK490	400.0	19.0	SM490A	21.00	10	6	150	6-D13 (SD295)	520	60

- 特記事項
- 腐食しろは、1.0mm を見込んでいる。
 - 杭の接続部は、『機械式継手』とする。
 - 杭頭接合部は、『鉄筋フレア溶接工法』とする。

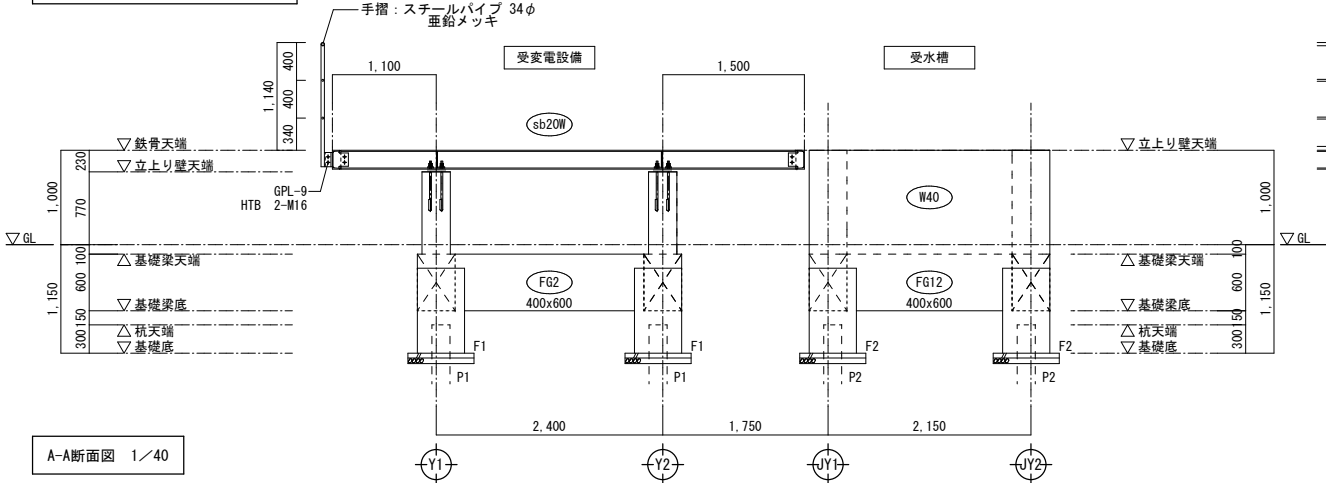
※EAEZT工法 (先端羽根付き鋼管杭と同等の工法としては、NSエコパイル、A.M.Z工法、EGS PILE工法等があるが他の杭工法へ変更する場合は、監督員と協議の上、再度構造計算を行い、安全性を確認すること。

御注文先	三原市殿	御承認	記 事	月 日 . . .	中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	1級建築士事務所 登録23(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫	校閲 設計	工事名称 図面名称	中央公民館長寿寿命化改修工事 (その1) (建築主体工事) 発電機設備 構造図 (1) (改修後)	図面番号 縮尺	S-07 1/40
------	------	-----	-----	--------------------	---	--	-------------------------	----------	--------------	--	------------	--------------

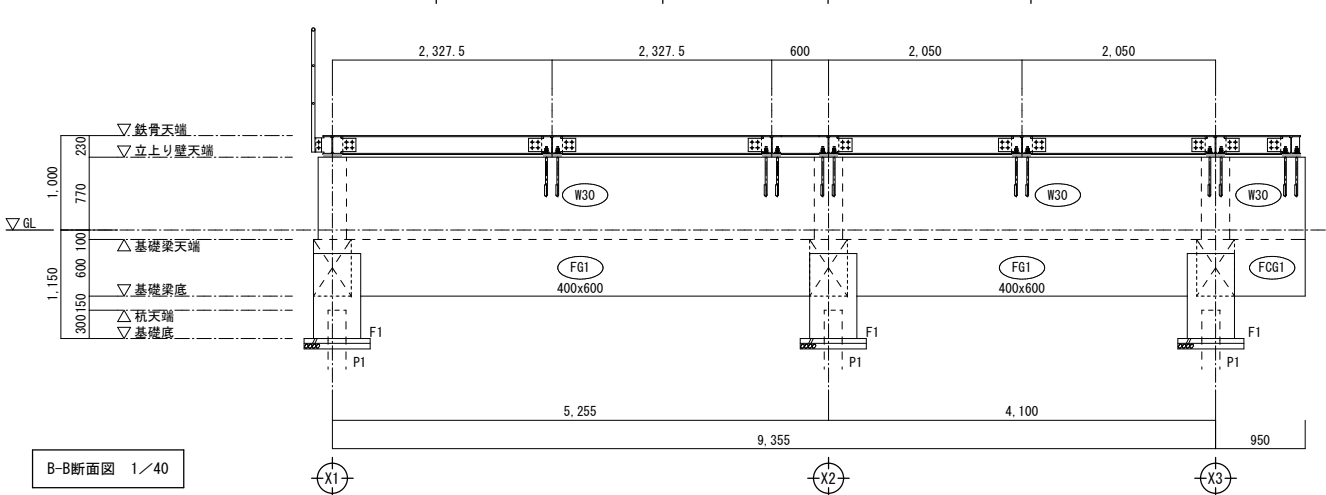
※A3：50%縮小



メンテナンス鉄骨架台伏図 1/40

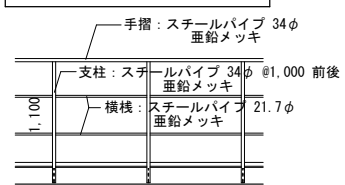


A-A断面図 1/40

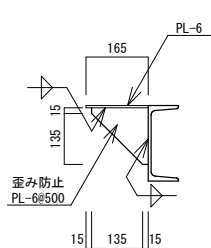


B-B断面図 1/40

手摺詳細図 1/40



補強補助材 詳細図 1/10



鉄骨部材リスト

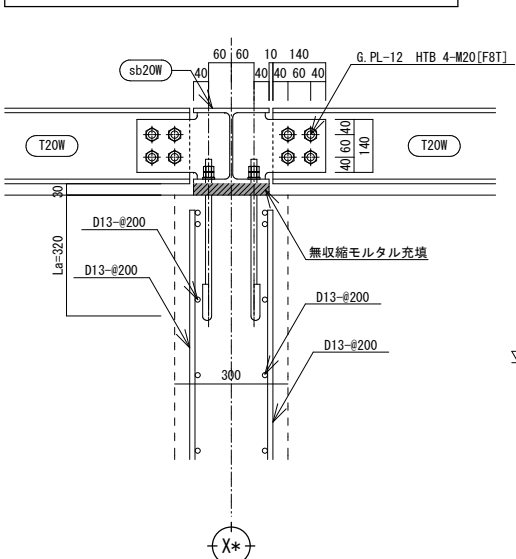
特記なき限り 下記とする。

1. フィラーPLを設ける場合は、SS400とする。
2. 高力ボルトは、溶融亜鉛めっき高力ボルト【F8T】とする。

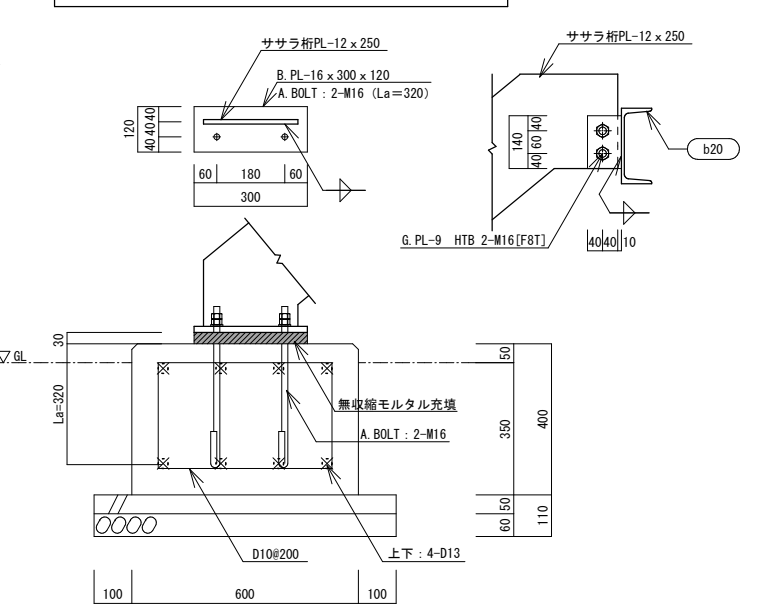
3. 中ボルトによる接合は、スプリングワッシャーもしくは、2重ナットによる緩み止めを施す。

名 称	符 号	部 材	鋼 材	継 手	接 合 部	備 考
横架材	sb20W	H-200x200x8x12	SS400	—	【脚部仕様】：A. BOLT 4-M16【SS400】 フック付き ダブルナット 座金付 座金 PL-9x50x50 躯体内定着長 La=320【mm】以上 無収縮モルタル【厚：30mm】	JIS H 8641 溶融亜鉛メッキ HDZT 77
	T20W	H-200x200x8x12	SS400	TJ20W	【sb20Wとの接合】：G. PL-12 HTB 4-M20【F8T】	JIS H 8641 溶融亜鉛メッキ HDZT 77
	b20	[~200x80x7.5x11	SS400	bJ20	【sb20Wとの接合】：G. PL-9 HTB 2-M20【F8T】	JIS H 8641 溶融亜鉛メッキ HDZT 77
	b15W	H-150x150x7x10	SS400	bJ15W	【sb20Wとの接合】：G. PL-9 HTB 2-M20【F8T】	JIS H 8641 溶融亜鉛メッキ HDZT 77
補強補助材	FB-6	PL-6	SS400	—	【b20との接合】：隅肉溶接	JIS H 8641 溶融亜鉛メッキ HDZT 77
鉄骨階段 メンテナンス用	ササラ桁	PL-12x250	SS400	—	【b20との接合】：G. PL-9 HTB 2-M16【F8T】	JIS H 8641 溶融亜鉛メッキ HDZT 77
					【脚部仕様】：B. PL-16x300x120 A. BOLT 2-M16【SS400】 フック付 躯体内定着長 La=320【mm】以上 ダブルナット 座金付 座金 PL-9x50x50	
	段板	C. PL-4.5 ※【曲げ加工】	SS400	—	踏板補強へ溶接	JIS H 8641 溶融亜鉛メッキ
	踏板補強	L-50x50x6	SS400	—	L=180【ササラ桁へ溶接】	JIS H 8641 溶融亜鉛メッキ HDZT 77
メンテナンス用デッキ	デッキ敷込方向	250x40x25x2.0 形状：【MN型（ノンスリップ）】 型式：MN250-40-2.0	SS400	—	横架材鉄骨下地へ『固定金具』により接合	JIS H 8641 溶融亜鉛メッキ HDZT 56

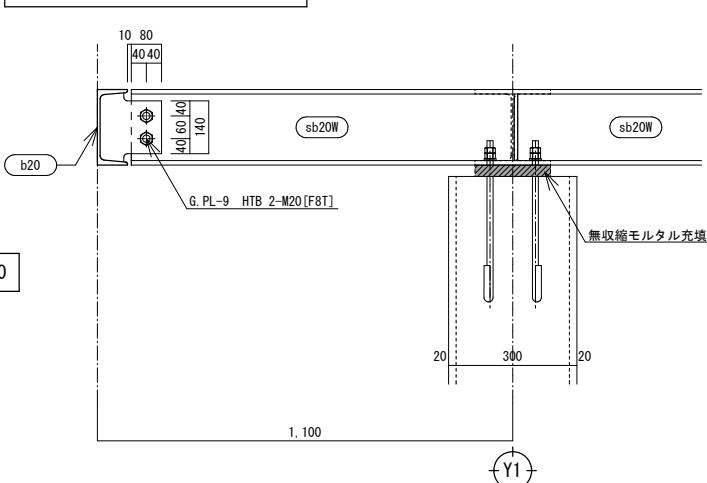
脚部【sb20W】・継手【TJ20W】詳細図 1/10



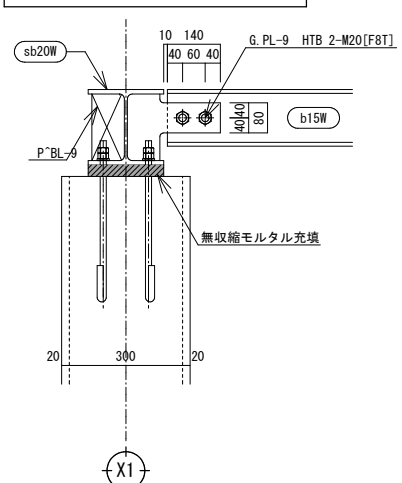
鉄骨階段基礎配筋・脚部・接合部詳細図 1/10



継手【bJ20】詳細図 1/10



継手【bJ15W】詳細図 1/10



※設備ユニット固定のための鉄骨穴開け（40箇所）は本工事で見込む

御注文先	三原市殿	御承認	月 日	記 事	中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	1級建築士事務所 登録23(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫	校閲 藤本 誠二 設計 坂本 薫	工事名称 中央公民館長寿寿命化改修工事（その1）（建築主体工事） 図面名称 発電機設備 構造図（2）（改修後）	図面番号 S-08 縮尺 1/40
------	------	-----	-----	-----	---	--	-------------------------	---------------------	--	----------------------

スクリーパイルEAZET（イーゼット）設計施工標準（中四国・九州地区（沖縄含））

・引抜き評定適用時の許容支持力及び適用範囲については別途カタログをご参照ください。
・本掲載内容及び仕様については、予告なしに変更することがあります。
・本掲載内容及び仕様は、2022年10月現在のものです。

【許容支持力および適用範囲】

1. 件名
先端羽根付き鋼管杭 スクリューパイルE A Z E T
2. 本工法により施工される基礎ぐいの許容支持力を定める際に求める長期ならびに短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

- 1）長期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

$$Ra = \frac{1}{3} \{ \alpha \overline{N} A_p + (\beta \overline{Ns} L_s + \gamma \overline{qu} L_c) \Psi \} \text{ (kN)} \cdots (i)$$

- 2）短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

$$Ra = \frac{2}{3} \{ \alpha \overline{N} A_p + (\beta \overline{Ns} L_s + \gamma \overline{qu} L_c) \Psi \} \text{ (kN)} \cdots (ii)$$

ここで、(i)、(ii)式において、

α ：基礎ぐいの先端付近の地盤（地震時に液化化するおそれのある地盤を除く）におけるくい先端支持力係数（ $\alpha=300$ ）

β ：基礎ぐいの周囲の地盤（地震時に液化化するおそれのある地盤を除く）のうち砂質地盤におけるくい周面摩擦力係数（ $\beta Ns=15$ を満たす β ）

γ ：基礎ぐいの周囲の地盤（地震時に液化化するおそれのある地盤を除く）のうち粘土質地盤におけるくい周面摩擦力係数（ $\gamma qu=15$ を満たす γ ）

$\overline{N}$ ：基礎ぐいの先端付近（くい先端位置より下方に1Dw（Dw：羽根の直径）、上方に1Dwの範囲）の地盤の標準貫入試験による打撃回数（回）の平均値

ただし、基礎ぐいの先端地盤が砂質地盤（礫質地盤含む）の場合は $15 \leq \overline{N}$ とし、60を超える場合は60を上限とする。

また、基礎ぐいの先端地盤が粘土質地盤の場合は $12 \leq \overline{N}$ とし、60を超える場合は60を上限とする。

A_p ：基礎ぐいの先端の有効断面積（㎡）

$$A_p = A \cdot \phi_e$$

ϕ_e ：有効面積率（ $\phi_e=0.5$ ）

$$A_D \text{ くい先端平面積 } A = \pi \cdot \phi D_w^2 / 4 \text{ (㎡)}$$

$\overline{Ns}$ ：基礎ぐいの周囲の地盤のうち砂質地盤の標準貫入試験による打撃回数（回）の平均値（回）

ただし、 $0 < \overline{Ns}$ とし、30を超える場合は30とする。なお、 Ns 値が0の場合、周面摩擦力を考慮しない。

$\overline{qu}$ ：基礎ぐいの周囲の地盤のうち粘土質地盤の一軸圧縮強度の平均値（kN/㎡）

ただし、 $0 < \overline{qu}$ とし、200を超える場合は200を上限とする。なお、 qu 値が0の場合、周面摩擦力を考慮しない。

L_s ：基礎ぐいの周囲の地盤のうち砂質地盤に接する有効長さの合計（m）

L_c ：基礎ぐいの周囲の地盤のうち粘土質地盤に接する有効長さの合計（m）

Ψ ：基礎ぐいの周囲の有効長さ（m）

$$\Psi = \pi \cdot D_o$$

D_o ：くい本体部径（m）

3. くい材から決まる許容鉛直支持力

$$Ra_2 = f_e \cdot A_e \times 10^{-3}$$

Ra_2 ：くい材から決まる長期許容鉛直支持力（kN）

f_e ：くい材の長期許容応力度（ $= F^* / 1.5$ ）

F^* ：設計基準強度（N/mm²）

$$F^* = F \cdot (0.80 + 2.5 t_e / r) \text{ かつ } F^* \leq F$$

F ：くい材の許容応力度を決定する場合の基準値

（STK400→235N/mm²、STK490→325N/mm²、SEAH590[STKT590]→440N/mm²）

t_e ：腐食しを除いた鋼管の肉厚（mm）

r ：鋼管の半径（mm）

A_e ：腐食しを考慮したくい材の有効断面積（mm²）

4. 適用範囲

- 1）適用する地盤の種類

基礎ぐいの先端付近の地盤：

砂質地盤（礫質地盤含む） TACP-0635

粘土質地盤 TACP-0353

基礎ぐいの周囲の地盤：砂質地盤及び粘土質地盤

- 2）最大施工深さ（m）

杭本体部径	114.3	139.8	165.2	190.7	216.3	267.4	318.5	355.6	406.4
先端砂質地盤（礫質地盤）	14.85	18.17	21.47	24.79	28.11	34.76	41.40	46.22	51.37
先端粘土質地盤	14.8	18.1	21.4	24.7	28.1	34.7	41.0	45.8	-

- 3）適用する建築物の規模

床面積の合計が500,000㎡以下の建築物

【EAZET（イーゼット）の構造・規格】

1. 中四国・九州地区向け杭材仕様（沖縄含）

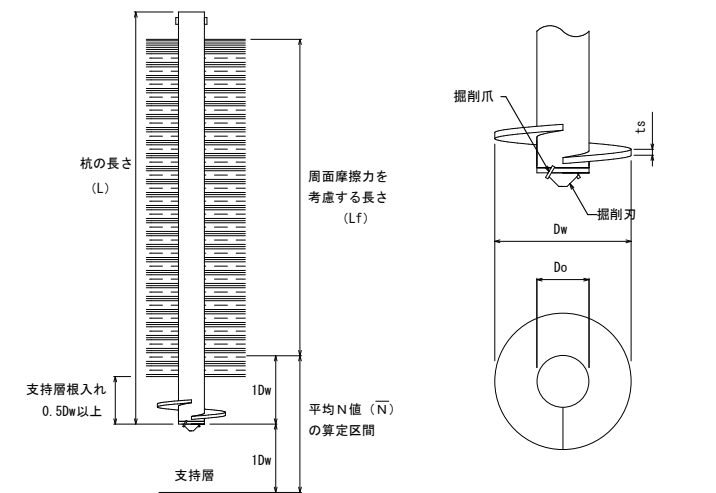
：本工事に該当

杭本体部				杭先端羽根部		
径 Do (mm)	STK400	STK490	SEAH590 [STKT590]	径 Dw (mm)	厚 ts (mm)	材質
	厚 t (mm)					
114.3	<6.0>	-	-	250	12	SM490A
				300	16	
139.8	<6.6>	-	-	300	16	
				350	19	
				400	19	
165.2	-	7.1	-	350	16	
				450	22	
190.7	-	7.0	-	400	19	
				500	22	
				570 ※2	22	
216.3	-	8.2 <12.7>	<8.2>	470	22	
				550	25	
				600	28	
				650	28	
267.4	-	8.0 <9.3> 12.7	<8.0 12.7>	500	22	
				580	28	
				650	28	
				700	28	
				750	32	
318.5	-	<7.9 12.7>	-	800 ※1	28	
				600	22	
				750	28	
355.6	<9.5>	<12.7>	-	800	32	
				700	28	
				750	28	
406.4	-	<9.5 12.7>	-	800	28	
				880	32	

※1：N値30まで限定 ※2：N値40まで限定

※< >の仕様は標準準材です。ご検討される場合は弊社担当までお問い合わせください。

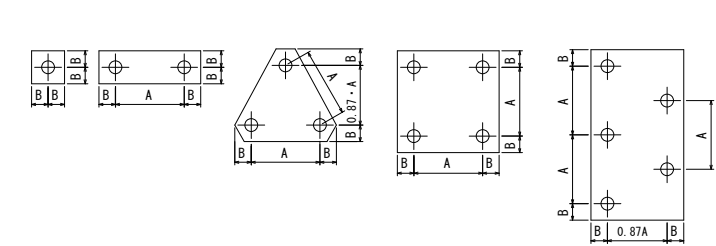
部材	規格
杭本体部	JIS G 3444 一般構造用炭素鋼鋼管 STK400、STK490
	MSTL-0230 国土交通大臣認定 建築構造用テーパー鋼管 NS-490TPP
	MSTL-0419 国土交通大臣認定 基礎ぐい用高張力鋼管 SEAH590[STKT590]
杭先端部	JIS G 3106 溶接構造用圧延鋼材 SM490A



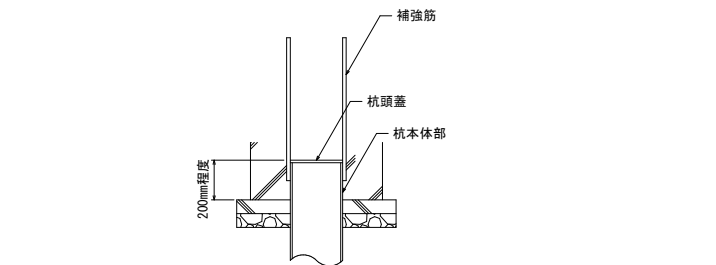
【基礎とフーチング形状例】

A：杭心間隔	B：へりあき
Dw + Do	1.25 × Do

※ Dw：杭先端羽根部径 Do：杭本体部径

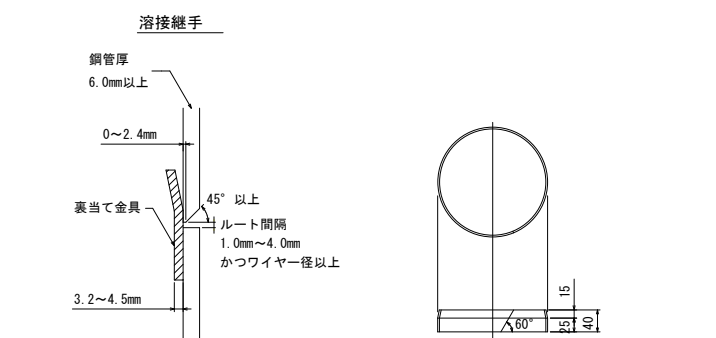
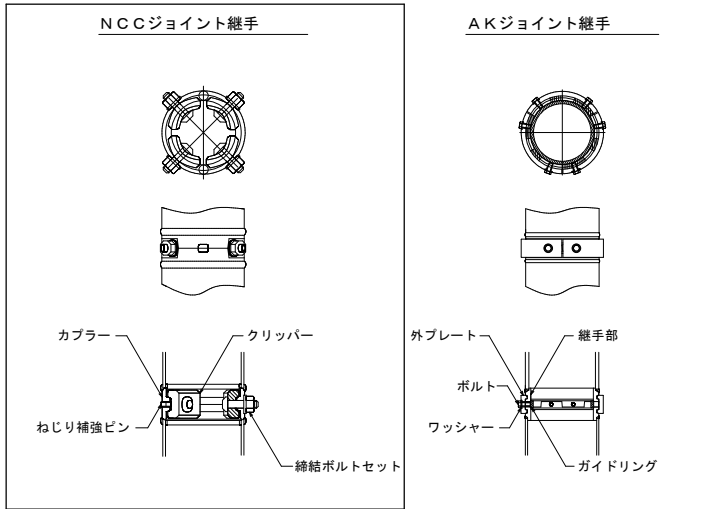


【杭頭接合例】



※杭頭接合部の設計は、認定書・評定書の中で規定されていませんので、設計者の判断に委ねられています。

【継手接続例】



【施工管理項目一覧】

工 程	管理項目	管理方法	管 理 値
杭材の受け入れ	材料寸法	・搬入時に測定検査	・杭径、杭長、肉厚、羽根径、羽根厚に誤りがないこと
	外観不良・数量	・搬入時に目視確認	・継手部に異常がないこと
回転埋設	杭心からのずれ	・逃げ心棒にて測定	・偏心量±2cm以内
	杭の鉛直性	・水準器で確認	・傾斜 1/100以内 ※気泡が中央にあること
	回転トルク	・施工機械の管理装置（トルク計）	・杭体のねじり強さ以内
溶接継手	杭の鉛直性	・水準器で確認	・傾斜 1/100以内 ※気泡が中央にあること
	接続状況	・目視により確認	・異常なアンダーカット、ピット、割れがないこと
NCC ジョイント	一次締付けトルク	・トルクレンチによる	・ボルトM16→約100N・m ・ボルトM20→約150N・m
	本締め	・シャレンチによる	・ピンテールの破断、ボルト余長はネジ山2山以上
	共廻り防止	・マーキングで確認	・マーキングのずれ
AKジョイント	一次締付けトルク	・トルクレンチによる	・締付トルク 90N・m±10%
	本締めトルク		・締付トルク 180N・m±10%
	締め忘れ防止	・マーキングで確認	・マーキングのずれ
支持層の確認	支持層到達確認	・施工機械のトルク計	・施工回転トルクの変化傾向 ・地盤調査データのN値の推移 ・施工回転トルクの管理目標値
	根入れ長さ	・施工機械の深度計	・支持層に0.5Dw以上 かつ設計時に設定された根入れ長さ以上
	回転貫入量	・専用用紙に記録する	・回転貫入量の管理値による
杭頭のずれ	偏心量	・逃げ心棒にて測定	・±10cm以内

【EAZET（イーゼット）取得済認定、公的評価】

名称	認定番号	取得年月日
先端羽根付き鋼管杭（名称：スクリーパイルEAZET） （先端地盤：砂質地盤（礫質地盤含む））	TACP-0635	令和4年2月7日
先端羽根付き鋼管杭（名称：スクリーパイルEAZET） （先端地盤：粘土質地盤）	TACP-0636	令和4年2月7日

一般財団法人 日本建築センター評定 件名	番号	取得年月日
鋼管くいに用いる無溶接継手（クリッパー式継手）	BCJ評定-FD0045-09	令和4年10月14日
鋼管杭に用いる接続プレート・嵌合方式無溶接継手（AKジョイント）	BCJ評定-FD0509-03	令和元年6月20日

一般財団法人 ベタリーピング評定 件名	認定区分	番号	取得年月日
スクリーパイルEAZET工法における引抜き方向の許容支持力（先端地盤：砂質地盤礫質地盤を含む）	一般評定	CBL FP004-07号	令和5年7月6日

※φ406.4は砂質地盤〔礫質地盤を含む〕の場合でも、引抜き支持力に対しては適用できません

一般財団法人 日本建築センター評定 件名	番号	取得年月日
スクリーパイルEAZET工法による基礎ぐいの引抜き方向の地盤の許容支持力（先端地盤：粘土質地盤）	BCJ評定-FD0579-02	令和5年4月14日

旭化成建材株式会社

広島県広島市中区鉄砲町7-18（東芝フコク生命ビル 9F）
TEL. 082-511-5120 FAX. 082-222-8036
福岡県福岡市中央区白金1-20-3（紙与薬院ビル 10F）
TEL. 092-526-2109 FAX. 092-526-2493

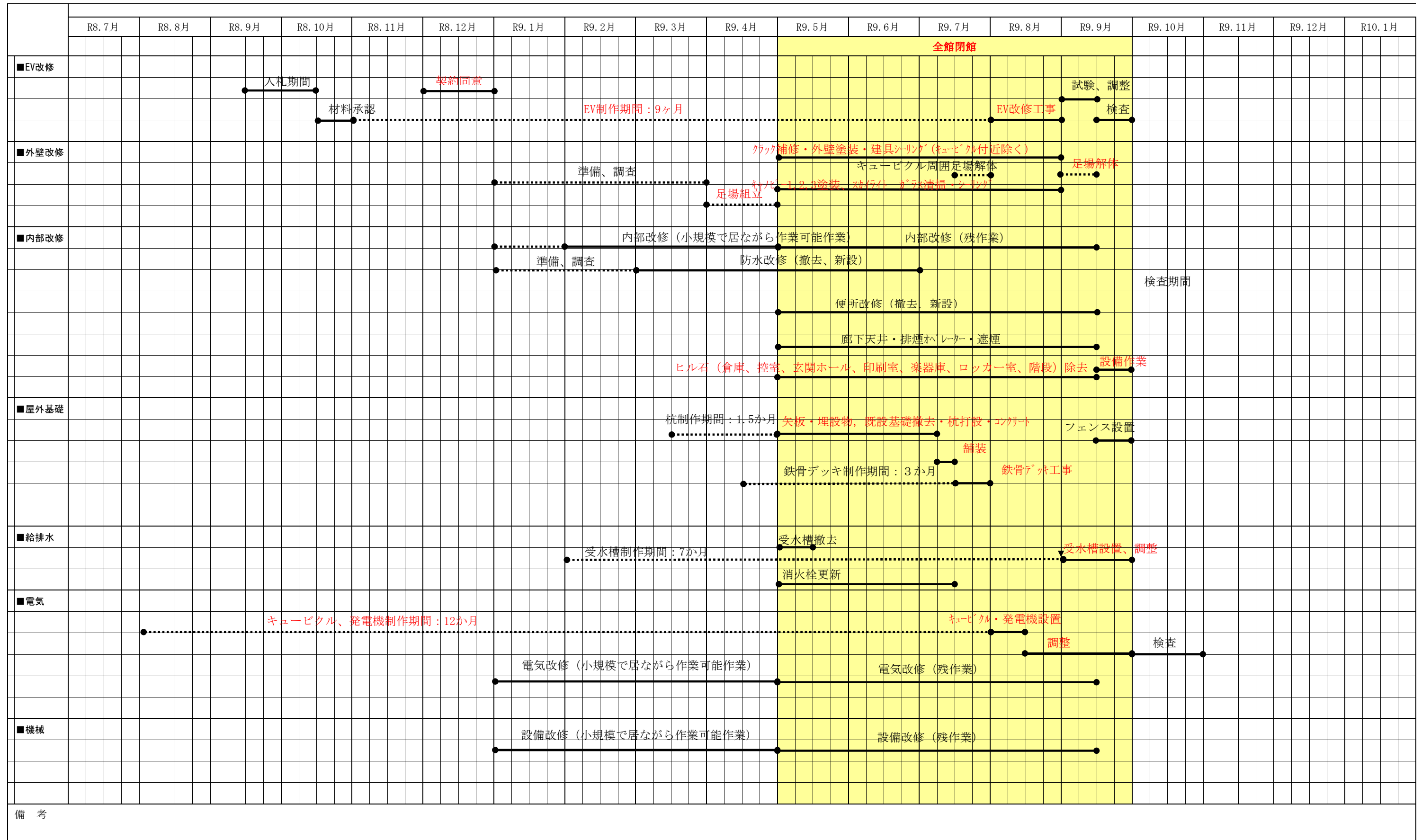
御注文先	三原市殿	御承認	記事	月 日	中電技術コンサルタント株式会社 広島市南区出汐 2丁目 3番30号 TEL (082) (255) 5501-8	1級建築士事務所 登録23(1)第1252号 1級建築士登録 第 293685 号 藤本 誠二	1級建築士登録 第 262345 号 坂本 薫	校閲	工事名称 中央公民館長寿寿命化改修工事（その1）（建築主体工事）	2024.4 図面番号 S-09
				月 日				設計		縮尺 1/---

概 略 工 事 工 程 表

工 事 名

中央公民館長寿命化改修工事（その１）建築主体工事

(10ヶ月)



工事費内訳

1

名 称		数 量	单 位	金 額	備 考
直接工事費					
建築工事		1	式		
計					
共通費					
共通仮設費		1	式		
現場管理費		1	式		
一般管理費等		1	式		
計					
工事価格		1	式		
消費税等相当額		1	式		消費税率 10 %
工事費		1	式		

工事種別内訳

2

[illegible]

建築工事 種目別内訳

3

[illegible]

建築工事 科目別内訳

本館改修				
名 称	数 量	单 位	金 額	備 考
直接仮設	1	式		
防水改修	1	式		
外壁改修	1	式		
建具改修	1	式		
内装改修	1	式		
内部雨漏り改修★	1	式		
塗装改修	1	式		
外構・躯体改修	1	式		
環境配慮改修	1	式		
発生材処分	1	式		
計				

建築工事 中科目別内訳

5

本館改修					
科 目 名 称	中 科 目 名 称	数 量	単 位	金 額	備 考
直接仮設		1	式		
計					
防水改修	撤去	1	式		
防水改修	改修	1	式		
計					
外壁改修	撤去	1	式		
外壁改修	改修	1	式		
計					
建具改修	撤去	1	式		
建具改修	改修	1	式		
計					
内装改修	撤去	1	式		
内装改修	改修	1	式		
計					
内部雨漏り改修★	改修	1	式		

建築工事 中科目別内訳

6

本館改修					
科 目 名 称	中 科 目 名 称	数 量	単 位	金 額	備 考
内部雨漏り改修★	撤去	1	式		
計					
塗装改修	改修	1	式		
計					
外構・躯体改修	撤去	1	式		
外構・躯体改修	改修	1	式		
計					
環境配慮改修	撤去	1	式		
計					
発生材処分		1	式		
計					

建築工事 細目別内訳

[illegible]

建築工事 細目別内訳

[illegible]

[illegible]

[illegible]

建築工事 細目別内訳

11

本館改修		外壁改修		改修		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
<外装>						
高圧水洗浄	150～200kg/cm2	2,637	m ²			
複層塗材 E	コンクリート面 凹凸状 吹付け アクリル系 水系 つやあり 上塗2回 下地調整費(C-1)共	2,637	m ²			
既設面、水洗い清掃	ガラス面	529	m ²			
<その他雑>						
トラップ	スチール製垂鉛メッキ L-40x40x5 H=4520+800 W=400 取付金物共	1	か所			
軒樋	ガルバリウム鋼板曲加工t=0.6 カバー工法 D450xH300程度 下地:L-30x30x4溶融垂鉛メッキ	28	m			
パランス釜排気塔撤去跡塞ぎ	カバープレート:ステンレス製t=1.6 W410xH560xD45 下地:L-30x30x4溶融垂鉛メッキ 水抜き穴5φ付	1	か所			
<外壁劣化改修>						
B-1 打放し面、ひび割れ	幅0.2mm以上1.0mm未満	719	m			
B-2 打放し面、ひび割れ	幅1.0mmを超える	10.8	m			
B-4 モルタル面、ひび割れ	幅0.2mm以上1.0mm未満	5.5	m			
C-1 打放し面、錆鉄筋	錆鉄筋	47.3	m			
C-1 打放し面、錆鉄筋	錆鉄筋(箇所)	365	か所			
C-1 打放し面、錆鉄筋	整形	5.8	m			

[illegible]

[illegible]

建築工事 細目別内訳

14

本館改修		建具改修		改修		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
<新設鋼製建具>						
SD-11	W2185xH2375 特定防火設備 建具・付属金物一式 煙感知器連動	3	か所			
運搬・取付費		1	式			
<新設鋼製軽量建具>						
LSD-1	W1025xH1800 建具・付属金物一式 鋼製かゝり固定式付 小窓（型板かゝり4）共	1	か所			
運搬・取付費		1	式			
<新設アルミパネーション>						
AS-2	W1075xH2000 建具・付属金物一式	1	か所			
運搬・取付費		1	式			
<改修鋼製建具>						
SG-2-1	W1000xH1800 かゝり工法 建具・付属金物一式	1	か所			
SG-2-2	W1000xH1800 かゝり工法 建具・付属金物一式	1	か所			
SW-2	排煙用かゝり新設取替え ※既設撤去・処分共	3	か所			
運搬・取付費		1	式			
<改修アルミ製建具>						

[illegible]

本館改修		内装改修		撤去		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
<内装>						
床珪藻土・床人研ぎ 撤去	集積共	0.3	m ²			
床タイル撤去	下地珪藻土共 集積共	0.1	m ²			
ビニル床タイル撤去	一般 集積共	0.3	m ²			
天井下地撤去	集積共	157	m ²			
天井合板・ボード 撤去	一重張り 一般 集積共	1.8	m ²			
天井廻縁撤去	塩ビ製 集積共	170	m			
カッター入れ	珪藻土面 厚さ20～30mm	4.5	m			
<雑>						
手摺撤去		4	か所			
発生材積込み		1	式			
計						

建築工事 細目別内訳

17

本館改修		内装改修		改修		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
<床>						
床珞外塗り	金ごて ビニル系床材下地 厚28	0.3	m ²			
床珞外塗り	木ごて 一般珞下地 厚37	1.4	m ²			
床珞張り	磁器質二丁掛 (部分改修)	0.1	m ²			
床珞イタ珞張り	ユニット珞張 施工手間 - 25mm角 下地珞別途 (部分改修)	1.3	m ²			
ビニル床珞	厚さ2.0 コンポジションビニル床珞KT 一般床 -	0.3	m ²			
<天井>						
軽量鉄骨天井下地	19形(屋内) ふところ1.5m未満 下地張りなし @300 インサート含む	157	m ²			
天井 せっこうボード 張り(GB-R)	厚 9.5 準不燃 突付け	1.8	m ²			
天井 化粧 せっこうボード 張り(GB-D)	厚 9.5 不燃 900角 突付け	114	m ²			
天井 けい酸 カルシウム板張り	タイプ2(ノアス)0.8FK 厚 4 突付け	41.6	m ²			
天井 ビニルクロス張り		1.8	m ²			
外装薄塗材 E	コンクリート面 砂壁状 吹付け 下地調整費(C-1)共	265	m ²			
天井廻縁	塩化ビニル製	170	m			
天井点検口	一般タイプ アルミ製 内外枠共額縁 450角	42	か所			

本館改修		内装改修		改修		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
<雑>						
流し台	W900xD619xH1398 Combi	1	か所			
授乳ソファ	1200x600 Combi	1	か所			
おむつ交換台	550x800 Combi	1	か所			
L型手摺		4	か所			
天井カーテンレール	アルミ製D型 L=1000	1	か所			
同上、カーテン	防煙タイプ L=1000 H=2300	1	か所			
室名案内図	カットニングシート張(扉に直貼り) 650x350	1	か所			
利用案内板	ステンレスt=3.0 450x450 カットニングシート張	1	か所			
ルバー改修	サントイッチパネルt=50新設 H=1650程度 ※撤去・処分共	6	本			
計						

本館改修		内部雨漏り改修★		改修		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
ビニル床タイル	厚さ2.0 コンポジションビニル床タイルKT 一般床 -	3.9	m ²			
天井 不燃積層 せっこうボード 張り(GB-NC)	厚 9.5 不燃 化粧有り(トパーチン) 突付け	16.7	m ²			
軽量鉄骨天井下地	19形(屋内) ふところ1.5m未満 下地張りなし @225 インサート別途	16.7	m ²			
廻縁	塩ビ製	9.2	m			
ボード開口	照明開口×4、スイッチプレート開口、 TV吊棒開口	1	式			
ボード開口	□450	4	か所			
天井点検口	アルミ額縁枠 □450	4	か所			
呼樋 異種管接手	SGP-VP φ125	2	カ所			
呼樋、豎樋 VP管	φ125 継手、役物、掃除口含む	13.8	m			
呼樋吊金物	@1000 振れ止め補強共	8	カ所			
豎樋 掴み金物		2	か所			
梁貫通詰めモルタル	φ200	1	カ所			
既存SGP管 管内洗浄	φ125 (14.6m)	1	式			
SPG豎樋 断熱巻き	φ125	10.1	m			
FL照明再取付		4	カ所			

[illegible]

[illegible]

本館改修		塗装改修		改修		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
<外部塗装>						
D P塗り	鋼製建具面 1級 素地ごしらえ及び下塗り別途	10.4	m ²			
D P塗り 改修仕様	鉄鋼面 工程B種 塗料1種 錆止工程C塗料A(鉛・クロム7リ-1種) 下地RB種(塗替え面)	247	m ²			
D P塗り 改修仕様 (糸幅300mm以下)	鉄鋼面 細巾 工程B種 塗料1種 錆止工程C塗料A(鉛・クロム7リ-1種) 下地RB種(塗替え面)	51.3	m			
D P塗り (糸幅300mm以下)	塩ビ面 細巾 工程B種(一般) 素地B種	20.8	m			
<内部塗装>						
E P-G塗り	ル-パ°-パ° 祢面 工程B種(一般) 素地B種	5.5	m ²			
E P-G塗り	ケイカル面 工程B種(見上) 素地B種	41.6	m ²			
E P-G塗り	コンクリート面 工程B種(一般) 素地B種	1	m ²			
E P-G 改修仕様	コンクリート面 工程B種(一般) 下地調整RB種(塗替え面)	126	m ²			
S O P塗り (糸幅300mm以下)	鋼製建具面 工程B種	4.9	m			
計						

建築工事 細目別内訳

23

本館改修		外構・躯体改修		撤去		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
<土工仮設>						
根切り	総掘り 法付オープンカット	26	m3			
カッター入れ	アスファルト面 厚さ20～30mm	24	m			
アスファルト舗装撤去	t=50+100 集積共 表層：処分、路盤：保管再利用	4.8	m3			
埋戻し(B種)	- 発生土	26	m3			
ラフレンクレーン運転 (油圧伸縮ジブ型)	25t吊り 標準 ホータ付き 賃料	2	日			
<外構>						
コンクリート撤去	鉄筋切断共 コンクリートブレイカ 集積共 土対法がイトラインに準拠	27.5	m3			
土間コンクリート撤去	鉄筋切断共 コンクリートブレイカ 集積共 土対法がイトラインに準拠	12.5	m3			
地業撤去	集積共 保管再利用	15.2	m3			
アスファルト舗装撤去	t=50+100 集積共 表層：処分、路盤：保管再利用 土対法がイトラインに準拠	12.9	m3			
コンクリート縁石撤去	地業共 集積共	6.5	m			
カッター入れ	コンクリート面 厚さ20～30mm	18.1	m			
カッター入れ	アスファルト面 厚さ20～30mm	11.4	m			
土鋤取り	人力 集積共	0.8	m3			

[illegible]

建築工事 細目別内訳

25

本館改修		外構・躯体改修		改修		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
<土工>						
根切り	つぼ,布掘り 深さ2.5m程度	98.9	m3			
床付け	つぼ,布掘り	31.9	m ²			
埋戻し(B種)	- 発生土	81.3	m3			
土工機械運搬 (バックホウ)	排出ガス対策型 油圧式クローラ型0.28m3	2	往復			
<地業>						
杭工事	先端羽付鋼管杭 スクリーパ°イルEAZET工法 杭長21m 12本 土対法が°イト°ラインAppendix12に準拠 ケーシングφ700：GL-12mまで設置	1	式			
同上、発生土運搬	汚染土壌 (運搬先は福山市箕沖町で見込み)	65	m3			
同上、発生土処分	汚染土壌	65	m3			
砂利地業	再生切込碎石	3.3	m3			
<鉄筋>						
鉄筋コンクリート用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295 D10	0.2	t			
鉄筋コンクリート用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295 D13	2	t			
鉄筋コンクリート用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295 D16	0.1	t			

本館改修		外構・躯体改修		改修		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
鉄筋コンクリート用 異形棒鋼	JIS G3112 SD345 D22	1.7	t			
鉄筋加工組立	小型構造物 -	3.8	t			
鉄筋運搬費	4t車 30km程度	3.8	t			
鉄筋スクラップ 控除		▲0.1	t			
鉄筋ガス圧接	D22 -D22	60	か所			
フラア溶接	D13 L=60	72	か所			
あと施工アンカー(接 着系)	D10 下向き 埋込L=80 定着L=400	12	本			
あと施工アンカー(接 着系)	D10 上向き 埋込L=80 定着L=400	12	本			
あと施工アンカー(接 着系)	D10 横向き 埋込L=80 定着L=400	18	本			
<コンクリート>						
普通コンクリート	JIS A5308 FC=27 S18 粗骨材20	40.4	m3			
普通コンクリート	JIS A5308 FC=21 S15 粗骨材20	2.1	m3			
普通コンクリート	JIS A5308 FC=21 S15 粗骨材20	2.3	m3			
普通コンクリート	JIS A5308 FC=18 S15 粗骨材20	1.8	m3			
コンクリート構造体強度 補正		1	式			

本館改修		外構・躯体改修		改修		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
コンクリート打設手間	躯体 S15～S18 ポンプ打設	40.4	m3			
コンクリート打設手間	基礎部 S15～S18 ポンプ打設	2.1	m3			
コンクリート打設手間	土間 S15～S18 ポンプ打設	2.3	m3			
コンクリート打設手間	捨てコンクリート S15～S18 ポンプ打設	1.8	m3			
コンクリートポンプ 圧送	基本料金別途加算	46.5	m3			
コンクリートポンプ圧送 基本料金		4	回			
<型枠>						
型枠	普通合板型枠 壁式構造 基礎部	93.1	m ²			
型枠	打放合板型枠B種 壁式構造 地上軸部 階高2.8m程度	78.8	m ²			
型枠運搬費	4t車 30km程度 往復	172	m ²			
打放し面補修	B 種 コーン処理 部分目違いばらい	78.8	m ²			
<鉄骨>						
鋼材費		1	式			
鉄骨スクラップ控除		▲0.12	t			
工場加工組立	工場溶接共	3.7	t			

建築工事 細目別内訳

28

本館改修		外構・躯体改修		改修		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
溶融亜鉛メッキ	工場	3.7	t			
鉄骨運搬		3.7	t			
鉄骨建方	ボルト締・現場溶接共	1	式			
建方重機費		1	式			
アンカーボルト取付	M16 L=320 ダブルナット フック付 座金PL-9x50x50付	64	本			
デッキ床	スチールグレーチング 亜鉛メッキ 250x40x25x2 MN型(ノンスリップ) 材工共	37.6	m ²			
デッキ手摺	スチールパイプ 亜鉛メッキ 手摺・支柱・横棧 材工共	28.8	m			
階段手摺	スチールパイプ 亜鉛メッキ 手摺・支柱・横棧 材工共	2	m			
ベース下地無収縮モルタル	厚30 200x200	14	か所			
ベース下地無収縮モルタル	厚30 300x120	2	か所			
<外装>						
アスファルト舗装	A-5-10 密粒 クラッシュラン 500m ² 未満	117	m ²			
床コンクリート直均し仕上げ	金ごて 直均し仕上げ	36.8	m ²			
床モルタル塗り	金ごて モルタル仕上げ 厚30	0.5	m ²			
<その他雑>						

[illegible]

[illegible]

本館改修		直接仮設				
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
墨出し		1	式			
墨出し(内部改修)	個別改修	157	m ²			
計						
養生		1	式			
養生(外壁改修)		392	m ²			
養生(内部改修)	個別改修	157	m ²			
計						
整理清掃後片付け		1	式			
整理清掃後片付け (外壁改修)		392	m ²			
整理清掃後片付け (内部改修)	個別改修	157	m ²			
計						

本館改修		直接仮設				
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
外部足場		1	式			
枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠 900×1700 布枠500+240 12m未満 6か月	3,450	m ²			
枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠1200×1700 布枠500×2枚 12m未満 - 6か月	48.4	m ²			
単管本足場	10m未満 - 6か月	46.2	m ²			
安全手すり (手すり先行方式)	枠組本足場用 6か月	419	m			
計						
内部足場		1	式			
内部仕上足場	脚立足場 階高4.0m以下 3か月	182				
内部階段仕上足場	3か月	123				
内部仕上足場 (手すり先行方式)	枠組棚足場 階高4.0m未満 3か月	28				
内部仕上足場 (手すり先行方式)	枠組棚足場 階高4.0m超5.0m未満 3か月	124				
内部仕上足場 (手すり先行方式)	枠組棚足場 階高9.1m以上10.8m未満 3か月	74.3				
計						

本館改修 直接仮設						
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
災害防止		1	式			
防音シート張り	6か月	3,395				
計						
仮設材運搬		1	式			
仮設材運搬 (杵組本足場) (手すり先行方式)	建杵幅900(二枚布)	3,450	m ²			
仮設材運搬 (杵組本足場) (手すり先行方式)	建杵幅1200	48.4	m ²			
仮設材運搬 (単管本足場)		46.2	m ²			
仮設材運搬 (安全てすり)	杵組本足場用(手すり先行方式)	419	m			
仮設材運搬 (内部仕上足場 脚立足場)	3階建	182	m ²			
仮設材運搬 (内部階段 仕上足場)		123	m ²			
仮設材運搬(内部 仕上足場 棚足場) (手すり先行方式)	4.0m超5.0m未満	152	m ²			
仮設材運搬(内部 仕上足場 棚足場) (手すり先行方式)	9.1m以上10.8m未満	74.3	m ²			
仮設材運搬 (シート・ネット類)		3,395	m ²			
計						

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

本館改修		外構・躯体改修		改修		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
鋼材費		1	式			
H形鋼(SS400)	H-200x200x8x12	2.68	t			
H形鋼(SS400)	H-150x150x7x10	0.28	t			
溝形鋼(SS400)	[-200x80x7.5x11	0.52	t			
山形鋼(SS400)	L-50x50x6	0.01	t			
鋼板(SS400)	PL-16	0.01	t			
鋼板(SS400)	PL-12	0.18	t			
鋼板(SS400)	PL-9	0.08	t			
鋼板(SS400)	PL-6	0.03	t			
縞鋼板(SS400)	PL-4.5	0.1	t			
高力ボルト(F8T)	HTB M20 L=55	92	本			
高力ボルト(F8T)	HTB M20 L=50	60	本			
高力ボルト(F8T)	HTB M16 L=50	4	本			
アンカーボルト(SS400)	M16 L=320 ダブルナット フック付 座金PL-9x50x50付	64	本			
計						

[illegible]

本館改修		環境配慮改修		撤去		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
天井、ヒル石吹付撤去	L1	1	式			
仮設費	セキュリティハウス設置・撤去	10	か所			
	負圧除塵機設置・撤去	10	台			
	床養生	1,070	m ²			
	壁養生	220	m ²			
	仮設資材等運搬費	1	式			
アスベスト撤去	飛散抑制剤散布（除去面）	287.4	m ²			
	天井、ヒル石吹付撤去（既設コンクリート面）	264.5	m ²			
	天井、ヒル石吹付撤去（既設石膏ボード面）	22.9	m ²			
	飛散抑制剤散布（除去面）	287.4	m ²			
	飛散抑制剤散布（養生面）	1,290	m ²			
	廃石綿密封処理	19	m ²			
	整理清掃後片付け	220	m ²			
	消耗品費	287.4	m ²			
	安全機器損料	1	式			

本館改修		発生材処分				
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
発生材運搬費		1	式			
発生材運搬費	コンクリート類	60.6	m3			
発生材運搬費	アスファルト類	12.9	m3			
発生材運搬費	モルタル類	0.01	m3			
発生材運搬費	金属屑	3.3	m3			
発生材運搬費	ボード類	0.02	m3			
発生材運搬費	ビニルシート類	0.3	m3			
発生材運搬費	木屑	0.2	m3			
発生材運搬費	廃プラ類	0.2	m3			
発生材運搬費	土砂類	0.8	m3			
発生材運搬費	ボード類 石綿含有建材L3	1.2	m3			
	アスベスト運搬（特別管理）	3	台			
計						

本館改修 発生材処分						
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
発生材処分費		1	式			
発生材処分費	コンクリート類	60.6	m3			
発生材処分費	アスファルト類	12.9	m3			
発生材処分費	モルタル類	0.2	m3			
発生材処分費	金属屑	3.3	m3			
発生材処分費	ボード類	0.02	m3			
発生材処分費	ビニルシート類	0.3	m3			
発生材処分費	木屑	0.2	m3			
発生材処分費	廃プラ類	0.3	m3			
発生材処分費	土砂類（★特殊 土対法の土）	0.8	m3			
発生材処分費	ボード類 石綿含有建材L3	1.3	m3			
	処分費 廃アスベスト（特別管理）	19	m3			
計						

共通仮設費(積上) 明細

47

[illegible]

